平成 30 年度　独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

愛知県聴覚障害児・者の暮らし
実態調査　報告書



2019（平成 31）年 3 月 23 日

一般社団法人愛知県聴覚障害者協会

発刊にあたって

この度、一般社団法人愛知県聴覚障害者協会では、独立行政法人・福祉医療機構の助成を受け「愛知県聴覚障害児・者の暮らし実態調査」を実施しました。

当会は聴覚障害当事者の立場から、１９５０年の創立以来現在まで聴覚障害者や手話に対する差別をなくし、聴覚障害者が当たり前に生活をする権利を獲得するための活動を続けてきております。

現在では、国連における手話を言語と明記した「障害者権利条約」の採択、国内法では障害者基本法の改正や、障害者差別解消法の施行、地方自治体においても愛知県を含めた手話言語条例の成立の動きの広がりなど、聴覚障害者や手話への理解、社会参加の幅は確実に広がってきました。これは私たちの先輩の、さまざまな困難の中でも、聞こえる人たちとも共同し、行政そして広範な市民に理解を広げる不断の取り組みの成果であると考えております。

当会は２００３年に法人格を取得し、現在では福祉向上の活動だけではなく、手話をはじめ様々な方法でのコミュニケーションが保障され、聞こえない人が不便なく利用できる社会資源の拡充に向けた事業を展開しています。

２００９年に名古屋市で初めての聴覚障害者支援事業所「ほっとくる」を設立、続いて２０１４年には東三河地区に地域活動支援センター「笑おう舎」を設立しました。更に２０１５年には長年の念願だった聴覚障害者情報提供施設「あいち聴覚障害者センター」を開所・運営するに至りました。

しかしながら、県内全域を見渡しますと未だ極めて不十分な状態にあり、更なる社会資源の整備が必要と考えます。

今回の調査は、その実現のためには何より聴覚障害者一人ひとりの暮らしの実態をつかむことが重要との思いから実施したものです。

調査の結果からは、やはり聴覚障害者・児の置かれている孤独な現状と深刻なコミュニケーション障害の様相がひしひしと伝わってきます。

当会は、仲間たちとこの調査報告書で示されたくらしの実態と暮らしやすさを願う思いを行政、県民に届け、広範な方々と共同しながら更なる社会資源の整備を目指して努力してまいる所存です。

この度の調査にあたり、助成いただいた独立行政法人 福祉医療機構をはじめ、調査回答に協力頂きました聴覚障害者・児とその保護者、そして調査員の皆さんに心よりお礼申し上げます。更に、企画段階から完了まで、的確な助言とご指導を頂きました日本福祉大学名誉教授近藤直子先生、愛知教育大学准教授岩田吉生先生、集計・分析にご協力くださった愛知教育大学の院生・学生の皆さん、調査の実施にあたり、協力頂いた愛知県健康福祉部 障害福祉課、愛知県教育委員会 特別支援教育課、名古屋市教育委員会事務局 学校指導部 指導室、行政各位に感謝申し上げて、報告書発刊のごあいさつといたします。

2019 年（平成 31 年）3 月 23 日

一般社団法人愛知県聴覚障害者協会

理事長 服部芳明

目　次

１．調査事業の概要

１．調査ならびに事業の目的 …… 1
２．調査の内容及び対象と方法 …… 1
（１）調査対象 …… 1
（２）調査内容 …… 1
（３）調査方法 …… 1
（４）調査期間 …… 2
（５）回収状況 …… 2
（６）調査票の集計・分析 …… 2
（７）作業行程 …… 2
（８）愛知県聴覚障害者協会・５ヵ年計画プロジェクトチームの設置 …… 2
（９）委員会開催状況 …… 3
(10) 調査員名簿 …… 3
(11) 報告書執筆者 …… 5

２．聴覚障害者の暮らしに関する実態調査

２－１．問題と目的 …… 11
（１）愛知県の聴覚障害者の暮らしの背景 …… 11
（２）本調査「聴覚障害者の暮らしに関する実態調査」の目的 …… 12
２－２．基礎資料の結果 …… 13
調査対象者の情報 …… 13
２－３．本調査の結果 …… 18
（１）ブロック別の結果の分析 …… 18
（２）年代別の結果の分析 …… 46
（３）コミニュケーション手段別の結果の分析 …… 74
（４）自由記述に示された意見 …… 99
２－４．まとめ …… 122

３．きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実態調査

３－１．問題と目的 …… 127
（１）愛知県の聴覚障害児の暮らしの背景 …… 127
（２）「きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実情調査」の目的 …… 127
３－２．基礎資料の結果 …… 128
調査対象者の情報 …… 128
３－３．本調査の結果 …… 132
（１）保護者への調査結果の分析 …… 132
自由記述に示された意見 …… 163
（２）子どもへの調査結果の分析 …… 171
自由記述に示された意見 …… 207
３－４．まとめ …… 211

４．今後への提言

（１）「あいち聴覚障害者総合福祉センター」の移転・拡充…… 215
（２）障害保健福祉圏域をベースとした「地域聴覚障害支援センター」の設置…… 216
（３）聴覚障害児童の保護者への支援、放課後等デイサービスの整備…… 217
（４）成人・高齢聴覚障害者の入所施設の整備…… 217

５．付録

質問紙「聴覚障害者の暮らしに関する実態調査」…… 223
質問紙「きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実態調査」…… 238
調査員の手引き …… 255
聞き取り調査のＱ＆Ａ…… 256

平成 30 年度　独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

１．調査事業の概要

１．調査事業の概要

１．調査事業の目的

一般社団法人愛知県聴覚障害者協会（以下・愛聴協）が運営する「あいち聴覚障害センター」には、聴覚障害者から「困ったときに手話で相談できる機関が身近にない」「周囲とコミュニケーションがとれずに孤独な思いをしている」等切実な悩みが日々寄せられています。聴覚障害者の拠点となるセンターですが、利用されるみなさんからは「駅から遠く不便である」「場所が遠い」「談笑できるロビーやエレベーターがなく不便である」等様々な声が寄せられています。

また、聴覚障害児については、地域の学校で学ぶ子どもたちは、学校や近隣の友達や親とのコミュニケーションができず、孤立するケースがあります。聾学校で学ぶ子どもたちも、居住地域で一緒に遊ぶ友達がいない、利用可能な社会資源が少ないなどの課題があります。そして、聴覚障害児をもつ保護者の子育ての悩みに応じる専門機関も必要です。

聴覚障害者は、企業に勤める社会人や退職した高齢者等ライフステージは様々ですが、家庭以外の場で気兼ねなく手話で話ができる当事者同士のつながりが少なく、孤立感を持つ人が多いことが考えられます。また、聴覚障害児とその保護者は、学校や家庭で悩みを抱えながら生活をしています。このように聴覚障害児・者は、日頃から様々な人との繋がりが薄く、狭い関係性からくる情報の不足や偏りは、孤独や不安な生活に陥りやすい状況を生み出していると予測できます。

そこで、今回は、聴覚障害児・者の生活の中の不安や悩みの実態を調査を通して明らかにし、これらをもとに愛知県内における聴覚障害児・者の福祉について、行政はじめ関係機関に対し、今後の施策、事業計画等に反映させるべく提言を行うことを目的に本事業を実施します。

２．調査の内容及び対象と方法

（１）調査対象

1500 名を目標に、2018（平成 30）年 4 月 1 日現在、愛聴協の他、特定非営利活動法人愛知県難聴・中途失聴者協会、愛知盲ろう者友の会、名古屋市聴言障害者協会、特定非営利活動法人名古屋難聴者・中途失聴者支援協会、一般社団法人人工内耳友の会 ACITA 東海支部、特定非営利活動法人つくし、愛知県内のろう学校同窓会、愛知県ろう理容協会、名古屋難聴児を持つ親の会の協力を得て、それぞれと結びつきのある聴覚障害児・者を対象としました。さらに、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会の協力を得て、愛知県立聾学校、愛知県内 難聴特別支援学級設置校（名古屋市は中学校難聴特別支援学級）に通う聴覚障害児とその保護者も対象としました。

（２）調査内容

成人聴覚障害者を対象とした「聴覚障害者の暮らしに関する実態調査」と聴覚障害児およびその保護者を対象とした「きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実情調査」を実施しました。

「聴覚障害者の暮らしに関する実態調査」に関しては、愛聴協と愛知県手話通訳問題研究会（以下、愛通研）とでプロジェクトチームを結成し、討議を重ね、日本福祉大学名誉教授近藤直子先生、愛知教育大学准教授岩田吉生先生のご助言・ご指導をいただきながら「基本調査票」を作成しました。

「きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実情調査」の調査票に関しても同じく討議を重ね、子どもに回答を求めるもの、保護者に回答を求めるもの２つの調査票を作成しました。

（３）調査方法

調査方法は、調査員３人一組での訪問調査、自身でアンケート用紙に記入する方法の２つとしました。対象者の希望により、自宅訪問が出来ない場合は、公的施設での集合調査、或いはそこでの個別面談を実施しました。調査員は、愛聴協、愛通研の範囲で公募し、事前研修会を開催しました。

また、アンケート用紙は愛聴協会員の他、愛知県難聴・中途失聴者協会、愛知盲ろう者友の会、名古屋市聴言障害者協会、名古屋難聴者・中途失聴者支援協会、人工内耳友の会 ACITA 東海支部、つくし、愛知県内のろう学校同窓会、愛知県ろう理容協会、名古屋難聴児を持つ親の会の協力を得て配布しました。

さらに、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会の協力を得て、愛知県立聾学校、愛知県内 難聴特別支援学級

設置校（名古屋市は中学校難聴特別支援学級）に通う聴覚障害児とその保護者にも配布しました。

（4）調査期間

2018（平成 30）年 6 月 1 日～2018 年（平成 30）12 月 28 日

（5）回収状況　　回答者数　１５３６名

（内訳）	大人（部数）	子ども（部数）
西尾張ブロック	227	50
東尾張ブロック①	111	17
東尾張ブロック②（知多地区）	114	14
名古屋ブロック	294	63
西三河ブロック	283	80
東三河ブロック	183	47
ブロック不明	25	8
不明・無効	13	7
合計	1250	286

（6）調査票の集計・分析

調査票回収と点検、集計作業は愛知教育大学岩田吉生准教授が担当しました。その後、近藤直子名誉教授、岩田吉生准教授による分析をもとに、愛聴協５か年計画プロジェクトチームでの検討を重ね、提言内容をまとめました。

（7）作業行程

2016 年（平成 28 年）
- 8 月　愛知県聴覚障害者協会５ヵ年計画プロジェクトチームの設立

2017 年（平成 29 年）
- 6 月　兵庫県聴覚障害者協会より講師を招いて学習会を行う
- 7 月　学識者に依頼
- 8 月　学識者を交えて話し合いがスタート
- 9 月　調査協力者についての説明会
- 11 月　調査協力者募集締切

2018 年（平成 30 年）
- 1 月　調査学習会の実施・調査員募集
  ５ヵ年計画委員会でブロックごとの拠点構想案の検討
- 4 月　調査員研修会の実施　聴覚障害者実態調査の項目・調査方法の検討
- 6 月　調査実施
- 12 月　調査終了

2019 年（平成 31 年）
- 1 月　集計
- 2 月　分析・報告書作成
- 3 月　報告会

（8）愛知県聴覚障害者協会・５ヵ年計画プロジェクトチームの設置

調査にあたっては以下の構成で愛知県聴覚障害者協会・５ヵ年計画プロジェクトチームを設置し、その任に当たりました。

代表　服部芳明（愛知県聴覚障害者協会　理事長）
副代表　中嶋宇月（愛知県聴覚障害者協会　理事）
事務局長　森本拓磨（愛知県聴覚障害者協会　理事）
宮川照代（愛知県手話通訳問題研究会　運営委員長）
酒井一恵（愛知県手話通訳問題研究会　運営委員）

学識経験者　近藤直子（日本福祉大学名誉教授）
岩田吉生（愛知教育大学准教授）

（9）委員会の開催状況

会議記録		
日付	内容	内容
2018/4/5	第1回会議	アンケート調査の目的・概要・目標について
2018/4/12	第2回会議	アンケート作成
2018/4/19	第3回会議	アンケート作成
2018/4/26	第4回会議	アンケート作成　調査員研修会について
2018/5/10	第5回会議	アンケート作成　調査員研修会について
2018/5/17	第6回会議	行政や他団体への働きかけについて
2018/5/24	第7回会議	調査の手引きについて
2018/5/31	第8回会議	調査の手引きについて
2018/6/7	第9回会議	調査体制について
2018/6/14	第10回会議	ブロックごとの調査や訪問調査に向けて
2018/6/21	第11回会議	ブロックごとの調査や訪問調査に向けて
2018/6/28	第12回会議	ブロックごとの調査や訪問調査に向けて
2018/9/17	第13回会議	ブロックごとの状況報告（中間報告）
2018/10/3	第14回会議	アンケート調査状況報告　調査員の振り返りについて
2018/11/19	第15回会議	調査員向けのアンケートについて　集計作業について
2018/12/20	第16回会議	報告書の中身づくり　調査終了後の流れについて
2019/1/31	第17回会議	アンケート集計　分析①
2019/2/4	第18回会議	アンケート集計　分析②
2019/2/13	第19回会議	アンケート集計　分析③
2019/2/18	第20回会議	アンケート集計　分析④
2019/2/25	第21回会議	アンケート分析　提言について①
2019/3/4	第22回会議	アンケート分析　提言について②
2019/3/7	第23回会議	アンケート分析　提言について③
2019/3/11	第24回会議	座談会　撮影
2019/3/18	第25回会議	報告会に向けて

(10) 調査員名簿（あいうえお順）

・ブロック担当者名簿

西尾張ブロック　神辺　敦子、河辺　幸恵、栗本　尚徳、服部　芳明、
東尾張ブロック　坂野　和子、新長　修、中嶋　宇月、矢崎　利恵子
名古屋ブロック　大田　美穂、小崎　圭子、後藤　元子、篠田　久恵、森本　拓磨、渡辺　千夏、
西三河ブロック　稲垣　裕子、髙橋　恵子、中嶋　宇月、宮川　照代
東三河ブロック　酒井　一恵、榊原　いづみ、佐藤　亜子、丸山　みゆき

・訪問調査員名簿（ろう７５人、健聴者１５５人、合計２３０人）

西尾張ブロック調査員（ろう１３人、健聴者２４人、合計３７人）
浅井　恵美子、安藤　康志、伊藤　照夫、伊藤　三枝子、井上　真治、岩崎　陽子、宇佐美　裕史、
大島　早苗、大塚　千恵美、大前　真佐子、奥田　信子、加藤　亜紀子、加藤　美佳、蔭山　修司、
河辺　幸恵、神辺　敦子、櫛田　美穂子、栗本　尚徳　、桑山　小百合、佐藤　百合子、清水　多恵子
竹内　友孝、谷口　恵、坪田　孝子、富板　健之、中村　房子、服部　重生、服部　芳明、古本　悦美、
松田　鮎美、森　順子、森本　利子、山口　秀子、山本　智恵子、吉田　都代子、若山　晶子
渡辺　真吾

東尾張ブロック調査員（ろう１８人、健聴者４０人、合計５８人）
足立　直美、池谷　晶、石浜　昌江、伊東　美佐紀、稲葉　朋美、内堀　友美、大室　直子、
奥村　久美子、尾崎　好美、片岡　路子、上條　かほる、上津　千雅子、神野　淳子、樋谷　厚子、
川村　享子、木村　勝次、木村　清美、久木田　香奈子、小島　智代、近藤　史江、近藤　美鈴、
榊原　久代、坂野　和子、柴田　洋子、島田　美和、新長　修、杉浦　久美子、鈴木　明美、鈴木　智子、
高村　巌、田窪　宣章、竹内　正吾、津田　麻美子、東條　有子、長江　陽子、長縄　美春、新野　康子、
音琴　梢、橋本　泉、橋本　由美子、彦坂　由香、平野　礼子、福島　さゆり、藤井　えり子、
前野　裕子、間瀬　祐子、松野　美恵子、水野　千詠美、村瀬　直美、村松　弥生、森田　清弘、
矢崎　利恵子、山口　たまえ、山下　葵、山田　伸子、山本　華代、横沢　浩志、渡邉　加代

名古屋ブロック調査員（ろう１２人、健聴者１９人、合計３１人）
岩附　さとみ、上田　里美、上田　真理子、大田　美穂、大坪　みゆき、大場　恵子、大脇　浩司、
岡　佳代子、奥村　小由美、可知　みのり、加藤　雅美、金子　陽子、岸部　敬子、鬼頭　淳子、
栗山　真佐子、黒田　佐和子、小崎　圭子、後藤　元子、後藤　洋子、近藤　ちゆき、篠田　久恵、
財部　敬次、嶽盛　靖子、田尻　嘉一郎、中川　真理子、西川　康弘、服部　啓子、船戸　さとみ、
山下　美保、横井　由美子、渡辺　千夏、

西三河ブロック調査員（ろう１８人、健聴者４０人、合計５８人）
赤沢　信二、浅井　頼子、新垣　直子、石川　直美、出岡　佐千江、伊藤　久代、犬塚　富美子、
稲垣　裕子、岩瀬　睦子、梅村　妹子、江川　裕美、大株　和美、大竹　寛、小野　恵美子、
金澤　美幸、壁谷　豪文、神谷　敏子、川井　るり子、神取　薫、神取　敏行、高口　一子、
小竹　富江、近藤　裕子、佐々木　明子、塩谷　たみ子、志賀　美子、渋川　直子、杉山　揚子、
鈴木　千美、鈴木　美幸、鈴木　ゆみ子、駿河　和子、園田　大昭、髙橋　恵子、高田　美香、
竹重　友栄、辰巳　隆子、種村　圭司、谷口　由子、徳原　順子、戸田　直仁、富田　由紀子
中川　裕子、中嶋　知未、中島　智代、中根　典大、中村　恵子、仲吉　芳江、成瀬　眞佐子、
西原　香織、野々山　祐司、深見　一二三、藤田　千恵子、藤田　弘順、松本　智子、松本　千鶴、
三石　敬子、水野　まゆみ、溝上　信弘、宮地　康夫、守本　健児、山田　育子、山本　さち、
山﨑　典子、吉田　加子美、吉田　真由美、米津　毅夫、鷲見　秀子

東三河ブロック調査員（ろう１４人、健聴者３２人、合計４６人）
浅倉　基雄、足立　節子、跡見　宜子、新谷　剛、石黒　京子、石塚　メイ子、市川　雅規、伊原　幸江、
岩津　政子、植村　裕子、大場　薫、糟谷　綾、苅谷　美雪、桑木野　実奈子、西郷　多恵子、
西郷　元子、榊原　いづみ、佐藤　亜子、柴田　浩代、杉浦　陽子、竹内　飛鳥、田中　三恵子、
千木良　妙子、遠山　英子、豊田　美恵子、中島　里江、中谷　常也、中西　一規、中西　玲子、
鳴海　悦子、畑　美津江、原　リエ、平松　靖一郎、福島　薫、福山　栄子、藤井　正秀、藤本　詠津子、
本田　栄子、本田　日呂美、丸山　みゆき、三浦　愛、宮田　しげみ、安永　美智子、山口　こずえ、
山元　ユク子、渡辺　順子

・集計者名簿（17 人）
鵜飼　歩、藤嶋　桃子、河合　茉奈、橋本　瞳、長谷川　貴大 松原萌衣 山本　純也、伊藤　朱音
吉永　未玖、上杉　春絵、野牧　七海、村田　遥風、菱沼　陽介、武田　涼花、辻明莉 、柘植　香穂
遊田はるか

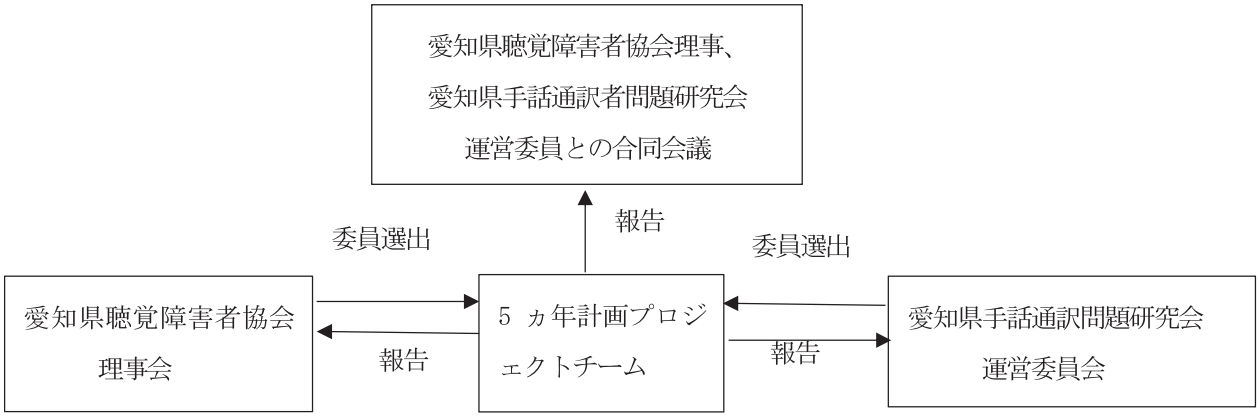
(11) 報告書 執筆者

近藤 直子（日本福祉大学名誉教授）
　４．今後の提言（３）聴覚障害児童の保護者への支援、放課後等デイサービスの整備

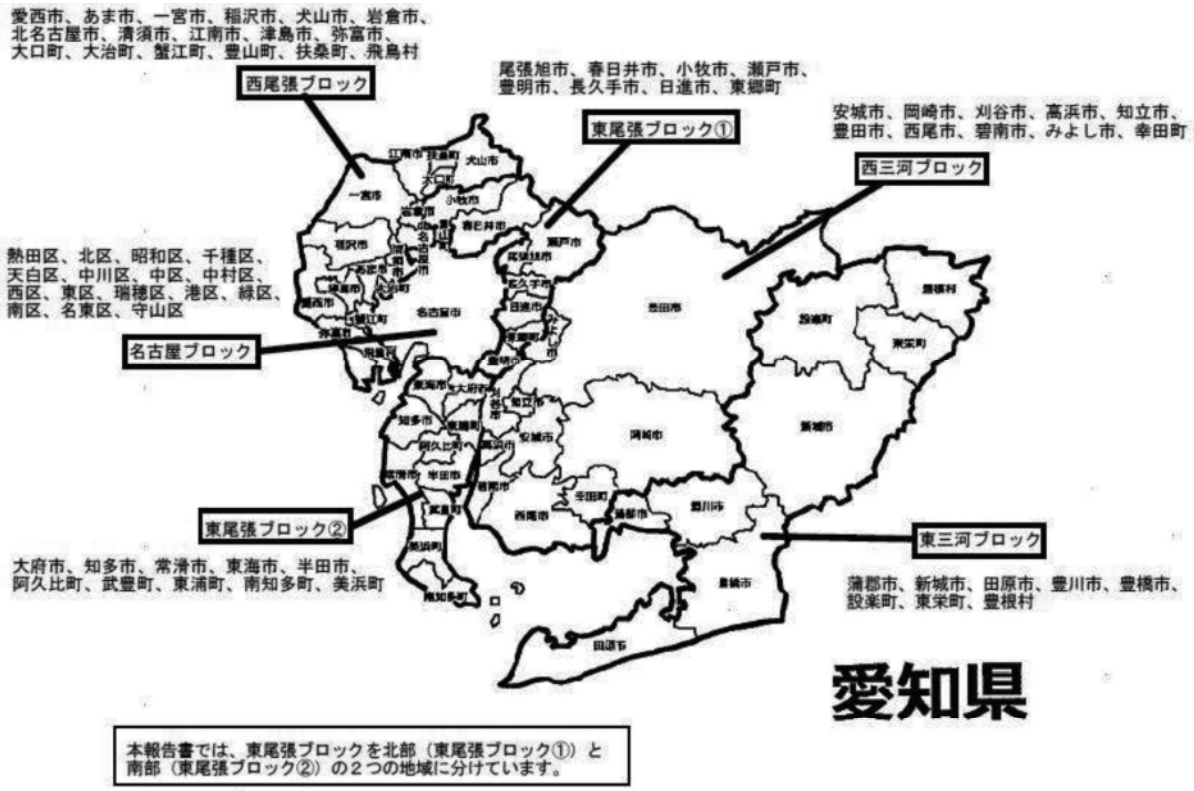
岩田 吉生（愛知教育大学准教授）
鵜飼　歩　（愛知教育大学　大学院生）
藤嶋 桃子（愛知教育大学　大学院生）
　２．聴覚障害者の暮らしに関する実態調査
　３．きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実態調査

前田 定幸（特定非営利活動法人 全国聴覚障害者情報提供施設協議会 理事）
服部 芳明（一般社団法人 愛知県聴覚障害者協会　理事長）
中嶋 宇月（一般社団法人 愛知県聴覚障害者協会　理事）
森本 拓磨（一般社団法人 愛知県聴覚障害者協会　理事）
宮川 照代（愛知県手話通訳問題研究会　運営委員長）
酒井 一恵（愛知県手話通訳問題研究会　運営委員）
　１．調査事業の概要
　４．今後の提言（１）（２）（４）

5ヶ年計画プロジェクトチームの組織図



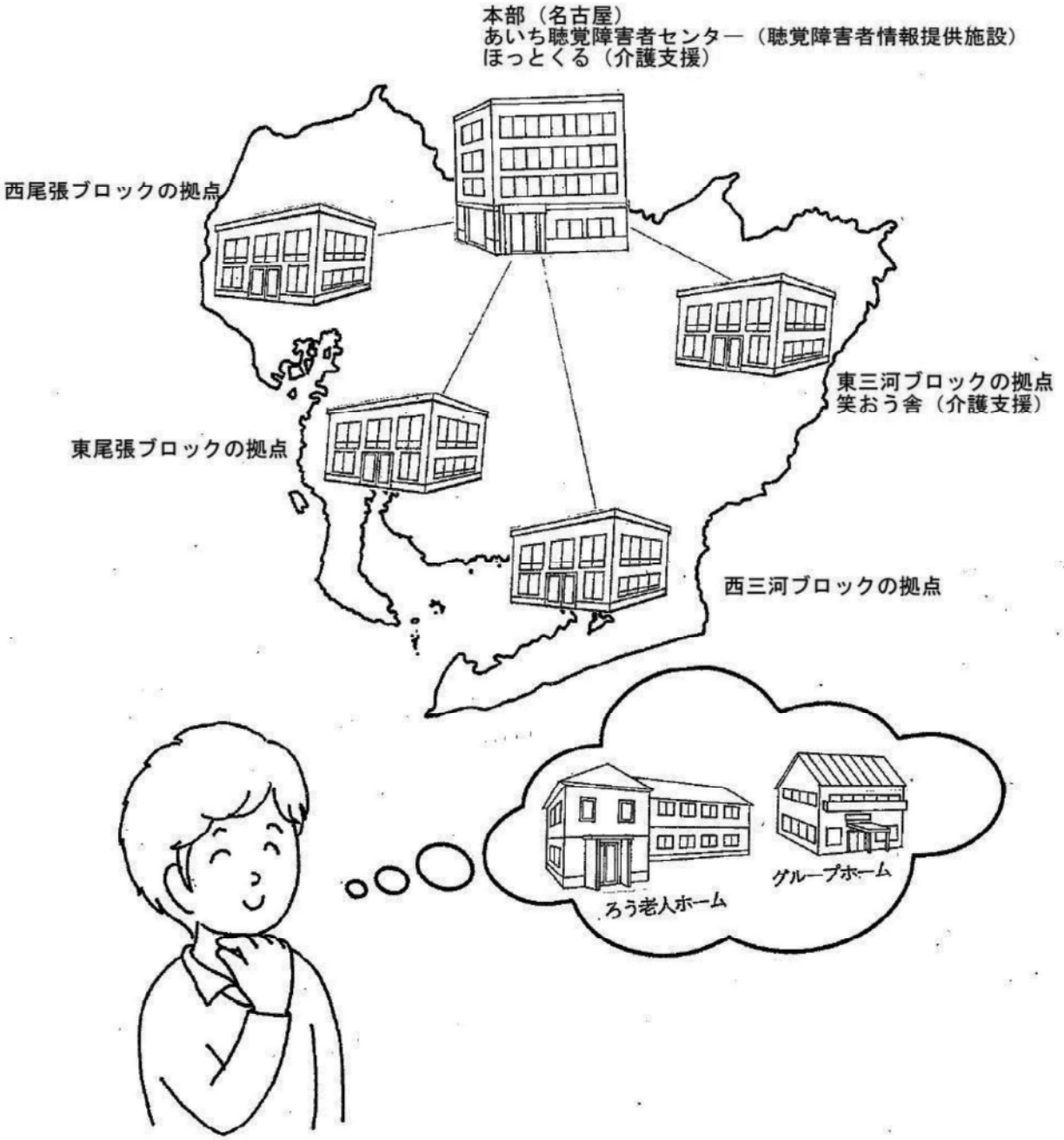
愛知県聴覚障害者協会　ブロック図



ブロックごとの拠点 構想案　　2018（平成30）年４月１日時点の資料です

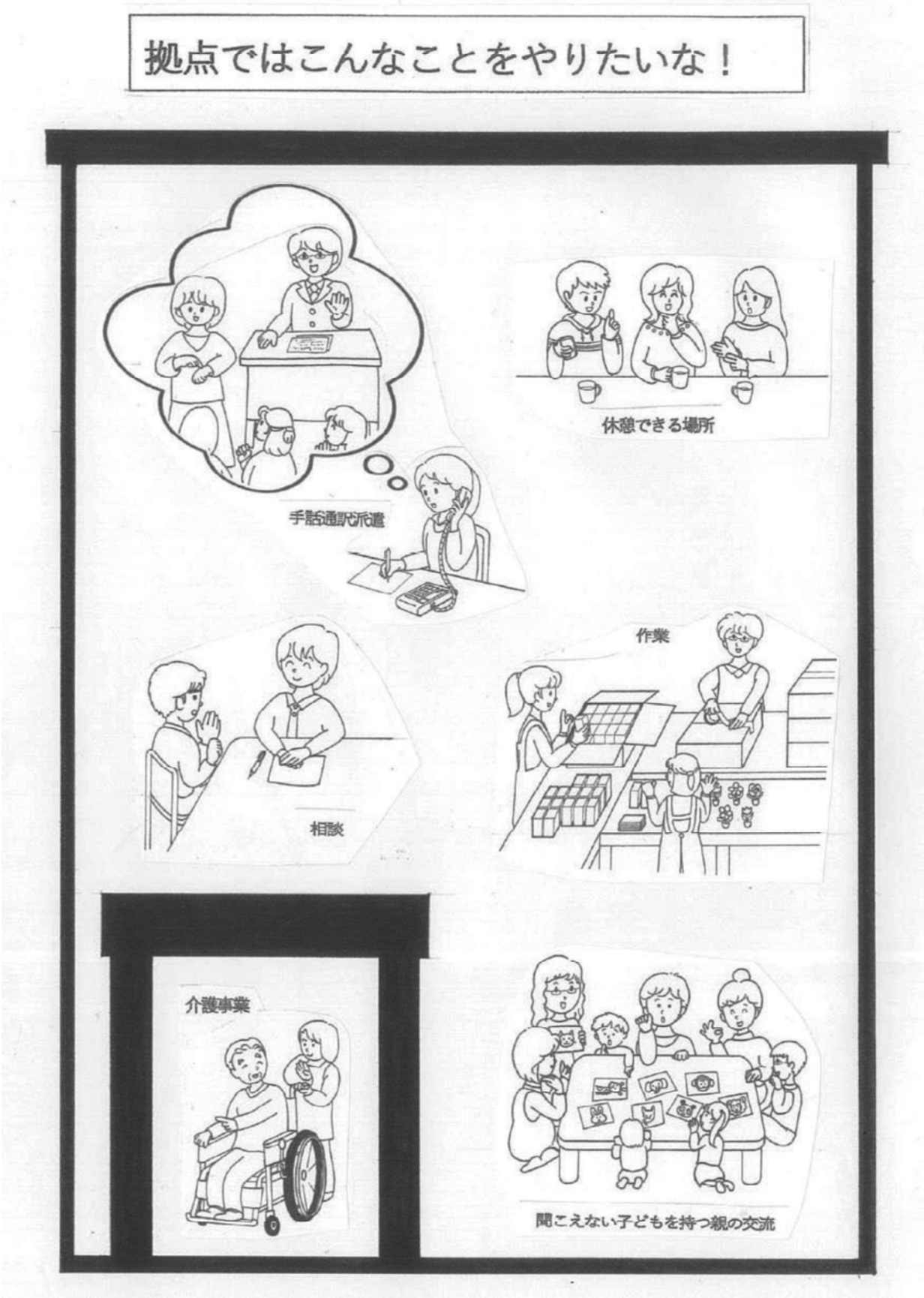
「ブロックごとに聞こえない人の生活を充実していくための拠点をつくろう」

こんなことができたらいいな・・盛り込んで欲しい内容があれば意見をください。



2018（平成30）年４月１日時点の資料です

拠点ではこんなことをやりたいな！



平成 30 年度　独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

２．聴覚障害者の暮らしに関する実態調査

２．聴覚障害者の暮らしに関する実態調査

２－１．問題と目的

（１）愛知県の聴覚障害者の暮らしの背景

愛聴協は、現在３つの事業所を運営しています。一つが聴覚障害者情報提供施設「あいち聴覚障害者センター」です。愛聴協では、聴覚障害者情報提供施設が法制化される前の 1985（昭和 60）年から聴覚障害者センターの設立の運動を続けてきており、2015（平成 27）年４月にようやく開所することができました。この聴覚障害者情報提供施設・あいち聴覚障害者センターは、全国の都道府県および政令指定都市で 50 番目の設立でした。しかし、同センターは愛聴協が 30 年以上前から構想していたものとは違う形からのスタートとなりました。

２つ目の事業所が、熱田区にある聴覚障害者支援事業所「ほっとくる」です。2008（平成 20）年に事業所を立ち上げる委員会が設置され、翌 2009（平成 21）年９月に開所しました。「地域活動支援センター」「訪問介護」「居宅介護支援」の事業を展開しています。今年で８年目を迎え、事業もようやく軌道に乗ってきています。しかし、この内、地域活動支援センターは、施設の部屋の大きさ等を考慮した上で１回の利用者を 15 人に限定せざるを得ない状況にあります。表２－１「ほっとくる」事業所の利用実績（年間）でも見て取れるように契約者数が年々増加しており、今の事業所の部屋では限界が来ています。３つ目の事業所が、東三河方面のろう高齢者のために、2013（平成 26）年に開所した豊川市の地域活動支援センター「笑おう舎」です。

このように少しずつ事業を拡充していますが、新しい課題も出てきています。

①　あいち聴覚障害者センターについて

あいち聴覚障害者センターは駅から遠く、夜は暗くて、盲ろう者が安心して通いにくいです。また、エレベーター等の設備がなく車椅子の方や足腰の弱い高齢者にとっても利用しにくいです。ゆったりとおしゃべりしたりできるロビーもなく利用しにくい他、相談室と印刷室が併用になっていて落ち着いて相談することができない等設備面の問題があります。

②ほっとくる、笑おう舎について

ほっとくる、笑おう舎の部屋が手狭になってきています。部屋の広さ等の関係上、利用者は一日にほっとくる 15 人、笑おう舎は 19 人を限度としてきましたが、やはり手話を使って安心してコミュニケーションできる場ということで、利用希望が絶えません。定員を超えてしまう場合は、利用をお断りする日もあります。現在の事業所はそれぞれ名古屋市、豊川市にありますが、「遠距離のため通うのが大変」「近くの地域にも作って欲しい」という声もたくさん聞かれます。

表２－１．「ほっとくる」事業所の年間利用実績（人）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	計
2015 年度	255	275	308	329	242	288	301	277	270	266	257	310	3, 378
2016 年度	255	275	268	250	263	290	264	259	259	228	248	333	3, 192
2018 年度	256	266	271	287	285	283	279	279	270	247	252	261	3, 236

＜利用者状況 2017 年（平成 29 年）度＞

名古屋市（90 人）内訳／緑区 14 人、中川区 10 人、北区 13 人、南区４人、港区９人、中村区９人、瑞穂区５人、名東区３人、熱田区６人、千種区４人、守山区４人、東区４人、昭和区３人、西区２人

津島市（３人）、一宮市（3 人）、刈谷市（２人）、瀬戸市（3 人）、小牧市（１人）、知立市（2 人）、西尾市（１人）、安城市（２人）、幸田町（２人）、あま市（1 人）、日進市（1 人）、大治町（1 人）東浦町（1 人）

表２－２．「笑おう舎」事業所の年間利用実績（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2015年度	179	195	214	206	222	200	201	206	207	219	244	246	2,539
2016年度	244	244	257	242	228	249	234	246	255	235	238	269	2,941
2017年度	257	281	296	283	255	271	264	237	254	208	231	261	3,098

＜利用者状況2017年度（29年度）＞
豊川市（14人）、新城市（4人）、豊橋市（18人）、蒲郡市（５人）、田原市（4人）、幸田町（3人）

② 手話で安心して相談したい思いについて

あいち聴覚障害者センターでは相談員を配置して、県内聴覚障害者からの相談に応じています。手話通訳を介しての間接的な相談より、同じコミュニケーション手段を活用して直接相談できる方が聴覚障害者は安心でき、信頼関係を築きやすい面もあります。その為に、在住地域の行政機関ではなく、遠くても交通費を払ってでも、当相談を利用する人がたくさんいます（表２－３）。また、各地域にある「ほっとくる」「笑おう舎」事業所でも、地域に住む聴覚障害者からの相談を受け止めています。本当は手話で安心して直接相談したいのに、行政機関にはそれがなく、まず「ほっとくる」や「笑おう舎」に足を運ぶ聴覚障害者も少なくはありません（表２－４、表２－５）。

表２－３．『あいち聴覚障害者センター』の年間相談利用実績　（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2015年度	13	24	18	26	21	20	10	8	13	24	20	17	214
2016年度	22	23	18	17	22	30	17	12	13	9	17	28	228
2017年度	30	20	19	13	14	19	17	13	15	10	22	26	218

＜2015年（平成27年）度　新規相談利用者地域別状況＞
名古屋市（66人）、西尾張（14人）、東尾張（5人）、知多（10人）、西三河（13人）、東三河（12人）、その他（9人）　計（129人）

＜2016年（平成28年）度　新規相談利用者地域別状況＞
名古屋市（46人）、西尾張（5人）、東尾張（18人）、知多（7人）、西三河（12人）、東三河（6人）、その他（8人）　計（102人）

＜2017年（平成29年）度　新規相談利用者地域別状況＞
名古屋市（45人）、西尾張（10人）、東尾張（5人）、知多（5人）、西三河（11人）、東三河（4人）、その他（3人）　計（83人）

表２－４．『ほっとくる』の年間相談利用実績　（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2015年度	10	5	6	4	4	8	9	6	11	7	7	9	86
2016年度	13	10	7	12	8	15	10	5	14	12	10	14	130

表２－５．『笑おう舎』の年間相談利用実績　（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2015年度	4	4	2	3	1	6	3	2	1	3	1	2	32
2016年度	6	4	4	5	3	7	2	5	5	6	4	5	56

（2）本調査「聴覚障害者の暮らしに関する実態調査」の目的

このような取り組みを進める中で、愛聴協ではプロジェクトチームを結成し、地域に住む聴覚障害者（難聴・中途失聴者や盲ろう者）やその家族は、どんな不安や悩みを抱えているかについて実態調査を行い、地域のニーズや課題を把握し、問題解決の為にどのような社会資源が必要なのか整理し、県や市町村が定める福祉計画に向けた提言を行います。また、調査報告書を作成し、県内関係機関への配布、報告会の開催などを通して聴覚障害児・者の実態と願いを県民に幅広く届け、支持と理解を広げていきたいと考えています。

２－２．基礎資料の結果

基礎調査　－調査対象者の情報－

本質問紙調査「聴覚障害者の暮らしに関する実態調査」の成人の調査については、1250 名の結果を受けることができた。そのうち、記入漏れ、未回答項目が多い等の結果の処理が困難な回答 13 名は無効とした。そのため、今回の結果は 1237 名の結果を集計することとした。

表２－６「回答者の年代」の結果について、年齢の平均は 56.1 歳であった。
年代別としては、10 歳代 0.9%、20 歳代 6.5%、30 歳代 10.6%、40 歳代 17.1%、50 歳代 18.1%、60 歳代 17.1%、70 歳代 20.0%、80 歳代 6.7%、90 歳代 0.5%、100 歳代 0.0%、未記入 2.5%と、40 代から 70 代の回答者が 72.3%を占めていた。

表２－７「回答者の性別」の結果について、男性 44.0%、女性 54.8%、LGBT・未記入等 1.2%であった。

表２－８「回答者の所属ブロック」の結果について、名古屋 23.8%、西尾張 18.4%、東尾張①（春日井等）9.0%、東尾張②（知多等）9.2%、西三河 22.9%、東三河 14.8%、未記入 2.0%で、最も回答者が多かったブロックが名古屋で、次いで、西三河、西尾張と続いた。
表２－９～表２－１３には、各ブロックの回答者の居住地ごとの人数を示す。

表２－１４「身体障害者手帳の有無」の結果について、手帳あり 95.7%、手帳なし 1.2%、未記入 3.1%となった。回答者のほとんどが身体障害者手帳を取得していることがわかった。
また、表２－１５「身体障害者手帳の級」の結果について、１級 32.0%、２級 54.5%、３級 8.3%、４級 2.3%、６級 1.8%、未記入 1.2%となり、回答者の７割以上が１級または２級の身体障害者手帳を取得していた。

表２－１６「家族構成」の結果について、３世代以上 4.9%、夫婦と子ども 28.5%、夫婦と親 1.5%、本人と子ども 5.7%、本人と親 8.3%、夫婦のみ 23.1%、単身 17.5%、その他 8.6%、未記入 1.9%であった。夫婦と子どもの家族が３割弱で最も多く、次いで、夫婦のみの家族、単身が多かった。

表２－１７「聴覚障害のある家族構成の有無」の結果について、父 7.7%、母 8.9%、配偶者 30.6%、きょうだい 10.2%、子ども 9.1%であった。特に、回答者のうち、（聴覚障害の有無に関わらず）配偶者ありは 808 名であった。その内訳は、①配偶者が夫で聴覚障害者である方が 53.4%、②配偶者が妻で聴覚障害者である方が 46.6%であった。配偶者のある回答者のうち、約半数程度が聴覚障害者同士で結婚していた。

表２－１８「通学していた施設・学校」の結果について、ろう（特別支援）学校幼児部 41.6%、ろう（特別支援）学校小学部 59.6%、ろう（特別支援）学校中学部 59.2%、ろう（特別支援）学校高等部 60.7%、ろう（特別支援）学校専攻科 32.3%、健聴（普通）小学校 26.6%、健聴（普通）中学校 23.0%、健聴（普通）高校 18.2%、中学校専修・専門学校 3.6%であった。ろう学校の通学経験者が６割以上、通常の学校（普通学校）の通学経験者が２～３割という結果であった。

表２－６．回答者の年代（1237 名）

年代	人数（%）
10 歳代	11 名（ 0.9%）
20 歳代	81 名（ 6.5%）
30 歳代	131 名（10.6%）
40 歳代	211 名（17.1%）
50 歳代	224 名（18.1%）
60 歳代	211 名（17.1%）
70 歳代	248 名（20.0%）
80 歳代	83 名（ 6.7%）
90 歳代	6 名（ 0.5%）
100 歳代	0 名（ 0.0%）
未記入	31 名（ 2.5%）

表２－７．回答者の性別（1237 名）

性別	人数（%）
男性	544 名（44.0%）
女性	678 名（54.8%）
LGBT・未記入等	15 名（ 1.2%）

表２－８．回答者の所属ブロック（1237 名）

ブロック名	人数（%）
名古屋	294 名（23.8%）
西尾張	227 名（18.4%）
東尾張①（春日井等）	111 名（ 9.0%）
東尾張②（知多等）	114 名（ 9.2%）
西三河	283 名（22.9%）
東三河	183 名（14.8%）
未記入	25 名（ 2.0%）

表２－９．西尾張ブロックの回答者の居住地（227名）

市町村名	人数（割合%）
一宮市	65名（28.6%）
北名古屋市	30名（13.2%）
稲沢市	22名（ 9.7%）
清須市	20名（ 8.8%）
愛西市	16名（ 7.0%）
江南市	16名（ 7.0%）
犬山市	14名（ 6.2%）
津島市	10名（ 4.4%）
あま市	8名（ 3.5%）
弥富市	5名（ 2.2%）
扶桑町	4名（ 1.8%）
蟹江市	3名（ 1.3%）
岩倉市	3名（ 1.3%）
大口町	2名（ 0.9%）
未記入	9名（ 4.0%）

表２－１０．東尾張①ブロックの回答者の居住地（111名）

市町村名	人数（割合%）
春日井市	36名（32.4%）
瀬戸市	24名（21.6%）
小牧市	18名（16.2%）
尾張旭市	10名（ 9.0%）
日進市	10名（ 9.0%）
長久手市	6名（ 5.4%）
東郷町	4名（ 3.6%）
豊山町	2名（ 1.8%）
未記入	1名（ 0.9%）

表２－１１．東尾張②ブロックの回答者の居住地（114名）

市町村名	人数（割合%）
知多市	26名（22.8%）
半田市	25名（21.9%）
大府市	13名（11.4%）
常滑市	13名（11.4%）
東海市	12名（10.5%）
美浜町	8名（ 7.0%）
阿久比町	7名（ 6.1%）
武豊町	5名（ 4.4%）
東浦町	4名（ 3.5%）
南知多町	1名（ 0.9%）

表２－１２．西三河ブロックの回答者の居住地（283名）

市町村名	人数（割合%）
豊田市	61名（21.6%）
岡崎市	54名（19.1%）
西尾市	41名（14.5%）
安城市	38名（13.4%）
幸田町	32名（11.3%）
知立市	22名（ 7.8%）
刈谷市	17名（ 6.0%）
みよし市	7名（ 2.5%）
高浜市	6名（ 2.1%）
碧南市	5名（ 1.8%）

表２－１３．東三河ブロックの回答者の居住地（183名）

市町村名	人数（割合%）
豊橋市	82名（44.8%）
豊川市	55名（30.1%）
田原市	20名（10.9%）
蒲郡市	16名（ 8.7%）
新城市	10名（ 5.5%）

表２－１４．身体障害者手帳の有無（1237名）

手帳の有無	人数（%）
手帳あり	1184名（95.7%）
手帳なし	15名（ 1.2%）
未記入	38名（ 3.1%）

表２－１５．身体障害者手帳の級（1184名）

級	人数（%）
１級	379名（32.0%）
２級	645名（54.5%）
３級	98名（ 8.3%）
４級	27名（ 2.3%）
６級	21名（ 1.8%）
未記入	14名（ 1.2 %）

表２－１６．家族構成（1237名）

家族構成	人数（%）
３世代以上	61名（ 4.9%）
夫婦と子ども	353名（28.5%）
夫婦と親	18名（ 1.5%）
本人と子ども	70名（ 5.7%）
本人と親	103名（ 8.3%）
夫婦のみ	286名（23.1%）
単身	217名（17.5%）
その他	107名（ 8.6%）
未記入	22名（ 1.8%）

表２－１７．聴覚障害のある家族構成の有無（1237名）

聴覚障害のある家族	人数（%）
父	95名（ 7.7%）
母	110名（ 8.9%）
配偶者	**379名（30.6%）**
きょうだい	126名（10.2%）
子ども	113名（ 9.1%）

（注）配偶者あり 808名　①配偶者が夫406名のうち夫が聴覚障害者217名（53.4%）
②配偶者が妻348名のうち妻が聴覚障害者162名（46.6%）
③配偶者に関する記述なし54名

表２－１８．通学していた施設・学校（1237名）　※複数回答

施設・学校	人数（%）
１．ろう（特別支援）学校幼児部	514名（41.6%）
２．ろう（特別支援）学校小学部	737名（59.6%）
３．ろう（特別支援）学校中学部	732名（59.2%）
４．ろう（特別支援）学校高等部	751名（60.7%）
５．ろう（特別支援）学校専攻科	400名（32.3%）
６．養護（特別支援）学校	5名（0.4%）
７．保育園	126名（10.2%）
８．健聴（普通）幼稚園	158名（12.8%）
９．福祉型児童発達支援センター（難聴幼児通園施設）	13名（1.1%）
１０．健聴（普通）小学校	329名（26.6%）
１１．健聴（普通）中学校	285名（23.0%）
１２、難聴学級（小学・中学）	71名（5.7%）
１３．知的障害学級（小学・中学）	6名（0.5%）
１４．情緒障害学級・自閉症学級（小学・中学）	1名（0.1%）
１５．きこえとことばの教室（通級指導教室）	43名（3.5%）
１６．健聴（普通）高校	225名（18.2%）
１７．中学校専修・専門学校	45名（3.6%）
１８．短期大学	45名（3.6%）
１９．大学	95名（7.7%）
２０．筑波技術大学（前・筑波技術短期大学）	14名（1.1%）
２１．学校には行っていない	16名（1.3%）
２２．その他の学校	32名（2.6%）

２－３．本調査の結果

（1）．ブロック別の結果の分析

表２－１９「言語・コミュニケーション手段」の結果について、全体としては、手話 93.2%、筆談 72.8%、口話 66.5%、身振り 65.5%、指文字 45.0%、表情 44.8%、指さし 43.4%、補聴器 40.5%、音声 35.1%、、絵や写真 18.8%、実物 18.7%、人工内耳 3.9%、触手話 2.9%、指点字 2.3%、点字 0.4%、分からない 0.3%、その他 2.3%であった。６割以上の聴覚障害者が「手話」「筆談」「口話」「身振り」を活用している。ブロック別で大きな結果の差はなかった。

表２-２０「手話を覚えた時期（ブロック別）」、表２-２１「手話を教わった場所（ブロック別）」の結果について、手話を覚えた時期はろう学校小学部か、社会人になってからの回答者が多かった。そして、きこえない友達か手話を教わった回答者が多かった。西三河ブロックでは幼児期から手話を覚えている回答者が他ブロックと比較して多かった。

表２－２３「通学していた施設・学校」の結果について、回答者の約６割がろう学校に通っており、約３割が通常の学校に通っていた。自由記述の中には、ろう学校が義務教育化されていない 1948 年（平成 23 年）以前に学齢期だった 70 代以上の高齢者の方は「学校に通えなかった」という記述があった。

表２－２４「現在の主な仕事」の結果について、全体としては、会社員 34.7%、福祉作業所（就労継続支援 A 型・就労継続支援 B 型等）5.7%、自営業 4.4%、法人職員 2.3%、内職 1.2%、公務員 1.1%、その他 9.5%、今は仕事をしていない 37.5%、働いたことがない 2.8%であった。回答者の約５割が就業しており、福祉就労が約６%であった。60 歳以上の年齢の回答者が多いため、現在は働いていない方と働いたことがない方と合わせると、約４割であった。ブロック別で大きな差がなかった。

（注）就職・就労の状況については、60 代以上の高齢者の割合が約４割と高く、２０代から４０代の女性の回答者の場合、子育てのために仕事をされていない方も多いことが予想される。「聴覚障害者だから就職・就労ができない」と考えるだけでなく、このような背景も考慮に入れなら、結果を検討していきたい。

表２－２６「表２－２４で『８．今は仕事をしていない』『９．働いたことがない』と回答した理由」の結果について、全体としては、主婦 15.8%、定年のため 12.4%、老齢のため 10.7%、育児・介護のため 3.6%、障害のため 3.4%、病気のため 3.2%等であった。回答者の割合は低いが、育児・介護のため（3.6%）に仕事ができない回答者がいることがわかった。また、回答者は僅かであるが、解雇、倒産、仕事が見つからない等で働いていない聴覚障害者もいることがわかった。

表２－２７「今、仕事で困っていること、不自由に感じていることや悩んでいること」の結果について、全体としては、聴覚障害や聞こえにくいことの理解が乏しく働きやすい環境が整っていない 20.8%、まわりの人たちと話が通じにくいために仕事や作業がうまくいかないことがある 15.8%、今の仕事を続けられるかどうか心配である 12.9%、障害者の雇用を相談する部署や人がいない 11.3%、職位が上がらない・昇任できない 9.9%、同じ能力でも聴こえる人が評価される 9.4%等が上位を占めた。特にないと回答した者は 19.1%と約２割であった。仕事の悩みがない回答者の割合は 19.1%と低く、多くの回答者の何らかの悩みを抱えている可能性が示唆された。ブロック別の差はなかった。

表２－２８「現在の住まい」の結果について、一戸建て住宅が 64.6%、分譲マンションが 10.1%と、家やマンションを所有している人が４分の３程度あり、非常に高い割合であった。勤労者がいる世帯では収入が多く、生活が安定していることが推察された。ブロック別では、名古屋での一戸建て住宅の割合が低く、分譲マンション、アパート等の住居率がやや高かった。

表２－２９「日頃の近所の人たちとの関わり」の結果について、全体としては、あいさつする程度 77.4%、つき合いはない 14.3%、くらしや地域のことで話し合っている 14.0%、困りごとや悩みを相談し合う 4.8%、その他 3.8%であった。つき合いはないとあいさつする程度の結果を合わせると 91.7%となり、居住地の近隣の人々との関わりが少ないことがわかった。名古屋ブロックと東三河ブロックの回答者は、「くらしや地域のことで話し合っている」「困りごとや悩みを相談し合う」の回答の割合が 14%台と低く、近隣の住民との関わりが少ないことが推察された。

表２－３０「地域の活動・集まり」の結果について、聴覚障害者関連団体の活動、身体障害者団体、手話サークルに参加する割合が高かった。自治会（町内会）の行事の活動は 27.2%であったが、年数回の頻度が少ないという結果であった。表２－３１～表２－３６「地域の活動・集まり（ブロック別）」の結果を示す。

表２－３７「表２－３０の『１２．参加していない』『１３．今は参加していない』の回答の理由（ブロック別）」の結果について、全体としては、時間がない 9.9%、興味がない 8.9%、案内や情報がない 6.3%、場所が遠い 5.6%が上位を占めた。特に、名古屋ブロックの回答者は、上位４項目の回答に加え、案内の内容が分からない、手話や要約筆記等の情報保障がされていないという項目の割合が高かった。また、東尾張①ブロックと東三河ブロックの回答者について、場所が遠いという回答の割合がやや高かった。名古屋は公共交通機関が整備されているイメージがあるが、車がない高齢者や重複聴覚障害者にとっては、人々が集まるコミュニティへの参加が困難となる可能性がある。一方、東尾張①は名古屋の北東から南東に位置する地域であり、JR 中央線, 名鉄小牧線、名鉄瀬戸線等の鉄道沿線の住民でなければ、交通アクセスが悪く、様々な交流行事への参加が困難となることが推察された。地域の活動・集まりについて、案内がない、内容がわからない、通訳がない、通訳の依頼がわからないから等、地域の人々の繋がりや活動に関して情報の壁があることがわかった。

表２－３８．健康状態で気になっていること（ブロック別）の結果について、30%以上の回答があった項目は、医者に診てもらっている 40.4%、薬を飲んでいる 37.8%、疲れやすい 36.0%、目が疲れる 30.8%であった。

表２－３９「災害など、いざという時に頼りにする人（ブロック別）」の結果について、家族を頼りにする割合が４割程度で高かったが、高齢者では配偶者も亡くなった場合、頼りにする相手がいないことも考えられる。次いで、近所の知人、友達、手話や要約筆記者の関係者等の割合も高かったが、公的な支援機関が利用しづらい状況があるため、家族や友達に頼ることが多いことが推察された。

表２－４１「日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報・コミュニケーションの困難」の結果について、全体として、50%以上の回答があった項目は、手話や字幕が入っていないテレビ番組が分からない・分かりにくい 51.6%、災害の時の情報の入手方法や避難方法が不安 50.0%、30%以上の回答があった項目は、110 番（警察）との連絡ができない 38.9%、119 番（救急車・消防）への呼び出しの時 37.5%、病院や医者にかかる時の会話（予約や医者の問診・診断内容、薬局の呼び出し）35.6%、クレジットカードや携帯電話の契約を結ぶときや変更・解除する時 33.5%等であった。災害時にはテレビで情報収集する回答者が多いが、テレビに手話や字幕が入っていなくわからない・わかりにくいと答える人も半数いた。また、回答者には健康に不安を抱えている人が多いが、医療機関とのコミュニケーションに不安を抱いている人が多かった。ブロック別の結果の差はなかった。

表２－４２「日頃の暮らしの中で困っていること、不自由に感じること」の結果について、30%以上の回答があった項目は、病気のこと（自分の健康や病気のことが気になる）38.4%、くらしの世話をしてくれる家族が病気になったり倒れたりした時のこと 30.8%であった。家に一人でいるときに何があったら不安 29.7%であった聴こえのことを回答した者は 21.6%であった。ブロック別の結果の差はなかった。

表２－４３「日頃の暮らしことで相談する相手の有無」の結果について、全体としては、相談相手がいる 82.7%、相談相手がいない 13.0%であった。ブロック別の回答をみると、名古屋ブロックは、相談相手がいると回答した者が 77.9%とやや低かった。

表２－４４「日頃の暮らしことで相談する相手（ブロック別）の結果について、30%以上の回答があった項目は、友達 38.1%、配偶者 36.8%であった。20%以上の回答があった項目は、兄弟姉妹 28.5%、親 28.1%、子ども 27.3%で

あった。日頃の生活に不安を抱いている回答者が多いにも関わらず、相談できる相手は家族が多いことから、コミュニケーションの壁があり、行政や相談支援機関は使いづらいことが予想された。ブロック別の結果の差はなかった。

表２－４５「手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障された施設や、サービスを利用したことの経験」の結果について、全体としては、手話通訳派遣 54.1%、ろう学校 10.8%、要約筆記者（奉仕）派遣 9.5%であった。手話や要約筆記等のサービスを利用したことがない回答者が 65%程度であり、コミュニケーションが困難な状況にあっても、各種サービスを活用していない者が多いことが予想された。このことは、聴覚障害者に対する情報保障の社会資源が十分に整っていないことが結果として表れている。

ブロック別にみると、名古屋ブロックの回答者は聴覚障害者支援事業所ほっとくるの利用者が多く、東三河ブロックの回答者は聴覚障害者支援事業所笑おう舎の利用が多かった。地域に聴覚障害者が交流できるセンター的施設があれば、聴覚障害者が積極的に利用していくことができることが推察された。

表２－４６「手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障されや施設や、サービスを利用して感じたこと、気づいたこと」の結果について、全体として、上位３位の項目は、聴覚障害者同士のつながりができた・深まった 34.4%、これまで学べなかった様々なことを知り・学ぶことができた 30.2%、情報がたくさん入るようになった 28.9%であった。情報保障がなされた聴覚障害者関連施設や支援サービスがあることで、聴覚障害者が社会の多くの情報にアクセスし、他者との繋がりを広げ深めていくことがわかる。ブロック別の結果の差はなかった。

表２－４７「今後、必要と思われるサービスや施設」の結果について、全体として、最も多い回答は、手話（触手話）や要約筆記などのコミュニケーションが保障された、聴覚障害者が利用しやすい施設を身近なところに作ってほしい、増やしほしい 61.0%であった。次いで、災害時にも、聴覚障害への配慮があり、一時的でも安心して避難生活ができる制度を整えてほしい 55.0%、聴覚障害に配慮した高齢者に関わるデイサービスがほしい 50.4%の回答が多かった。聴覚障害者が利用しやすく他者との交流が図ることができる地域の拠点施設、高齢者の福祉的な対応ができる施設、災害時の情報提供および避難対応の施設のニーズが高いことがわかった。

ブロック別の結果の差はなかった。

表２－１９．言語・コミュニケーション手段（ブロック別）※複数回答

言語・手段	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．手話	1153名 (93.2%)	266名 (90.5%)	211名 (93.0%)	104名 (93.7%)	104名 (91.2%)	275名 (97.2%)	171名 (93.4%)
２．音声	434名 (35.1%)	93名 (31.6%)	89名 (39.2%)	42名 (37.8%)	46名 (40.4%)	93名 (32.9%)	61名 (33.3%)
３．身振り	810名 (65.5%)	178名 (60.5%)	152名 (67.0%)	63名 (56.8%)	82名 (71.9%)	198名 (70.0%)	122名 (66.7%)
４．指さし	537名 (43.4%)	106名 (36.1%)	105名 (46.3%)	45名 (40.5%)	59名 (51.8%)	127名 (44.9%)	84名 (45.9%)
５．表情	555名 (44.9%)	116名 (39.5%)	101名 (44.5%)	42名 (37.8%)	62名 (54.4%)	138名 (48.8%)	84名 (45.9%)
６．実物	231名 (18.7%)	50名 (17.0%)	45名 (19.8%)	18名 (16.2%)	25名 (21.9%)	54名 (19.9%)	34名 (18.6%)
７．筆談	901名 (72.8%)	211名 (71.8%)	173名 (76.2%)	84名 (75.7%)	85名 (74.6%)	201名 (71.0%)	128名 (69.9%)
８．口話	823名 (66.5%)	189名 (64.3%)	150名 (66.1%)	78名 (70.3%)	86名 (75.4%)	186名 (65.7%)	115名 (62.8%)
９．補聴器	501名 (40.5%)	113名 (38.4%)	92名 (40.5%)	44名 (39.6%)	44名 (38.6%)	135名 (47.7%)	63名 (34.4%)
１０．人工内耳	48名 (3.9%)	13名 (4.4%)	14名 (6.2%)	3名 (2.7%)	3名 (2.6%)	6名 (2.1%)	8名 (4.4%)
１１．触手話	36名 (2.9%)	9名 (3.1%)	7名 (3.1%)	5名 (4.5%)	4名 (3.5%)	8名 (2.8%)	2名 (1.1%)
１２．指点字	29名 (2.3%)	14名 (4.8%)	2名 (0.9%)	2名 (1.8%)	2名 (1.8%)	5名 (1.8%)	3名 (1.6%)
１３．点字	5名 (0.4%)	2名 (0.7%)	1名 (0.4%)	1名 (0.9%)	0名 (0.0%)	1名 (0.4%)	0名 (0.0%)
１４．指文字	557名 (45.0%)	120名 (40.8%)	109名 (48.0%)	55名 (49.5%)	59名 (51.8%)	125名 (44.2%)	78名 (42.6%)
１５．絵や写真	233名 (18.8%)	50名 (17.0%)	44名 (19.4%)	18名 (16.2%)	25名 (21.9%)	54名 (19.1%)	37名 (20.2%)
１６．分からない	4名 (0.3%)	4名 (1.4%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
１７．その他	29名 (2.3%)	5名 (1.7%)	7名 (3.1%)	5名 (4.5%)	4名 (3.5%)	3名 (1.1%)	4名 (2.2%)

＜その他＞　２９件

・キューサイン　・空文字　・手書き文字　・筆談　・要約筆記　・ノートテイク　・通訳
・スマートフォン（アプリ）　・字幕

表２－２０．手話を覚えた時期（ブロック別）　※複数回答

時期	全体（1237名）	名古屋（294名）	西尾張（227名）	東尾張①（111名）	東尾張②（114名）	西三河（283名）	東三河（183名）
生後から（親がろう者）	18名 (1.5%)	2名 (0.7%)	2名 (0.9%)	0名 (0.0%)	1名 (0.9%)	4名 (1.4%)	8名 (4.4%)
乳幼児教育相談	19名 (1.5%)	1名 (0.3%)	1名 (0.4%)	0名 (0.0%)	2名 (1.8%)	12名 (4.2%)	3名 (1.6%)
幼稚園・保育園	142名 (11.5%)	23名 (7.8%)	15名 (6.6%)	6名 (5.4%)	15名 (13.2%)	54名 (19.1%)	24名 (13.1%)
小学部・小学校	381名 (30.8%)	87名 (29.6%)	65名 (28.6%)	25名 (22.5%)	36名 (31.6%)	88名 (31.1%)	74名 (40.4%)
中学部・中学校	209名 (16.9%)	49名 (16.7%)	40名 (17.6%)	29名 (26.1%)	28名 (24.6%)	34名 (12.0%)	25名 (13.7%)
高等部・高校	171名 (13.8%)	46名 (15.6%)	37名 (16.3%)	10名 (9.0%)	24名 (21.1%)	33名 (11.7%)	18名 (9.8%)
大学	39名 (3.2%)	11名 (3.7%)	7名 (3.1%)	4名 (3.6%)	3名 (2.6%)	11名 (3.9%)	3名 (1.6%)
専門学校	19名 (1.5%)	5名 (1.7%)	3名 (1.3%)	1名 (0.9%)	1名 (0.9%)	7名 (2.5%)	1名 (0.5%)
社会人	227名 (18.4%)	57名 (19.4%)	48名 (21.1%)	26名 (23.4%)	20名 (17.5%)	41名 (14.5%)	27名 (14.8%)
その他	60名 (4.9%)	13名 (4.4%)	12名 (5.3%)	7名 (6.3%)	7名 (6.1%)	13名 (4.6%)	8名 (4.4%)

表２－２１．手話を教わった場所（ブロック別）　※複数回答

場所	全体（1237名）	名古屋（294名）	西尾張（227名）	東尾張①（111名）	東尾張②（114名）	西三河（283名）	東三河（183名）
家庭	88名 (7.1%)	20名 (6.8%)	9名 (4.0%)	3名 (2.7%)	6名 (5.3%)	28名 (9.9%)	20名 (10.9%)
ろう学校	754名 (61.0%)	172名 (58.5%)	136名 (59.9%)	65名 (58.6%)	69名 (60.5%)	183名 (64.7%)	117名 (63.9%)
普通学校	6名 (0.5%)	2名 (0.7%)	1名 (0.4%)	1名 (0.9%)	0名 (0.0%)	2名 (0.7%)	0名 (0.0%)
手話サークル	299名 (24.2%)	69名 (23.5%)	69名 (30.4%)	38名 (34.2%)	22名 (19.3%)	64名 (22.6%)	32名 (17.5%)
その他	101名 (8.2%)	24 (8.2%)	13名 (5.7%)	8名 (7.2%)	13名 (11.4%)	21名 (7.4%)	17名 (9.3%)

＜その他＞　１０１件

・難聴児通園施設（みやこ園）　・寄宿舎　・手話講座　・大学/専門学校　・会社/職場
・講習会（難聴手話講習会）　・作業所　・修道院　・ペンギン　たけのこ会
・名身連聴覚言語障害者情報文化センター
・聴覚障害者協会（小牧市中途失聴者協会・愛知県難聴者協会・ろうあ協会）
・聴覚障害者団体（東海ろう学生懇談会・愛知盲ろう者友の会・聴覚障害児をもつ親の会・難聴者団体）
・スポーツを通して（部活動など）　・聞こえない人との関わり（聞こえない友人・先輩・イベントなど）
・テレビ（手話の番組）　・ろう学校の友達と通学手段が同じ　・総合体育館　・社会人の先輩　・独学

表２－２２．手話を教えてくれた人（ブロック別）　※複数回答

教えてくれた人	全体（1237名）	名古屋（294名）	西尾張（227名）	東尾張①（111名）	東尾張②（114名）	西三河（283名）	東三河（183名）
親	98名 (7.2%)	20名 (6.8%)	12名 (5.3%)	4名 (3.6%)	7名 (6.1%)	34名 (12.0%)	19名 (10.4%)
祖父・祖母	10名 (0.8%)	4名 (1.4%)	2名 (0.9%)	0名 (0.0%)	2名 (1.8%)	1名 (0.4%)	1名 (0.5%)
きょうだい	52名 (4.2%)	23名 (7.8%)	9名 (4.0%)	2名 (1.8%)	1名 (0.9%)	8名 (2.8%)	9名 (4.9%)
親戚	12名 (1.0%)	8名 (2.7%)	2名 (0.9%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (1.1%)
きこえない友達	714名 (57.7%)	146名 (49.7%)	139名 (61.2%)	63名 (56.8%)	71名 (62.3%)	165名 (58.3%)	119名 (65.0%)
きこえる友達	55名 (4.4%)	14名 (4.8%)	12名 (5.3%)	7名 (6.3%)	5名 (4.4%)	10名 (3.5%)	7名 (3.8%)
ろう学校の先生	224名 (18.1%)	45名 (15.3%)	48名 (21.1%)	18名 (16.2%)	17名 (14.9%)	67名 (23.7%)	23名 (12.6%)
普通学校の先生	12名 (1.0%)	1名 (0.3%)	1名 (0.4%)	3名 (2.7%)	3名 (2.6%)	1名 (0.4%)	2名 (1.1%)
手話サークルの仲間	255名 (20.6%)	58名 (19.7%)	50名 (22.0%)	34名 (30.6%)	20名 (17.5%)	58名 (20.5%)	28名 (15.3%)
その他	84名 (6.8%)	21名 (7.1%)	12名 (5.3%)	13名 (11.7%)	9名 (7.9%)	14名 (4.9%)	10名 (5.5%)

＜その他＞　８４件

・講師（手話講座・手話サークル）　・先生（難聴児通園施設・寄宿舎）　・先輩（ろう学校・職場）
・友人　・配偶者　・職場の人　・手話通訳士　・シスター　・NHK みんなの手話（テレビ番組）
・本

表２－２３．通学していた施設や学校（ブロック別）※複数回答

施設や学校	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．ろう（特別支援）学校幼稚部	514名 (41.6%)	92名 (31.3%)	92名 (40.5%)	50名 (45.0%)	49名 (43.0%)	149名 (52.7%)	72名 (39.3%)
２．ろう（特別支援）学校小学部	737名 (59.6%)	149名 (50.7%)	127名 (55.9%)	64名 (57.7%)	67名 (58.8%)	194名 (68.6%)	124名 (67.8%)
３．ろう（特別支援）学校中学部	732名 (59.2%)	144名 (49.0%)	129名 (56.8%)	67名 (60.4%)	67名 (58.8%)	193名 (68.2%)	121名 (66.1%)
４．ろう（特別支援）学校高等部	751名 (60.7%)	149名 (50.7%)	138名 (60.8%)	66名 (59.5%)	72名 (63.2%)	191名 (67.5%)	123名 (67.2%)
５．ろう（特別支援）学校専攻科	400名 (32.3%)	96名 (32.7%)	73名 (32.2%)	46名 (41.4%)	45名 (39.5%)	68名 (24.0%)	66名 (36.1%)
６．養護（特別支援）学校	5名 (0.4%)	2名 (0.7%)	2名 (0.9%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.5%)
７．保育園	126名 (10.2%)	21名 (7.1%)	29名 (12.8%)	10名 (9.0%)	18名 (15.8%)	30名 (10.6%)	15名 (8.2%)
８．健聴（普通）幼稚園	158名 (12.8%)	36名 (12.2%)	33名 (14.5%)	15名 (13.5%)	16名 (14.0%)	35名 (12.4%)	19名 (10.4%)
９．福祉型児童発達センター（難聴用児通園施設）	13名 (1.1%)	4名 (1.4%)	2名 (0.9%)	1名 (0.9%)	0名 (0.0%)	4名 (1.4%)	1名 (0.5%)
１０．健聴（普通）小学校	329名 (26.6%)	69名 (23.5%)	63名 (27.8%)	33名 (29.7%)	44名 (38.6%)	76名 (26.9%)	37名 (20.2%)
１１．健聴（普通）中学校	285名 (23.0%)	61名 (20.7%)	59名 (26.0%)	29名 (26.1%)	39名 (34.2%)	61名 (21.6%)	30名 (16.4%)
１２．難聴学級（小学・中学）	71名 (5.7%)	19名 (6.5%)	13名 (5.7%)	5名 (4.5%)	6名 (5.3%)	21名 (7.4%)	5名 (2.7%)
１３．知的障害学級（小学・中学）	6名 (0.5%)	3名 (1.0%)	2名 (0.9%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.4%)	0名 (0.0%)
１４．情緒障害学級・自閉症学級（小学・中学）	1名 (0.1%)	0名 (0.0%)	1名 (0.4%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
１５．きこえとことばの教室（通級指導教室）	43名 (3.5%)	13名 (4.4%)	7名 (3.1%)	2名 (1.8%)	5名 (4.4%)	13名 (4.6%)	2名 (1.1%)
１６．健聴（普通）高校	225名 (18.2%)	62名 (21.1%)	45名 (19.8%)	24名 (21.6%)	21名 (18.4%)	46名 (16.3%)	21名 (11.5%)
１７．中学校専修・専門学校	45名 (3.6%)	7名 (2.4%)	9名 (4.0%)	5名 (4.5%)	8名 (7.0%)	14名 (4.9%)	1名 (0.5%)
１８．短期大学	45名 (3.6%)	10名 (3.4%)	10名 (4.4%)	3名 (2.7%)	9名 (7.9%)	7名 (2.5%)	4名 (2.3%)
１９．大学	95名 (7.7%)	30名 (10.2%)	16名 (7.0%)	8名 (7.2%)	9名 (7.9%)	21名 (7.4%)	9名 (4.9%)
２０．筑波技術大学（前・筑波技術短期大学）	14名 (1.1%)	2名 (0.7%)	4名 (1.8%)	0名 (0.0%)	3名 (2.6%)	5名 (1.8%)	0名 (0.0%)
２１．学校にはいっていない。	16名 (1.3%)	8名 (2.7%)	2名 (0.9%)	0名 (0.0%)	2名 (1.8%)	0名 (0.0%)	4名 (2.2%)
２２．その他	32名 (2.6%)	9名 (3.1%)	10名 (4.4%)	4名 (3.6%)	4名 (3.5%)	3名 (1.1%)	2名 (1.1%)

＜その他＞　３２件

・国立リハビリセンター　・戦争の為小学４年生で中退　・愛知小児医療センター　・盲学校
・光道園　・高校卒業後パソコンの職業訓練校　・名古屋市総合リハビリセンター　・保健センター
・国立吉備高原職業リハビリテーションセンター(訓練校)　・５年制女学校　・和裁学院
・洋裁学院　・ギャローデット大学　・メリーランド大学ボルチモア校　・昔の国民学校
・国立リハビリテーションセンター学院　・障害者職業訓練校三河一宮

表２－２４．現在の主な仕事（ブロック別）

主な仕事	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．公務員	13名 (1.1%)	6名 (2.0%)	1名 (0.4%)	2名 (1.8%)	1名 (0.9%)	1名 (0.4%)	2名 (1.1%)
２．会社員	429名 (34.7%)	87名 (29.6%)	87名 (38.3%)	33名 (29.7%)	42名 (36.8%)	113名 (39.9%)	55名 (30.1%)
３．自営業	54名 (4.4%)	11名 (3.7%)	8名 (3.5%)	4名 (3.6%)	4名 (3.5%)	11名 (3.9%)	14名 (7.1%)
４．内職	15名 (1.2%)	5名 (1.7%)	2名 (0.9%)	2名 (1.8%)	2名 (1.8%)	2名 (0.7%)	2名 (1.1%)
５．福祉作業所 （就労継続支援Ａ型・就労継続支援Ｂ型等）	71名 (5.7%)	31名 (10.5%)	11名 (4.8%)	9名 (8.1%)	2名 (1.8%)	11名 (3.9%)	7名 (3.8%)
６．法人職員	28名 (2.3%)	5名 (1.7%)	3名 (1.3%)	0名 (0.0%)	2名 (1.8%)	6名 (2.1%)	12名 (6.6%)
７．その他	118名 (9.5%)	28名 (9.5%)	23名 (10.1%)	12名 (10.8%)	8名 (7.0%)	25名 (8.8%)	20名 (10.9%)
８.今は仕事をしていない	464名 (37.5%)	111名 (37.8%)	84名 (37.0%)	45名 (40.5%)	48名 (42.1%)	106名 (37.5%)	62名 (33.9%)
９.働いたことがない	35名 (2.8%)	10名 (3.4%)	6名 (2.6%)	4名 (3.6%)	5名 (4.4%)	5名 (1.8%)	5名 (2.7%)

＜その他＞　１１８件

・介護施設職員/ヘルパー　・送迎運転手　・清掃員　・農家　・理容師　・美容師アシスタント
・講師　・専門職　・事務職　・学校職員　・保育士　・建築大工　・土木作業員　・調理員
・聖職者　・コンビニ店員　・町身体障碍者福祉協会　・パート/アルバイト/派遣会社員/嘱託員

表２－２５．仕事の身分（ブロック別）

仕事の身分	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．正規職員	371名 (30.0%)	67名 (22.8%)	79名 (34.8%)	22名 (19.8%)	32名 (28.1%)	113名 (39.9%)	46名 (25.1%)
２．非正規職員（嘱託・契約・派遣・パート・アルバイト等）	250名 (20.2%)	72名 (24.5%)	46名 (20.3%)	33名 (29.7%)	21名 (18.4%)	39名 (13.8%)	37名 (20.2%)
３．分からない	22名 (1.8%)	9名（3.1%）	0名（0.0%）	2名 (1.8%)	3名 (2.6%)	5名 (1.9%)	3名 (1.6%)
４．その他	51名 (4.1%)	11名 (3.7%)	7名（3.1%）	4名 (3.6%)	4名 (3.5%)	8名 (2.8%)	16名 (8.7%)

＜その他＞　５１件

・自営業・家業　・経営者　・オーナー　・農家　・技能職（歯科技工士）　・理容師
・福祉就労・福祉作業所作業員　・フリーランス　・就労移行支援助で勉強中　・お手伝い
・ハローワーク　・社内内職　・専業主婦

表２－２６．表２－２４で「８．今は仕事をしていない」「９．働いたことがない」と回答した理由（ブロック別）　※複数回答

仕事をしていない等の理由	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．主婦	196名（15.8%）	36名（12.2%）	38名（16.7%）	15名（13.5%）	25名（21.9%）	56名（19.8%）	21名（11.5%）
２．育児、介護のため	45名（3.6%）	4名（1.4%）	8名（3.5%）	2名（1.8%）	8名（7.0%）	20名（7.1%）	2名（1.1%）
３．定年のため	153名（12.4%）	52名（17.7%）	23名（10.1%）	15名（13.5%）	12名（10.5%）	28名（9.9%）	23名（12.6%）
４．老齢のため	132名（10.7%）	31名（10.5%）	29名（12.8%）	14名（12.6%）	13名（11.4%）	21名（7.4%）	18名（9.8%）
５．障害のため	42名（3.4%）	19名（6.5%）	5名（2.2%）	5名（4.5%）	4名（3.5%）	4名（1.4%）	5名（2.7%）
６．病気のため	40名（3.2%）	20名（6.8%）	4名（1.8%）	3名（2.7%）	2名（1.8%）	8名（2.8%）	3名（1.6%）
７．入退院を繰り返したため	8名（0.6%）	4名（1.4%）	3名（1.3%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（0.4%）	0名（0.0%）
８．親などの身内に反対されたため	4名（0.3%）	1名（0.3%）	0名（0.0%）	1名（0.9%）	2名（1.8%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
９．解雇されたため	5名（0.4%）	0名（0.0%）	1名（0.4%）	1名（0.9%）	0名（0.0%）	2名（0.7%）	1名（0.5%）
１０．倒産されたため	13名（1.1%）	4名（1.4%）	1名（0.4%）	0名（0.0%）	2名（1.8%）	1名（0.4%）	5名（2.7%）
１１．仕事が見つからなかったため	18名（1.5%）	6名（2.0%）	5名（2.2%）	1名（0.9%）	0名（0.0%）	4名（1.4%）	2名（1.1%）
１２．学校に通うため（学生）	16名（1.3%）	4名（1.4%）	3名（1.3%）	3名（2.7%）	1名（0.9%）	3名（1.1%）	2名（1.1%）
１３．働きたくない	8名（0.6%）	4名（1.4%）	1名（0.4%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（0.4%）	1名（0.5%）
１４．分からない	7名（0.6%）	4名（1.4%）	2名（0.9%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（0.4%）	0名（0.0%）
１５．その他	26名（2.1%）	4名（1.4%）	4名（1.8%）	6名（5.4%）	2名（1.8%）	5名（1.8%）	5名（2.7%）

＜その他＞　２６件

・求職中　・廃業のため　・早期退職制度の利用　・結婚後、自営業の手伝いのため　・仕事が合わず
・電話対応が難しくなり退社　・体力的に限界　・やりたいことをやるため
・自営業をしていたが、世代交代のため　・政治活動のため　・引っ越ししたばかり　・怪我のため
・左足が不自由なため　・特に意味はない　・50歳のときに働いたが一年足らずにやめた

表２－２７．今、仕事で困っていること、不自由に感じていることや悩んでいること（ブロック別）　※複数回答

仕事で困っていることの内容	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．聴覚障害や聞こえにくいことの理解が乏しく働きやすい環境が整っていない	257名 (20.8%)	47名 (16.0%)	54名 (23.8%)	18名 (16.2%)	25名 (21.9%)	65名 (23.0%)	40名 (21.9%)
２．今の仕事を続けられるかどうか心配である	160名 (12.9%)	28名 (9.5%)	37名 (16.3%)	11名 (9.9%)	11名 (9.6%)	44名 (15.5%)	24名 (13.1%)
３．職位が上がらない、昇任できない	123名 (9.9%)	24名 (8.2%)	25名 (11.0%)	15名 (13.5%)	13名 (11.4%)	27名 (9.5%)	13名 (7.1%)
４．同じ能力でも聴こえる人が評価される	116名 (9.4%)	21名 (7.1%)	24名 (10.6%)	16名 (14.4%)	13名 (11.4%)	29名 (10.2%)	8名 (4.4%)
５．職場で評価されない	71名 (5.7%)	12名 (4.1%)	14名 (6.2%)	12名 (10.8%)	8名 (7.0%)	21名 (7.4%)	3名 (1.6%)
６．リストラや失業の不安がある	42名 (3.4%)	14名 (4.8%)	10名 (4.4%)	4名 (3.6%)	2名 (1.8%)	7名 (2.5%)	4名 (2.2%)
７．仕事や作業でもらえる給料（工賃）が低い	115名 (9.5%)	41名 (13.9%)	21名 (9.3%)	8名 (7.2%)	6名 (5.3%)	21名 (7.4%)	13名 (7.1%)
８．自分の希望するような仕事や職場や施設がない・見つからない	71名 (5.9%)	11名 (3.7%)	14名 (6.2%)	7名 (6.3%)	5名 (4.4%)	23名 (8.1%)	8名 (4.4%)
９．障害者の雇用を相談する部署や人がいない	140名 (11.3%)	25名 (8.5%)	43名 (18.9%)	13名 (11.7%)	10名 (8.8%)	31名 (11.0%)	13名 (7.1%)
１０．まわりの人たちと話が通じにくいために仕事や作業がうまくいかないことがある	196名 (15.8%)	40名 (13.6%)	38名 (16.7%)	17名 (15.3%)	20名 (8.8%)	46名 (16.3%)	30名 (16.2%)
１１．いつまでも非常勤や嘱託で、正規の社員として雇ってくれない	29名 (2.3%)	8名 (2.7%)	6名 (2.6%)	3名 (2.7%)	2名 (1.8%)	7名 (2.5%)	2名 (1.1%)
１２．労働時間や作業時間が長い、不規則である	52名 (4.2%)	14名 (4.8%)	8名 (3.5%)	2名 (1.8%)	8名 (7.0%)	14名 (4.9%)	6名 (3.3%)
１３．自分に合っていない内容の仕事や作業をさせられる	52名 (4.2%)	13名 (4.4%)	12名 (5.3%)	5名 (4.5%)	5名 (4.4%)	13名 (4.6%)	3名 (1.6%)
１４．職場や施設でいじめや差別がある	70名 (5.7%)	20名 (6.8%)	9名 (4.0%)	9名 (8.1%)	5名 (4.4%)	18名 (6.4%)	7名 (3.8%)
１５．特にない	236名 (19.1%)	58名 (19.7%)	51名 (22.5%)	18名 (16.2%)	22名 (19.3%)	48名 (17.0%)	35名 (19.1%)
１６．その他	53名 (4.3%)	12名 (4.1%)	8名 (3.5%)	11名 (9.9%)	2名 (1.8%)	10名 (3.5%)	9名 (4.9%)

＜その他＞　５３件

・人間関係がうまくいかない　・孤独感　・同障者が一人もいない
・健聴者とのコミュニケーションが難しい（同僚・先輩・お客さん）ため、情報が伝わらず困る
・電話対応ができない　・サービスを利用しにくい（例：電話サービス/通訳費が高額）
・情報補償してもらえない（例：会議や朝礼、放送の内容がわからない/不十分な筆談/通訳を依頼するも断られる）
・配慮してもらえない（例：マスクをしたままの会話）　・同じ身体障碍者に見下される
・手話を覚えてもらえない　・ろう重複障害者が働く場所が少ない　・機械の雑音で聞き取りにくい
・希望する仕事ができない　・長時間働きたいが、仕事がないと帰らされる
・休みがとりにくい　・体力的に大変　・職場が遠い

表２－２８．現在の住まい（ブロック別）

住まいの種類	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．一戸建ての持ち家	799名 (64.6%)	118名 (40.1%)	165名 (72.7%)	68名 (61.3%)	87名 (76.3%)	202名 (71.4%)	143名 (78.1%)
２．分譲マンション	125名 (10.1%)	51名 (17.3%)	12名 (5.3%)	13名 (11.7%)	14名 (12.3%)	24名 (8.5%)	6名 (3.3%)
３.民間借家､民間アパート、民間マンション	151名 (12.2%)	44名 (15.0%)	33名 (14.5%)	12名 (10.8%)	6名 (5.3%)	37名 (13.1%)	18名 (9.8%)
４.県営･市営･公団の賃貸借家	108名 (8.7%)	71名 (24.1%)	9名 (4.0%)	12名 (10.8%)	2名 (1.8%)	9名 (3.2%)	4名 (2.2%)
５．社宅、寮	18名 (1.5%)	3名 (1.0%)	3名 (1.3%)	0名 (0.0%)	1名 (0.9%)	6名 (2.1%)	5名 (2.7%)
６．グループホームやケアホーム、福祉ホーム	5名 (0.4%)	2名 (0.7%)	0名 (0.0%)	1名 (0.9%)	0名 (0.0%)	1名 (0.4%)	1名 (0.5%)
７．入所型の施設	4名 (0.3%)	2名 (0.7%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.5%)
８．その他	11名 (0.9%)	1名 (0.3%)	0名 (0.0%)	4名 (3.6%)	1名 (0.9%)	3名 (1.1%)	2名 (1.1%)

＜その他＞　１１件

・実家　　・家族・親戚の家　　・親の持ち家を相続

表２－２９．日頃の近所の人たちとの関わり（ブロック別）

関わり	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．つき合いはない	177名 (14.3%)	46名 (15.6%)	36名 (15.9%)	17名 (15.3%)	15名 (13.2%)	39名 (13.8%)	20名 (10.9%)
２．あいさつする程度	958名 (77.4%)	220名 (74.8%)	179名 (78.9%)	85名 (76.6%)	81名 (71.1%)	217名 (76.7%)	154名 (84.2%)
３．くらしや地域のことで話し合っている	173名 (14.0%)	27名 (9.2%)	32名 (14.1%)	21名 (18.9%)	20名 (17.5%)	47名 (16.6%)	23名 (12.6%)
４．困りごとや悩みを相談し合う	59名 (4.8%)	15名 (5.1%)	11名 (4.8%)	3名 (2.7%)	11名 (9.6%)	12名 (4.2%)	4名 (2.2%)
５．その他	48名 (3.9%)	9名 (3.1%)	7名 (3.1%)	6名 (5.4%)	8名 (7.0%)	9名 (3.2%)	7名 (3.8%)

＜その他＞　４８名

・マンション組合集会（防災訓練やイベントへの参加）
・学区内の地域活動（回覧板・清掃活動・市内大会・広報の配布・老人会・グランドゴルフ）
・近所の人は理解してくれる（例：手話で話してくれる/親友がいる/災害時に呼びに来てもらえるよう依頼）
・お土産を渡す仲　　・一緒に買い物に行く仲　　・メールをする仲（何かあると教えてくれる）
・限定された付き合い（管理人・組長・隣人・子どもの同級生の母）　　・近所に家がない
・隣に親が住んでいる　　・転居して間もないため話すことがない　　・付き合いがなく、孤独
・区と村の付き合い　　・人工内耳友の会 ACITA 東海支部　　・名古屋難聴者・中途失聴者支援協会
・ほっとくると相談　　・親の兄弟、いとこ　　・サークル仲間

表２－３０．地域の活動・集まりへの参加　※複数回答

活動・集まり	全体（1237名）	１．よく参加する	２．月１、２回	３．年数回程度	４．その他
１．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	658名 (53.2%)	184名 (28.0%)	164名 (24.9%)	271名 (41.2%)	22名 (3.3%)
２．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	387名 (31.3%)	59名 (15.2%)	80名 (20.7%)	217名 (56.1%)	28名 (7.2%)
３．手話サークル	668名 (54.0%)	304名 (45.5%)	163名 (24.4%)	173名 (25.9%)	23名 (3.4%)
４．要約筆記サークル	104名 (8.4%)	27名 (26.0%)	26名 (25.0%)	33名 (31.7%)	17名 (16.3%)
５．自治会（町内会）の行事の活動	337名 (27.2%)	43名 (12.8%)	45名 (13.4%)	222名 (65.9%)	24名 (7.1%)
６．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	164名 (13.3%)	43名 (26.2%)	18名 (11.0%)	86名 (52.4%)	15名 (9.1%)
７．老人クラブ	89名 (7.2%)	22名 (24.7%)	22名 (24.7%)	28名 (33.1%)	16名 (11.0%)
８．地域のスポーツ活動	172名 (13.9%)	48名 (27.9%)	47名 (27.3%)	57名 (33.1%)	19名 (11.0%)
９．地域の趣味、娯楽の集まり	200名 (16.2%)	37名 (18.5%)	61名 (30.5%)	81名 (40.5%)	19名 (9.5%)
１０．作業所や施設のボランティア	118名 (9.5%)	12名 (10.2%)	24名 (20.3%)	61名 (51.7%)	21名 (17.8%)
１１．その他	75名 (6.1%)	20名 (26.7%)	28名 (37.3%)	18名 (24.0%)	4名（5.3%）
１２．参加していない	173名 (14.0%)	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	112名 (10.3%)	—			

＜その他＞　７５名

・聴覚障害者支援事業所（ほっとくる・笑おう舎）　・デイサービス（瑞光の里・あじさいの会）
・元気になろう会　・地域の活動（花火おやじの会・草取り）　・地域のボランティア（IPC クラブ）
・会社のサークル　・聴覚障害者との交流（難聴者の集い・新光会）
・ろう者と聴者との交流会　・給食会「敬老会」　・健康教室「敬老会」　・日本網膜色素変性症協会
・スポーツ（聾学校の部活動・障害者スポーツ大会）　・学校の手話クラブ
・子どもの行事　・手話学習講座　・福祉実践教室　・ボールペン画　・手作り料理
・ガールスカウト　・学童保育所　・トレーニング　・絵画教室　・友人
・講演会　・趣味の写真の会　・習い事　・手話の会教（？）　・拠点聴覚障害者（？）

表２－３１．地域の活動・集まりへの参加（名古屋：294名）　※複数回答

活動・集まり	全体（294名）	1．よく参加する	2．月1、2回	3．年数回程度	4．その他
1．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	116名（39.5%）	38名（12.9%）	29名（9.9%）	41名（13.9%）	5名（1.7%）
2．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	74名（25.2%）	18名（6.1%）	19名（6.5%）	31名（10.5%）	6名（2.0%）
3．手話サークル	132名（44.9%）	82名（27.9%）	26名（8.8%）	22名（7.5%）	2名（0.7%）
4．要約筆記サークル	25名（8.5%）	10名（3.4%）	4名（1.4%）	8名（2.7%）	3名（1.0%）
5．自治会（町内会）の行事の活動	59名（20.1%）	11名（3.7%）	11名（3.7%）	29名（9.9%）	8名（2.7%）
6．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	23名（7.8%）	8名（2.7%）	3名（1.0%）	9名（3.1%）	2名（0.7%）
7．老人クラブ	20名（6.8%）	7名（2.4%）	7名（2.4%）	3名（1.0%）	3名（1.0%）
8．地域のスポーツ活動	33名（11.2%）	11名（3.7%）	9名（3.1%）	9名（3.1%）	3名（1.0%）
9．地域の趣味、娯楽の集まり	37名（12.6%）	14名（4.8%）	9名（3.1%）	11名（3.7%）	3名（1.0%）
１０．作業所や施設のボランティア	34名（11.6%）	7名（2.4%）	5名（1.7%）	18名（6.1%）	4名（1.4%）
１１．その他	36名（12.2%）	13名（4.4%）	13名（4.4%）	6名（2.0%）	1名（0.3%）
１２．参加していない	64名（21.8%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	35名（11.9%）	—			

表２－３２．地域の活動・集まりへの参加（西尾張：227名）※複数回答

活動・集まり	全体（227名）	1．よく参加する	2．月1、2回	3．年数回程度	4．その他
1．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	133名（58.6%）	38名（13.7%）	31名（11.2%）	53名（19.1%）	6名（2.2%）
2．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	79名（34.8%）	12名（4.3%）	18名（6.5%）	44名（15.9%）	5名（1.8%）
3．手話サークル	132名（58.1%）	53名（19.1%）	31名（11.2%）	40名（14.4%）	4名（1.4%）
4．要約筆記サークル	13名（5.7%）	2名（0.7%）	4名（1.4%）	5名（1.8%）	2名（0.7%）
5．自治会（町内会）の行事の活動	47名（20.7%）	4名（1.4%）	4名（1.4%）	35名（12.6%）	4名（1.4%）
6．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	26名（11.5%）	5名（1.8%）	4名（1.4%）	14名（5.1%）	2名（0.7%）
7．老人クラブ	21名（9.3%）	4名（1.4%）	6名（2.2%）	8名（2.9%）	3名（1.1%）
8．地域のスポーツ活動	25名（11.0%）	4名（1.4%）	5名（1.8%）	12名（4.3%）	4名（1.4%）
9．地域の趣味、娯楽の集まり	37名（16.3%）	5名（1.8%）	10名（3.6%）	20名（7.2%）	2名（0.7%）
１０．作業所や施設のボランティア	17名（7.5%）	1名（0.4%）	3名（1.1%）	10名（3.6%）	3名（1.1%）
１１．その他	8名（3.5%）	3名（1.1%）	4名（1.4%）	0名（0.0%）	1名（0.4%）
１２．参加していない	29名（12.8%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	22名（9.7%）	—			

表２－３３．地域の活動・集まりへの参加（東尾張①：111名）　※複数回答

活動・集まり	全体（111名）	１．よく参加する	２．月１、２回	３．年数回程度	４．その他
１．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	67名（60.4%）	23名（20.7%）	19名（17.1%）	23名（20.7%）	0名（0.0%）
２．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	41名（36.9%）	7名（6.3%）	11名（9.9%）	19名（17.1%）	4名（3.6%）
３．手話サークル	75名（67.6%）	34名（30.6%）	25名（22.5%）	15名（13.5%）	1名（0.9%）
４．要約筆記サークル	7名（6.3%）	2名（1.8%）	4名（3.6%）	1名（0.9%）	0名（0.0%）
５．自治会（町内会）の行事の活動	30名（27.0%）	5名（4.5%）	6名（5.4%）	16名（14.4%）	2名（1.8%）
６．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	11名（9.9%）	4名（3.6%）	1名（0.9%）	5名（4.5%）	1名（0.9%）
７．老人クラブ	10名（9.0%）	4名（3.6%）	3名（2.7%）	3名（2.7%）	0名（0.0%）
８．地域のスポーツ活動	16名（14.4%）	5名（4.5%）	8名（7.2%）	3名（2.7%）	0名（0.0%）
９．地域の趣味、娯楽の集まり	20名（18.0%）	4名（3.6%）	6名（5.4%）	8名（7.2%）	2名（1.8%）
１０．作業所や施設のボランティア	7名（6.3%）	0名（0.0%）	1名（0.9%）	6名（5.4%）	0名（0.0%）
１１．その他	7名（6.3%）	0名（0.0%）	1名（0.9%）	6名（5.4%）	0名（0.0%）
１２．参加していない	17名（15.3%）	―			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	12名（10.8%）	―			

表２－３４．地域の活動・集まりへの参加（東尾張②：114名）※複数回答

活動・集まり	全体（114名）	１．よく参加する	２．月１、２回	３．年数回程度	４．その他
１．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	49名（43.0%）	9名（7.9%）	10名（8.8%）	25名（21.9%）	5名（4.4%）
２．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	30名（26.3%）	2名（1.8%）	5名（4.4%）	21名（18.4%）	2名（1.8%）
３．手話サークル	59名（51.8%）	24名（21.1%）	17名（14.9%）	13名（11.4%）	5名（4.4%）
４．要約筆記サークル	8名（7.0%）	4名（3.5%）	0名（0.0%）	2名（1.8%）	2名（1.8%）
５．自治会（町内会）の行事の活動	31名（27.2%）	2名（1.8%）	4名（3.5%）	24名（21.1%）	1名（0.9%）
６．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	17名（14.9%）	3名（2.6%）	2名（1.8%）	9名（7.9%）	3名（2.6%）
７．老人クラブ	6名（5.3%）	2名（1.8%）	0名（0.0%）	3名（2.6%）	1名（0.9%）
８．地域のスポーツ活動	15名（13.2%）	6名（5.3%）	4名（3.5%）	4名（3.5%）	1名（0.9%）
９．地域の趣味、娯楽の集まり	24名（21.1%）	2名（1.8%）	9名（7.9%）	10名（8.8%）	3名（2.6%）
１０．作業所や施設のボランティア	12名（10.5%）	1名（0.9%）	4名（3.5%）	5名（4.4%）	2名（1.8%）
１１．その他	1名（0.9%）	0名（0.0%）	1名（0.9%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
１２．参加していない	15名（13.2%）	―			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	9名（7.9%）	―			

表２－３５．地域の活動・集まりへの参加（西三河：283名）　※複数回答

活動・集まり	全体（283名）	1．よく参加する	2．月1、2回	3．年数回程度	4．その他
1．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	165名（58.3%）	41名（14.5%）	42名（14.8%）	76名（26.9%）	3名（1.1%）
2．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	98名（34.6%）	12名（4.2%）	13名（4.6%）	60名（21.2%）	11名（3.9%）
3．手話サークル	159名（56.2%）	64名（22.6%）	34名（12.0%）	52名（18.4%）	8名（2.8%）
4．要約筆記サークル	34名（12.0%）	6名（2.1%）	8名（2.8%）	11名（3.9%）	9名（3.2%）
5．自治会（町内会）の行事の活動	117名（51.3%）	16名（5.7%）	18名（6.4%）	74名（26.1%）	9名（3.2%）
6．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	64名（22.6%）	18名（6.4%）	6名（2.1%）	34名（12.0%）	6名（2.1%）
7．老人クラブ	25名（8.8%）	5名（1.8%）	5名1.8%）	5名（1.8%）	9名（3.2%）
8．地域のスポーツ活動	60名（21.2%）	18名（6.4%）	12名（4.2%）	19名（6.7%）	11名（3.9%）
9．地域の趣味、娯楽の集まり	57名（20.1%）	10名（3.5%）	15名（5.3%）	22名（7.8%）	9名（3.2%）
１０．作業所や施設のボランティア	33名（11.7%）	1名（0.4%）	8名（2.8%）	12名（4.3%）	12名（4.2%）
１１．その他	11名（3.9%）	2名（0.7%）	2名（0.7%）	5名（1.8%）	1名（0.4%）
１２．参加していない	28名（9.9%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	28名（9.9%）	—			

表２－３６．地域の活動・集まりへの参加（東三河：183名）　※複数回答

活動・集まり	全体（183名）	1．よく参加する	2．月1、2回	3．年数回程度	4．その他
1．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	114名（62.3%）	34名（18.6%）	29名（15.8%）	45名（24.6%）	2名（1.1%）
2．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	60名（32.8%）	7名（3.8%）	13名（7.1%）	39名（21.3%）	0名（0.0%）
3．手話サークル	102名（55.7%）	46名（25.1%）	28名（15.3%）	28名（15.3%）	0名（0.0%）
4．要約筆記サークル	15名（8.2%）	3名（1.6%）	6名（3.3%）	4名（2.2%）	1名（0.5%）
5．自治会（町内会）の行事の活動	45名（24.6%）	3名（1.6%）	2名（1.1%）	38名（20.8%）	0名（0.0%）
6．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	19名（10.4%）	4名（2.2%）	2名（1.1%）	13名（7.1%）	0名（0.0%）
7．老人クラブ	7名（3.8%）	0名（0.0%）	1名（0.5%）	6名（3.3%）	0名（0.0%）
8．地域のスポーツ活動	19名（10.4%）	4名（2.2%）	7名（3.8%）	8名（4.4%）	0名（0.0%）
9．地域の趣味、娯楽の集まり	23名（12.6%）	2名（1.1%）	11名（6.0%）	9名（4.9%）	0名（0.0%）
１０．作業所や施設のボランティア	14名（7.7%）	2名（1.1%）	3名（1.6%）	9名（4.9%）	0名（0.0%）
１１．その他	11名（6.0%）	1名（0.5%）	6名（3.3%）	1名（0.5%）	0名（0.0%）
１２．参加していない	18名（9.8%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	20名（10.9%）	—			

表２－３７．表２－３０の「１２．参加していない」「１３．今は参加していない」の回答の理由（ブロック別）　※複数回答

	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．案内や情報がない	78名 (6.3%)	34名 (11.6%)	12名 (5.3%)	8名 (7.2%)	6名 (5.3%)	12名 (4.2%)	5名 (2.7%)
２．案内の内容が分からない	33名 (2.7%)	17名 (5.8%)	3名 (1.3%)	2名 (1.8%)	3名 (2.6%)	4名 (1.4%)	4名 (2.2%)
３．家族が反対する	5名 (0.4%)	2名 (0.7%)	2名 (0.9%)	0名 (0.0%)	1名 (0.9%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
４．健康に不安がある	32名 (2.6%)	13名 (4.4%)	3名 (1.3%)	2名 (1.8%)	3名 (2.6%)	9名 (3.2%)	1名 (0.5%)
５．参加費が出せない	24名 (1.9%)	13名 (4.4%)	2名 (0.9%)	0名 (0.0%)	3名 (2.6%)	5名 (1.8%)	1名 (0.5%)
６．誘われない	35名 (2.8%)	11名 (3.7%)	6名 (2.6%)	4名 (3.6%)	2名 (1.8%)	7名 (2.5%)	5名 (27%)
７．興味がない	110名 (8.9%)	36名 (12.2%)	13名 (5.7%)	6名 (5.4%)	8名 (7.0%)	29名 (10.2%)	17名 (9.3%)
８．身近な地域に参加したいものがない	38名 (3.1%)	9名 (3.1%)	6名 (2.6%)	7名 (6.3%)	2名 (1.8%)	8名 (2.8%)	6名 (3.3%)
９．場所が遠い	69名 (5.6%)	28名 (9.5%)	5名 (2.2%)	10名 (9.0%)	2名 (1.8%)	8名 (2.8%)	15名 (8.2%)
１０．時間がない	123名 (9.9%)	47名 (16.0%)	24名 (19.5%)	14名 (12.6%)	5名 (4.4%)	21名 (7.4%)	11名 (6.0%)
１１．手話や要約筆記等の情報保障の依頼方法が分からない	17名 (1.4%)	5名 (1.7%)	0名 (0.0%)	3名 (2.7%)	1名 (0.9%)	5名 (1.8%)	3名 (1.6%)
１２．手話や要約筆記等の情報保障の依頼が面倒である	18名 (1.5%)	7名 (2.4%)	2名 (0.9%)	1名 (0.9%)	0名 (0.0%)	5名 (1.8%)	2名 (1.1%)
１３．手話や要約筆記等の情報保障がされていない	31名 (2.5%)	14名 (4.8%)	4名 (1.8%)	2名 (1.8%)	2名 (1.8%)	4名 (1.4%)	7名 (2.7%)
１４．その他	59名 (4.8%)	18名 (6.1%)	10名 (4.4%)	14名 (5.4%)	9名 (7.9%)	4名 (1.4%)	12名 (6.6%)

＜その他＞　５９名

・仲の良い友達がいなくなった
・話すことがない・人見知り
・トラブルにより（人間関係）
・参加する必要性を感じない
・考え方の不一致（理解してもらえない）
・時間がない（ろう活動の都合・仕事・自分の趣味・子どもの習い事や行事優先）
・コミュニケ―ションに不安を感じる（情報補償があれば参加したい）
・他の障害により出かけられない（歩行など）
・体力の限界
・入院中
・高齢のため
・交通手段がない
・引っ越してきたばかりでわからない
・会員に加入していないため

表２－３８．健康状態で気になっていること（ブロック別）　※複数回答

主な仕事	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．よく眠れない	173名（14.0%）	56名（19.0%）	32名（14.1%）	13名（11.7%）	19名（16.7%）	29名（10.2%）	23名（12.6%）
２．疲れやすい	445名（36.0%）	102名（34.7%）	81名（35.7%）	38名（34.2%）	42名（36.8%）	107名（37.8%）	65名（35.5%）
３．肩、首すじが凝る	366名（29.6%）	86名（29.3%）	68名（30.0%）	33名（29.7%）	33名（28.9%）	93名（32.9%）	44名（24.0%）
４．背中や腰が痛い、だるい	352名（28.5%）	82名（27.9%）	56名（24.7%）	28名（25.2%）	39名（34.2%）	83名（29.3%）	56名（30.6%）
５．腕や手や足がだるい	155名（12.5%）	38名（12.9%）	24名（10.6%）	19名（17.1%）	15名（13.2%）	30名（10.6%）	27名（14.8%）
６．眼が疲れる	381名（30.8%）	97名（33.0%）	62名（27.3%）	42名（37.8%）	33名（28.9%）	78名（27.6%）	59名（32.2%）
７．物忘れをすることが多い	168名（13.6%）	42名（14.3%）	32名（14.1%）	13名（11.7%）	18名（15.8%）	32名（11.3%）	26名（14.2%）
８．歩いたり、身体を動かすことが少ない	146名（11.8%）	30名（10.2%）	31名（13.7%）	14名（12.6%）	13名（11.4%）	26名（9.2%）	29名（15.8%）
９．イライラすることが多い	183名（14.8%）	40名（13.6%）	38名（16.7%）	14名（12.6%）	17名（14.9%）	48名（17.0%）	23名（12.6%）
１０．落ち込むことがある	155名（12.5%）	31名（10.5%）	29名（12.8%）	15名（13.5%）	13名（11.4%）	39名（13.8%）	24名（13.1%）
１１．ささいなことが気になる	96名（7.8%）	16名（5.4%）	17名（7.5%）	13名（11.7%）	10名（8.8%）	21名（7.4%）	17名（9.3%）
１２．表情や笑顔が乏しい	54名（4.4%）	19名（6.5%）	8名（3.5%）	4名（3.6%）	4名（3.5%）	11名（3.9%）	7名（3.8%）
１３．薬を飲んでいる	468名（37.8%）	111名（37.8%）	81名（35.7%）	55名（49.5%）	45名（39.5%）	76名（26.9%）	91名（49.7%）
１４．医者に診てもらっている	500名（40.4%）	122名（41.5%）	92名（40.5%）	58名（52.3%）	53名（46.5%）	79名（27.9%）	87名（47.5%）
１５．何も気になることはない	156名（12.6%）	31名（10.5%）	34名（15.0%）	18名（16.2%）	13名（11.4%）	39名（13.8%）	19名（10.4%）
１６．分からない	21名（1.7%）	7名（2.4%）	5名（2.2%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	4名（1.4%）	5名（2.7%）
１７．その他	47名（3.8%）	12名（4.1%）	8名（3.5%）	7名（6.3%）	4名（3.5%）	9名（3.2%）	7名（3.8%）

＜その他＞　４７名

・聴力の低下　・聞き返しが多くうんざり　・視力の低下　・高血圧　・めまい・メニエール病
・喘息　・痛み（頭・肩・肘・手首・腰・足・膝）　・肝脂肪の数値が高い　・血糖値少々高い。
・盲ろうになり、ストレスから過敏性胃腸炎に　・糖尿病　・歩行困難（脳疾患により）
・足のむくみ　・もともと痛む左足がこれ以上悪くならないか不安　・運動不足
・転倒が増えた　・手がこわばる　・便秘・お腹がゆるい　・食欲がない
・起床時の調子が悪い　・なにもしたくない　・よく眠れる　・時々、眠れない
・睡眠時間がバラバラ　・我慢することが多い　・時々イライラする
・将来のことを考えたりする　・隣人と合わない　・タバコは一時やめたが、最近時々吸う。

表２－３９．災害など、いざという時に頼りにする人（ブロック別）　※複数回答

	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．配偶者	498名（40.3%）	89名（30.3%）	89名（39.2%）	46名（41.4%）	50名（43.9%）	144名（50.9%）	70名（38.3%）
２．親	369名（29.8%）	83名（28.2%）	72名（31.7%）	26名（23.4%）	33名（28.9%）	103名（36.4%）	42名（23.0%）
３．兄弟姉妹	351名（28.4%）	89名（30.3%）	69名（30.4%）	21名（18.9%）	25名（21.9%）	77名（27.2%）	61名（33.3%）
４．子ども	430名（34.8%）	69名（23.5%）	74名（32.6%）	42名（37.8%）	56名（49.1%）	106名（37.5%）	71名（38.8%）
５．おじ、おば、いとこなどの親類	101名（8.2%）	21名（7.1%）	24名（23.8%）	7名（6.3%）	8名（7.0%）	23名（8.1%）	17名（9.3%）
６．近所の知人	365名（29.5%）	59名（20.1%）	63名（27.8%）	37名（33.3%）	43名（37.7%）	96名（33.9%）	59名（32.2%）
７．友達	318名（25.7%）	69名（23.5%）	58名（25.6%）	27名（24.6%）	31名（27.2%）	88名（31.1%）	39名（21.3%）
８．職場の上司	170名（13.7%）	35名（11.9%）	31名（13.7%）	14名（12.6%）	10名（8.8%）	54名（19.1%）	22名（12.0%）
９．職場の同僚	150名（12.1%）	31名（10.5%）	29名（12.8%）	12名（10.8%）	10名（8.8%）	43名（15.2%）	22名（12.0%）
１０．自治会の役員・区長	69名（5.6%）	15名（5.1%）	9名（4.0%）	8名（7.2%）	6名（5.3%）	23名（8.1%）	7名（3.8%）
１１．民生委員・児童委員	67名（5.4%）	13名（4.4%）	8名（3.5%）	10名（9.0%）	3名（2.6%）	21名（7.4%）	10名（5.5%）
１２．加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の会員や役員	230名（18.6%）	31名（10.5%）	47名（20.7%）	26名（23.4%）	14名（12.3%）	51名（18.0%）	55名（30.1%）
１３．手話や要約筆記サークルのメンバー	293名（23.7%）	46名（15.6%）	62名（27.3%）	32名（28.8%）	26名（22.8%）	69名（24.4%）	53名（29.0%）
１４．福祉事務所の職員	65名（5.3%）	14名（4.8%）	11名（4.8%）	4名（3.6%）	5名（4.4%）	12名（4.2%）	18名（9.8%）
１５．市役所・区役所の職員	106名（8.6%）	20名（6.8%）	15名（6.6%）	14名（12.6%）	6名（5.3%）	31名（11.0%）	17名（9.3%）
１６．障害者相談事業所の職員	48名（3.9%）	19名（6.5%）	4名（1.8%）	4名（3.6%）	2名（1.8%）	5名（1.8%）	13名（7.1%）
１７．かかりつけの医者	52名（4.2%）	12名（4.1%）	7名（13.5%）	8名（7.2%）	5名（4.4%）	7名（2.5%）	11名（6.0%）
１８．看護師	19名（1.5%）	8名（2.7%）	0名（0.0%）	2名（1.8%）	2名（1.8%）	3名（1.1%）	4名（2.2%）
１９．保健師	6名（0.5%）	1名（0.3%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（0.9%）	1名（0.4%）	2名（1.1%）
２０．幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士	5名（0.4%）	0名（0.0%）	1名（0.4%）	0名（0.0%）	1名（0.9%）	1名（0.4%）	2名（1.1%）
２１．小学校・中学校・高校の先生	10名（0.8%）	1名（0.3%）	1名（0.4%）	3名（2.7%）	1名（0.9%）	2名（0.7%）	2名（1.1%）
２２．ろう学校の先生	35名（2.8%）	10名（3.4%）	4名（1.8%）	2名（1.8%）	1名（0.9%）	9名（3.2%）	8名（4.4%）
２３．手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者	266名（21.5%）	42名（14.3%）	50名（22.0%）	38名（34.2%）	31名（27.2%）	54名（19.1%）	47名（25.7%）
２４．愛知県聴覚障害者協会の職員（事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる、笑おう舎）	133名（10.8%）	35名（11.9%）	16名（7.0%）	11名（9.9%）	10名（8.8%）	28名（9.9%）	32名（17.5%）
２５．知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員	13名（1.1%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	13名（11.4%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
２６．NPO つくし職員	16名（1.3%）	10名（3.4%）	1名（0.4%）	1名（0.9%）	0名（0.0%）	3名（1.1%）	1名（0.5%）
２７．福祉事業所・作業所の職員	23名（1.9%）	12名（4.1%）	1名（0.4%）	1名（0.9%）	1名（0.9%）	3名（1.1%）	4名（2.2%）
２８．その他	23名（1.9%）	9名（3.1%）	3名（1.3%）	1名（0.9%）	1名（0.9%）	3名（1.1%）	6名（3.3%）
２９．災害の時に頼りにする人はいない	49名（4.0%）	16名（23.5%）	8名（3.5%）	4名（3.6%）	2名（1.8%）	14名（4.9%）	3名（1.6%）

＜その他＞　２３名

・交際相手　　・家族・親戚　　・ホームヘルパー　　・介護福祉士　　・ケアマネジャー
・施設の職員（グループホーム・デイサービス）　　・県営住宅の管理人
・手話サークル　　・社会福祉協議会の職員　　・名鉄の駅員、警察官
・名身連聴覚言語障害者情報文化センター　　・考えたことがない　　・成り行きで良くも悪くもなる
・場所による　　・手話の会教（？）　　・障害者（ろう者）在り（？）

表２－４０．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先（ブロック別）　※複数回答

	全体 （1237名）	名古屋 （294名）	西尾張 （227名）	東尾張① （111名）	東尾張② （114名）	西三河 （283名）	東三河 （183名）
１．配偶者	**406名（32.8%）**	69名（23.5%）	80名（35.2%）	33名（29.7%）	41名（36.0%）	117名（41.3%）	56名（30.6%）
２．親	256名（20.7%）	53名（18.0%）	56名（24.7%）	23名（20.7%）	24名（21.1%）	66名（23.3%）	27名（14.8%）
３．兄弟姉妹	226名（18.3%）	52名（17.7%）	55名（24.2%）	15名（13.5%）	13名（11.4%）	47名（16.6%）	39名（21.3%）
４．子ども	295名（23.8%）	49名（16.7%）	52名（22.9%）	28名（25.2%）	36名（31.6%）	74名（26.1%）	49名（26.8%）
５．おじ、おば、いとこなどの親類	63名（5.1%）	10名（3.4%）	9名（4.0%）	4名（3.6%）	5名（4.4%）	11名（3.9%）	24名（13.1%）
６．近所の知人	184名（14.9%）	31名（10.5%）	35名（15.4%）	18名（16.2%）	17名（14.9%）	52名（18.4%）	28名（15.3%）
７．友達	**484名（39.1%）**	108名（36.7%）	86名（37.9%）	39名（35.1%）	57名（50.0%）	121名（42.8%）	64名（35.0%）
８．職場の上司	130名（10.5%）	25名（8.5%）	17名（7.5%）	10名（9.0%）	8名（7.0%）	44名（15.5%）	25名（13.7%）
９．職場の同僚	155名（12.5%）	31名（10.5%）	29名（12.8%）	14名（12.6%）	15名（13.2%）	39名（13.8%）	26名（14.2%）
１０．自治会の役員・区長	60名（4.9%）	5名（1.7%）	7名（3.1%）	8名（7.2%）	3名（2.6%）	25名（8.8%）	11名（6.0%）
１１．民生委員・児童委員	32名（2.6%）	7名（2.4%）	5名（2.2%）	3名（2.7%）	0名（0.0%）	10名（3.5%）	5名（2.7%）
１２．加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の会員や役員	281名（22.7%）	44名（15.0%）	56名（24.7%）	28名（25.2%）	17名（14.9%）	67名（23.7%）	64名（35.0%）
１３．手話や要約筆記サークルのメンバー	346名（28.0%）	61名（20.7%）	61名（26.9%）	43名（38.7%）	32名（28.1%）	80名（28.3%）	63名（34.4%）
１４．福祉事務所の職員	69名（5.6%）	18名（6.1%）	8名（3.5%）	6名（5.4%）	7名（6.1%）	12名（4.2%）	16名（8.7%）
１５．市役所・区役所の職員	130名（10.5%）	20名（6.8%）	20名（8.8%）	20名（18.0%）	9名（7.9%）	30名（10.6%）	29名（15.8%）
１６．障害者相談事業所の職員	43名（3.5%）	19名（6.5%）	2名（0.9%）	2名（1.8%）	2名（1.8%）	6名（2.1%）	11名（6.0%）
１７．かかりつけの医者	52名（4.2%）	12名（4.1%）	8名（3.5%）	8名（7.2%）	4名（3.5%）	8名（2.8%）	10名（5.5%）
１８．看護師	20名（1.6%）	8名（2.7%）	0名（0.0%）	2名（1.8%）	3名（2.6%）	2名（0.7%）	5名（2.7%）
１９．保健師	7名（0.6%）	1名（0.3%）	0名（0.0%）	1名（0.9%）	0名（0.0%）	2名（0.7%）	2名（1.1%）
２０．幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士	4名（0.3%）	1名（0.3%）	1名（0.4%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（0.4%）	1名（0.5%）
２１．小学校・中学校・高校の先生	12名（1.0%）	0名（0.0%）	1名（0.4%）	2名（1.8%）	1名（0.9%）	5名（1.8%）	3名（1.6%）
２２．ろう学校の先生	36名（2.9%）	8名（2.7%）	4名（1.8%）	1名（0.9%）	1名（0.9%）	14名（4.9%）	8名（4.4%）
２３．手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者	232名（18.8%）	43名（14.6%）	46名（20.3%）	32名（28.8%）	23名（20.2%）	47名（16.6%）	37名（20.2%）
２４．愛知県聴覚障害者協会の職員（事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる、笑おう舎）	169名（13.7%）	43名（14.6%）	22名（9.7%）	15名（13.5%）	11名（9.6%）	33名（11.7%）	42名（23.0%）
２５．知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員	13名（1.1%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	13名（11.4%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
２６．NPO つくし職員	22名（1.8%）	11名（3.7%）	3名（1.3%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	4名（1.4%）	4名（2.2%）
２７．福祉事業所・作業所の職員	28名（2.3%）	7名（2.4%）	2名（0.9%）	1名（1.8%）	2名（1.8%）	6名（2.1%）	10名（5.5%）
２８．役所の広報・ホームページ	74名（6.0%）	17名（5.8%）	13名（5.7%）	9名（8.1%）	7名（6.1%）	13名（4.6%）	12名（6.6%）
２９．テレビ	**670名（54.2%）**	154名（52.4%）	119名（52.4%）	75名（67.6%）	64名（56.1%）	130名（45.9%）	113名（61.7%）
３０．目で聴くテレビ（CS 放送）	82名（6.6%）	27名（9.2%）	18名（7.9%）	8名（7.2%）	4名（3.5%）	16名（5.7%）	8名（4.4%）
３１．新聞	529名（42.8%）	130名（44.2%）	94名（41.4%）	63名（56.8%）	46名（40.4%）	98名（34.6%）	88名（48.1%）
３２．インターネット	**456名（36.9%）**	99名（33.7%）	84名（37.0%）	44名（39.6%）	45名（39.5%）	109名（38.5%）	64名（35.0%）
３３．団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の機関誌	314名（25.4%）	57名（19.4%）	61名（26.9%）	32名（28.8%）	22名（19.3%）	73名（25.8%）	62名（33.9%）
３４．団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）のホームページ	88名（7.1%）	17名（5.8%）	16名（7.0%）	8名（7.2%）	7名（6.1%）	22名（7.8%）	15名（8.2%）
３５．聴覚障害者情報提供施設の広報誌	153名（12.4%）	43名（14.6%）	30名（13.2%）	16名（14.4%）	8名（7.0%）	31名（11.0%）	21名（11.5%）
３６．聴覚障害者情報提供施設のホームページ	59名（4.8%）	10名（3.4%）	14名（6.2%）	7名（6.3%）	3名（2.6%）	15名（5.3%）	7名（3.8%）
３７．その他	33名（2.7%）	8名（2.7%）	4名（1.8%）	6名（5.4%）	4名（3.5%）	5名（1.8%）	5名（2.7%）
３８．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先はない	14名（1.1%）	2名（0.7%）	2名（0.9%）	4名（3.6%）	2名（1.8%）	4名（1.4%）	0名（0.0%）

＜その他＞　59名

・市区の広報・メール・回覧板・告知板　　・勤務先から　　・施設の職員から　・協会から（知聴協だより新聞）
・少し前から１１９番取付済み　　・公共施設のサービス案内やチラシ・雑誌　　・スマートフォン（SNS）　　・ラジオ
・交際相手から　　・手話サークルの仲間、先生から　　・部落の会員に入っていたとき

表２－４１．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報・コミュニケーションの困難（ブロック別）　※複数回答

	全体 （1237名）	名古屋 （294名）	西尾張 （227名）	東尾張① （111名）	東尾張② （114名）	西三河 （283名）	東三河 （183名）
１．手話や字幕が入っていないテレビ番組が分からない、分かりにくい	**638名（51.6%）**	141名（48.0%）	110名（4852%）	58名（52.3%）	63名（55.3%）	148名（52.3%）	108名（59.0%）
２．手話や字幕が入っているテレビ番組の内容が分からない、分かりにくい	230名（18.6%）	56名（19.0%）	32名（14.1%）	20名（18.0%）	23名（20.2%）	51名（18.0%）	45名（24.6%）
３．災害の時の情報の入手方法や避難方法が不安	**618名（50.0%）**	140名（47.6%）	115名（50.7%）	54名（48.6%）	53名（46.5%）	142名（50.2%）	100名（54.6%）
４．自動車事故にあった時の保険会社の手続きが分からない	316名（25.5%）	62名（21.1%）	60名（26.4%）	28名（25.2%）	31名（27.2%）	88名（31.1%）	41名（22.4%）
５．病院や医者にかかる時の会話（予約や医者の問診・診断内容、薬局の呼び出し）	**440名（35.6%）**	96名（32.7%）	98名（43.2%）	40名（36.0%）	44名（38.6%）	89名（31.4%）	63名（34.4%）
６．福祉制度やサービス・施策等を利用する時（わかりやすく説明してくれない）	153名（12.4%）	44名（15.0%）	20名（8.8%）	21名（18.9%）	18名（15.8%）	33名（11.7%）	15名（8.2%）
７．銀行や郵便局などの公共施設を利用する時	229名（18.5%）	53名（18.0%）	42名（18.5%）	30名（27.0%）	17名（14.9%）	49名（17.3%）	37名（20.2%）
８．商店・スーパー・食堂などでの買い物などの時	212名（17.2%）	41名（13.9%）	32名（14.1%）	23名（20.7%）	19名（16.7%）	49名（17.3%）	46名（25.1%）
９．近所の方と話す時	326名（26.4%）	58名（19.7%）	60名（26.4%）	32名（28.8%）	30名（26.3%）	89名（31.4%）	50名（27.3%）
１０．学校などへ子どものことで懇談や相談をする時	72名（5.8%）	7名（2.4%）	10名（4.4%）	7名（6.3%）	13名（11.4%）	26名（9.2%）	7名（3.8%）
１１．携帯電話（メール）やパソコンの使い方が分かりにくい	163名（13.2%）	37名（12.6%）	34名（15.0%）	13名（11.7%）	12名（10.5%）	29名（10.2%）	37名（20.2%）
１２．文字や文章を書いて、FAXや手紙で伝えることが難かしい	169名（13.7%）	46名（15.6%）	30名（13.2%）	10名（9.09%）	17名（14.9%）	39名（13.8%）	26名（14.2%）
１３．行政からの案内や広報、新聞などの文章を理解することが難かしい	249名（20.1%）	50名（17.0%）	52名（22.9%）	32名（12.9%）	23名（20.2%）	51名（18.0%）	40名（21.9%）
１４．役立つ情報や大切な情報が分からない	187（15.1%）	45名（15.3%）	35名（15.4%）	16名（28.8%）	19名（16.7%）	34名（12.0%）	36名（19.7%）
１５．クレジットカードや携帯電話の契約を結ぶときや変更・解除する時	**415名（33.5%）**	79名（26.9%）	72名（31.7%）	38名（34.2%）	45名（39.5%）	109名（38.5%）	61名（33.3%）
１６．119番（救急車 きゅうきゅうしゃ ・消防 しょうぼう ）への呼び出しの時	**464名（37.5%）**	101名（34.4%）	84名（37.0%）	40名（36.0%）	39名（34.2%）	121名（42.8%）	70名（38.3%）
１７．110番（警察）との連絡ができない	**481名（38.9%）**	96名（32.7%）	98名（43.2%）	44名（39.6%）	44名（38.6%）	121名（42.8%）	69名（37.7%）
１８．交通機関やレジャー・宿泊などの予約の時	218名（17.6%）	45名（15.3%）	38名（16.7%）	18名（16.2%）	17名（14.9%）	52名（18.4%）	45名（24.6%）
１９．補聴機器では充分にコミュニケーションがとれない	307名（24.8%）	71名（24.1%）	40名（17.6%）	27名（24.3%）	32名（28.1%）	86名（30.4%）	43名（23.5%）
２０．結婚、産婦人科の診療、出産、離婚等のプライベートに関わる相談をする相手や相談機関がない	91名（7.4%）	15名（5.1%）	12名（5.3%）	11名（9.9%）	11名（9.6%）	28名（9.9%）	13名（7.1%）
２１．特にない	98名（7.9%）	30名（10.2%）	21名（9.3%）	12名（10.8%）	10名（8.8%）	13名（4.6%）	10名（5.5%）
２２．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先はない	68名（5.5%）	10名（3.4%）	17名（7.5%）	14名（12.6%）	7名（6.1%）	11名（3.9%）	7名（3.8%）

表２－４２．日頃の暮らしの中で困っていること、不自由に感じること（ブロック別）　※複数回答

主な仕事	全体（1237名）	名古屋（294名）	西尾張（227名）	東尾張①（111名）	東尾張②（114名）	西三河（283名）	東三河（183名）
１．病気のこと（自分の健康や病気のことが気きになる）	**475名（38.4%）**	116名（39.5%）	96名（42.3%）	47名（42.3%）	39名（34.2%）	100名（35.3%）	68名（37.2%）
２．聴こえのこと	**267名（21.6%）**	60名（20.4%）	53名（23.3%）	27名（24.3%）	24名（21.1%）	53名（18.7%）	38名（20.8%）
３．くらしの世話をしてくれる家族が病気になったり倒れたりした時のこと	**381名（30.8%）**	86名（29.3%）	75名（33.0%）	33名（29.7%）	39名（34.2%）	78名（27.6%）	62名（33.9%）
４．家に一人でいるときに何があったら不安	**368名（29.7%）**	84名（28.6%）	66名（29.1%）	35名（31.5%）	37名（32.5%）	79名（27.9%）	59名（32.2%）
５．生活するには年金額が少ない	202名（16.3%）	67名（22.8%）	27名（11.9%）	15名（13.5%）	12名（10.5%）	39名（13.8%）	35名（19.1%）
６．年金がもらえない	36名（2.9%）	13名（4.4%）	4名（1.8%）	2名（1.8%）	4名（3.5%）	11名（3.9%）	2名（1.1%）
７．物価が高い	229名（18.5%）	57名（19.4%）	9名（4.0%）	32名（28.8%）	18名（15.8%）	40名（14.1%）	37名（20.2%）
８．医療費が高い	45名（3.6%）	13名（4.4%）	9名（4.0%）	5名（1.5%）	5名（1.4%）	9名（3.2%）	4名（2.2%）
９．安心して行ける医療機関が近くにない・わからない	83名（6.7%）	21名（7.1%）	20名（8.8%）	10名（9.0%）	4名（3.5%）	16名（5.7%）	10名（5.5%）
１０．通院・通所することが困難	70名（5.7%）	24名（8.2%）	8名（3.5%）	7名（6.3%）	8名（7.0%）	14名（4.9%）	7名（3.8%）
１１．貯金ができない	115名（9.3%）	30名（10.2%）	24名（10.6%）	13名（11.7%）	8名（7.0%）	23名（8.1%）	14名（7.7%）
１２．税金が高い	203名（16.4%）	44名（15.0%）	31名（13.7%）	22名（19.8%）	14名（12.3%）	58名（20.5%）	32名（17.5%）
１３．炊事・洗濯・掃除などの家事	96名（7.8%）	35名（11.9%）	18名（7.9%）	6名（5.4%）	5名（4.4%）	6名（2.1%）	23名（12.6%）
１４．近所とうまくつきあえない	236名（19.1%）	41名（13.9%）	45名（19.8%）	26名（23.4%）	22名（19.3%）	56名（19.8%）	40名（21.9%）
１５．身近な地域に気軽に集まることができる場所がない・少ない	238名（19.2%）	49名（16.7%）	43名（18.9%）	27名（24.3%）	18名（15.8%）	53名（18.7%）	43名（23.5%）
１６．何でも話し合える友人がいない・話し相手がいない	136名（11.0%）	37名（12.6%）	31名（13.7%）	15名（13.5%）	10名（8.8%）	18名（6.4%）	21名（11.5%）
１７．選挙で投票することが難しい	103名（8.3%）	30名（10.2%）	21名（9.3%）	13名（11.7%）	6名（5.3%）	13名（4.6%）	20名（10.9%）
１８．家族の介護	115名（9.3%）	29名（9.9%）	27名（11.9%）	13名（11.7%）	6名（5.3%）	14名（4.9%）	21名（11.5%）
１９．家の中でコミュニケーションがうまくいかない	117名（9.5%）	31名（10.5%）	27名（11.9%）	8名（7.2%）	7名（6.1%）	19名（6.7%）	22名（12.0%）
２０．特にない	171名（13.8%）	40名（13.6%）	34名（15.0%）	18名（16.2%）	17名（14.9%）	35名（12.4%）	25名（13.7%）
２１．その他	49名（4.0%）	12名（4.1%）	6名（2.6%）	6名（7.2%）	5名（4.4%）	12名（4.2%）	5名（2.7%）

＜その他＞　４９名

・少し困る時もある。
・交通事故が心配である。見えない・聞こえないことで、心が苦しい。
・災害時、周囲とのコミュニケーションが不安。近所の人が助けてくれるか心配。エレベーターが使えないと避難できない。足が不自由なため、手すりが無いと困る。困ったときに相談できる場所がない。特に、専門機関。障害者相談センターはあるが、職員の知識が乏しい。
・聴こえないならではの育児の相談ができる人が少ない。デフママサークルに行くけど、頻度が少なく、遠い。
・お金が無くならないか不安。
・社会保険料、厚生年金が高い。
・人工内耳の医療費が高い。
・電話リレーサービスが有償なのがつらい。
・PC で故障があったときの対応。ケーブルテレビの日々の支払いが高い。
・詐欺が心配。防犯面。
・生活をする上で必要な情報が入手しづらい。ネットや新聞ではなく、人を介して得られるささいな情報。
・宅配が来たとき、ライトへの反応に遅れると不在票が入っている。
・生活全般においてコミュニケーションに壁がある。家族は手話はできないが会話はある。（筆談）いちいち口を

見せてください。書いてくださいなどの説明が必要ですか？理解してもらえるのは５割以下。
・電話ができない。通報などするにしてもできない。何を言っているか言葉がわからない。
・電子マネーの manaca は障害者割引を作っているが、使える範囲が名古屋市交通局のみ。
・フィットネスクラブの入会を断られた。理由は、事故があったときにコミュニケーションできない、非常ベルがあっても気づかないので危険だから。
・車の運転を辞めたので不便。
・入所している施設での人間関係。
・自分に対して、偏見を持っている人がいる。理由もなく、差別を受けることがある。
・近所には、二人障害を理解してくれない人がいる。民生委員の女性は何もやってくれない。ゆっくり話してと言ったのに早口で話されたり、腕をたたいてきたりいたずらされた。民生委員は形だけだ。今は何もやってくれていない。やる気がないならやめてほしい。男のようにかなりきつい女だ。
・公共交通機関の中での、目で見る情報が少ないこと（特に緊急時）
・施設に入所した時、一般の人ばかりの中では聴覚障害者は孤立してさみしいのでは。聴覚障害者専門の施設が欲しい。
・グループホームが足りない。
・息子とはあまり会話がない
・兄がいるが連絡をとっていない、何年も会っていない。今は大丈夫でも先が心配
・手話を知らない人が多い。耳が聞こえないとわかってもらえても筆談の限界はある。文章力の問題。
・家が築 60 年くらい。災害時が心配。同居している下の娘と引っ越すことを考えるが、金銭的にも不安。27 年前に死別した夫のお骨がまだいえにある。夫の兄嫁から夫の生家のお墓に収めることを許されていない。しかし自分でお墓を持っているわけではないので、夫のお骨をどうしたらいいか心配。
・配偶者が亡くなったときの不安。実際に生活をするのに困っている。
・お風呂の水の止め忘れ。お風呂を沸かしっぱなしにしてしまう。お店のお惣菜をうまく選ぶことができず、口に合わないことがある。
・右半身の痛みが直らないのが悩み（８回も転倒）
・年を重ね片付けが苦手。
・高齢夫婦のため突然の買いものの時、足がなく困る
・終活について

表２－４３．日頃の暮らしことで相談する相手の有無（ブロック別）

	１．いる	２．いない
全体（1237 名）	**1023 名（82.7%）**	**161 名（13.0%）**
名古屋（294 名）	**229 名（77.9%）**	**45 名（15.3%）**
西尾張（227 名）	190 名（83.7%）	32 名（14.1%）
東尾張①（111 名）	91 名（82.0%）	17 名（15.3%）
知多（114 名）	100 名（87.7%）	11 名（9.6%）
西三河（283 名）	245 名（86.6%）	29 名（10.2%）
東三河（183 名）	153 名（83.6%）	23 名（12.6%）

表２－４４．日頃の暮らしことで相談する相手（ブロック別）　※複数回答

	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１．配偶者	**455名（36.8%）**	77名（26.2%）	83名（36.6%）	36名（32.4%）	43名（37.7%）	140名 （49.5%）	67名（36.6%）
２．親	**348名（28.1%）**	68名（23.1%）	58名（25.6%）	31名（27.9%）	37名（32.5%）	109名 （38.5%）	39名（21.3%）
３．兄弟姉妹	**352名（28.5%）**	77名（26.2%）	64名（28.2%）	25名（22.5%）	33名（28.9%）	90名（31.8%）	58名（31.7%）
４．子ども	**338名（27.3%）**	68名（23.1%）	58名（25.6%）	30名（27.0%）	44名（38.6%）	74名（26.1%）	58名（31.7%）
５．おじ、おば、いとこなどの親類	78名（6.3%）	12名（4.1%）	15名（6.6%）	6名（5.4%）	7名（6.1%）	22名（7.8%）	15名（8.2%）
６．近所の知人	129名（10.4%）	28名（4.1%）	22名（9.7%）	11名（9.9%）	15名（13.2%）	36名（12.7%）	15名（8.2%）
７．友達	**477名（38.6%）**	105名（35.7%）	89名（39.2%）	40名（36.0%）	48名（42.1%）	123名 （43.5%）	65名（35.5%）
８．職場の上司	102名（8.2%）	22名（7.5%）	16名（7.0%）	6名（5.4%）	8名（7.0%）	32名（11.3%）	17名（9.3%）
９．職場の同僚	126名（10.2%）	22名（7.5%）	21名（9.3%）	8名（7.2%）	11名（9.6%）	39名（13.8%）	24名（13.1%）
１０．自治会の役員・区長	22名（1.8%）	6名（2.0%）	4名（1.8%）	1名（0.9%）	0名（0.0%）	9名（3.2%）	2名（1.1%）
１１．民生委員・児童委員	30名（2.4%）	10名（3.4%）	5名（2.2%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	10名（3.5%）	4名（2.2%）
１２．加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の会員や役員	140名（11.3%）	26名（8.8%）	22名（9.7%）	13名（11.7%）	11名（9.6%）	30名（10.6%）	35名（19.1%）
１３．手話や要約筆記サークルのメンバー	238名（19.2%）	41名（13.9%）	41名（18.1%）	26名（23.4%）	24名（21.1%）	59名（20.8%）	46名（25.1%）
１４．福祉事務所の職員	56名（4.5%）	7名（2.4%）	12名（5.3%）	5名（4.5%）	3名（2.6%）	7名（2.5%）	20名（10.9%）
１５．市役所・区役所の職員	111名（9.0%）	11名（3.7%）	21名（9.3%）	11名（9.9%）	11名（9.6%）	26名（9.2%）	29名（15.8%）
１６．障害者相談事業所の職員	39名（3.2%）	14名（4.8%）	2名（0.9%）	2名（1.8%）	3名（2.6%）	3名（1.1%）	13名（7.1%）
１７．かかりつけの医者	51名（4.1%）	13名（4.4%）	11名（4.8%）	4名（3.6%）	5名（4.4%）	5名（1.8%）	12名（6.6%）
１８．看護師	19名（1.5%）	9名（3.1%）	1名（0.4%）	1名（0.9%）	0名（0.0%）	2名（0.7%）	6名（3.3%）
１９．保健師	6名（0.5%）	1名（0.3%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（1.8%）	1名（0.4%）	2名（1.1%）
２０．幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士	3名（0.2%）	0名（0.0%）	1名（0.4%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（0.5%）
２１．小学校・中学校・高校の先生	9名（0.7%）	2名（0.7%）	1名（0.4%）	0名（0.0%）	1名（0.9%）	1名（0.4%）	4名（2.2%）
２２．ろう学校の先生	29名（2.3%）	8名（2.7%）	4名（1.8%）	2名（1.8%）	0名（0.0%）	6名（2.1%）	9名（4.9%）
２３．手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者	211名（17.1%）	29名（9.9%）	46名（20.3%）	26名（23.4%）	21名（18.4%）	50名（177%）	35名（19.1%）
２４．愛知県聴覚障害者協会の職員（事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる、笑おう舎）	123名（9.9%）	33名（11.2%）	14名（6.2%）	10名（9.0%）	12名（10.5%）	22名（7.8%）	30名（16.4%）
２５．知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員	11名（0.9%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	11名（9.6%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
２６．NPO つくし職員	15名（1.2%）	9名（3.1%）	1名（0.4%）	1名（0.9%）	0名（0.0%）	2名（0.7%）	2名（1.1%）
２７．福祉事業所・作業所の職員	19名（1.5%）	7名（2.4%）	0名（0.0%）	3名（2.7%）	0名（0.0%）	3名（1.1%）	5名（2.7%）
２８．その他	25名（2.0%）	6名（2.0%）	4名（1.8%）	8名（7.2%）	2名（1.8%）	2名（0.7%）	3名（1.6%）
２９．災害の時に頼りにする人はいない	5名（0.4%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（0.9%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（1.1%）

〈その他〉　２５名

・交際相手　　・家族・親戚　　・施設の職員（グループホーム・デイサービス）
・前職場の元上司　　・盲ろう介護者、盲ろう通訳者　　・盲学校時代の担任の先生
・盲ろう者友の会の会員、JRPS の会員　　・名古屋シーモスベルセンター　　・地元協会役員
・手話通訳士　　・ケアマネージャー　　・教会の牧師　　・自営業の人　　・聾学校の先輩
・難聴の子どもが生まれた時に相談する場所がなかった。子どもは普通学校だったので、周りは聴こえる人ばかりで会話に付いていけなかった。

表２－４５．手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障された施設や、サービスを利用したことの経験（ブロック別）　※複数回答

	全体 （1237名）	名古屋 （294名）	西尾張 （227名）	東尾張① （111名）	東尾張② （114名）	西三河 （283名）	東三河 （183名）
１．手話通訳派遣	**669名（54.1%）**	134名（45.6%）	122名（53.7%）	60名（54.1%）	67名（58.8%）	178名（62.9%）	94名（51.4%）
２．要約筆記者（奉仕）派遣	**117名（9.5%）**	40名（13.6%）	15名（6.6%）	9名（8.1%）	15名（13.2%）	24名（8.5%）	11名（6.0%）
３．盲ろう者通訳・介助員派遣	18名（1.5%）	6名（2.0%）	4名（1.8%）	2名（1.8%）	1名（0.9%）	3名（1.1%）	2名（1.1%）
４．聴覚障害者支援事業所ほっとくる	81名（6.5%）	44名（15.0%）	10名（4.4%）	5名（4.5%）	4名（3.5%）	12名（4.2%）	6名（3.3%）
５．聴覚障害者支援事業所笑おう舎	44名（3.6%）	7名（2.4%）	0名（0.0%）	2名（1.8%）	0名（0.0%）	5名（1.8%）	30名（16.4%）
６．NPO つくし	25名（2.0%）	10名（3.4%）	5名（2.2%）	3名（2.7%）	0名（0.0%）	3名（1.1%）	4名（2.2%）
７．聾学校	**133名（10.8%）**	21名（7.1%）	20名（8.8%）	10名（9.0%）	10名（8.8%）	42名（14.8%）	28名（15.3%）
８．その他	20名（1.6%）	5名（1.7%）	5名（2.2%）	5名（4.5%）	1名（0.9%）	3名（1.1%）	1名（0.5%）
９．ない	246名（19.9%）	66名（22.4%）	54名（23.8%）	23名（20.7%）	27名（23.7%）	41名（14.5%）	33名（18.0%）

＜その他＞　２０名

・手話サークル
・あいち聴覚障害者センター
・障害者相談事業所、福祉型児童発達支援センター
・名身連聴覚言語障害者情報文化センター
・社協の中途失聴者協会
・身障施設、生活支援相談員、福祉村：たまも荘
・リレー電話サービス
・要約筆記の勉強会
・市役所
・会社内で気づかないうちに面談などで利用している。
・講演
・子ども
・店員との筆談
・大学の講義で手話通訳者さんやノートテイクのサービス利用受けたことある。

表２－４６．手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障施設や、サービスを利用して感じたこと、気づいたこと（ブロック別）※複数回答

	全体 (1237名)	名古屋 (294名)	西尾張 (227名)	東尾張① (111名)	東尾張② (114名)	西三河 (283名)	東三河 (183名)
１.人として尊重されると感じるようになった	289名 (23.4%)	53名 (18.0%)	45名 (19.8%)	27名 (24.3%)	29名 (25.4%)	78名 (27.6%)	51名 (27.9%)
２.聴覚障害者同士のつながりができた・深まった	**425名** **(34.4%)**	89名 (30.3%)	70名 (30.8%)	53名 (47.7%)	35名 (30.7%)	99名 (35.0%)	72名 (39.3%)
３.聴こえる人とのつながりができた・深まった	290名 (23.4%)	56名 (19.0%)	53名 (23.3%)	32名 (28.8%)	29名 (25.4%)	73名 (25.8%)	43名 (23.5%)
４.気兼ねなく話しができるようになった	293名 (23.7%)	55名 (18.7%)	53名 (23.3%)	31名 (27.9%)	26名 (22.8%)	76名 (26.9%)	47名 (25.7%)
５.これまで学べなかった様々なことを知り・学ぶことができた	**374名** **(30.2%)**	73名 (24.8%)	69名 (30.4%)	33名 (29.7%)	37名 (32.5%)	87名 (30.7%)	67名 (36.6%)
６.自分自身のことを自ら選択し、様々なことを決めることができるようになった	213名 (17.2%)	43名 (14.6%)	36名 (15.9%)	24名 (21.6%)	21名 (18.4%)	49名 (17.3%)	34名 (18.6%)
７.利用できる制度やサービスを知るようになった	234名 (18.9%)	50名 (17.0%)	47名 (20.7%)	29名 (26.1%)	16名 (14.0%)	56名 (19.8%)	33名 (18.0%)
８．ひとりぼっちではなく、仲間がいることが確かめられた	289名 (23.4%)	61名 (20.7%)	49名 (21.6%)	32名 (28.8%)	23名 (20.2%)	66名 (23.3%)	52名 (28.4%)
９.情報がたくさん入るようになった	**358名** **(28.9%)**	75名 (25.5%)	67名 (29.5%)	31名 (27.9%)	34名 (29.8%)	78名 (27.6%)	68名 (37.2%)
１０.聞こえる人やボランティアとの交流ができるようになった	245名 (19.8%)	55名 (18.7%)	42名 (18.5%)	30名 (27.0%)	23名 (20.2%)	60名 (21.2%)	32名 (17.5%)
１１.これからの暮らしや生き方に希望や展望が持てるようになった	120名 (9.7%)	30名 (10.2%)	12名 (5.3%)	15名 (13.5%)	7名 (6.1%)	28名 (9.8%)	26名 (14.2%)
１２.年金や社会福祉のサービスを理解し利用することができるようになった	148名 (12.0%)	38名 (12.9%)	22名 (9.7%)	23名 (20.7%)	5名 (4.4%)	31名 (11.0%)	25名 (13.7%)
１３.他の聞こえない仲間とともに福祉やくらしの発展を目指そうと思うようになった	172名 (13.9%)	41名 (13.9%)	29名 (12.8%)	22名 (19.8%)	14名 (12.3%)	39名 (13.8%)	25名 (13.7%)
１４．その他	41名 (3.3%)	11名 (3.7%)	6名 (2.6%)	1名 (0.9%)	6名 (5.3%)	14名 (4.9%)	2名 (1.1%)

＜その他＞　４１名

・スムーズにコミュニケーションが取れて相手も不安なく接してくれるし通訳があるのとないのとでは情報量が天と地の差だ。
・共に助け合って活動しているのですべてにおいて共に歩むことができ、とても感謝している。
・研修に気兼ねなく参加できるようになった。
・派遣を利用することで知識を向上させることができる。また、行動範囲が広がり、忙しくできることが嬉しい。
・ボランティアで難聴者に楽しい場をみんなで出来るような場を立ち上げたい。
・病院のことが楽になった。
・同時に福祉による差別の再生産も感じるようになった。
・いろいろ知ることができて楽しい。
・地域のデイサービスに通うようになり、筆談ですが、おしゃべりできて楽しいようです。
・入院した時に盲ろう介助員の方が来てくれて助かった。
・手話通訳の人との間がもたない。
・市役所の設置通訳者の方とうまくコミュニケーションが取れなかった。
・難しい言葉がわかりにくい。通訳が全てを通訳してくれないため、情報が減る。声を入れると文字に変える方法を知りたい。プライバシーに不安有。同じ通訳者が良い。
・区保健所主催の講演会に、主催者に説明した上で、介助員付きで出掛けたが、周囲からうるさいと言われた。特別な配慮を受けることができず、講演会の内容が全くわからなかった。
・日本手話でないと意思疎通ができないため、手話通訳者によっては、コミュニケーションが困難なことがある。日本語が十分でないので、日本語対応手話だと難しい。
・まだ、気兼ねなく手話通訳を依頼できる状況に至っていないと感じる。学校行事や保護者会など本当に重要なものしか依頼できない。又、通訳者のレベルに差が大きく、重要なことを伝えたくても、充分に相手に伝わらないことが度々ある。
・人材が足らないと思う。
・TV、DVD などすべてに字幕を付けることを義務化してほしい。
・拡大文字の情報がほしい。
・物足りない。満足がない。まだまだ分からない情報があるのでは？
・不安、コミュニケーションのズレ
・ありがたいとは思えない状況。
・何となく。
・わからない。
・別に何も感じない。
・主人が手話ができるので利用しない。
・要約筆記のサービス等を利用していない。
・認知症の為、自覚はない。

表２－４７．今後、必要と思われるサービスや施設（ブロック別）　※複数回答

	全体 （1237名）	名古屋 （294名）	西尾張 （227名）	東尾張① （111名）	東尾張② （114名）	西三河 （283名）	東三河 （183名）
１．手話（触手話）や要約筆記などのコミュニケーションが保障された、聴覚障害者が利用しやすい施設を身近なところに作ってほしい、増やしほしい	**754名（61.0%）**	147名（50.0%）	140名（61.7%）	77名（69.4%）	77名（67.5%）	184名（65.0%）	116名（63.4%）
２．聴覚障害に配慮した高齢者に関わるデイサービスがほしい	**623名（50.4%）**	127名（43.2%）	113名（49.8%）	67名（60.4%）	63名（55.3%）	18名（48.8%）	102名（55.7%）
３．聴覚障害に配慮した長期間生活できる入所施設（例：特別養護老人ホーム等）がほしい	526名（42.5%）	111名（37.8%）	89名（39.2%）	58名（52.3%）	54名（47.4%）	115名（40.6%）	92名（50.3%）
４．聴覚障害に配慮したショートステイ（短期入所サービス）がほしい	396名（32.0%）	86名（29.3%）	61名（26.9%）	49名（44.1%）	39名（34.2%）	76名（26.9%）	77名（42.1%）
５．聴覚障害に配慮され、様々な場面でサポートするヘルパー派遣制度を充実させてほしい	445名（36.0%）	99名（33.7%）	66名（29.1%）	53名（47.7%）	41名（36.0%）	97名（34.3%）	79名（43.2%）
６．子育て世代が利用できるよう、一時保育機能を備えた施設がほしい	174名（14.1%）	32名（10.9%）	28名（12.3%）	16名（14.4%）	19名（16.7%）	53名（18.7%）	23名（12.6%）
７．手話（触手話）などコミュニケーションを自由に使える放課後デイサービスや、長期休業中に子どもが集まれる機会がほしい	234名（18.9%）	53名（18.0%）	33名（14.5%）	23名（20.7%）	24名（21.1%）	67名（23.7%）	29名（15.8%）
８．誰もが気軽におしゃべりできる、集まって交流できる場所や部屋がほしい	547名（44.2%）	106名（36.1%）	99名（43.6%）	54名（48.6%）	56名（49.1%）	129名（45.6%）	94名（51.4%）
９．自分に合ったペースや内容で仕事ができる作業場がほしい	243名（19.6%）	45名（15.3%）	28名（12.3%）	31名（27.9%）	33名（28.9%）	67名（23.7%）	34名（18.6%）
１０．災害時にも、聴覚障害の配慮があり、一時的でも安心して避難生活ができる制度を整えてほしい	**680名（55.0%）**	138名（46.9%）	124名（12.3%）	75名（67.6%）	65名（57.0%）	150名（53.0%）	112名（61.2%）
１１．様々な災害時の対応や知識が体験的に学べる制度を整備してほしい	433名（35.0%）	86名（29.3%）	80名（35.2%）	45名（40.5%）	43名（37.7%）	102名（36.0%）	68名（37.2%）
１２．誰もが利用できる喫茶やレストランがほしい	396名（32.0%）	87名（29.6%）	63名（27.8%）	42名（37.8%）	39名（34.2%）	92名（32.5%）	67名（36.6%）
１３．その他	44名（3.6%）	10名（3.4%）	4名（1.8%）	5名（11.4%）	5名（4.4%）	11名（3.9%）	9名（4.9%）

＜その他＞　４４名

・まだまだ一部の病院では筆談等コミュニケーションがとれないところがある。検査等説明がよくわからないまま痛い怖い思いをすることがあった（大学病院）。
・どこでも手話通訳を受けられる環境（急用で役所に行っても通訳を受けられるようにする）。
・手話通訳設置者が１日中、毎日ほしい。（免許の更新時に手話通訳が必要）。
・自宅に手話のできるヘルパーが来てほしい。
・盲ろう者が安心して暮らせるグループホームがほしい。お世話され過ぎず、自分でもできることは尊重され、自分の力で生活し、自分でできないところだけを支援してもらえるようなグループホームがほしい。
・ろう者だけの老人ホームなら入りたい（笑おう舎がたいがいがまかなっている）。
・老後が不安なので、聴覚障害者に対応できる施設が欲しい。
・手話で話せる地域の趣味娯楽の集まる場所が欲しい。
・生活上必要な情報が全て入手できる施設が欲しい。ここに行けば、子育て、教育、病院、手当各手続き方法など数々な知りたいことを教えてくれるという場所。
・困ったとき、相談するところを設けて欲しい。
・聴覚に限らずすべての障害者に配慮を。
・音声認識システムを増やしてほしい。
・テレビ・日本の映画（邦画）に字幕をつけてほしい。
・スーパーなどの店員が手話できるといい。
・絵や写真を見てわかるメニューを置く店が増えてほしい。
・ICT 等のコミュニケーション手段が普及していけば、集会や講演会などは、盲ろう者だけ、視覚障害者だけ、ろう者だけ等　特化しなくてもいいと思う。それぞれの立場での横のつながりも必要だと思う。高齢の難聴者が増えているので、地域に集まれる場所があるといい。
・老人ホームでも聞こえる人と一緒に聴覚障害をもった人の枠を作って一緒に暮らす方法も良いと思う。
・パトライト以外で、一人でいるときに来客がわかる方法。
・今あるサービスや施設が、障害があっても利用できる環境になり、それが当たり前になること。
・気持ちよく旅行ができるようにしてほしい。
・盲ろう者にとって、たくさんの情報が得られる場所がほしい。触手話ができる職員がほしい。
・盲ろう者が気軽に集まることができる場所がほしい。
・自分が元気で働いているので、考えられない。
・分からない。
・特にない。
・近い場所がほしい。
・利用したいけど、うわさなどをひろめることがきらい。（？）

（2）．年代別の結果の分析

表２－４８「言語・コミュニケーション手段（年代別）」の結果について、全体の結果と比較して、10 代、20 代、30 代は音声の活用する割合が 41.2%～45.7%とやや高く、その理由として、1990 年代以降にろう学校でトータルコミュニケーションの指導が導入され、口話に手話を併用する指導法が普及していったことが背景にあるだろう。口話に関しては、30 代と 40 代で 76%前後でやや高く、健聴者が多数の企業等で働いているため、聴覚活用と読話で相手のことばの理解を進めていることが推察される。補聴器の活用については、20 代～40 代において 53.1%～69.1%と高く、60 代以上では 25.2%と低かった。人工内耳の装用については全体の人数が 48 名と少ないが、10 代で 36.4%、20 代で 9.9%と高く、その理由は 1990 年代以降の人工内耳の普及と関連していることがわかる。触手話については、全体で 36 名の使用者がいるが、その半数が 60 代以上であった。指点字については、全体で 29 名の使用者がいるが、その約４割が 60 代以上であった
。

表２－４９「手話を覚えた時期（年代別）」の結果について、10 代と 20 代は生後（親）から、乳幼児教育相談、幼稚園・保育園の割合がやや高かった。60 代においては、ろう学校小学部・小学校の時期に覚えた者がやや高かった。40 代、50 代、60 代以上は、社会人になった後で、手話を覚え始めた方が多かった。

表２－５０「手話を教わった場所（年代別）」の結果について、10 代と 20 代で家庭とろう学校で手話を教わったという回答の割合がやや高かった。近年では、ろう学校に通った場合、聴覚活用に加え、早期から音声に手話を併用してコミュニケーションを図る指導が行われているため、このような結果となっていると考える。

表２－５１「手話を教えてくれた人（年代別）」の結果について、10 代、20 代において、ろう学校の先生と親から手話を教わったという回答の割合が高かった。40 代においては、きこえない友達から手話を教わったという回答の割合がやや高かった。

表２－５２「通っていた施設や学校（年代別）」については、各年代もろう学校が多かった。30 代は補聴器の性能の向上、難聴学級の設置校の増加等が社会的背景にあるため、通常の学校で学ぶ方の割合がやや高かった。また、近年は、大学等の高等教育機関への進学率が一般で 50%以上となっており、聴覚障害者についても大学で学ぶ機会が増えているが、調査結果からも 10 代、20 代、30 代においても 18.2%～33.3%とやや高かった。

表２－５３「現在の主な仕事（年代別）」の結果について、20 代～50 代は会社員の回答の割合が高かった。60 代以上は、定年を迎え、仕事をしていない方が多かった。

表２－５４「仕事の身分（年代別）」の結果について、20 代～50 代は正規職員の回答の割合が高かった。60 代以上は、定年を迎え、仕事をしていない方が多かった。20 代ではフルタイムの正規職員の割合が高いので、反対に非正規職員の回答の割合が低かったことが伺われる。

表２－５５「表２－５３の「８．今は仕事をしていない」「９．働いたことがない」と回答した理由（年代別）」の結果について、60 代以上は、定年、老齢、障害等が仕事をしていない理由であった。

表２－５６「今、仕事で困っていること、不自由に感じていることや悩んでいること（年代別）」の結果について、全体の結果と比較して、聴覚障害や聞こえにくいことの理解が乏しく働きやすい環境が整っていない 20.8%、まわりの人たちと話が通じにくいために仕事や作業がうまくいかないことがある 15.8%、今の仕事を続けられるかどうか心配である 12.9%、職位が上がらない・昇任できない 9.9%等、多くの悩みを抱えている割合が高かった。10 代については仕事や職場に不慣れな面もあるため、全体の結果と比較して、まわりの人たちと話が通じにくいために仕事や作業がうまくいかないことがあるという質問項目の回答の割合が高かった。

表２－５７「現在の住まい（年代別）」の結果について、10 代は親の一戸建ての自宅、40 代以降は自分で購入もしくは親から譲り受けた一戸建て住宅で生活する割合が高いことが推察された。20 代と 30 代は、民間借家、民間アパート、民間マンションが、全体の結果と比較して、やや高かった。

表２－５８「日頃の近所の人たちとの関わり（年代別）」の結果について、10 代と 20 代の回答者の人数は少ないが、近所の住民との関わりが少ない傾向にあった。

表２－５９「地域の活動・集まりへの参加（年代別）」の結果について、40 代から 60 代以上は、ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体、手話サークルに参加する回答の割合が高かった。

表２－６０～表２－６５に「地域の活動・集まりへの参加（年代別）」の結果を示す。

表２－６６「表２－５９の質問で「１２．参加していない」「１３．今は参加していない」の回答の理由（年代別）」の結果について、10 代～30 代は、活動に興味がない、仕事や家庭のために忙しくて時間がない等の回答の割合が高かった。

表２－６７「健康状態で気になっていること（年代別）」の結果について、10 代と 20 代は、何も気になることはないという回答の割合がやや高った。30 代は仕事のストレスからイライラすることが多いという回答の割合が高かった。20 代は、落ち込むことがある、ささいなことが気になるの回答の割合が高く、仕事に慣れてきた頃であるが職場での要求水準が高くなる他、職場の人々との人間関係で悩み等が多くなっている可能性が推察された。60 代以上は、持病等があり、病院に通院する方が多く、薬を飲んでいる、医者に診てもらっているの回答の割合が高かった。

表２－６８「災害など、いざという時に頼りにする人（年代別）」の結果について、30 代～60 代以上は配偶者・親・子ども、10 代と 20 代は親・兄弟姉妹・友達に頼りにするという回答の割合が高かった。20 代～40 代の回答者は、仕事の関係で、職場の上司や同僚を頼りにするという回答の割合が高った。大手の企業では聴覚障害者を大勢雇用しており、職場に同じ聴覚障害のある上司や同僚がいるために、頼りすることもあると考える。

表２－６９「日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先（年代別）」の結果について、10 代～40 代は親の回答の割合が高かった。これに加え、10 代は兄弟姉妹、40 代はおじ、おば、いとこなどの親類を回答する割合が高かった。友達と回答した年代は、20～50 代で４～５割と回答する割合が高く、60 代以上では３割程度とやや低かった。また、職場の同僚と回答した年代は 20～40 代で 20～25%で回答があり、やや高かった。テレビから情報を得ている者の割合は、20 代で 65.4%と高い一方で、30 代では仕事や家事に忙しく 43.1%とやや低かった。新聞から情報を得る者の割合は、若い世代の 10～30 代で低く、この世代は新聞を読まないまたは自宅で新聞をとっていないことが推察された。同様に、団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の機関誌の回答の割合は、若い世代の 10～20 代で低く、団体に加入してても機関誌を読んでいないまたは団体に加入していないことが推察された。

表２－７０「日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報・コミュニケーションの困難（年代別）」の結果について、20 代は、災害の時の情報の入手方法や避難方法が不安という回答が 63.0%とやや高かった。また、40 代はカード利用が多いことが予想されるため、クレジットカードや携帯電話の契約を結ぶときや変更・解除する時の回答が 50.7%と割合がやや高かった。また、20 代は、110 番（警察）との連絡ができないの回答の割合が 67.9%、119 番（救急車・消防）への呼び出しの時の回答が 51.9%とやや高かった。

表２－７１「日頃の暮らしの中で困っていること、不自由に感じること（年代別）」の結果について、10～30 代は、健康な方が多いので、病気のこと（自分の健康や病気のことが気になる）という回答の割合が 0～27.5%と低く、40 代以上は健康や病気に対する不自由を感じているという回答の割合が高かった。

表２－７２「日頃の暮らしことで相談する相手の有無（年代別）」の結果について、すべての世代で、８～９割で相談する相手がいる一方、１～２割で相談する相手がいないという回答があった。

表２－７３「日頃の暮らしことで相談する相手（年代別）」の結果について、30～60 代以上は配偶者と親、10～40 代は親・友達という回答の割合が高かった。60 代においては子ども、30 代においては職場の上司という回答の割合が高かった。

表２－７４「手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障された施設や、サービスを利用したことの経験（年代別）」の結果について、30 代と 40 代は手話通訳派遣の回答の割合が 65%前後と高く、60 代以上では聴覚障害者支援事業所・ほっとくる、聴覚障害者支援事業所・笑おう舎の回答の割合がやや高かった。また、10～30 代では、放課後等デイサービスの事業に関して、子どもの立場または親の立場で利用している回答者が高いことが推察された。10 代と 20 代は、情報保障がなされた施設としてろう学校という回答の割合がやや高かった。

表２－７５「手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障施設や、サービスを利用して感じたこと、気づいたこと（年代別）」の結果については、全体の結果と比較して、各年代の大きな差はなかった。

表２－７６「今後、必要と思われるサービスや施設（年代別）」の結果について、40 代以上で、聴覚障害に配慮した高齢者に関わるデイサービスの、聴覚障害に配慮した長期間生活できる入所施設がほしい、聴覚障害に配慮したショートステイ（短期入所サービス）の回答が高い一方で、20 代と 30 代では子育て世代が利用できるよう一時保育機能を備えた施設がほしいの回答が高かった。年齢が上がるにつれて、回答者は、福祉サービスに対する関心が高まり、人とのつながりを求めていることや災害に対する不安が大きくなっていることがわかった。

表２－４８．言語・コミュニケーション手段（年代別）　※複数回答

言語・手段	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．手話	1153名 (93.2%)	9名 (81.8%)	81名 (100.0%)	127名 (96.9%)	204名 (96.7%)	214名 (95.1%)	490名 (89.4%)
２．音声	434名 (35.1%)	**5名 (45.5%)**	**37名 (45.7%)**	54名 (41.2%)	71名 (33.6%)	80名 (35.7%)	177名 (32.3%)
３．身振り	810名 (65.5%)	6名 (54.5%)	55名 (67.9%)	93名 (71.0%)	148名 (70.1%)	158名 (70.5%)	332名 (60.6%)
４．指さし	537名 (43.4%)	4名 (36.4%)	41名 (50.6%)	57名 (43.5%)	107名 (50.7%)	103名 (46.0%)	213名 (38.9%)
５．表情	555名 (44.9%)	5名 (45.5%)	38名 (46.9%)	67名 (51.1%)	114名 (54.0%)	103名 (46.0%)	213名 (38.8%)
６．実物	231名 (18.7%)	2名 (18.2%)	13名 (16.0%)	26名 (19.8%)	43名 (20.4%)	46名 (20.5%)	95名 (17.3%)
７．筆談	901名 (72.8%)	7名 (63.6%)	62名 (76.5%)	99名 (75.6%)	159名 (75.4%)	171名 (76.3%)	382名 (69.7%)
８．口話	823名 (66.5%)	7名 (63.6%)	56名 (69.1%)	**99名 (75.6%)**	**161名 (76.3%)**	161名 (71.9%)	319名 (58.2%)
９．補聴器	501名 (40.5%)	5名 (45.5%)	**56名 (69.1%)**	**74名 (56.5%)**	**112名 (53.1%)**	104名 (46.6%)	138名 (25.2%)
１０．人工内耳	48名 (3.9%)	**4名 (36.4%)**	**8名 (9.9%)**	3名 (2.3%)	4名 (1.9%)	7名 (3.1%)	21名 (3.8%)
１１．触手話	36名 (2.9%)	0名 (0.0%)	2名 (2.5%)	2名 (1.5%)	7名 (3.3%)	6名 (2.7%)	**18名 (3.3%)**
１２．指点字	29名 (2.3%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	5名 (3.8%)	3名 (1.4%)	6名 (2.7%)	**13名 (2.4%)**
１３．点字	5名 (0.4%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.4%)	4名 (0.7%)
１４．指文字	557名 (45.0%)	5名 (45.5%)	**60名 (74.1%)**	67名 (51.1%)	108名 (51.2%)	120名 (53.6%)	180名 (32.8%)
１５．絵や写真	233名 (18.8%)	2名 (18.2%)	15名 (18.5%)	23名 (17.6%)	46名 (21.8%)	38名 (17.0%)	104名 (19.0%)
１６．分からない	4名 (0.3%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	4名 (0.7%)
１７．その他	29名 (2.3%)	0名 (0.0%)	3名 (3.7%)	3名 (2.3%)	11名 (5.2%)	7名 (3.1%)	3名 (0.5%)

＜その他＞　２９名

・キューサイン　・空文字　・手書き文字　・筆談　・要約筆記　・ノートテイク　・通訳
・スマートフォン（アプリ）　・字幕

表２－４９．手話を覚えた時期（年代別）

時期	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
生後から（親がろう者）	18名（1.5%）	**1名（9.1%）**	**3名（3.7%）**	2名（1.5%）	6名（2.8%）	1名（0.4%）	3名（0.5%）
乳幼児教育相談	19名（1.5%）	**1名（9.1%）**	**7名（8.6%）**	5名（3.8%）	2名（0.9%）	1名（0.4%）	3名（0.5%）
幼稚園・保育園	142名（11.5%）	**4名（36.4%）**	**22名（27.2%）**	20名（15.3%）	30名（14.2%）	33名（14.7%）	30名（5.5%）
小学部・小学校	381名（30.8%）	2名（18.2%）	21名（25.9%）	26名（19.8%）	37名（17.5%）	64名（28.6%）	**223名（40.7%）**
中学部・中学校	209名（16.9%）	2名（18.2%）	17名（21.0%）	27名（20.6%）	49名（23.2%）	32名（14.3%）	77名（14.1%）
高等部・高校	171名（13.8%）	1名（9.1%）	9名（11.1%）	23名（17.6%）	49名（23.2%）	34名（15.2%）	51名（9.3%）
大学	39名（3.2%）	1名（9.1%）	9名（11.1%）	15名（11.5%）	8名（3.8%）	5名（2.2%）	1名（0.2%）
専門学校	19名（1.5%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（1.5%）	4名（1.9%）	5名（2.2%）	8名（1.5%）
社会人	227名（18.4%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	17名（13.0%）	**41名（19.4%）**	**47名（21.0%）**	**110名（20.1%）**
その他	60名（4.9%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	4名（3.1%）	9名（4.3%）	8名（3.6%）	38名（6.9%）

表２－５０．手話を教わった場所（年代別）※複数回答

場所	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
家庭	88名 (7.1%)	**2名（18.2%）**	**18名（22.2%）**	15名（11.5%）	19名（9.0%）	7名（3.1%）	25名（4.6%）
ろう学校	754名 (61.0%)	**8名（72.7%）**	**59名（72.8%）**	79名（61.1%）	124名（58.8%）	135名（60.3%）	333名（60.8%）
普通学校	6名 (0.5%)	0名（0.0%）	1名（1.2%）	1名（0.8%）	3名（1.4%）	0名（0.0%）	1名（0.2%）
手話サークル	299名 (24.2%)	2名（18.2%）	12名（14.8%）	33名（25.2%）	59名（28.0%）	60名（26.8%）	126名（23.0%）
その他	101名 (8.2%)	0名（0.0%）	7名（8.6%）	16名（12.2%）	25名（11.8%）	20名（8.9%）	28名（5.1%）

＜その他＞　１０１名

・難聴児通園施設（みやこ園）　・寄宿舎　・手話講座　・大学/専門学校　・会社/職場
・講習会（難聴手話講習会）　・作業所　・修道院　・ペンギン　たけのこ会
・名身連聴覚言語障害者情報文化センター
・聴覚障害者協会（小牧市中途失聴者協会・愛知県難聴者協会・ろうあ協会）
・聴覚障害者団体（東海ろう学生懇談会・愛知盲ろう者友の会・聴覚障害児をもつ親の会・難聴者団体）
・スポーツを通して（部活動など）
・聞こえない人との関わり（聞こえない友人・先輩・イベントなど）
・テレビ（手話の番組）　・ろう学校の友達と通学手段が同じ
・総合体育館　・社会人の先輩　・独学

表２－５１．手話を教えてくれた人（年代別）　※複数回答

	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
親	98名（7.2%）	**5名（45.5%）**	**25名（30.9%）**	18名（13.7%）	19名（9.0%）	10名（4.5%）	19名（3.5%）
祖父・祖母	10名（0.8%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（1.5%）	2名（0.9%）	1名（0.4%）	5名（0.9%）
きょうだい	52名（4.2%）	0名（0.0%）	3名（3.7%）	4名（3.1%）	7名（3.3%）	7名（3.1%）	31名（5.7%）
親戚	12名（1.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	6名（2.8%）	2名（0.9%）	4名（0.7%）
きこえない友達	714名（57.7%）	5名（45.5%）	34名（42.0%）	79名（60.3%）	**145名（68.7%）**	144名（64.3%）	296名（54.0%）
きこえる友達	55名（4.4%）	1名（9.1%）	3名（3.7%）	5名（3.8%）	7名（3.3%）	12名（5.4%）	27名（4.9%）
ろう学校の先生	224名（18.1%）	**6名（54.5%）**	**48名（59.3%）**	**49名（37.4%）**	32名（15.2%）	21名（9.4%）	65名（11.9%）
普通学校の先生	12名（1.0%）	1名（9.1%）	2名（2.5%）	2名（1.5%）	2名（0.9%）	2名（0.9%）	2名（0.4%）
手話サークルの仲間	255名（20.6%）	1名（9.1%）	11名（13.6%）	29名（22.1%）	50名（23.7%）	44名（19.7%）	111名（20.3%）
その他	84名（6.8%）	0名（0.0%）	10名（12.3%）	3名（2.3%）	13名（6.2%）	13名（5.8%）	39名（7.1%）

＜その他＞　８４名

・講師（手話講座・手話サークル）
・先生（難聴児通園施設・寄宿舎）
・先輩（ろう学校・職場）
・友人
・配偶者
・職場の人
・手話通訳士
・シスター
・NHK みんなの手話（テレビ番組）
・本

表２－５２．通っていた施設や学校（年代別）　※複数回答

施設や学校	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．ろう（特別支援）学校幼稚部	514名（41.6%）	7名（63.6%）	61名（75.3%）	83名（63.4%）	141名（66.8%）	112名（50.0%）	97名（17.7%）
２．ろう（特別支援）学校小学部	737名（59.6%）	6名（54.5%）	54名（66.7%）	64名（48.9%）	116名（55.0%）	139名（62.1%）	345名（63.0%）
３．ろう（特別支援）学校中学部	732名（59.2%）	7名（63.6%）	60名（74.1%）	68名（51.9%）	122名（57.8%）	139名（62.1%）	323名（58.9%）
４．ろう（特別支援）学校高等部	751名（60.7%）	6名（54.5%）	65名（80.2%）	82名（62.6%）	144名（68.2%）	149名（66.5%）	290名（52.9%）
５．ろう（特別支援）学校専攻科	400名（32.3%）	2名（18.2%）	12名（14.8%）	27名（20.6%）	65名（30.8%）	100名（44.6%）	184名（33.6%）
６．養護（特別支援）学校	5名（0.4%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	1名（0.8%）	0名（0.0%）	1名（0.4%）	1名（0.2%）
７．保育園	126名（10.2%）	2名（18.2%）	24名（29.6%）	24名（18.3%）	37名（17.5%）	22名（9.8%）	14名（2.6%）
８．健聴（普通）幼稚園	158名（12.8%）	0名（0.0%）	15名（18.5%）	**34名（26.0%）**	34名（16.1%）	37名（16.5%）	32名（5.8%）
９．福祉型児童発達センター（難聴用児通園施設）	13名（1.1%）	0名（0.0%）	5名（6.2%）	6名（4.6%）	1名（0.5%）	1名（0.4%）	0名（0.0%）
１０．健聴（普通）小学校	329名（26.6%）	1名（9.1%）	29名（35.8%）	**56名（42.7%）**	77名（36.5%）	63名（28.3%）	92名（16.8%）
１１．健聴（普通）中学校	285名（23.0%）	1名（9.1%）	22名（27.2%）	**53名（40.5%）**	65名（30.8%）	54名（24.1%）	81名（14.8%）
１２．難聴学級（小学・中学）	71名（5.7%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	**26名（19.8%）**	24名（11.4%）	17名（7.6%）	2名（0.4%）
１３．知的障害学級（小学・中学）	6名（0.5%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	0名（0.0%）	1名（0.5%）	0名（0.0%）	3名（0.5%）
１４．情緒障害学級・自閉症学級（小学・中学）	1名（0.1%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
１５．きこえとことばの教室（通級指導教室）	43名（3.5%）	1名（9.1%）	8名（9.9%）	**15名（11.5%）**	9名（4.3%）	7名（3.1%）	1名（0.2%）
１６．健聴（普通）高校	225名（18.2%）	1名（9.1%）	12名（14.8%）	**39名（29.8%）**	49名（23.2%）	49名（21.9%）	68名（12.4%）
１７．中学校専修・専門学校	45名（3.6%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	8名（6.1%）	15名（7.1%）	13名（5.8%）	5名（0.9%）
１８．短期大学	45名（3.6%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	12名（9.2%）	14名（6.6%）	4名（1.8%）	14名（2.6%）
１９．大学	95名（7.7%）	**2名（18.2%）**	**27名（33.3%）**	**29名（22.1%）**	16名（7.6%）	13名（5.8%）	6名（1.1%）
２０．筑波技術大学（前・筑波技術短期大学）	14名（1.1%）	1名（9.1%）	1名（1.2%）	3名（2.3%）	8名（3.8%）	0名（0.0%）	1名（0.2%）
２１．学校にはいっていない。	16名（1.3%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（0.5%）	0名（0.0%）	15名（2.7%）
２２．その他	32名（2.6%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	3名（2.3%）	6名（2.8%）	9名（4.0%）	13名（2.4%）

＜その他＞　３２名

・国立リハビリセンター　・戦争の為小学４年生で中退　・愛知小児医療センター　・盲学校
・光道園　・高校卒業後パソコンの職業訓練校　・名古屋市総合リハビリセンター　・保健センター
・障害者職業訓練校三河一宮　・国立吉備高原職業リハビリテーションセンター(訓練校)
・５年制女学校　・和裁学院　・洋裁学院　・ギャローデット大学　・メリーランド大学ボルチモア校
・昔の国民学校　・国立リハビリテーションセンター学院

表２－５３．現在の主な仕事（年代別）

主な仕事	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．公務員	13名 (1.1%)	0名 (0.0%)	4名 (4.9%)	3名 (2.3%)	1名 (0.5%)	2名 (0.9%)	3名 (0.5%)
２．会社員	429名 (34.7%)	2名 (18.2%)	**41名 (50.6%)**	**85名 (64.9%)**	**123名 (58.3%)**	**114名 (50.9%)**	56名 (10.2%)
３．自営業	54名 (4.4%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	1名 (0.8%)	2名 (0.9%)	11名 (4.9%)	34名 (6.2%)
４．内職	15名 (1.2%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.8%)	2名 (0.9%)	1名 (0.4%)	10名 (1.8%)
５．福祉作業所（就労継続支援Ａ型・就労継続支援Ｂ型等）	71名 (5.7%)	1名 (9.1%)	11名 (13.6%)	8名 (6.1%)	15名 (7.1%)	16名 (7.1%)	20名 (3.6%)
６．法人職員	28名 (2.3%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	1名 (0.8%)	12名 (5.7%)	6名 (2.7%)	7名 (1.3%)
７．その他	118名 (9.5%)	1名 (9.1%)	4名 (4.9%)	12名 (9.2%)	23名 (10.9%)	28名 (12.5%)	47名 (8.6%)
８．今は仕事をしていない	464名 (37.5%)	1名 (9.1%)	14名 (17.3%)	20名 (15.3%)	32名 (15.2%)	41名 (18.3%)	**345名 (63.0%)**
９．働いたことがない	35名 (2.8%)	4名 (36.4%)	5名 (6.2%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	7名 (3.1%)	18名 (3.3%)

＜その他＞　１１８名

・介護施設職員/ヘルパー　・送迎運転手　・清掃員　・農家　・理容師　・美容師アシスタント
・講師　・専門職　・事務職　・学校職員　・保育士　・建築大工　・土木作業員　・調理員
・聖職者　・コンビニ店員　・町身体障碍者福祉協会　・パート/アルバイト/派遣会社員/嘱託員

表２－５４．仕事の身分（年代別）

仕事の身分	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
１．正規職員	371名 (30.0%)	2名 (18.2%)	**45名 (55.6%)**	**79名 (60.3%)**	**105名 (49.8%)**	**96名 (42.9%)**	36名 (6.6%)
２．非正規職員（嘱託・契約・派遣・パート・アルバイト等）	250名 (20.2%)	1名 (9.1%)	**7名 (8.6%)**	23名 (17.6%)	66名 (31.3%)	63名 (28.1%)	85名 (15.5%)
３．分からない	22名 (1.8%)	1名 (9.1%)	3名 (3.7%)	2名 (1.5%)	3名 (1.4%)	3名 (1.3%)	7名 (1.3%)
４．その他	51名 (4.1%)	0名 (0.0%)	6名 (7.4%)	4名(3.1%)	5名 (2.4%)	9名 (4.0%)	26名 (4.7%)

＜その他＞　５１名

・自営業・家業　・経営者　・オーナー　・農家　・技能職（歯科技工士）　・理容師
・福祉就労・福祉作業所作業員　・フリーランス　・就労移行支援助で勉強中　・お手伝い
・ハローワーク　・社内内職　・専業主（?）

表２－５５．表２－５３の「８．今は仕事をしていない」「９．働いたことがない」と回答した理由（年代別）※複数回答

仕事をしていない等の理由	全体（1237名）	10代（11名）	20代（81名）	30代（131名）	40代（211名）	50代（224名）	60代以上（548名）
１．主婦	196名 (15.8%)	0名 (0.0%)	5名 (6.2%)	19名 (14.5%)	24名 (11.4%)	35名 (15.6%)	106名 (19.3%)
２．育児、介護のため	45名 (3.6%)	0名 (0.0%)	4名 (4.9%)	11名 (8.4%)	12名 (5.7%)	6名 (2.7%)	10名 (1.8%)
３．定年のため	153名 (12.4%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	3名 (1.4%)	4名 (1.8%)	**145名 (26.5%)**
４．老齢のため	132名 (10.7%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.8%)	0名 (0.0%)	1名 (0.4%)	**126名 (23.0%)**
５．障害のため	42名 (3.4%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	3名 (2.3%)	3名 (1.4%)	5名 (2.2%)	**30名 (5.5%)**
６．病気のため	40名 (3.2%)	0名 (0.0%)	2名 (2.5%)	1名 (0.8%)	5名 (2.4%)	8名 (3.6%)	24名 (4.4%)
７．入退院を繰り返したため	8名 (0.6%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (1.5%)	0名 (0.0%)	3名 (1.3%)	3名 (0.5%)
８．親などの身内に反対されたため	4名 (0.3%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (0.9%)	0名 (0.0%)	2名 (0.4%)
９．解雇されたため	5名 (0.4%)	1名 (9.1%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (0.9%)	2名 (0.4%)
１０．倒産されたため	13名 (1.1%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.5%)	2名 (0.9%)	10名 (1.8%)
１１．仕事が見つからなかったため	18名 (1.5%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	4名 (1.9%)	2名 (0.9%)	11名 (2.0%)
１２．学校に通うため（学生）	16名 (1.3%)	4名 (36.4%)	12名 (14.8%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
１３．働きたくない	8名 (0.6%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (0.9%)	5名 (0.9%)
１４．分からない	7名 (0.6%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.5%)	2名 (0.9%)	4名 (0.7%)
１５．その他	26名 (2.1%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	1名 (0.8%)	3名 (1.4%)	5名 (2.2%)	16名 (2.9%)

＜その他＞　２６名

・求職中
・廃業のため
・早期退職制度の利用
・結婚後、自営業の手伝いのため
・仕事が合わず
・電話対応が難しくなり退社
・体力的に限界
・やりたいことをやるため
・自営業をしていたが、世代交代のため
・政治活動のため
・引っ越ししたばかり
・怪我のため
・左足が不自由なため
・特に意味はない
・50歳のときに働いたが一年足らずにやめた

表２－５６．今、仕事で困っていること、不自由に感じていることや悩んでいること（年代別）　※複数回答

仕事で困っていることの内容	全体（1237名）	10代（11名）	20代（81名）	30代（131名）	40代（211名）	50代（224名）	60代以上（548名）
１．聴覚障害や聞こえにくいことの理解が乏しく働きやすい環境が整っていない	**257名（20.8%）**	2名（18.2%）	18名（22.2%）	**49名（37.4%）**	65名（30.8%）	56名（25.0%）	57名（10.4%）
２．今の仕事を続けられるかどうか心配である	**160名（12.9%）**	0名（0.0%）	18名（22.2%）	**31名（23.7%）**	46名（21.8%）	37名（16.5%）	22名（4.0%）
３．職位が上がらない、昇任できない	**123名（9.9%）**	0名（0.0%）	8名（9.9%）	**26名（19.8%）**	32名（15.2%）	37名（16.5%）	15名（2.7%）
４．同じ能力でも聴こえる人が評価される	116名（9.4%）	0名（0.0%）	5名（6.2%）	20名（15.3%）	33名（15.6%）	38名（17.0%）	15名（2.7%）
５．職場で評価されない	71名（5.7%）	0名（0.0%）	4名（4.9%）	13名（9.9%）	20名（9.5%）	23名（10.3%）	8名（1.5%）
６．リストラや失業の不安がある	42名（3.4%）	0名（0.0%）	4名（4.9%）	3名（2.3%）	12名（5.7%）	11名（4.9%）	9名（1.6%）
７．仕事や作業でもらえる給料（工賃）が低い	115名（9.5%）	0名（0.0%）	13名（16.0%）	18名（13.7%）	23名（10.9%）	28名（12.5%）	27名（4.9%）
８．自分の希望するような仕事や職場や施設がない・見つからない	71名（5.9%）	0名（0.0%）	5名（6.2%）	6名（4.6%）	22名（10.4%）	21名（9.4%）	14名（2.6%）
９．障害者の雇用を相談する部署や人がいない	140名（11.3%）	0名（0.0%）	14名（17.3%）	25名（19.1%）	43名（20.4%）	35名（15.6%）	19名（3.5%）
１０．まわりの人たちと話が通じにくいために仕事や作業がうまくいかないことがある	**196名（15.8%）**	**4名（36.4%）**	**19名（23.5%）**	31名（23.7%）	49名（23.2%）	52名（23.2%）	35名（6.4%）
１１．いつまでも非常勤や嘱託で、正規の社員として雇ってくれない	29名（2.3%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	3名（2.3%）	9名（4.3%）	12名（5.4%）	2名（ 0.4%）
１２．労働時間や作業時間が長い、不規則である	52名（4.2%）	0名（0.0%）	4名（4.9%）	11名（8.4%）	10名（4.7%）	17名（7.6%）	10名（ 1.8%）
１３．自分に合っていない内容の仕事や作業をさせられる	52名（4.2%）	0名（0.0%）	5名（6.2%）	7名（5.3%）	16名（7.6%）	12名（5.4%）	9名（ 1.6%）
１４．職場や施設でいじめや差別がある	70名（5.7%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	8名（6.1%）	17名（8.1%）	27名（12.1%）	15名（2.7%）
１５．特にない	236名（19.1%）	1名（9.1%）	18名（22.2%）	22名（16.8%）	48名（22.7%）	44名（19.6%）	101名（18.4%）
１６．その他	53名（4.3%）	0名（0.0%）	6名（7.4%）	6名（4.6%）	5名（2.4%）	17名（7.6%）	17名（3.1%）

＜その他＞　５３名

・人間関係がうまくいかない・孤独感　・同障者が一人もいない　・電話対応ができない　・休みがとりにくい
・健聴者とのコミュニケーションが難しい（同僚・先輩・お客さん）ため、情報が伝わらず困る　・体力的に大変
・サービスを利用しにくい（例：電話サービス/通訳費が高額）　・配慮してもらえない（例：マスクをしたままの会話）
・情報補償してもらえない（例：会議や朝礼、放送の内容がわからない/不十分な筆談/通訳を依頼するも断られる）
・同じ身体障碍者に見下される　・手話を覚えてもらえない　・ろう重複障害者が働く場所が少ない　・職場が遠い
・機械の雑音で聞き取りにくい　・希望する仕事ができない　・長時間働きたいが、仕事がないと帰らされる

表２－５７．現在の住まい（年代別）

住まいの種類	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．一戸建ての持ち家	799名 (64.6%)	**8名 (72.8%)**	**43名 (53.1%)**	**65名 (49.6%)**	150名 (71.1%)	144名 (64.3%)	370名 (67.5%)
２．分譲マンション	125名 (10.1%)	0名 (0.0%)	7名 (8.6%)	17名 (13.0%)	16名 (7.6%)	39名 (17.4%)	42名 (7.7%)
３．民間借家、民間アパート、民間マンション	151名 (12.2%)	1名 (9.1%)	**24名 (29.6%)**	**38名 (29.0%)**	32名 (15.2%)	22名 (9.8%)	32名 (5.8%)
４．県営・市営・公団の賃貸借家	108名 (8.7%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	4名 (3.1%)	5名 (2.4%)	15名 (6.7%)	81名 (14.8%)
５．社宅、寮	18名 (1.5%)	1名 (9.1%)	7名 (8.6%)	5名 (3.8%)	2名 (0.9%)	2名 (0.9%)	1名 (0.2%)
６．グループホームやケアホーム、福祉ホーム	5名 (0.4%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	3名 (2.3%)	1名 (0.5%)	0名 (0.0%)	1名 (0.2%)
７．入所型の施設	4名 (0.3%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0,0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	4名 (0.7%)
８．その他	11名 (0.9%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	0名 (0.0%)	2名 (0.9%)	0名 (0.0%)	7名 (1.3%)

＜その他＞　１１名

・実家　　・家族・親戚の家　　・親の持ち家を相続

表２－５８．日頃の近所の人たちとの関わり（年代別）

	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．つき合いはない	177名 (14.3%)	1名 (9.1%)	13名 (16.0%)	29名 (22.1%)	24名 (11.4%)	28名 (12.5%)	77名 (14.1%)
２．あいさつする程度	958名 (77.4%)	**9名 (81.9%)**	67名 (82.7%)	99名 (75.6%)	173名 (82.0%)	184名 (82.1%)	400名 (73.0%)
３．くらしや地域のことで話し合っている	173名 (14.0%)	**0名 (0.0%)**	**2名 (2.5%)**	12名 (9.2%)	29名 (13.7%)	32名 (14.3%)	97名 (17.7%)
４．困りごとや悩みを相談し合う	59名 (4.8%)	**0名 (0.0%)**	**1名 (1.2%)**	4名 (3.1%)	14名 (6.6%)	15名 (6.7%)	22名 (4.0%)
５．その他	48名 (3.9%)	0名 (0.0%)	3名 (3.7%)	4名 (3.1%)	8名 (3.8%)	6名 (2.7%)	23名 (4.2%)

＜その他＞　４８名

・マンション組合集会（防災訓練やイベントへの参加）
・学区内の地域活動（回覧板・清掃活動・市内大会・広報の配布・老人会・グランドゴルフ）
・近所の人は理解してくれる（例：手話で話してくれる/親友がいる/災害時に呼びに来てもらえるよう依頼）
・お土産を渡す仲　　・一緒に買い物に行く仲　　・メールをする仲（何かあると教えてくれる）
・限定された付き合い（管理人・組長・隣人・子どもの同級生の母）　　・近所に家がない
・隣に親が住んでいる　　・転居して間もないため話すことがない　　・付き合いがなく、孤独
・区と村の付き合い　　・人工内耳友の会 ACITA 東海支部　　・名古屋難聴者・中途失聴者支援協会
・ほっとくると相談　　・親の兄弟、いとこ　　・サークル仲間

表２－５９．地域の活動・集まりへの参加　※複数回答

活動・集まり	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	658名 (54.3%)	0名 (0.0%)	30名 (37.0%)	54名 (41.5%)	**119名** **(56.4%)**	**134名** **(59.8%)**	**301名** **(54.9%)**
２．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	387名 (31.9%)	0名 (0.0%)	14名 (17.3%)	21名 (16.2%)	58名 (27.5%)	75名 (33.5%)	209名 (38.1%)
３．手話サークル	668名 (55.1%)	2名 (18.2%)	33名 (40.7%)	56名 (43.1%)	**125名** **(59.2%)**	**117名** **(52.2%)**	**316名** **(57.7%)**
４．要約筆記サークル	104名 (8.6%)	0名 (0.0%)	3名 (3.7%)	8名 (6.2%)	12名 (5.7%)	19名 (8.5%)	59名 (10.8%)
５．自治会（町内会）の行事の活動	337名 (27.8%)	2名 (18.2%)	9名 (11.1%)	33名 (25.4%)	85名 (40.3%)	60名 (26.8%)	142名 (25.9%)
６．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	164名 (13.5%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	26名 (20.0%)	74名 (35.1%)	31名 (13.8%)	26名 (4.7%)
７．老人クラブ	89名 (7.3%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	6名 (4.6%)	9名 (4.3%)	7名 (3.1%)	64名 (11.7%)
８．地域のスポーツ活動	172名 (14.2%)	2名 (18.2%)	6名 (7.4%)	20名 (15.4%)	38名 (18.0%)	26名 (11.6%)	75名 (13.7%)
９．地域の趣味、娯楽の集まり	200名 (16.5%)	0名 (0.0%)	8名 (9.9%)	21名 (16.2%)	36名 (17.1%)	31名 (13.8%)	99名 (18.1%)
１０．作業所や施設のボランティア	118名 (9.7%)	1名 (9.1%)	10名 (12.3%)	17名 (13.1%)	24名 (11.4%)	19名 (8.5%)	43名 (7.8%)
１１．その他	75名 (6.2%)	0名 (0.0%)	3名 (3.7%)	4名 (3.2%)	11名 (5.2%)	13名 (5.8%)	42名 (7.7%)
１２．参加していない	173名 (14.3%)	4名 (36.4%)	26名 (32.1%)	32名 (24.6%)	17名 (8.1%)	24名 (10.7%)	66名 (12.0%)
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	112名 (9.2%)	1名 (9.1%)	3名 (3.7%)	10名 (7.7%)	23名 (10.9%)	31名 (13.8%)	59名 (10.8%)

＜その他＞　７５名

・聴覚障害者支援事業所（ほっとくる・笑おう舎）　・デイサービス（瑞光の里・あじさいの会）
・元気になろう会　・地域の活動（花火おやじの会・草取り）　・地域のボランティア（IPC クラブ）
・会社のサークル　・聴覚障害者との交流（難聴者の集い・新光会）　・ろう者と聴者との交流会
・給食会「敬老会」　・健康教室「敬老会」　・日本網膜色素変性症協会
・スポーツ（聾学校の部活動・障害者スポーツ大会）　・学校の手話クラブ　・子どもの行事
・手話学習講座　・福祉実践教室　・ボールペン画　・手作り料理　・ガールスカウト
・学童保育所　・トレーニング　・絵画教室　・友人　・講演会　・趣味の写真の会
・習い事　・手話の会教（？）　・拠点聴覚障害者（？）

表２－６０．地域の活動・集まりへの参加（１０代・１１名）※複数回答

活動・集まり	全体（11名）	1．よく参加する	2．月1、2回	3．年数回程度	4．その他
１．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
２．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
３．手話サークル	2名（18.2%）	1名（9.1%）	0名（0.0%）	1名（9.1%）	0名（0.0%）
４．要約筆記サークル	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
５．自治会（町内会）の行事の活動	2名（18.2%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（18.2%）	0名（0.0%）
６．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
７．老人クラブ	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
８．地域のスポーツ活動	2名（18.2%）	0名（0.0%）	1名（9.1%）	1名（9.1%）	0名（0.0%）
９．地域の趣味、娯楽の集まり	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
１０．作業所や施設のボランティア	1名（9.1%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（9.1%）	0名（0.0%）
１１．その他	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
１２．参加していない	4名（36.4%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	1名（9.1%）	—			

表２－６１．地域の活動・集まりへの参加（２０代・８１名）※複数回答

活動・集まり	全体（81名）	1．よく参加する	2．月1、2回	3．年数回程度	4．その他
１．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	30名（37.0%）	3名（3.7%）	6名（7.4%）	19名（23.5%）	2名（2.5%）
２．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	14名（17.3%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	12名（14.8%）	1名（1.2%）
３．手話サークル	33名（40.7%）	10名（12.3%）	10名（12.3%）	12名（14.8%）	1名（1.2%）
４．要約筆記サークル	3名（3.7%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	1名（1.2%）
５．自治会（町内会）の行事の活動	9名（11.1%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	8名（9.9%）	1名（1.2%）
６．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	1名（1.2%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）
７．老人クラブ	1名（1.2%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）
８．地域のスポーツ活動	6名（7.4%）	2名（2.5%）	1名（1.2%）	3名（3.7%）	0名（0.0%）
９．地域の趣味、娯楽の集まり	8名（9.9%）	1名（1.2%）	3名（3.7%）	3名（3,7%）	1名（1.2%）
１０．作業所や施設のボランティア	10名（12.3%）	1名（1.2%）	1名（1.2%）	6名（7.4%）	2名（2.5%）
１１．その他	3名（3.7%）	1名（1.2%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	1名（1.2%）
１２．参加していない	26名（32.1%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	3名（3.7%）	—			

表２－６２．地域の活動・集まりへの参加（３０代・１３１名）※複数回答

活動・集まり	全体（131名）	1．よく参加する	2．月1、2回	3．年数回程度	4．その他
1．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	55名（42.0%）	12名（9.2%）	14名（10.7%）	26名（19.8%）	2名（1.5%）
2．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	22名（16.8%）	3名（2.3%）	5名（3.8%）	9名（6.9%）	5名（3.8%）
3．手話サークル	57名（43.5%）	12名（9.2%）	21名（16.0%）	21名（16.0%）	3名（2.3%）
4．要約筆記サークル	8名（6.1%）	1名（0.8%）	1名（0.8%）	3名（2.3%）	3名（2.3%）
5．自治会（町内会）の行事の活動	34名（26.0%）	3名（2.3%）	5名（3.8%）	24名（18.3%）	2名（1.5%）
6．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	27名（20.6%）	8名（6.1%）	1名（0.8%）	17名（13.0%）	0名（0.0%）
7．老人クラブ	6名（4.6%）	0名（0.0%）	2名（1.5%）	1名（0.8%）	3名（2.3%）
8．地域のスポーツ活動	20名（15.3%）	4名（3.1%）	6名（4.6%）	9名（6.9%）	1名（0.8%）
9．地域の趣味、娯楽の集まり	21名（16.0%）	3名（2.3%）	6名（4.6%）	9名（6.9%）	3名（2.3%）
１０．作業所や施設のボランティア	17名（13.0%）	3名（2.3%）	3名（2.3%）	8名（6.1%）	3名（2.3%）
１１．その他	4名（3.1%）	3名（2.3%）	1名（0.8%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
１２．参加していない	32名（24.4%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	10名（7.6%）	—			

表２－６３．地域の活動・集まりへの参加（４０代・２１１名）※複数回答

活動・集まり	全体（211名）	1．よく参加する	2．月1、2回	3．年数回程度	4．その他
1．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	119名（56.4%）	24名（11.4%）	32名（15.2%）	60名（28.4%）	2名（0.9%）
2．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	58名（27.5%）	7名（3.3%）	11名（5.2%）	36名（17.1%）	4名（1.9%）
3．手話サークル	125名（59.2%）	40名（19.0%）	31名（14.7%）	47名（22.3%）	6名（2.8%）
4．要約筆記サークル	12名（5.7%）	1名（0.5%）	2名（0.9%）	7名（3.3%）	2名（0.9%）
5．自治会（町内会）の行事の活動	85名（40.3%）	10名（4.7%）	7名（3.3%）	63名（29.9%）	5名（2.4%）
6．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	74名（35.1%）	16名（7.6%）	13名（6.2%）	39名（18.5%）	6名（2.8%）
7．老人クラブ	9名（4.3%）	2名（0.9%）	3名（1.4%）	0名（0.0%）	4名（1.9%）
8．地域のスポーツ活動	38名（18.0%）	10名（4.7%）	10名（4.7%）	11名（5.2%）	7名（3.3%）
9．地域の趣味、娯楽の集まり	36名（17.1%）	4名（1.9%）	8名（3.8%）	19名（9.0%）	5名（2.4%）
１０．作業所や施設のボランティア	24名（11.4%）	1名（0.5%）	3名（1.4%）	13名（6.2%）	7名（3.3%）
１１．その他	11名（5.2%）	3名（1.4%）	4名（1.9%）	3名（1.4%）	1名（0.5%）
１２．参加していない	17名（8.1%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	23名（10.9%）	—			

表２－６４．地域の活動・集まりへの参加（５０代・２２４名）※複数回答

活動・集まり	全体（224名）	1．よく参加する	2．月1、2回	3．年数回程度	4．その他
1．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	134名（59.8%）	37名（16.5%）	28名（12.5%）	59名（26.3%）	7名（3.1%）
2．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	75名（33.5%）	6名（2.7%）	16名（7.1%）	46名（20.5%）	6名（2.7%）
3．手話サークル	117名（52.2%）	53名（23.7%）	25名（11.2%）	35名（15.6%）	3名（1.3%）
4．要約筆記サークル	19名（8.5%）	4名（1.8%）	4名（1.8%）	7名（3.1%）	4名（1.8%）
5．自治会（町内会）の行事の活動	60名（26.8%）	6名（2.7%）	8名（3.6%）	39名（17.4%）	7名（3.1%）
6．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	31名（13.8%）	9名（4.0%）	3名（1.3%）	13名（5.8%）	5名（2.2%）
7．老人クラブ	7名（3.1%）	1名（0.4%）	1名（0.4%）	1名（0.4%）	4名（1.8%）
8．地域のスポーツ活動	26名（11.6%）	6名（2.7%）	7名（3.1%）	8名（3.6%）	4名（1.8%）
9．地域の趣味、娯楽の集まり	31名（13.8%）	7名（3.1%）	8名（3.6%）	11名（4.9%）	4名（1.8%）
１０．作業所や施設のボランティア	19名（8.5%）	3名（1.3%）	3名（1,3%）	9名（4.0%）	4名（1.8%）
１１．その他	13名（5.8%）	5名（2.2%）	4名（1.8%）	3名（1.3%）	0名（0.0%）
１２．参加していない	24名（10.7%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	31名（13.8%）	—			

表２－６５．地域の活動・集まりへの参加（６０代以上・５４８名）※複数回答

活動・集まり	全体（548名）	1．よく参加する	2．月1、2回	3．年数回程度	4．その他
1．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	301名（54.9%）	103名（18.8%）	79名（14.4%）	98名（17.9%）	9名（1.6%）
2．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	209名（38.1%）	41名（7.5%）	46名（8.4%）	109名（19.9%）	11名（2.0%）
3．手話サークル	316名（57.7%）	184名（33.6%）	69名（12.6%）	50名（9.1%）	10名（1.8%）
4．要約筆記サークル	59名（10.8%）	21名（3.8%）	19名（3.5%）	11名（2.0%）	7名（1.3%）
5．自治会（町内会）の行事の活動	142名（25.9%）	23名（4.2%）	25名（4.6%）	82名（15.0%）	9名（1.6%）
6．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	26名（4.7%）	7名（1.3%）	1名（0.2%）	15名（2.7%）	3名（0.5%）
7．老人クラブ	64名（11.7%）	19名（3.5%）	15名（2.7%）	26名（4.7%）	3名（0.5%）
8．地域のスポーツ活動	75名（13.7%）	25名（4.6%）	20名（3.6%）	24名（4.4%）	6名（1.1%）
9．地域の趣味、娯楽の集まり	99名（18.1%）	21名（3.8%）	33名（6.0%）	39名（7.1%）	5名（0.9%）
１０．作業所や施設のボランティア	43名（7.8%）	4名（0.7%）	13名（2.4%）	22名（4.0%）	4名（0.7%）
１１．その他	42名（7.7%）	7名（1.3%）	18名（3.3%）	11名（2.0%）	2名（0.4%）
１２．参加していない	66名（12.0%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	59名（10.8%）	—			

表２－６６．表２－５９の質問で「１２．参加していない」「１３．今は参加していない」の回答の理由（年代別）※複数回答

	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．案内や情報がない	78名（6.3%）	0名（0.0%）	14名（17.3%）	11名（8.4%）	13名（6.2%）	13名（5.8%）	24名（4.4%）
２．案内の内容が分からない	33名（2.7%）	1名（9.1%）	2名（2.5%）	4名（3.1%）	3名（1.4%）	6名（2.7%）	16名（2.9%）
３．家族が反対する	5名（0.4%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	0名（0.0%）	3名（1.4%）	1名（0.4%）	0名（0.0%）
４．健康に不安がある	32名（2.6%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	3名（2.3%）	2名（0.9%）	4名（1.8%）	21名（3.8%）
５．参加費が出せない	24名（1.9%）	0名（0.0%）	4名（4.9%）	0名（0.0%）	1名（0.9%）	7名（3.1%）	12名（2.2%）
６．誘われない	35名（2.8%）	1名（9.1%）	6名（7.4%）	3名（2.3%）	3名（1.4%）	3名（1.3%）	19名（3.5%）
７．興味がない	110名（8.9%）	**2名（18.2%）**	**14名（17.3%）**	**19名（14.5%）**	14名（6.6%）	17名（7.6%）	41名（7.5%）
８．身近な地域に参加したいものがない	38名（3.1%）	0名（0.0%）	7名（8.6%）	4名（3.1%）	8名（3.8%）	2名（0.9%）	17名（3.1%）
９．場所が遠い	69名（5.6%）	0名（0.0%）	5名（6.2%）	8名（6.1%）	6名（2.8%）	13名（5.8%）	36名（6.6%）
１０．時間がない	123名（9.9%）	**2名（18.2%）**	**13名（16.0%）**	**21名（16.0%）**	25名（11.8%）	24名（10.7%）	38名（6.9%）
１１．手話や要約筆記等の情報保障の依頼方法が分からない	17名（1.4%）	0名（0.0%）	4名（4.9%）	1名（0.8%）	1名（0.5%）	3名（1.3%）	7名（1.3%）
１２．手話や要約筆記等の情報保障の依頼が面倒である	18名（1.5%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	3名（2.3%）	4名（1.9%）	1名（0.4%）	8名（1.5%）
１３．手話や要約筆記等の情報保障がされていない	31名（2.5%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	3名（2.3%）	2名（0.9%）	8名（3.6%）	16名（2.9%）
１４．その他	59名（4.8%）	2名（18.2%）	3名（3.7%）	3名（2.3%）	8名（3.8%）	9名（4.0%）	33名（6.0%）

＜その他＞　５９名

・仲の良い友達がいなくなった
・話すことがない・人見知り
・トラブルにより（人間関係）
・参加する必要性を感じない
・考え方の不一致（理解してもらえない）
・時間がない（ろう活動の都合・仕事・自分の趣味・子どもの習い事や行事優先）
・コミュニケ―ションに不安を感じる（情報補償があれば参加したい）
・他の障害により出かけられない（歩行など）
・体力の限界
・入院中
・高齢のため
・交通手段がない
・引っ越してきたばかりでわからない
・会員に加入していないため

表２－６７．健康状態で気になっていること（年代別）　※複数回答

主な仕事	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．よく眠れない	173名（14.0%）	1名（9.1%）	11名（13.6%）	12名（9.2%）	21名（10.0%）	33名（14.7%）	88名（16.1%）
２．疲れやすい	445名（36.0%）	1名（9.1%）	28名（34.6%）	50名（38.2%）	85名（40.3%）	89名（39.7%）	178名（32.5%）
３．肩、首すじが凝る	366名（29.6%）	1名（9.1%）	19名（23.5%）	47名（35.9%）	70名（33.2%）	81名（36.2%）	138名（25.2%）
４．背中や腰が痛い、だるい	352名（28.5%）	2名（18.2%）	8名（9.9%）	25名（19.1%）	55名（26.1%）	69名（30.8%）	183名（33.4%）
５．腕や手や足がだるい	155名（12.5%）	0名(0.0%)	4名（4.9%）	15名（11.5%）	20名（9.5%）	26名（11.6%）	87名（15.9%）
６．眼が疲れる	381名（30.8%）	0名（0.0%）	22名（27.2%）	37名（28.2%）	63名（29.9%）	79名（35.3%）	168名（30.7%）
７．物忘れをすることが多い	168名（13.6%）	0名（0.0%）	6名（7.4%）	15名（11.5%）	22名（10.4%）	26名（11.6%）	93名（17.0%）
８．歩いたり、身体を動かすことが少ない	146名（11.8%）	1名（9.1%）	9名（11.1%）	11名（8.4%）	18名（8.5%）	14名（6.3%）	87名（15.9%）
９．イライラすることが多い	183名（14.8%）	1名（9.1%）	15名（18.5%）	**32名（24.4%）**	34名（16.1%）	45名（20.1%）	52名（9.5%）
１０．落ち込むことがある	155名（12.5%）	0名（0.0%）	**22名（27.2%）**	21名（16.0%）	30名（14.2%）	28名（12.5%）	47名（8.6%）
１１．ささいなことが気になる	96名（7.8%）	0名（0.0%）	**14名（17.3%）**	12名（9.2%）	17名（8.1%）	22名（9.8%）	26名（4.7%）
１２．表情や笑顔が乏しい	54名（4.4%）	1名（9.1%）	3名（3.7%）	5名（3.8%）	4名（1.9%）	12名（5.4%）	26名（4.7%）
１３．薬を飲んでいる	468名（37.8%）	1名（9.1%）	13名（16.0%）	16名（12.2%）	43名（20.4%）	75名（33.5%）	**310名（56.6%）**
１４．医者に診てもらっている	500名（40.4%）	1名（9.1%）	12名（14.8%）	17名（13.0%）	51名（24.2%）	76名（33.9%）	**336名（61.3%）**
１５．何も気になることはない	156名（12.6%）	**5名（45.5%）**	**19名（23.5%）**	23名（17.6%）	33名（15.6%）	26名（11.6%）	47名（8.6%）
１６．分からない	21名（1.7%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	0名（0.0%）	5名（2.4%）	7名（3.1%）	7名（1.3%）
１７．その他	47名（3.8%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	6名（4.6%）	4名（1.9%）	8名（3.6%）	0名（0.0%）

＜その他＞　４７名

・聴力の低下　・聞き返しが多くうんざり　・視力の低下　・高血圧
・めまい・メニエール病　・喘息　・痛み（頭・肩・肘・手首・腰・足・膝）
・肝脂肪の数値が高い。血糖値少々高い。　・盲ろうになり、ストレスから過敏性胃腸炎に
・糖尿病　・歩行困難（脳疾患により）　・足のむくみ
・もともと痛む左足がこれ以上悪くならないか不安　・運動不足　・転倒が増えた
・手がこわばる　・便秘・お腹がゆるい　・食欲がない　・起床時の調子が悪い
・なにもしたくない　・よく眠れる　・時々、眠れない　・睡眠時間がバラバラ
・我慢することが多い　・時々イライラする　・将来のことを考えたりする
・隣人と合わない　・タバコは一時やめたが、最近時々吸う。　・気象症（？）

表２－６８．災害など、いざという時に頼りにする人（年代別）　※複数回答

	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．配偶者	498名 (40.3%)	0名 (0.0%)	12名 (14.8%)	**52名 (39.7%)**	**103名 (48.8%)**	**111名 (49.6%)**	**208名 (38.0%)**
２．親	369名 (29.8%)	**10名 (90.9%)**	**68名 (84.0%)**	**85名 (65.6%)**	**96名 (45.5%)**	**77名 (34.4%)**	22名 (4.0%)
３．兄弟姉妹	351名 (28.4%)	**7名 (63.7%)**	**41名 (50.6%)**	44名 (33.6%)	52名 (24.6%)	67名 (29.9%)	134名 (24.5%)
４．子ども	430名 (34.8%)	0名 (0.0%)	3名 (3.7%)	14名 (10.7%)	**76名 (36.0%)**	**97名 (43.3%)**	**225名 (41.2%)**
５．おじ、おば、いとこなどの親類	101名 (8.2%)	3名 (27.3%)	18名 (22.2%)	15名 (11.5%)	16名 (7.6%)	21名 (9.4%)	26名 (4.7%)
６．近所の知人	365名 (29.5%)	1名 (9.1%)	19名 (23.5%)	31名 (23.7%)	64名 (30.3%)	77名 (34.4%)	165名 (30.1%)
７．友達	318名 (25.7%)	**6名 (54.6%)**	**37名 (45.7%)**	**47名 (35.9%)**	66名 (31.3%)	65名 (29.0%)	92名 (16.8%)
８．職場の上司	170名 (13.7%)	2名 (18.2%)	**27名 (33.3%)**	**34名 (26.0%)**	**54名 (25.6%)**	38名 (17.0%)	14名 (2.6%)
９．職場の同僚	150名 (12.1%)	2名 (18.2%)	**21名 (25.9%)**	22名 (16.8%)	49名 (23.2%)	43名 (19.2%)	10名 (1.8%)
１０．自治会の役員・区長	69名 (5.6%)	1名 (9.1%)	2名 (2.5%)	2名 (1.5%)	14名 (6.6%)	10名 (4.5%)	39名 (7.1%)
１１．民生委員・児童委員	67名 (5.4%)	0名 (0.0%)	5名 (5.9%)	1名 (0.8%)	10名 (4.7%)	8名 (3.6%)	42名 (7.7%)
１２．加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の会員や役員	230名 (18.6%)	1名 (9.1%)	7名 (8.6%)	15名 (11.5%)	41名 (19.4%)	46名 (20.6%)	112名 (20.4%)
１３．手話や要約筆記サークルのメンバー	293名 (23.7%)	1名 (9.1%)	9名 (11.1%)	25名 (19.1%)	53名 (25.1%)	58名 (25.9%)	139名 (25.4%)
１４．福祉事務所の職員	65名 (5.3%)	0名 (0.0%)	2名 (2.5%)	4名 (3.1%)	8名 (3.8%)	13名 (5.8%)	37名 (6.8%)
１５．市役所・区役所の職員	106名 (8.6%)	0名 (0.0%)	6名 (7.4%)	12名 (9.2%)	19名 (9.0%)	19名 (8.5%)	47名 (8.6%)
１６．障害者相談事業所の職員	48名 (3.9%)	0名 (0.0%)	3名 (3.7%)	5名 (3.8%)	6名 (2.4%)	9名 (4.0%)	23名 (4.2%)
１７．かかりつけの医者	52名 (4.2%)	0名 (0.0%)	2名 (2.5%)	2名 (1.5%)	5名 (2.4%)	11名 (4.9%)	31名 (5.7%)
１８．看護師	19名 (1.5%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	1名 (0.8%)	3名 (1.4%)	3名 (1.3%)	11名 (2.0%)
１９．保健師	6名 (0.5%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	1名 (0.8%)	1名 (0.5%)	1名 (0.4%)	2名 (0.4%)
２０．幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士	5名 (0.4%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	3名 (2.3%)	1名 (0.5%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
２１．小学校・中学校・高校の先生	10名 (0.8%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	4名 (3.1%)	4名 (1.9%)	0名 (0.0%)	2名 (0.4%)
２２．ろう学校の先生	35名 (2.8%)	3名 (27.3%)	5名 (6.2%)	6名 (4.6%)	5名 (2.4%)	8名 (3.6%)	8名 (1.5%)
２３．手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者	266名 (21.5%)	0名 (0.0%)	8名 (9.9%)	23名 (17.6%)	41名 (19.4%)	59名 (26.3%)	129名 (23.5%)
２４．愛知県聴覚障害者協会の職員（事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる、笑おう舎）	133名 (10.8%)	0名 (0.0%)	3名 (3.7%)	11名 (8.4%)	23名 (10.9%)	30名 (13.4%)	63名 (11.5%)
２５．知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員	13名 (1.1%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (1.5%)	3名 (1.4%)	4名 (1.8%)	4名 (0.7%)
２６．NPOつくし職員	16名 (1.3%)	1名 (9.1%)	4名 (4.9%)	4名 (3.1%)	4名 (1.9%)	2名 (0.9%)	1名 (0.2%)
２７．福祉事業所・作業所の職員	23名 (1.9%)	1名 (9.1%)	2名 (2.5%)	2名 (1.5%)	4名 (1.9%)	4名 (1.8%)	10名 (1.8%)
２８．その他	23名 (1.9%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (1.5%)	4名 (1.9%)	2名 (0.9%)	15名 (2.7%)
２９．災害の時に頼りにする人はいない	**49名 (4.0%)**	0名 (0.0%)	2名 (2.5%)	6名 (4.6%)	8名 (3.8%)	12名 (5.4%)	19名 (3.5%)

＜その他＞　５９名

・市区の広報・メール・回覧板・告知板　・勤務先から　・施設の職員から　・ラジオ
・協会から（知聴協だより新聞）　・少し前から１１９番取付済み　・手話サークルの仲間、先生から
・公共施設のサービス案内やチラシ・雑誌　・スマートフォン（SNS）　・交際相手から　・部落の会員に入っていたとき

表２－６９．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先（年代別）　※複数回答

	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．配偶者	406名 (32.8%)	0名 (0.0%)	9名 (11.1%)	44名 (33.6%)	83名 (39.3%)	92名 (41.1%)	169名 (30.8%)
２．親	256名 (20.7%)	**8名 (72.8%)**	**51名 (63.0%)**	**55名 (42.0%)**	**68名 (32.2%)**	50名 (22.3%)	16名 (2.9%)
３．兄弟姉妹	226名 (18.3%)	4名 (36.4%)	21名 (25.9%)	21名 (16.0%)	30名 (14.2%)	46名 (20.5%)	101名 (18.4%)
４．子ども	295名 (23.8%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	7名 (5.3%)	46名 (21.8%)	66名 (29.6%)	165名 (30.1%)
５．おじ、おば、いとこなどの親類	63名 (5.1%)	0名 (0.0%)	4名 (4.9%)	8名 (6.1%)	**10名 (21.8%)**	23名 (10.3%)	17名 (3.1%)
６．近所の知人	184名 (14.9%)	1名 (9.1%)	2名 (2.5%)	19名 (14.5%)	33名 (15.6%)	34名 (15.2%)	93名 (17.0%)
７．友達	484名 (39.1%)	4名 (36.4%)	**40名 (49.4%)**	**67名 (51.1%)**	**96名 (45.5%)**	**103名 (46.0%)**	164名 (29.9%)
８．職場の上司	130名 (10.5%)	1名 (9.1%)	18名 (22.2%)	24名 (18.3%)	36名 (17.1%)	41名 (18.3%)	8名 (1.5%)
９．職場の同僚	155名 (12.5%)	1名 (9.1%)	**18名 (22.2%)**	**27名 (20.6%)**	**52名 (24.6%)**	41名 (18.3%)	14名 (2.6%)
１０．自治会の役員・区長	60名 (4.9%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	3名 (2.3%)	13名 (6.2%)	15名 (6.7%)	28名 (5.1%)
１１．民生委員・児童委員	32名 (2.6%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	1名 (0.8%)	6名 (2.8%)	2名 (0.9%)	22名 (4.0%)
１２．加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の会員や役員	281名 (22.7%)	0名 (0.0%)	9名 (11.1%)	20名 (15.3%)	46名 (21.8%)	50名 (22.3%)	150名 (27.4%)
１３．手話や要約筆記サークルのメンバー	346名 (28.0%)	1名 (9.1%)	14名 (17.3%)	27名 (20.6%)	56名 (26.5%)	65名 (29.0%)	174名 (31.8%)
１４．福祉事務所の職員	69名 (5.6%)	1名 (9.1%)	1名 (1.2%)	6名 (4.6%)	10名 (4.7%)	17名 (7.6%)	33名 (6.0%)
１５．市役所・区役所の職員	130名 (10.5%)	0名 (0.0%)	5名 (6.2%)	17名 (13.0%)	20名 (9.5%)	27名 (12.1%)	59名 (10.8%)
１６．障害者相談事業所の職員	43名 (3.5%)	0名 (0.0%)	2名 (2.5%)	2名 (1.5%)	5名 (2.4%)	11名 (4.9%)	22名 (4.0%)
１７．かかりつけの医者	52名 (4.2%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	2名 (1.5%)	3名 (1.4%)	13名 (5.8%)	32名 (5.8%)
１８．看護師	20名 (1.6%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (0.8%)	1名 (0.5%)	7名 (3.1%)	11名 (2.0%)
１９．保健師	7名 (0.6%)	0名 (0.0%)	2名 (2.5%)	0名 (0.0%)	1名 (0.5%)	1名 (0.4%)	3名 (0.5%)
２０．幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士	4名 (0.3%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (1.5%)	1名 (0.5%)	0名 (0.0%)	1名 (0.2%)
２１．小学校・中学校・高校の先生	12名 (1.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	3名 (2.3%)	5名 (2.4%)	1名 (0.4%)	1名 (0.2%)
２２．ろう学校の先生	36名 (2.9%)	3名 (27.3%)	5名 (6.2%)	8名 (6.1%)	7名 (3.3%)	4名 (1.8%)	9名 (1.6%)
２３．手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者	232名 (18.8%)	0名 (0.0%)	3名 (3.7%)	16名 (12.2%)	43名 (20.4%)	59名 (26.3%)	105名 (19.2%)
２４．愛知県聴覚障害者協会の職員（事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる、笑おう舎）	169名 (13.7%)	0名 (0.0%)	2名 (2.5%)	9名 (6.9%)	24名 (11.4%)	35名 (15.6%)	94名 (17.2%)
２５．知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員	13名 (1.1%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (1.5%)	3名 (1.4%)	4名 (1.8%)	4名 (0.7%)
２６．NPO つくし職員	22名 (1.8%)	2名 (18.2%)	3名 (3.7%)	4名 (3.1%)	5名 (2.4%)	3名 (1.3%)	3名 (0.5%)
２７．福祉事業所・作業所の職員	28名 (2.3%)	1名 (9.1%)	4名 (4.9%)	1名 (0.8%)	1名 (0.5%)	8名 (3.6%)	13名 (2.4%)
２８．役所の広報・ホームページ	74名 (6.0%)	0名 (0.0%)	4名 (4.9%)	8名 (6.1%)	19名 (9.0%)	18名 (8.0%)	22名 (4.0%)
２９．テレビ	670名 (54.2%)	3名 (27.3%)	**53名 (65.4%)**	**57名 (43.5%)**	106名 (50.2%)	117名 (52.5%)	315名 (57.5%)
３０．目で聴くテレビ（CS 放送）	82名 (6.6%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	3名 (2.3%)	6名 (2.8%)	13名 (5.8%)	58名 (10.6%)
３１．新聞	529名 (42.8%)	**1名 (9.1%)**	**27名 (33.3%)**	**40名 (30.5%)**	82名 (38.9%)	91名 (40.6%)	276名 (50.4%)
３２．インターネット	456名 (36.9%)	**5名 (45.5%)**	**47名 (58.0%)**	**75名 (57.3%)**	**118名 (55.9%)**	96名 (42.9%)	**99名 (18.1%)**
３３．団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の機関誌	314名 (25.4%)	**0名 (0.0%)**	**10名 (12.3%)**	23名 (17.6%)	49名 (23.2%)	68名 (30.4%)	155名 (28.3%)
３４．団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）のホームページ	88名 (7.1%)	0名 (0.0%)	4名 (4.9%)	7名 (5.3%)	19名 (9.0%)	26名 (11.6%)	26名 (4.7%)
３５．聴覚障害者情報提供施設の広報誌	153名 (12.4%)	0名 (0.0%)	2名 (2.5%)	10名 (7.6%)	15名 (7.1%)	30名 (13.4%)	91名 (16.8%)
３６．聴覚障害者情報提供施設のホームページ	59名 (4.8%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	3名 (2.3%)	9名 (4.3%)	21名 (9.4%)	19名 (3.5%)
３７．その他	33名 (2.7%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (1.5%)	6名 (2.8%)	8名 (3.6%)	15名 (2.7%)
３８．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先はない	14名 (1.1%)	0名 (0.0%)	2名 (2.5%)	0名 (0.0%)	1名 (0.5%)	2名 (0.9%)	9名 (1.6%)

表２－７０．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報・コミュニケーションの困難（年代別）　※複数回答

	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．手話や字幕が入っていないテレビ番組が分からない、分かりにくい	**638名（51.6%）**	6名（54.6%）	45名（55.6%）	76名（58.0%）	113名（53.6%）	105名（46.9%）	278名（50.7%）
２．手話や字幕が入っているテレビ番組の内容が分からない、分かりにくい	230名（18.6%）	1名（9.1%）	4名（4.9%）	15名（11.5%）	25名（11.8%）	36名（16.1%）	142名（25.9%）
３．災害の時の情報の入手方法や避難方法が不安	**618名（50.0%）**	5名（45.5%）	**51名（63.0%）**	80名（61.1%）	106名（50.2%）	114名（50.9%）	246名（44.9%）
４．自動車事故にあった時の保険会社の手続きが分からない	316名（25.5%）	1名（9.1%）	26名（32.1%）	40名（30.5%）	70名（33.2%）	69名（30.8%）	102名（18.6%）
５．病院や医者にかかる時の会話（予約や医者の問診・診断内容、薬局の呼び出し）	**440名（35.6%）**	3名（27.3%）	30名（37.0%）	45名（34.4%）	75名（35.5%）	90名（40.2%）	183名（33.4%）
６．福祉制度やサービス・施策等を利用する時（わかりやすく説明してくれない）	153名（12.4%）	0名（0.0%）	4名（4.9%）	13名（9.9%）	27名（12.8%）	23名（10.3%）	80名（14.6%）
７．銀行や郵便局などの公共施設を利用する時	229名（18.5%）	2名（18.2%）	8名（9.9%）	23名（17.6%）	32名（15.2%）	52名（23.2%）	105名（19.2%）
８．商店・スーパー・食堂などでの買い物などの時	212名（17.2%）	0名（0.0%）	9名（11.1%）	12名（9.2%）	39名（18.5%）	45名（20.1%）	99名（18.1%）
９．近所の方と話す時	326名（26.4%）	2名（18.2%）	22名（27.2%）	**31名（23.7%）**	58名（27.5%）	61名（27.2%）	139名（25.4%）
１０．学校などへ子どものことで懇談や相談をする時	72名（5.8%）	0名（0.0%）	3名（3.7%）	**14名（10.7%）**	29名（13.7%）	9名（4.0%）	12名（2.2%）
１１．携帯電話（メール）やパソコンの使い方が分かりにくい	163名（13.2%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	6名（4.6%）	13名（6.2%）	32名（14.3%）	103名（18.8%）
１２．文字や文章を書いて、FAXや手紙で伝えることが難かしい	169名（13.7%）	2名（18.2%）	5名（6.2%）	7名（5.3%）	22名（10.4%）	34名（15.2%）	91名（16.6%）
１３．行政からの案内や広報、新聞などの文章を理解することが難かしい	249名（20.1%）	1名（9.1%）	8名（9.9%）	15名（11.5%）	42名（19.9%）	40名（17.9%）	135名（24.6%）
１４．役立つ情報や大切な情報が分からない	187（15.1%）	1名（9.1%）	9名（11.1%）	11名（8.4%）	28名（13.3%）	43名（19.2%）	87名（15.9%）
１５．クレジットカードや携帯電話の契約を結ぶときや変更・解除する時	415名（33.5%）	1名（9.1%）	21名（25.9%）	48名（36.6%）	**107名（50.7%）**	90名（40.4%）	133名（24.3%）
１６．119番（救急車 きゅうきゅうしゃ ・消防しょうぼう ）への呼び出しの時	**464名（37.5%）**	4名（36.4%）	**42名（51.9%）**	54名（41.2%）	70名（33.2%）	88名（39.3%）	192名（35.0%）
１７．110番（警察）との連絡ができない	**481名（38.9%）**	4名（36.4%）	**55名（67.9%）**	54名（41.2%）	77名（36.5%）	90名（40.2%）	188名（34.3%）
１８．交通機関やレジャー・宿泊などの予約の時	218名（17.6%）	2名（18.2%）	14名（17.3%）	13名（9.9%）	39名（18.5%）	46名（20.5%）	96名（17.5%）
１９．補聴機器では充分にコミュニケーションがとれない	307名（24.8%）	2名（18.2%）	18名（22.2%）	35名（26.7%）	57名（27.0%）	59名（26.3%）	123名（22.4%）
２０．結婚、産婦人科の診療、出産、離婚等のプライベートに関わる相談をする相手や相談機関がない	91名（7.4%）	0名（0.0%）	4名（4.9%）	12名（9.2%）	16名（7.6%）	18名（8.0%）	37名（6.8%）
２１．特にない	98名（7.9%）	2名（18.2%）	6名（7.4%）	6名（4.6%）	14名（6.6%）	14名（6.3%）	53名（9.7%）
２２．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先はない	68名（5.5%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	5名（3.8%）	10名（4.7%）	12名（5.4%）	36名（6.6%）

表２－７１．日頃の暮らしの中で困っていること、不自由に感じること（年代別）　※複数回答

主な仕事	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．病気のこと（自分の健康や病気のことが気になる）	475名（38.4%）	0名（0.0%）	18名（22.2%）	36名（27.5%）	79名（37.4%）	104名（46.4%）	224名（40.9%）
２．聴こえのこと	267名（21.6%）	4名（36.4%）	21名（25.9%）	27名（20.6%）	38名（18.0%）	47名（21.0%）	120名（21.9%）
３．くらしの世話をしてくれる家族が病気になったり倒れたりした時のこと	381名（30.8%）	1名（9.1%）	26名（32.1%）	31名（23.7%）	53名（25.1%）	85名（37.9%）	172名（31.4%）
４．家に一人でいるときに何があったら不安	368名（29.7%）	1名（9.1%）	21名（25.9%）	31名（23.7%）	47名（22.3%）	62名（27.7%）	197名（35.9%）
５．生活するには年金額が少ない	202名（16.3%）	0名（0.0%）	5名（6.2%）	8名（6.1%）	19名（9.0%）	26名（11.6%）	134名（24.5%）
６．年金がもらえない	36名（2.9%）	0名（0.0%）	3名（3.7%）	3名（2.3%）	8名（3.8%）	10名（4.5%）	10名（1.8%）
７．物価が高い	229名（18.5%）	0名（0.0%）	6名（7.4%）	11名（8.4%）	38名（18.0%）	40名（17.9%）	126名（23.0%）
８．医療費が高い	45名（3.6%）	0名（0.0%）	4名（4.9%）	3名（2.3%）	4名（1.9%）	7名（3.1%）	26名（4.7%）
９．安心して行ける医療機関が近くにない・わからない	83名（6.7%）	0名（0.0%）	9名（11.1%）	3名（2.3%）	10名（4.7%）	19名（8.5%）	36名（6.6%）
１０．通院・通所することが困難	70名（5.7%）	0名（0.0%）	4名（4.9%）	1名（0.8%）	4名（1.9%）	12名（5.4%）	47名（8.6%）
１１．貯金ができない	115名（9.3%）	0名（0.0%）	13名（16.0%）	9名（6.9%）	17名（8.1%）	16名（7.1%）	57名（10.4%）
１２．税金が高い	203名（16.4%）	0名（0.0%）	13名（16.0%）	17名（13.0%）	33名（15.6%）	40名（17.9%）	94名（17.2%）
１３．炊事・洗濯・掃除などの家事	96名（7.8%）	0名（0.0%）	4名（4.9%）	7名（5.3%）	8名（3.8%）	15名（6.7%）	60名（10.9%）
１４．近所とうまくつきあえない	236名（19.1%）	1名（9.1%）	10名（12.3%）	28名（21.4%）	30名（14.2%）	45名（20.1%）	113名（20.6%）
１５．身近な地域に気軽に集まることができる場所がない・少ない	238名（19.2%）	1名（9.1%）	16名（19.8%）	20名（15.3%）	37名（17.5%）	39名（17.4%）	116名（21.2%）
１６．何でも話し合える友人がいない・話し相手がいない	136名（11.0%）	0名（0.0%）	9名（11.1%）	7名（5.3%）	14名（6,6%）	21名（9.4%）	79名（14.4%）
１７．選挙で投票することが難しい	103名（8.3%）	1名（9.1%）	3名（3.7%）	6名（4.6%）	11名（5.2%）	24名（10.7%）	55名（10.0%）
１８．家族の介護	115名（9.3%）	1名（9.1%）	3名（3.7%）	6名（4.6%）	18名（8.5%）	32名（14.3%）	49名（8.9%）
１９．家の中でコミュニケーションがうまくいかない	117名（9.5%）	0名（0.0%）	3名（3.7%）	11名（8.4%）	18名（8.5%）	19名（8.5%）	61名（11.1%）
２０．特にない	171名（13.8%）	4名（36.4%）	14名（17.3%）	23名（17.6%）	35名（16.6%）	25名（11.2%）	69名（12.6%）
２１．その他	49名（4.0%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	7名（5.3%）	8名（3.8%）	6名（2.7%）	25名（4.6%）

＜その他＞　４９名

・少し困る時もある。
・交通事故が心配である。見えない・聞こえないことで、心が苦しい。
・災害時、周囲とのコミュニケーションが不安。近所の人が助けてくれるか心配。エレベーターが使えないと避難できない。足が不自由なため、手すりが無いと困る。困ったときに相談できる場所がない。特に、専門機関。障害者相談センターはあるが、職員の知識が乏しい。
・聴こえないならではの育児の相談ができる人が少ない。デフママサークルに行くけど、頻度が少なく、遠い。
・お金が無くならないか不安。
・社会保険料、厚生年金が高い。
・人工内耳の医療費が高い。
・電話リレーサービスが有償なのがつらい。
・PC で故障があったときの対応。ケーブルテレビの日々の支払いが高い。
・詐欺が心配。防犯面。
・生活をする上で必要な情報が入手しづらい。ネットや新聞ではなく、人を介して得られるささいな情報。
・宅配が来たとき、ライトへの反応に送れると不在票が入っている。
・生活全般においてコミュニケーションに壁がある。家族は手話はできないが会話はある。（筆談）いちいち口を見せてください。書いてくださいなどの説明が必要ですか？理解してもらえるのは５割以下。
・電話ができない。通報などするにしてもできない。何を言っているか言葉がわからない。
・電子マネーの manaca は障害者割引を作っているが、使える範囲が名古屋市交通局のみ。
・フィットネスクラブの入会を断られた。理由は、事故があったときにコミュニケーションできない、非常ベルがあっても気づかないので危険だから。
・車の運転を辞めたので不便。
・入所している施設での人間関係。
・自分に対して、偏見を持っている人がいる。理由もなく、差別を受けることがある。
・近所には、二人障害を理解してくれない人がいる。民生委員の女性は何もやってくれない。ゆっくり話してと言ったのに早口で話されたり、腕をたたいてきたりいたずらされた。民生委員は形だけだ。今は何もやってくれていない。やる気がないならやめてほしい。男のようにかなりきつい女だ。
・公共交通機関の中での、目で見る情報が少ないこと（特に緊急時）
・施設に入所した時、一般の人ばかりの中では聴覚障害者は孤立してさみしいのでは。聴覚障害者専門の施設が欲しい。
・グループホームが足りない。
・息子とはあまり会話がない
・兄がいるが連絡をとっていない、何年も会っていない。今は大丈夫でも先が心配
・手話を知らない人が多い。耳が聞こえないとわかってもらえても筆談の限界はある。文章力の問題。①家が築 60 年くらい。災害時が心配。同居している下の娘と引っ越すことを考えるが、金銭的にも不安。②7 年前に死別した夫のお骨がまだいえにある。夫の兄嫁から夫の生家のお墓に収めることを許されていない。しかし自分でお墓を持っているわけではないので、夫のお骨をどうしたらいいか心配。
・配偶者が亡くなったときの不安。実際に生活をするのに困っている。
・お風呂の水の止め忘れ。お風呂を沸かしっぱなしにしてしまう。お店のお惣菜をうまく選ぶことができず、口に合わないことがある。
・右半身の痛みが直らないのが悩み（８回も転倒）
・年を重ね片付けが苦手。
・高齢夫婦のため突然の買いものの時、足がなく困る
・終活について

表２－７２．日頃の暮らしことで相談する相手の有無（年代別）

	１．いる	２．いない
全体（1237名）	1023名（82.7%）	161名（13.0%）
10代（11名）	8名（72.8%）	2名（18.2%）
20代（81名）	73名（90.1%）	6名（7.4%）
30代（131名）	113名（86.3%）	17名（13.0%）
40代（211名）	177名（86.6%）	29名（13.7%）
50代（224名）	187名（83.5%）	33名（14.7%）
60代（548名）	440名（80.3%）	71名（13.0%）

表２－７３．日頃の暮らしことで相談する相手（年代別）　※複数回答

	全体（1237名）	10代（11名）	20代（81名）	30代（131名）	40代（211名）	50代（224名）	60代以上（548名）
１．配偶者	455名（36.8%）	0名（0.0%）	13名（16.0%）	56名（42.7%）	96名（45.5%）	94名（42.0%）	184名（33.6%）
２．親	348名（28.1%）	7名（63.6%）	60名（74.1%）	86名（65.6%）	92名（43.6%）	73名（32.6%）	21名（3.8%）
３．兄弟姉妹	352名（28.5%）	4名（36.4%）	30名（37.0%）	46名（35.1%）	59名（28.0%）	60名（26.8%）	148名（27.0%）
４．子ども	338名（27.3%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	7名（5.3%）	48名（22.7%）	67名（29.9%）	206名（37.6%）
５．おじ、おば、いとこなどの親類	78名（6.3%）	0名（0.0%）	5名（6.2%）	10名（7.6%）	15名（7.1%）	19名（8.5%）	28名（5.1%）
６．近所の知人	129名（10.4%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	18名（13.7%）	25名（11.8%）	25名（11.2%）	58名（10.6%）
７．友達	477名（38.6%）	4名（36.4%）	46名（56.8%）	67名（51.1%）	111名（52.6%）	96名（42.9%）	145名（26.5%）
８．職場の上司	102名（8.2%）	2名（18.2%）	7名（8.6%）	25名（19.1%）	27名（12.8%）	33名（14.7%）	6名（1.1%）
９．職場の同僚	126名（10.2%）	2名（18.2%）	13名（16.0%）	23名（17.6%）	38名（18.0%）	35名（15.6%）	12名（2.2%）
１０．自治会の役員・区長	22名（1.8%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	5名（2.4%）	4名（1.8%）	13名（2.4%）
１１．民生委員・児童委員	30名（2.4%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	0名（0.0%）	6名（2.8%）	1名（0.4%）	19名（3.5%）
１２．加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の会員や役員	140名（11.3%）	0名（0.0%）	3名（3.7%）	12名（9.2%）	15名（7.1%）	31名（13.8%）	75名（13.7%）
１３．手話や要約筆記サークルのメンバー	238名（19.2%）	0名（0.0%）	9名（11.1%）	19名（14.5%）	43名（29.4%）	54名（24.1%）	109名（19.9%）
１４．福祉事務所の職員	56名（4.5%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	4名（3.1%）	7名（3.3%）	7名（3.1%）	35名（6.4%）
１５．市役所・区役所の職員	111名（9.0%）	0名（0.0%）	3名（3.7%）	9名（6.9%）	19名（9.0%）	23名（10.3%）	54名（9.9%）
１６．障害者相談事業所の職員	39名（3.2%）	0名（0.0%）	3名（3.7%）	1名（0.8%）	4名（1.9%）	8名（3.6%）	21名（3.8%）
１７．かかりつけの医者	51名（4.1%）	0名（0.0%）	2名（2.5%）	1名（0.8%）	6名（2.8%）	12名（5.4%）	28名（5.1%）
１８．看護師	19名（1.5%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（0.5%）	6名（2.7%）	11名（2.0%）
１９．保健師	6名（0.5%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	1名（0.8%）	0名（0.0%）	4名（1.8%）	0名（0.0%）
２０．幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士	3名（0.2%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（1.5%）	1名（0.5%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
２１．小学校・中学校・高校の先生	9名（0.7%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	3名（2.3%）	2名（0.9%）	0名（0.0%）	3名（0.5%）
２２．ろう学校の先生	29名（2.3%）	3名（27.3%）	3名（3.7%）	4名（3.1%）	3名（1.4%）	6名（2.7%）	10名（1.8%）
２３．手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者	211名（17.1%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	14名（10.7%）	36名（17.1%）	38名（17.0%）	116名（21.2%）
２４．愛知県聴覚障害者協会の職員（事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所まっとくる、笑おう舎）	123名（9.9%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）	8名（6.1%）	18（8.5%）	19名（8.5%）	73名（13.3%）
２５．知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員	11名（0.9%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（1.5%）	3名（1.4%）	3名（1.3%）	3名（0.5%）
２６．NPOつくし職員	15名（1.2%）	1名（9.1%）	1名（1.2%）	3名（2.3%）	5名（2.4%）	2名（0.9%）	3名（0.5%）
２７．福祉事業所・作業所の職員	19名（1.5%）	1名（9.1%）	1名（1.2%）	4名（3.1%）	5名（2.4%）	4名（1.8%）	4名（0.7%）
２８．その他	25名（2.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（1.5%）	7名（3.3%）	7名（3.1%）	9名（1.6%）
２９．災害の時に頼りにする人はいない	5名（0.4%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	3名（0.5%）

〈その他〉　２５名　・交際相手　・家族・親戚　・施設の職員（グループホーム・デイサービス）　・前職場の元上司
・盲ろう介護者、盲ろう通訳者　・盲学校時代の担任の先生　・盲ろう者友の会の会員、JRPSの会員　・名古屋シーモスベルセンター
・地元協会役員　・手話通訳士　・ケアマネージャー　・教会の牧師　・自営業の人　・聾学校の先輩
・難聴の子どもが生まれた時に相談する場所がなかった。子どもは普通学校だったので、周りは聴こえる人ばかりで会話に付いていけなかった。

表２－７４．手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障された施設や、サービスを利用したことの経験（年代別）　※複数回答

	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．手話通訳派遣	669名 (54.1%)	1名 (9.1%)	33名 (40.7%)	**86名** **(65.6%)**	**136名** **(64.5%)**	132名 (58.9%)	263名 (48.0%)
２．要約筆記者（奉仕）派遣	117名 (9.5%)	0名 (0.0%)	8名 (9.9%)	11名 (8.4%)	13名 (6.2%)	22名 (9.8%)	60名 (10.9%)
３．盲ろう者通訳・介助員派遣	18名 (1.5%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	4名 (1.9%)	2名 (0.9%)	12名 (2.2%)
４．聴覚障害者支援事業所　ほっとくる	81名 (6.5%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (1.5%)	5名 (2.4%)	7名 (3.1%)	**66名** **(12.0%)**
５．聴覚障害者支援事業所　笑おう舎	44名 (3.6%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	1名 (3.8%)	1名 (0.5%)	4名 (1.8%)	**36名** **(6.6%)**
６．NPO つくし	25名 (2.0%)	**2名** **(18.2%)**	**6名** **(7.4%)**	**25名** **(19.1%)**	3名 (1.4%)	0名 (0.0%)	9名 (1.6%)
７．聾学校	133名 (10.8%)	**8名** **(72.8%)**	**29名** **(35.8%)**	2名 (1.5%)	20名 (9.5%)	9名 (4.0%)	36名 (6.6%)
８．その他	20名 (1.6%)	0名 (0.0%)	3名 (3.7%)	0名 (0.0%)	3名 (1.4%)	6名 (2.7%)	6名 (1.1%)
９．ない	246名 (19.9%)	2名 (18.2%)	24名 (29.6%)	23名 (17.6%)	34名 (16.1%)	39名 (17.4%)	120名 (21.9%)

＜その他＞　２０名

・手話サークル　　・あいち聴覚障害者センター　　・障害者相談事業所、福祉型児童発達支援センター
・名身連聴覚言語障害者情報文化センター　　・社協の中途失聴者協会
・身障施設、生活支援相談員、福祉村：たまも荘　　・リレー電話サービス　　・要約筆記の勉強会
・市役所　　・会社内で気づかないうちに面談などで利用している。
・講演　　・子ども　　・店員との筆談
・大学の講義で手話通訳者さんやノートテイクのサービス利用受けたことある。

表２－７５．手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障施設や、サービスを利用して感じたこと、気づいたこと（年代別）※複数回答

	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．人として尊重されると感じるようになった	289名 (23.4%)	1名 (9.1%)	15名 (18.5%)	35名 (26.7%)	68名 (32.2%)	60名 (26.8%)	103名 (18.8%)
２．聴覚障害者同士のつながりができた・深まった	425名 (34.4%)	6名 (54.6%)	24名 (29.6%)	44名 (33.6%)	65名 (30.8%)	77名 (34.4%)	200名 (36.5%)
３．聴こえる人とのつながりができた・深まった	290名 (23.4%)	0名 (0.0%)	21名 (25.9%)	31名 (23.7%)	62名 (29.4%)	57名 (25.4%)	114名 (20.8%)
４．気兼ねなく話しができるようになった	293名 (23.7%)	1名 (9.1%)	22名 (27.2%)	34名 (26.0%)	55名 (26.1%)	51名 (22.8%)	124名 (22.6%)
５．これまで学べなかった様々なことを知り・学ぶことができた	374名 (30.2%)	2名 (18.2%)	25名 (30.9%)	52名 (39.7%)	87名 (41.2%)	73名 (32.6%)	129名 (23.4%)
６．自分自身のことを自ら選択し、様々なことを決めることができるようになった	213名 (17.2%)	3名 (27.3%)	12名 (14.8%)	22名 (16.8%)	40名 (19.0%)	44名 (19.6%)	87名 (15.9%)
７．利用できる制度やサービスを知るようになった	234名 (18.9%)	0名 (0.0%)	17名 (21.0%)	33名 (25.2%)	44名 (20.9%)	34名 (15.2%)	102名 (18.6%)
８．ひとりぼっちではなく、仲間がいることが確かめられた	289名 (23.4%)	3名 (27.3%)	16名 (19.8%)	26名 (19.8%)	36名 (17.1%)	46名 (20.5%)	154名 (28.1%)
９．情報がたくさん入るようになった	358名 (28.9%)	2名 (18.2%)	23名 (28.4%)	44名 (33.6%)	69名 (32.7%)	67名 (29.9%)	147名 (26.8%)
１０．聞こえる人やボランティアとの交流ができるようになった	245名 (19.8%)	1名 (9.1%)	12名 (14.8%)	15名 (11.5%)	39名 (18.5%)	50名 (22.3%)	122名 (22.3%)
１１．これからの暮らしや生き方に希望や展望が持てるようになった	120名 (9.7%)	0名 (0.0%)	8名 (9.9%)	9名 (6.9%)	23名 (10.9%)	21名 (9.4%)	57名 (10.4%)
１２．年金や社会福祉のサービスを理解し利用することができるようになった	148名 (12.0%)	0名 (0.0%)	8名 (9.9%)	9名 (6.9%)	20名 (9.5%)	29名 (12.9%)	80名 (14.6%)
１３．他の聞こえない仲間とともに福祉やくらしの発展を目指そうと思うようになった	172名 (13.9%)	0名 (0.0%)	7名 (8.6%)	15名 (11.5%)	30名 (14.2%)	35名 (15.6%)	84名 (15.3%)
１４．その他	41名 (3.3%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	6名 (4.6%)	4名 (1.9%)	9名 (4.0%)	20名 (3.6%)

＜その他＞　４１名

・スムーズにコミュニケーションが取れて相手も不安なく接してくれるし通訳があるのとないのとでは情報量が天と地の差だ。
・共に助け合って活動しているのですべてにおいて共に歩むことができ、とても感謝している。
・研修に気兼ねなく参加できるようになった。
・派遣を利用することで知識を向上させることができる。また、行動範囲が広がり、忙しくできることが嬉しい。
・ボランティアで難聴者に楽しい場をみんなで出来るような場を立ち上げたい。
・病院のことが楽になった。

・同時に福祉による差別の再生産も感じるようになった。
・いろいろ知ることができて楽しい。
・地域のデイサービスに通うようになり、筆談ですが、おしゃべりできて楽しいようです。
・入院した時に盲ろう介助員の方が来てくれて助かった。
・手話通訳の人との間がもたない。
・市役所の設置通訳者の方とうまくコミュニケーションが取れなかった。
・難しい言葉がわかりにくい。通訳が全てを通訳してくれないため、情報が減る。声を入れると文字に変える方法を知りたい。プライバシーに不安有。同じ通訳者が良い。
・保健所主催の講演会に、主催者に説明した上で、介助員付きで出掛けたが、周囲からうるさいと言われた。特別な配慮を受けることができず、講演会の内容が全くわからなかった。
・日本手話でないと意思疎通ができないため、手話通訳者によっては、コミュニケーションが困難なことがある。日本語が十分でないので、日本語対応手話だと難しい。
・まだ、気兼ねなく手話通訳を依頼できる状況に至っていないと感じる。学校行事や保護者会など本当に重要なものしか依頼できない。又、通訳者のレベルに差が大きく、重要なことを伝えたくても、充分に相手に伝わらないことが度々ある。
・人材が足らないと思う。
・TV、DVD などすべてに字幕を付けることを義務化してほしい。
・拡大文字の情報がほしい。
・物足りない。満足がない。まだまだ分からない情報があるのでは？
・不安、コミュニケーションのズレ
・ありがたいとは思えない状況。
・何となく。
・わからない。
・別に何も感じない。
・主人が手話ができるので利用しない。
・要約筆記のサービス等を利用していない。
・認知症の為、自覚はない。

表２－７６．今後、必要と思われるサービスや施設（年代別）　※複数回答

	全体 (1237名)	10代 (11名)	20代 (81名)	30代 (131名)	40代 (211名)	50代 (224名)	60代以上 (548名)
１．手話（触手話）や要約筆記などのコミュニケーションが保障された、聴覚障害者が利用しやすい施設を身近なところに作ってほしい、増やしほしい	**754名** **(61.0%)**	5名 (45.5%)	50名 (61.7%)	75名 (57.3%)	**142名** **(67.3%)**	**145名** **(64.7%)**	**319名** **(58.2%)**
２．聴覚障害に配慮した高齢者に関わるデイサービスがほしい	**623名** **(50.4%)**	2名 (18.2%)	**22名** **(27.2%)**	**47名** **(35.9%)**	**93名** **(44.1%)**	**121名** **(54.0%)**	**319名** **(58.2%)**
３．聴覚障害に配慮した長期間生活できる入所施設（例：特別養護老人ホーム等）がほしい	**526名** **(42.5%)**	2名 (18.2%)	**22名** **(27.2%)**	**44名** **(33.6%)**	**84名** **(39.8%)**	**107名** **(47.8%)**	**253名** **(46.2%)**
４．聴覚障害に配慮したショートステイ（短期入所サービス）がほしい	396名 (32.0%)	1名（9.1%）	**15名** **(18.5%)**	**31名** **(23.7%)**	61名 (28.9%)	86名 (38.4%)	187名 (34.1%)
５．聴覚障害に配慮され、様々な場面でサポートするヘルパー派遣制度を充実させてほしい	445名 (36.0%)	1名（9.1%）	23名 (28.4%)	36名 (27.5%)	63名 (29.9%)	96名 (42.9%)	211名 (38.5%)
６．子育て世代が利用できるよう、一時保育機能を備えた施設がほしい	174名 (14.1%)	2名 (18.2%)	**19名** **(23.5%)**	**33名** **(25.2%)**	48名 (22.7%)	37名 (16.5%)	28名 (5.3%)
７．手話（触手話）などコミュニケーションを自由に使える放課後デイサービスや、長期休業中に子どもが集まれる機会がほしい	234名 (18.9%)	2名 (18.2%)	21名 (25.9%)	34名 (26.0%)	52名 (24.6%)	52名 (23.2%)	67名 (12.2%)
８．誰もが気軽におしゃべりできる、集まって交流できる場所や部屋がほしい	547名 (44.2%)	3名 (27.3%)	36名 (44.4%)	51名 (38.9%)	86名 (40.8%)	110名 (49.1%)	244名 (44.5%)
９．自分に合ったペースや内容で仕事ができる作業場がほしい	243名 (19.6%)	1名（9.1%）	18名 (22.2%)	26名 (19.8%)	54名 (25.6%)	57名 (25.4%)	80名 (14.6%)
１０．災害時にも、聴覚障害の配慮があり、一時的でも安心して避難生活ができる制度を整えてほしい	680名 (55.0%)	5名 (45.5%)	49名 (60.5%)	66名 (50.4%)	131名 (62.1%)	142名 (63.4%)	269名 (49.1%)
１１．様々な災害時の対応や知識が体験的に学べる制度を整備してほしい	433名 (35.0%)	2名 (18.2%)	28名 (34.6%)	42名 (32.1%)	83名 (39.3%)	91名 (40.6%)	177名 (32.3%)
１２．誰もが利用できる喫茶やレストランがほしい	396名 (32.0%)	2名 (18.2%)	26名 (32.1%)	33名 (25.2%)	58名 (27.5%)	79名 (35.3%)	186名 (33.9%)
１３．その他	44名 (3.6%)	0名 (0.0%)	1名 (1.2%)	1名 (0.8%)	9名 (4.3%)	9名 (4.0%)	24名 (4.4%)

＜その他＞　４４名

・まだまだ一部の病院では筆談等コミュニケーションがとれないところがある。検査等説明がよくわからないまま痛い怖い思いをすることがあった（大学病院）。
・どこでも手話通訳を受けられる環境（急用で役所に行っても通訳を受けられるようにする）。
・手話通訳設置者が１日中、毎日ほしい。（免許の更新時に手話通訳が必要）。
・自宅に手話のできるヘルパーが来てほしい。
・盲ろう者が安心して暮らせるグループホームがほしい。お世話され過ぎず、自分でもできることは尊重され、自分の力で生活し、自分でできないところだけを支援してもらえるようなグループホームがほしい。
・ろう者だけの老人ホームなら入りたい（笑おう舎がたいがいがまかなっている）。
・老後が不安なので、聴覚障害者に対応できる施設が欲しい。
・手話で話せる地域の趣味娯楽の集まる場所が欲しい。

・生活上必要な情報が全て入手できる施設が欲しい。ここに行けば、子育て、教育、病院、手当各手続き方法など数々な知りたいことを教えてくれるという場所。
・困ったとき、相談するところを設けて欲しい。
・聴覚に限らずすべての障害者に配慮を。
・音声認識システムを増やしてほしい。
・テレビ・日本の映画（邦画）に字幕をつけてほしい。
・スーパーなどの店員が手話できるといい。
・絵や写真を見てわかるメニューを置く店が増えてほしい。
・ICT 等のコミュニケーション手段が普及していけば、集会や講演会などは、盲ろう者だけ、視覚障害者だけ、ろう者だけ等　特化したなくてもいいと思う。それぞれの立場での横のつながりも必要だと思う。高齢の難聴者が増えているので、地域に集まれる場所があるといい。
・老人ホームでも聞こえる人と一緒に聴覚障害をもった人の枠を作って一緒に暮らす方法も良いと思う。
・パトライト以外で、一人でいるときに来客がわかる方法。
・今あるサービスや施設が、障害があっても利用できる環境になり、それが当たり前になること。
・気持ちよく旅行ができるようにしてほしい。
・盲ろう者にとって、たくさんの情報が得られる場所がほしい。触手話ができる職員がほしい。
・盲ろう者が気軽に集まることができる場所がほしい。
・自分が元気で働いているので、考えられない。
・分からない。
・特にない。
・近い場所がほしい。
・利用したいけど、うわさなどをひろめることがきらい。（？）

（3）．コミュニケーション手段別の結果の分析

表２－７７「言語・コミュニケーション手段（手段別）」の結果の結果について、手話使用者は1144名、手話未使用者は80名、盲ろう者は13名であり、手話未使用者は人工内耳の装用者が15.0%とやや高かった。人工内耳装用者においても、手話を使用する者が48名中35名（72.9%）と割合が高いことがわかった。盲ろう者は、触手話を使用してコミュニケーションを行う割合が43.2%と高かった。

表２－７８「手話を覚えた時期（手段別）」の結果について、手話使用者は幼稚園・保育園（ろう学校幼稚部）、ろう学校小学部・小学校、ろう学校中学部・中学校、ろう学校高等部・高校、社会人の時期の割合がやや高かった。盲ろう者においては、ろう学校小学部・小学校、社会人の時期に手話を覚えた者がやや高かった。手話使用者と盲ろう者は、ろう学校に通っていた時または社会人になった後で手話を学び始めた者が多いことがわかった。

表２－７９「手話を教わった場所（手段別）」の結果について、手話使用者はろう学校で手話を教わったという回答の割合が高かった。盲ろう者では、ろう学校、手話サークルの仲間、その他の場所で手話を教わっていた。

表２－８０「手話を教えてくれた人（手段別）」の結果について、手話使用者において、きこえない友達が62.0%と最も多く、次に手話サークルの仲間が22.0%、ろう学校の先生が19.6%と続いた。盲ろう者においては、きこえない友達が 38.5%と最も多く、次いで手話サークルの仲間から手話を教わったという回答の割合が 15.4%とやや高かった。

表２－８１「通っていた施設や学校（手段別）」については、手話使用者は約６割がろう学校で学び、手話未使用者は４～５割が通常の学校で学んでいた。盲ろう者の約６割がろう学校で学び、４割は通常の学校で学んでいた。集計する中で気づいたことであるが、各回答者が自分が通った学校をすべて漏れなく選択していない可能性があるため、例えば、手話使用者の小学校時代に通った学校がろう学校小学部と健聴（普通）小学校で100%にならないことがわかった。しかしながら、1948年に聴覚障害児が通う聾教育（聾学校）が義務教育に制度化されたが、70代以上の聴覚障害者の場合、学校に通えなかった方がいることも記述しておきたい。

表２－８２「現在の主な仕事（手段別）」の結果について、手話使用者と手話未使用者は約６割が何らかの形で仕事をしており、約４割が今は働いていないという回答であった。盲ろう者は、約３割が何らかの形で仕事をしており、約７割が今は働いていないという回答であった。

表２－８３「仕事の身分（手段別）」の結果について、手話使用者は約３割が正規職員で、約２割が非正規雇用等であった。手話未使用者は約１割が正規職員で、約２割が非正規雇用等であった。盲ろう者は、約１割が正規職員で、約３割が非正規雇用等であった。世帯主で家計を支える立場であった場合、手話未使用者と盲ろう者は正規職員として働いていないので、収入が十分にない中で生活をしている可能性が伺われる。

表２－８４「表２－８１の「８．今は仕事をしていない」「９．働いたことがない」と回答した理由（手段別）」の結果について、主婦であるため、定年、老齢、障害のためという回答が多かった。特に、手話未使用者は老齢のため、盲ろう者は障害のため、仕事をしていない理由であった。

表２－８５「今、仕事で困っていること、不自由に感じていることや悩んでいること（手段別）」の結果について、手話使用者は全体の結果とほぼ同様の結果であった。

表２－８６「現在の住まい（手段別）」の結果について、手話使用者と手話未使用者は約65%が一戸建て住宅に住んでいた。盲ろう者も約５割が一戸建て住宅で生活している。しかし、盲ろう者の23.1%は県営・市営・公団の賃貸借家で、7.7%はグループホーム等の福祉施設で生活していることがわかった。

40代以降は自分で購入もしくは親から譲り受けた一戸建て住宅で生活する割合が高いことが伺われた。20代と30代は、民間借家、民間アパート、民間マンションが、全体の結果と比較して、やや高かった。

表２－８７「日頃の近所の人たちとの関わり（手段別）」の結果について、盲ろう者の 46.2%がつき合いはないという回答で、53.8%があいさつする程度の関わりということだった。手話未使用者は、くらしや地域のことで話し合っているという回答が 22.5%、困りごとや悩みを相談し合うという回答が 8.8%で、近隣の人々との関わりが多いことがわかった。

表２－８８「地域の活動・集まりへの参加（手段別）」の結果について、手話未使用者はろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体への参加が４割で他と比べると少なく、手話サークルや自治会への参加も２割程度であった。盲ろう者は、ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体への参加が９割を超えており、聴覚障害者同士が集まるコミュニティに積極的に参加していることがわかった。盲ろう者の場合、盲ろうを理解する人々の存在が必要であり、触手話で会話のできるコミュニケーション環境が必要であるので、盲ろう者や聴覚障害者が集まる場を強く望んでいることが伺われた。

表２－９２「表２－８８の質問で「１２．参加していない」「１３．今は参加していない」の回答の理由（手段別）」の結果について、手話使用者、手話未使用者、盲ろう者の結果は、全体の結果と同様の結果であった。

表２－９３「健康状態で気になっていること（手段別）」の結果について、手話使用者、手話未使用者の結果は、全体の結果と同様の結果であった。盲ろう者は、背中や腰が痛い・だるい、腕や手や足がだるい、イライラすることが多い、ささいなことが気になる等の回答の割合が高く、日常生活での疲労度が大きく、体の倦怠感があることがわかった。さらに、盲ろう者は、薬を飲んでいる、医者に診てもらっているという回答の割合が高く、病院にかかり、日常から薬の服薬が多いことが推察された。

表２－９４「災害など、いざという時に頼りにする人（手段別）」の結果について、手話使用者、手話未使用者の結果は、全体の結果と同様の結果であった。手話未使用者は友達や愛知県聴覚障害者協会関連の施設を頼りにするという回答が 12.5%と低かった。盲ろう者は、配偶者・兄弟姉妹・近所の知人・友達を頼りにする回答の割合が低く、一般に身近な人とされる家族・親戚・友達との繋がりを十分に持てていないことが考えられた。そのため、盲ろう者は、愛知県聴覚障害者協会関連の施設を回答する割合が高く、聴覚障害者の関連団体との繋がりを強く求めていることがわかった。

表２－９５「日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先（手段別）」の結果について、手話未使用者は親族以外の友達や職場の関係者、聴覚障害者関連団体との関わりが少ないという回答であった。盲ろう者は、情報の入手先が家族であるが、親類や近隣の人々との関わりが薄く、加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）から情報を得ていることがわかった。

表２－９６「日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報・コミュニケーションの困難（手段別）」の結果について、自動車事故にあった時の保険会社の手続きが分からない、病院や医者にかかる時の会話、福祉制度やサービス・施策等を利用する時、銀行や郵便局などの公共施設を利用する時、商店・スーパー・食堂などでの買い物などの時、近所の方と話す時の質問項目で、手話未使用者は回答する割合が低く、反対に盲ろう者は回答する割合が高かった。他にも、盲ろう者は、多くの事柄の情報の獲得に困難を感じており、全体的に質問項目の回答割合が高かった。

表２－９７「日頃の暮らしの中で困っていること、不自由に感じること（手段別）」の結果について、手話未使用者は、補聴器・人工内耳による聴覚活用が可能である方が多いが、聴こえのことについて不自由を感じる割合が高かった。盲ろう者は、病気のこと、聴こえのこと、くらしの世話をしてくれる家族が病気になったり倒れたりした時のこと、家に一人でいるときに何かあったら不安、通院・通所することが困難など、多くの質問項目で困る・不自由を感じるという回答の割合が高かった。

表２－９８「日頃の暮らしことで相談する相手の有無（手段別）」の結果について、手話使用者、手話未使用者、盲ろう者は、８～９割で相談する相手がいる一方、１割は相談する相手がいないという回答があった。

表２－９９「日頃の暮らしことで相談する相手（手段別）」の結果について、全体の結果と比較して、手話未使用者と盲ろう者は友達を相手とする回答が低かった。また、手話通訳者・要約筆記者（奉仕員）・盲ろう通訳介助者、愛知県聴覚障害者協会の職員を相談相手とする割合が、盲ろう者は高く、手話未使用者は低かった。

表２－１００「手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障された施設や、サービスを利用したことの経験（手段別）」の結果について、手話使用者は手話通訳者派遣、手話未使用者は要約筆記者（奉仕）派遣、盲ろう者は盲ろう者通訳・介助員派遣の回答の割合が高かった。

表２－１０１「手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障施設や、サービスを利用して感じたこと、気づいたこと（手段別）」の結果については、手話未使用者は利用する割合が低いため、メリットを感じる回答の割合が低かった。反対に、盲ろう者は、誰もが気軽におしゃべりできる・集まって交流できる場所や部屋がほしいという回答が 84.6%と高く、人と繋がりを持ち気軽に会話する環境を希求していることがわかった。

表２－１０２「今後、必要と思われるサービスや施設（手段別）」の結果について、手話未使用者は利用する割合が低いため、メリットを感じる回答の割合が低かった。反対に、盲ろう者は、誰もが気軽におしゃべりできる・集まって交流できる場所や部屋がほしいという回答が 84.6%と高く、人と繋がりを持ち気軽に会話する環境を希求していることがわかった。

表２－７７．言語・コミュニケーション手段（手段別）　※複数回答

言語・手段	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．手話	1153名（93.2%）	**1144名（100.0%）**	**0名（ 0.0%）**	9名（69.2%）
２．音声	434名（35.1%）	401名（35.1%）	27名（33.8%）	6名（46.2%）
３．身振り	810名（65.5%）	792名（69.2%）	13名（16.3%）	4名（30.8%）
４．指さし	537名（43.4%）	529名（46.2%）	7名（8.8%）	1名（ 7.7%）
５．表情	555名（44.9%）	539名（47.1%）	12名（15.0%）	3名（23.1%）
６．実物	231名（18.7%）	227名（19.8%）	3名（3.8%）	1名（ 7.7%）
７．筆談	901名（72.8%）	858名（75.0%）	35名（43.8%）	7名（53.8%）
８．口話	823名（66.5%）	798名（69.8%）	21名（26.3%）	2名（15.4%）
９．補聴器	501名（40.5%）	463名（40.5%）	36名（45.0%）	3名（23.1%）
１０．人工内耳	48名（3.9%）	35名（3.1%）	**12名（15.0%）**	0名（ 0.0%）
１１．触手話	36名（2.9%）	32名（2.8%）	0名（0.0%）	6名（43.2%）
１２．指点字	29名（2.3%）	27名（2.4%）	1名（1.3%）	1名（ 7.7%）
１３．点字	5名（0.4%）	3名（0.3%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
１４．指文字	557名（45.0%）	545名（47.6%）	6名（7.5%）	5名（38.5%）
１５．絵や写真	233名（18.8%）	230名（20.1%）	2名（2.5%）	1名（ 7.7%）
１６．分からない	4名（0.3%）	4名（0.3%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１７．その他	29名（2.3%）	23名（2.0%）	4名（5.0%）	2名（15.4%）

＜その他＞　２９名

・キューサイン　・空文字　・手書き文字　・筆談　・要約筆記　・ノートテイク
・通訳　・スマートフォン（アプリ）　・字幕

表２－７８．手話を覚えた時期（手段別）　※複数回答

時期	手話使用者（1144名）	盲ろう者（13名）
１．生後から（親がろう者）	18名（ 1.6%）	0名（ 0.0%）
２．乳幼児教育相談	19名（ 1.7%）	0名（ 0.0%）
３．幼稚園・保育園	**141名（12.3%）**	0名（ 0.0%）
４．小学部・小学校	**378名（32.9%）**	3名（23.1%）
５．中学部・中学校	**208名（18.1%）**	2名（15.4%）
６．高等部・高校	**170名（14.8%）**	1名（ 7.7%）
７．大学	39名（ 3.4%）	0名（ 0.0%）
８．専門学校	19名（ 1.7%）	0名（ 0.0%）
９・社会人	**222名（19.3%）**	4名（30.8%）
１０．その他	76名（ 6.6%）	1名（ 7.7%）

表２－７９．手話を教わった場所（手段別）　※複数回答

場所	手話使用者（1144名）	盲ろう者（13名）
１．家庭	87名（ 7.6%）	0名（ 0.0%）
２．ろう学校	**750名（65.6%）**	4名（30.8%）
３．普通学校	6名（ 0.5%）	0名（ 0.0%）
４．手話サークル	295名（25.8%）	3名（23.1%）
５．その他	99名（ 8.7%）	2名（15.4%）

＜その他＞　１０１名

・難聴児通園施設（みやこ園）　・寄宿舎　・手話講座　・大学/専門学校　・会社/職場
・講習会（難聴手話講習会）　・作業所　・修道院　・ペンギン　たけのこ会
・名身連聴覚言語障害者情報文化センター
・聴覚障害者協会（小牧市中途失聴者協会・愛知県難聴者協会・ろうあ協会）
・聴覚障害者団体（東海ろう学生懇談会・愛知盲ろう者友の会・聴覚障害児をもつ親の会・難聴者団体）
・スポーツを通して（部活動など）　・聞こえない人との関わり（聞こえない友人・先輩・イベントなど）
・テレビ（手話の番組）　・ろう学校の友達と通学手段が同じ　・総合体育館　・社会人の先輩
・独学

表２－８０．手話を教えてくれた人（手段別）　※複数回答

	手話使用者（1144名）	盲ろう者（13名）
１．親	98名（8.6%）	0名（ 0.0%）
２．祖父・祖母	10名（0.9%）	0名（ 0.0%）
３．きょうだい	52名（4.5%）	0名（ 0.0%）
４．親戚	12名（1.0%）	0名（ 0.0%）
５．きこえない友達	**709名（62.0%）**	**5名（38.5%）**
６．きこえる友達	55名（4.8%）	0名（ 0.0%）
７．ろう学校の先生	**224名（19.6%）**	0名（ 0.0%）
８．普通学校の先生	11名（1.0%）	0名（ 0.0%）
９．手話サークルの仲間	**252名（22.0%）**	**2名（15.4%）**
１０．その他	82名（7.2%）	2名（15.4%）

＜その他＞　８４名

・講師（手話講座・手話サークル）　・先生（難聴児通園施設・寄宿舎）　・先輩（ろう学校・職場）
・友人　・配偶者　・職場の人　・手話通訳士　・シスター　・NHKみんなの手話（テレビ番組）
・本

表２－８１．通学していた施設や学校（手段別）　※複数回答

仕事をしていない等の理由	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．ろう（特別支援）学校幼稚部	514名（41.6%）	**507名（44.3%）**	3名（3.8%）	3名（23.1%）
２．ろう（特別支援）学校小学部	737名（59.6%）	**722名（63.1%）**	5名（6.3%）	9名（69.2%）
３．ろう（特別支援）学校中学部	732名（59.2%）	**718名（62.8%）**	5名（6.3%）	8名（61.5%）
４．ろう（特別支援）学校高等部	751名（60.7%）	**737名（64.4%）**	7名（8.8%）	6名（46.2%）
５．ろう（特別支援）学校専攻科	400名（32.3%）	**392名（34.3%）**	3名（3.8%）	4名（30.8%）
６．養護（特別支援）学校	5名（0.4%）	4名（0.3%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
７．保育園	126名（10.2%）	119名（10.4%）	7名（8.8%）	0名（ 0.0%）
８．健聴（普通）幼稚園	158名（12.8%）	142名（12.4%）	15名（18.8%）	1名（ 7.7%）
９．福祉型児童発達支援センター（難聴幼児通園施設）	13名（1.1%）	12名（1.0%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
１０．健聴（普通）小学校	329名（26.6%）	287名（25.1%）	**39名（48.8%）**	4名（30.8%）
１１．健聴（普通）中学校	285名（23.0%）	246名（25.1%）	**36名（45.0%）**	4名（30.8%）
１２．難聴学級（小学・中学）	71名（5.7%）	67名（5.9%）	3名（3.8%）	1名（ 7.7%）
１３．知的障害学級（小学・中学）	6名（0.5%）	6名（0.5%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１４．情緒障害学級・自閉症学級（小学・中学）	1名（0.1%）	1名（0.1%）	0.名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１５．きこえとことばの教室（通級指導教室）	43名（3.5%）	43名（3.8%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１６．健聴（普通）高校	225名（18.2%）	187名（16.3%）	**35名（44.3%）**	5名（30.8%）
１７．中学校専修・専門学校	45名（3.6%）	38名（3.3%）	6名（7.5%）	1名（ 7.7%）
１８．短期大学	45名（3.6%）	39名（3.4%）	5名（6.3%）	1名（ 7.7%）
１９．大学	95名（7.7%）	85名（7.4%）	10名（12.5%）	1名（ 7.7%）
２０．筑波技術大学（前・筑波技術短期大学）	14名（1.1%）	14名（1.2%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２１．学校には行っていない	16名（1.3%）	10名（0.9%）	5名（6.3%）	1名（7.7%）
２２．その他の学校	32名（2.6%）	28名（2.4%）	2名（2.5%）	2名（15.4%）

＜その他＞　３２名

・国立リハビリセンター　・戦争の為小学４年生で中退　・愛知小児医療センター　・盲学校
・光道園　・高校卒業後パソコンの職業訓練校　・名古屋市総合リハビリセンター　・保健センター
・国立吉備高原職業リハビリテーションセンター(訓練校)　・５年制女学校　・和裁学院
・洋裁学院　・ギャローデット大学　・メリーランド大学ボルチモア校　・昔の国民学校
・国立リハビリテーションセンター学院　・障害者職業訓練校三河一宮

表２－８２．現在の主な仕事（手段別）　※複数回答

主な仕事	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．公務員	13名（1.1%）	13名（1.2%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
２．会社員	429名（34.7%）	415名（36.3%）	14名（17.5%）	0名（0.0%）
３．自営業	54名（4.4%）	51名（4.5%）	3名（3.8%）	0名（0.0%）
４．内職	15名（1.2%）	14名（1.2%）	1名（1.3%）	0名（0.0%）
５．福祉作業所（就労継続支援Ａ型・就労継続支援Ｂ型等）	71名（5.7%）	67名（5.9%）	3名（3.8%）	1名（ 7.7%）
６．法人職員	28名（2.3%）	25名（2.2%）	3名（3.8%）	1名（ 7.7%）
７．その他	118名（9.5%）	106名（9.3%）	10名（12.5%）	2名（15.4%）
８．今は仕事をしていない	464名（37.5%）	404名（35.3%）	37名（46.3%）	**9名（69.2%）**
９．働いたことがない	35名（2.8%）	31名（2.7%）	4名（5.3%）	0名（ 0.0%）

＜その他＞　１１８名

・介護施設職員/ヘルパー　・送迎運転手　・清掃員　・農家　・理容師
・美容師アシスタント　・講師　・専門職　・事務職　・学校職員　・保育士　・建築大工
・土木作業員　・調理員　・聖職者　・コンビニ店員　・町身体障碍者福祉協会
・パート/アルバイト/派遣会社員/嘱託員

表２－８３．仕事の身分（手段別）　※複数回答

仕事の身分	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．正規職員	371名（30.0%）	360名（31.5%）	10名（12.5%）	1名（ 7.7%）
２．非正規職員（嘱託・契約・派遣・パート・アルバイト等）	250名（20.2%）	230名（20.1%）	16名（20.0%）	**4名（30.8%）**
３．分からない	22名（1.8%）	21名（1.8%）	1名（1.3%）	0名（0.0%）
４．その他	51名（4.1%）	49名（4.3%）	2名（2.5%）	0名（0.0%）

＜その他＞　５１名

・自営業・家業　・経営者　・オーナー　・農家　・技能職（歯科技工士）
・理容師　・福祉就労・福祉作業所作業員　・フリーランス　・就労移行支援助で勉強中
・お手伝い　・ハローワーク　・社内内職　・専業主（?）

表２－８４．表２－８２の「８．今は仕事をしていない」「９．働いたことがない」と回答した理由（手段別）　※複数回答

仕事をしていない等の理由	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．主婦	196名（15.8%）	175名（15.3%）	18名（22.5%）	3名（23.1%）
２．育児、介護のため	45名（3.6%）	41名（3.5%）	3名（3.8%）	1名（ 7.7%）
３．定年のため	153名（12.4%）	147名（12.8%）	6名（7.5%）	0名（ 0.0%）
４．老齢のため	132名（10.7%）	111名（9.7%）	**19名（23.8%）**	2名（ 7.7%）
５．障害のため	42名（3.4%）	29名（2.5%）	9名（11.3%）	**4名（30.8%）**
６．病気のため	40名（3.2%）	35名（3.1%）	4名（5.0%）	1名（ 7.7%）
７．入退院を繰り返したため	8名（0.6%）	7名（0.6%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
８.親などの身内に反対されたため	4名（0.3%）	4名（0.3%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
９．解雇されたため	5名（0.4%）	4名（0.3%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
１０．倒産されたため	13名（1.1%）	13名（1.1%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１１.仕事が見つからなかったため	18名（1.5%）	15名（1.3%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
１２．学校に通うため（学生）	16名（1.3%）	16名（1.4%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１３．働きたくない	8名（0.6%）	8名（0.7%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１４．分からない	7名（0.6%）	7名（0.6%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１５．その他	26名（2.1%）	25名（2.2%）	0.名（0.0%）	1名（ 7.7%）

＜その他＞　２６名

・求職中
・廃業のため
・早期退職制度の利用
・結婚後、自営業の手伝いのため
・仕事が合わず
・電話対応が難しくなり退社
・体力的に限界
・やりたいことをやるため
・自営業をしていたが、世代交代のため
・政治活動のため
・引っ越ししたばかり
・怪我のため
・左足が不自由なため
・特に意味はない
・50歳のときに働いたが一年足らずにやめた

表２－８５．今、仕事で困っている（いた）こと、不自由に感じている（いた）ことや悩んでいること（手段別）　※複数回答

仕事で困っていることの内容	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．聴覚障害や聞こえにくいことの理解が乏しく働きやすい環境が整っていない	257名（20.8%）	250名（21.7%）	7名（8.8%）	0名（ 0.0%）
２．今の仕事を続けられるかどうか心配である	160名（12.9%）	151名（13.2%）	8名（10.0%）	1名（ 7.7%）
３．職位が上がらない、昇任できない	123名（9.9%）	121名（10.6%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
４．同じ能力でも聴こえる人が評価される	116名（9.4%）	114名（10.0%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
５．職場で評価されない	71名（5.7%）	70名（6.1%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
６．リストラや失業の不安がある	42名（3.4%）	40名（3.5%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
７．仕事や作業でもらえる給料（工賃）が低い	115名（9.5%）	109名（9.5%）	4名（5.0%）	2名（15.4%）
８．自分の希望するような仕事や職場や施設がない・見つからない	71名（5.9%）	67名（5.9%）	2名（2.5%）	2名（15.4%）
９．障害者の雇用を相談する部署や人がいない	140名（11.3%）	137名（12.0%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
１０．まわりの人たちと話が通じにくいために仕事や作業がうまくいかないことがある	196名（15.8%）	184名（16.1%）	12名（15.0%）	0名（ 0.0%）
１１．いつまでも非常勤や嘱託で、正規の社員として雇ってくれない	29名（2.3%）	27名（2.4%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
１２．労働時間や作業時間が長い、不規則である	52名（4.2%）	49名（4.3%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
１３．自分に合っていない内容の仕事や作業をさせられる	52名（4.2%）	50名（4.4%）	1名（1.3%）	1名（ 7.7%）
１４．職場や施設でいじめや差別がある	70名（5.7%）	67名（5.9%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
１５．特にない	236名（19.1%）	228名（19.9%）	1名（1.3%）	**7名（53.8%）**
１６．その他	53名（4.3%）	46名（4.0%）	5名（6.3%）	**2名（15.4%）**

＜その他＞　５３名

・人間関係がうまくいかない・孤独感
・同障者が一人もいない
・健聴者とのコミュニケーションが難しい（同僚・先輩・お客さん）ため、情報が伝わらず困る
・電話対応ができない
・サービスを利用しにくい（例：電話サービス/通訳費が高額）
・情報補償してもらえない（例：会議や朝礼、放送の内容がわからない/不十分な筆談/通訳を依頼するも断られる）
・配慮してもらえない（例：マスクをしたままの会話）
・同じ身体障碍者に見下される
・手話を覚えてもらえない
・ろう重複障害者が働く場所が少ない
・機械の雑音で聞き取りにくい
・希望する仕事ができない
・長時間働きたいが、仕事がないと帰らされる
・休みがとりにくい
・体力的に大変
・職場が遠い

表２－８６．現在の住まい（手段別）

住まいの種類	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．一戸建ての持ち家	799名（64.6%）	739名（64.6%）	53名（66.3%）	7名（53.8%）
２．分譲マンション	125名（10.1%）	115名（10.1%）	10名（12.5%）	0名（ 0.0%）
３．民間借家、民間アパート、民間マンション	151名（12.2%）	147名（12.8%）	2名（2.5%）	2名（15.4%）
４．県営・市営・公団の賃貸借家	108名（8.7%）	97名（8.5%）	8名（10.0%）	**3名（23.1%）**
５．社宅、寮	18名（1.5%）	17名（1.5%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
６．グループホームやケアホーム、福祉ホーム	5名（0.4%）	4名（0.3%）	0名（0.0%）	**1名（ 7.7%）**
７．入所型の施設	4名（0.3%）	4名（0.3%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
８．その他	11名（0.9%）	11名（1.0%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）

＜その他＞　１１名

・実家
・家族・親戚の家
・親の持ち家を相続

表２－８７．日頃の近所の人たちとの関わり（手段別）

	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．つき合いはない	177名（14.3%）	158名（13.8%）	13名（16.3%）	**6名（46.2%）**
２．あいさつする程度	958名（77.4%）	901名（78.8%）	50名（62.5%）	**7名（53.8%）**
３．くらしや地域のことで話し合っている	173名（14.0%）	155名（13.5%）	**18名（22.5%）**	0名（ 0.0%）
４．困りごとや悩みを相談し合う	59名（4.8%）	52名（4.5%）	**7名（8.8%）**	0名（ 0.0%）
５．その他	48名（3.9%）	41名（3.6%）	7名（8.8%）	0名（ 0.0%）

＜その他＞　４８名

・マンション組合集会（防災訓練やイベントへの参加）
・学区内の地域活動（回覧板・清掃活動・市内大会・広報の配布・老人会・グランドゴルフ）
・近所の人は理解してくれる（例：手話で話してくれる/親友がいる/災害時に呼びに来てもらえるよう依頼）
・お土産を渡す仲
・一緒に買い物に行く仲
・メールをする仲（何かあると教えてくれる）
・限定された付き合い（管理人・組長・隣人・子どもの同級生の母）
・近所に家がない
・隣に親が住んでいる
・転居して間もないため話すことがない
・付き合いがなく、孤独
・区と村の付き合い
・人工内耳友の会ACITA東海支部
・名古屋難聴者・中途失聴者支援協会
・ほっとくると相談
・親の兄弟、いとこ
・サークル仲間

表２－８８．地域の活動・集まりへの参加（手段別）　※複数回答

活動の参加	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	658名（53.2%）	614名（53.7%）	**32名（40.0%）**	**12名（92.3%）**
２．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	387名（31.3%）	371名（32.4%）	14名（17.5%）	2名（15.4%）
３．手話サークル	668名（54.0%）	648名（56.6%）	**16名（20.0%）**	**4名（30.8%）**
４．要約筆記サークル	104名（8.4%）	90名（7.9%）	**14名（17.5%）**	0名（ 0.0%）
５．自治会（町内会）の行事の活動	337名（27.2%）	310名（27.1%）	25名（31.3%）	**2名（15.4%）**
６．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	164名（13.3%）	155名（13.5%）	8名（10.0%）	1名（ 7.7%）
７．老人クラブ	89名（7.2%）	81名（7.1%）	6名（7.5%）	1名（ 7.7%）
８．地域のスポーツ活動	172名（13.9%）	165名（14.4%）	5名（6.3%）	2名（15.4%）
９．地域の趣味、娯楽の集まり	200名（16.2%）	186名（16.3%）	13名（16.3%）	1名（ 7.7%）
１０．作業所や施設のボランティア	118名（9.5%）	111名（9.7%）	7名（8.8%）	0名（ 0.0%）
１１．その他	75名（6.1%）	67名（5.9%）	7名（8.8%）	4名（30.8%）
１２．参加していない	173名（14.0%）	155名（13.5%）	18名（22.5%）	0名（ 0.0%）
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	112名（10.3%）	106名（9.3%）	6名（7.5%）	0名（ 0.0%）

＜その他＞　７５名

・聴覚障害者支援事業所（ほっとくる・笑おう舎）　・デイサービス（瑞光の里・あじさいの会）
・元気になろう会　・地域の活動（花火おやじの会・草取り）　・地域のボランティア（IPCクラブ）
・会社のサークル　・聴覚障害者との交流（難聴者の集い・新光会）　・ろう者と聴者との交流会
・給食会「敬老会」　・健康教室「敬老会」　・日本網膜色素変性症協会
・スポーツ（聾学校の部活動・障害者スポーツ大会）　・学校の手話クラブ　・子どもの行事
・手話学習講座　・福祉実践教室　・ボールペン画　・手作り料理　・ガールスカウト
・学童保育所　・トレーニング　・絵画教室　・友人　・講演会　・趣味の写真の会
・習い事　・手話の会教（？）　・拠点聴覚障害者（？）

表２－８９．地域の活動・集まりへの参加（手話使用者 1144 名）　※複数回答

活動・集まり	総数（1144 名）	1．よく参加する	2．月１、２回	3．年数回程度	4．その他
１．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	614 名（53.7%）	175 名(15.3%)	154 名(13.5%)	250 名(21.9%)	20 名（1.7%）
２．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	371 名（32.4%）	58 名(5.1%)	78 名(6.8%)	204 名(17.8%)	28 名(2.4%)
３．手話サークル	648 名（56.6%）	295 名(25.6%)	158 名(13.8%)	170 名(14.9%)	22 名(1.9%)
４．要約筆記サークル	90 名（7.9%）	24 名(2.1%)	21 名(1.8%)	28 名(2.4%)	16 名(1.4%)
５．自治会（町内会）の行事の活動	310 名（27.1%）	38 名(3.3%)	43 名(3.8%)	204 名(17.8%)	23 名(2.0%)
６．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	155 名（13.5%）	41 名(3.6%)	17 名(1.5%)	81 名(7.1%)	14 名(1.2%)
７．老人クラブ	81 名（7.1%）	21 名(1.8%)	21 名(1.8%)	24 名(2.1%)	15 名(1.3%)
８．地域のスポーツ活動	165 名（14.4%）	47 名(4.1%)	44 名(3.8%)	55 名(4.8%)	18 名(1.6%)
９．地域の趣味、娯楽の集まり	186 名（16.3%）	34 名(3.0%)	55 名(4.8%)	77 名(6.7%)	18 名(1.6%)
１０．作業所や施設のボランティア	111 名（9.7%）	12 名(1.0%)	22 名(1.9%)	57 名(5.0%)	20 名(1.7%)
１１．その他	67 名（5.9%）	17 名(1.5%)	24 名(2.1%)	18 名(1.6%)	2 名(0.2%)
１２．参加していない	155 名（13.5%）				
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	106 名（9.3%）				

表２－９０．地域の活動・集まりへの参加（手話未使用者 80 名）　※複数回答

活動・集まり	総数（80 名）	1．よく参加する	2．月１、２回	3．年数回程度	4．その他
１．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	32 名(40.0%)	9 名(11.3%)	5 名(6.3%)	16 名(20.0%)	2 名(2.5%)
２．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	14 名(17.5%)	1 名(1.3%)	2 名(2.5%)	11 名(13.8%)	0 名(0.0%)
３．手話サークル	16 名(20.0%)	10 名(12.5%)	2 名(2.5%)	3 名(6.3%)	1 名(1.3%)
４．要約筆記サークル	14 名(17.5%)	3 名(3.8%)	5 名(6.3%)	5 名(6.3%)	1 名(1.3%)
５．自治会（町内会）の行事の活動	25 名(31.3%)	4 名(5.0%)	2 名(2.5%)	17 名(21.3%)	2 名(2.5%)
６．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	8 名(10.0%)	2 名(2.5%)	1 名(1.3%)	4 名(5.0%)	1 名(1.3%)
７．老人クラブ	6 名(7.5%)	1 名(1.3%)	0 名(0.0%)	4 名(5.0%)	1 名(1.3%)
８．地域のスポーツ活動	5 名(6.3%)	0 名(0.0%)	1 名(1.3%)	3 名(3.8%)	1 名(1.3%)
９．地域の趣味、娯楽の集まり	13 名(16.3%)	3 名(3.8%)	6 名(7.5%)	3 名(3.8%)	1 名(1.3%)
１０．作業所や施設のボランティア	7 名(8.8%)	0 名(0.0%)	2 名(2.5%)	4 名(5.0%)	1 名(1.3%)
１１．その他	7 名(8.8%)	2 名(2.5%)	4 名(5.0%)	0 名(0.0%)	1 名(1.3%)
１２．参加していない	18 名(22.5%)				
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	6 名(7.5%)				

表２－９１．地域の活動・集まりへの参加（盲ろう者13名）　※複数回答

活動・集まり	総数（13名）	１．よく参加する	２．月１、２回	３．年数回程度	４．その他
１．ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体	12名（92.3%）	4名（30.8%）	5名（38.5%）	3名（23.1%）	0名（0.0%）
２．聴覚障害者団体以外の身体障害者団体	2名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（15.4%）	0名（0.0%）
３．手話サークル２	4名（30.8%）	1名（7.7%）	2名（15.4%）	1名（7.7%）	0名（0.0%）
４．要約筆記サークル	0名（7.7%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
５．自治会（町内会）の行事の活動	2名（7.7%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	2名（7.7%	0名（0.0%）
６．子どもや孫の学校のＰＴＡ、保護者会	1名（7.7%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（7.7%）	0名（0.0%）
７．老人クラブ	1名（7.7%）	0名（0.0%）	1名（7.7%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
８．地域のスポーツ活動	2名（15.4%）	1名（7.7%）	1名（7.7%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
９．地域の趣味、娯楽の集まり	1名（7.7%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	1名（7.7%）	0名（0.0%）
１０．作業所や施設のボランティア	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）	0名（0.0%）
１１．その他	4名（30.8%）	1名（7.7%）	2名（15.4%）	0名（0.0%）	1名（7.7%）
１２．参加していない	0名（0.0%）	—			
１３．参加したことはあるが、今は参加していない	4名（30.8%）	—			

表２－９２．表２－８８の「１２．参加していない」「１３．今は参加していない」の回答の理由（手段別）　※複数回答

	全体（1237名）	手話使用者（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．案内や情報がない	78名（6.3%）	76名（6.6%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
２．案内の内容が分からない	33名（2.7%）	31名（2.7%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
３．家族が反対する	5名（0.4%）	5名（0.4%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
４．健康に不安がある	32名（2.6%）	31名（2.7%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
５．参加費が出せない	24名（1.9%）	24名（2.1%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
６．誘われない	35名（2.8%）	33名（2.9%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
７．興味がない	110名（8.9%）	101名（8.8%）	9名（11.3%）	0名（ 0.0%）
８．身近な地域に参加したいものがない	38名（3.1%）	36名（3.1%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
９．場所が遠い	69名（5.6%）	66名（5.8%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
１０．時間がない	123名（9.9%）	117名（10.2%）	5名（6.3%）	1名（ 7.7%）
１１．手話や要約筆記等の情報保障の依頼方法が分からない	17名（1.4%）	16名（1.4%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
１２．手話や要約筆記等の情報保障の依頼が面倒である	18名（1.5%）	18名（1.6%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１３．手話や要約筆記等の情報保障がされていない	31名（2.5%）	30名（2.6%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
１４．その他	59名（4.8%）	55名（4.8%）	4名（5.0%）	0名（ 0.0%）

＜その他＞　５９名

・仲の良い友達がいなくなった　・話すことがない・人見知り　・トラブルにより（人間関係）
・参加する必要性を感じない　・考え方の不一致（理解してもらえない）
・時間がない（ろう活動の都合・仕事・自分の趣味・子どもの習い事や行事優先）
・コミュニケ―ションに不安を感じる（情報補償があれば参加したい）
・他の障害により出かけられない（歩行など）　・体力の限界　・入院中　・高齢のため
・交通手段がない　・引っ越してきたばかりでわからない　・会員に加入していないため

表２－９３．健康状態で気になっていること（手段別）　※複数回答

主な仕事	全体 (1237名)	手話使用者 (1144名)	手話未使用者 (80名)	盲ろう者 (13名)
１．よく眠れない	173名（14.0%）	157名（13.7%）	14名（17.5%）	2名（15.4%）
２．疲れやすい	445名（36.0%）	413名（36.1%）	29名（36.3%）	3名（23.1%）
３．肩、首すじが凝る	366名（29.6%）	343名（30.0%）	14名（17.5%）	5名（38.5%）
４．背中や腰が痛い、だるい	352名（28.5%）	324名（28.3%）	22名（27.5%）	**6名（46.2%）**
５．腕や手や足がだるい	155名（12.5%）	144名（12.6%）	8名（10.0%）	**3名（23.1%）**
６．眼が疲れる	381名（30.8%）	352名（30.8%）	26名（32.5%）	3名（23.1%）
７．物忘れをすることが多い	168名（13.6%）	153名（13.4%）	11名（13.8%）	4名（30.8%）
８．歩いたり、身体を動かすことが少ない	146名（11.8%）	137名（12.0%）	8名（10.0%）	1名（ 7.7%）
９．イライラすることが多い	183名（14.8%）	174名（15.2%）	6名（7.5%）	**3名（23.1%）**
１０．落ち込むことがある	155名（12.5%）	148名（12.9%）	6名（7.5%）	1名（ 7.7%）
１１．ささいなことが気になる	96名（7.8%）	89名（ 7.8%）	5名（6.3%）	**2名（15.4%）**
１２．表情や笑顔が乏しい	54名（4.4%）	46名（ 4.0%）	8名（10.0%）	0名（ 0.0%）
１３．薬を飲んでいる	468名（37.8%）	418名（36.5%）	43名（53.8%）	**7名（53.8%）**
１４．医者に診てもらっている	500名（40.4%）	452名（39.5%）	40名（50.0%）	**8名（61.5%）**
１５．何も気になることはない	156名（12.6%）	145名（12.7%）	9名（11.3%）	2名（15.4%）
１６．分からない	21名（1.7%）	20名（ 1.7%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
１７．その他	47名（3.8%）	43名（ 3.8%）	1名（1.3%）	**3名（23.1%）**

＜その他＞　４７名

・聴力の低下　・聞き返しが多くうんざり　・視力の低下　・高血圧　・めまい・メニエール病
・喘息　・痛み（頭・肩・肘・手首・腰・足・膝）　・肝脂肪の数値が高い。血糖値少々高い。
・盲ろうになり、ストレスから過敏性胃腸炎に　・糖尿病　・歩行困難（脳疾患により）
・足のむくみ　・もともと痛む左足がこれ以上悪くならないか不安　・運動不足　・転倒が増えた
・手がこわばる　・便秘・お腹がゆるい　・食欲がない　・起床時の調子が悪い
・なにもしたくない　・よく眠れる　・時々、眠れない　・睡眠時間がバラバラ
・我慢することが多い　・時々イライラする　・将来のことを考えたりする
・隣人と合わない　・タバコは一時やめたが、最近時々吸う。

表２－９４．災害など、いざという時に頼りにする人（手段別）　※複数回答

	全体 (1237名)	手話使用者 (1144名)	手話未使用者 (80名)	盲ろう者 (13名)
１．配偶者	498名（40.3%）	462名（40.4%）	33名（41.3%）	**3名（23.1%）**
２．親	369名（29.8%）	348名（30.4%）	17名（21.3%）	4名（30.8%）
３．兄弟姉妹	351名（28.4%）	328名（28.7%）	21名（26.3%）	**2名（15.4%）**
４．子ども	430名（34.8%）	392名（34.3%）	34名（42.5%）	4名（30.8%）
５．おじ、おば、いとこなどの親類	101名（8.2%）	99名（ 8.7%）	1名（1.3%）	1名（ 7.7%）
６．近所の知人	365名（29.5%）	344名（30.1%）	19名（23.8%）	**2名（15.4%）**
７．友達	318名（25.7%）	306名（26.7%）	**10名（12.5%）**	**2名（15.4%）**
８．職場の上司	170名（13.7%）	168名（14.7%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
９．職場の同僚	150名（12.1%）	147名（12.8%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
１０．自治会の役員・区長	69名（5.6%）	65名（ 5.7%）	3名（3.8%）	1名（ 7.7%）
１１．民生委員・児童委員	67名（5.4%）	62名（ 5.4%）	5名（6.3%）	0名（ 0.0%）
１２．加入している団体（難聴協会・ろうあ協会･盲ろう者友の会･その他）の会員や役員	230名（18.6%）	224名（19.6%）	2名（2.5%）	4名（30.8%）
１３．手話や要約筆記サークルのメンバー	293名（23.7%）	286名（25.0%）	5名（6.3%）	2名（15.4%）
１４．福祉事務所の職員	65名（5.3%）	64名（ 5.6%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
１５．市役所・区役所の職員	106名（8.6%）	102名（8.9%）	3名（3.8%）	1名（ 7.7%）
１６．障害者相談事業所の職員	48名（3.9%）	45名（3.9%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
１７．かかりつけの医者	52名（4.2%）	50名（4.4%）	2名（2.5%）	0名　(0.0%）
１８．看護師	19名（1.5%）	18名（1.6%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
１９．保健師	6名（0.5%）	6名（0.5%）	0名（0.0%）	0名　(0.0%）
２０．幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士	5名（0.4%）	5名（0.4%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２１．小学校・中学校・高校の先生	10名（0.8%）	10名（0.9%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２２．ろう学校の先生	35名（2.8%）	35名（3.1%）	0名（0.0%）	0名　(0.0%）
２３．手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者	266名（21.5%）	252名（22.0%）	7名（8.8%）	7名（53.8%）
２４．愛知県聴覚障害者協会の職員（事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる、笑おう舎）	133名（10.8%）	128名（11.2%）	**1名（1.3%）**	**4名（30.8%）**
２５.知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員	13名（1.1%）	13名（1.1%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２６．NPO つくし職員	16名（1.3%）	16名（1.4%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２７．福祉事業所・作業所の職員	23名（1.9%）	23名（2.0%）	0名（0.0%）	0名　(0.0%）
２８．その他	23名（1.9%）	20名（1.7%）	1名（1.3%）	2名（15.4%）
２９.災害の時に頼りにする人はいない	49名（4.0%）	43名（3.8%）	5名（6.3%）	1名（ 7.7%）

＜その他＞　23名

・交際相手　・家族・親戚　・ホームヘルパー　・介護福祉士　・ケアマネジャー
・施設の職員（グループホーム・デイサービス）　・県営住宅の管理人　・手話サークル
・社会福祉協議会の職員　・名鉄の駅員　・警察官　・名身連聴覚言語障害者情報文化センター
・考えたことがない　・成り行きで良くも悪くもなる　・場所による
・手話の会教（？）　・障害者（ろう者）在り（？）

表２－９５．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先（手段別）　※複数回答

	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．配偶者	**406名（32.8%）**	374名（32.7%）	28名（35.0%）	4名（30.8%）
２．親	256名（20.7%）	239名（20.9%）	14名（17.5%）	3名（23.1%）
３．兄弟姉妹	226名（18.3%）	214名（18.7%）	9名（11.3%）	3名（23.1%）
４．子ども	295名（23.8%）	273名（23.9%）	19名（23.8%）	3名（23.1%）
５．おじ、おば、いとこなどの親類	63名（5.1%）	62名（ 5.4%）	1名（1.3%）	**0名（ 0.0%）**
６．近所の知人	184名（14.9%）	171名（14.9%）	13名（16.3%）	**0名（ 0.0%）**
７．友達	**484名（39.1%）**	466名（40.7%）	16名（20.0%）	2名（15.4%）
８．職場の上司	130名（10.5%）	128名（11.2%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
９．職場の同僚	155名（12.5%）	151名（13.2%）	4名（5.0%）	0名（ 0.0%）
１０．自治会の役員・区長	60名（4.9%）	57名（ 5.0%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
１１．民生委員・児童委員	32名（2.6%）	30名（ 2.6%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
１２．加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の会員や役員	281名（22.7%）	264名（23.1%）	8名（10.0%）	**9名（69.2%）**
１３．手話や要約筆記サークルのメンバー	346名（28.0%）	333名（29.1%）	10名（12.5%）	3名（23.1%）
１４．福祉事務所の職員	69名（5.6%）	67名（ 5.9%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
１５．市役所・区役所の職員	130名（10.5%）	125名（10.9%）	2名（2.5%）	3名（ 0.0%）
１６．障害者相談事業所の職員	43名（3.5%）	40名（ 3.5%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
１７．かかりつけの医者	52名（4.2%）	46名（ 4.0%）	5名（6.3%）	1名（ 7.7%）
１８．看護師	20名（1.6%）	20名（ 1.7%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１９．保健師	7名（0.6%）	7名（ 0.6%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２０．幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士	4名（0.3%）	4名（ 0.3%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２１．小学校・中学校・高校の先生	12名（1.0%）	12名（ 1.0%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２２．ろう学校の先生	36名（2.9%）	36名（ 3.1%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２３．手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者	232名（18.8%）	223名（19.5%）	3名（3.8%）	**6名（46.2%）**
２４．愛知県聴覚障害者協会の職員（事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる、笑おう舎）	169名（13.7%）	163名（14.2%）	2名（2.5%）	**4名（30.8%）**
２５．知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員	13名（1.1%）	13名（ 1.1%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２６．NPO つくし職員	22名（1.8%）	22名（ 1.9%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２７．福祉事業所・作業所の職員	28名（2.3%）	27名（ 2.4%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
２８．役所の広報・ホームページ	74名（6.0%）	72名（ 6.3%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
２９．テレビ	**670名（54.2%）**	619名（54.1%）	47名（58.8%）	4名（30.8%）
３０．目で聴くテレビ（CS 放送）	82名（6.6%）	76名（ 6.6%）	6名（7.5%）	0名（ 0.0%）
３１．新聞	529名（42.8%）	480名（42.0%）	46名（57.5%）	3名（23.1%）
３２．インターネット	**456名（36.9%）**	435名（38.0%）	19名（23.8%）	2名（15.4%）
３３．団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の機関誌	314名（25.4%）	299名（26.1%）	**9名（11.3%）**	**6名（46.2%）**
３４．団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）のホームページ	88名（7.1%）	86名（ 7.5%）	2（2.5%）	0名（ 0.0%）
３５．聴覚障害者情報提供施設の広報誌	153名（12.4%）	151名（13.2%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
３６．聴覚障害者情報提供施設のホームページ	59名（4.8%）	58名（ 5.1%）	0名（0.0%）	1名（ 7.7%）
３７．その他	33名（2.7%）	25名（ 2.2%）	6名（7.5%）	2名（15.4%）
３８．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先はない	14名（1.1%）	12名（ 1.0%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）

＜その他＞　59名

・市区の広報・メール・回覧板・告知板　　・勤務先から　　・施設の職員から　・協会から（知聴協だより新聞）
・少し前から１１９番取付済み　　・公共施設のサービス案内やチラシ・雑誌　　・スマートフォン（SNS）　　・ラジオ
・交際相手から　　・手話サークルの仲間、先生から　　・部落の会員に入っていたとき

表２－９６．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報・コミュニケーションの困難（手段別）　※複数回答

	全体（1237名）	手話使用者　（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．手話や字幕が入っていないテレビ番組が分からない、分かりにくい	**638名（51.6%）**	600名（52.4%）	30名（37.5%）	８名（6.5%）
２．手話や字幕が入っているテレビ番組の内容が分からない、分かりにくい	230名（18.6%）	216名（18.9%）	５名（6.3%）	**９名（69.2%）**
３．災害の時の情報の入手方法や避難方法が不安	**618名（50.0%）**	591名（51.7%）	19名（23.8%）	８名（61.5%）
４．自動車事故にあった時の保険会社の手続きが分からない	316名（25.5%）	299名（26.1%）	**11名（13.8%）**	**６名（46.2%）**
５．病院や医者にかかる時の会話（予約や医者の問診・診断内容、薬局の呼び出し）	**440名（35.6%）**	416名（36.4%）	**17名（21.3%）**	**７名（53.8%）**
６．福祉制度やサービス・施策等を利用する時（わかりやすく説明してくれない）	153名（12.4%）	144名（12.6%）	**３名（3.8%）**	**６名（46.2%）**
７．銀行や郵便局などの公共施設を利用する時	229名（18.5%）	217名（19.0%）	**６名（7.6%）**	**６名（46.2%）**
８．商店・スーパー・食堂などでの買い物などの時	212名（17.2%）	201名（17.6%）	**５名（6.3%）**	**６名（46.2%）**
９．近所の方と話す時	326名（26.4%）	302名（26.4%）	17名（21.3%）	**７名（53.8%）**
１０．学校などへ子どものことで懇談や相談をする時	72名（5.8%）	69名（ 6.0%）	**２名（2.5%）**	１名（ 7.7%）
１１．携帯電話（メール）やパソコンの使い方が分かりにくい	163名（13.2%）	155名（13.5%）	**２名（2.5%）**	**６名（46.2%）**
１２．文字や文章を書いて、FAXや手紙で伝えることが難かしい	169名（13.7%）	160名（14.0%）	**３名（3.8%）**	**６名（46.2%）**
１３．行政からの案内や広報、新聞などの文章を理解することが難かしい	249名（20.1%）	237名（20.7%）	**５名（6.3%）**	**７名（53.8%）**
１４．役立つ情報や大切な情報が分からない	187（15.1%）	177名（15.5%）	**５名（6.3%）**	**５名（38.5%）**
１５．クレジットカードや携帯電話の契約を結ぶときや変更・解除する時	415名（33.5%）	391名（34.2%）	**17名（21.3%）**	**７名（53.8%）**
１６．119番（救急車 きゅうきゅうしゃ ・消防 しょうぼう ）への呼び出しの時	**464名（37.5%）**	443名（38.7%）	**12名（15.0%）**	**９名（69.2%）**
１７．110番（警察）との連絡ができない	**481名（38.9%）**	461名（40.3%）	**12名（15.0%）**	**８名（61.5%）**
１８．交通機関やレジャー・宿泊などの予約の時	218名（17.6%）	203名（17.7%）	**６名（7.5%）**	**９名（69.2%）**
１９．補聴機器では充分にコミュニケーションがとれない	307名（24.8%）	283名（24.7%）	17名（21.3%）	７名（53.8%）
２０．結婚、産婦人科の診療、出産、離婚等のプライベートに関わる相談をする相手や相談機関がない	91名（7.4%）	86名（7.5%）	２名（2.5%）	３名（23.1%）
２１．特にない	98名（7.9%）	87名（7.6%）	11名（13.8%）	０名（ 0.0%）
２２．日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報の入手先はない	68名（5.5%）	56名（4.9%）	６名（7.5%）	６名（46.2%）

表２－９７．日頃の暮らしの中で困っていること、不自由に感じること（手段別）　※複数回答

主な仕事	全体 (1237名)	手話使用者 (1144名)	手話未使用者 (80名)	盲ろう者 (13名)
１．病気のこと（自分の健康や病気のことが気きになる）	475名（38.4%）	441名（38.5%）	27名（33.8%）	**7名（53.8%）**
２．聴こえのこと	267名（21.6%）	227名（19.8%）	**35名（43.8%）**	**5名（38.5%）**
３．くらしの世話をしてくれる家族が病気になったり倒れたりした時のこと	381名（30.8%）	348名（30.4%）	27名（33.8%）	**6名（46.2%）**
４．家に一人でいるときに何があったら不安	368名（29.7%）	343名（30.0%）	19名（23.8%）	**6名（46.2%）**
５．生活するには年金額が少ない	202名（16.3%）	188名（16.4%）	11名（13.9%）	3名（23.1%）
６．年金がもらえない	36名（2.9%）	33名（ 2.9%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
７．物価が高い	229名（18.5%）	215名（18.8%）	11名（13.8%）	3名（23.1%）
８．医療費が高い	45名（3.6%）	41名（ 3.6%）	4名（5.0%）	0名（ 0.0%）
９．安心して行ける医療機関が近くにない・わからない	83名（6.7%）	80名（ 7.0%）	1名（1.3%）	2名（15.4%）
１０．通院・通所することが困難	70名（5.7%）	65名（ 5.7%）	2名（2.5%）	**3名（23.1%）**
１１．貯金ができない	115名（9.3%）	107名（ 9.4%）	6名（7.5%）	2名（15.4%）
１２．税金が高い	203名（16.4%）	193名（16.9%）	8名（10.0%）	2名（15.4%）
１３．炊事・洗濯・掃除などの家事	96名（7.8%）	88名（ 7.7%）	5名（6.3%）	**3名（23.1%）**
１４．近所とうまくつきあえない	236名（19.1%）	226名（19.8%）	6名（7.5%）	**4名（30.8%）**
１５．身近な地域に気軽に集まることができる場所がない・少ない	238名（19.2%）	227名（19.8%）	7名（8.8%）	**4名（30.8%）**
１６．何でも話し合える友人がいない・話し相手がいない	136名（11.0%）	119名（10.4%）	14名（17.5%）	**3名（23.1%）**
１７．選挙で投票することが難しい	103名（8.3%）	98名 8.6（%）	1名（1.3%）	**4名（30.8%）**
１８．家族の介護	115名（9.3%）	105名（ 9.2%）	8名（10.0%）	2名（15.4%）
１９．家の中でコミュニケーションがうまくいかない	117名（9.5%）	105名（ 9.2%）	9名（11.3%）	**3名（23.1%）**
２０．特にない	171名（13.8%）	163名（14.2%）	8名（10.0%）	0名（ 0.0%）
２１．その他	49名（4.0%）	40名（ 3.5%）	2名（2.5%）	**7名（53.8%）**

＜その他＞　49名

・少し困る時もある。
・交通事故が心配である。見えない・聞こえないことで、心が苦しい。
・災害時、周囲とのコミュニケーションが不安。近所の人が助けてくれるか心配。エレベーターが使えないと避難できない。足が不自由なため、手すりが無いと困る。困ったときに相談できる場所がない。特に、専門機関。障害者相談センターはあるが、職員の知識が乏しい。
・聴こえないならではの育児の相談ができる人が少ない。デフママサークルに行くけど、頻度が少なく、遠い。
・お金が無くならないか不安。

・人工内耳の医療費が高い。
・電話リレーサービスが有償なのがつらい。
・PC で故障があったときの対応。ケーブルテレビの日々の支払いが高い。
・詐欺が心配。防犯面。
・生活をする上で必要な情報が入手しづらい。ネットや新聞ではなく、人を介して得られるささいな情報。
・宅配が来たとき、ライトへの反応に遅れると不在票が入っている。
・生活全般においてコミュニケーションに壁がある。家族は手話はできないが会話はある。（筆談）いちいち口を見せてください。書いてくださいなどの説明が必要ですか？理解してもらえるのは５割以下。
・電話ができない。通報などするにしてもできない。何を言っているか言葉がわからない。
・電子マネーの manaca は障害者割引を作っているが、使える範囲が名古屋市交通局のみ。
・フィットネスクラブの入会を断られた。理由は、事故があったときにコミュニケーションできない、非常ベルがあっても気づかないので危険だから。
・車の運転を辞めたので不便。
・入所している施設での人間関係。
・自分に対して、偏見を持っている人がいる。理由もなく、差別を受けることがある。
・近所には、二人障害を理解してくれない人がいる。民生委員の女性は何もやってくれない。ゆっくり話してと言ったのに早口で話されたり、腕をたたいてきたりいたずらされた。民生委員は形だけだ。今は何もやってくれていない。やる気がないならやめてほしい。男のようにかなりきつい女だ。
・公共交通機関の中での、目で見る情報が少ないこと（特に緊急時）
・施設に入所した時、一般の人ばかりの中では聴覚障害者は孤立してさみしいのでは。聴覚障害者専門の施設が欲しい。
・グループホームが足りない。
・息子とはあまり会話がない
・兄がいるが連絡をとっていない、何年も会っていない。今は大丈夫でも先が心配
・手話を知らない人が多い。耳が聞こえないとわかってもらえても筆談の限界はある。文章力の問題。①家が築 60 年くらい。災害時が心配。同居している下の娘と引っ越すことを考えるが、金銭的にも不安。27 年前に死別した夫のお骨がまだいえにある。夫の兄嫁から夫の生家のお墓に収めることを許されていない。しかし自分でお墓を持っているわけではないので、夫のお骨をどうしたらいいか心配。
・配偶者が亡くなったときの不安。実際に生活をするのに困っている。
・お風呂の水の止め忘れ。お風呂を沸かしっぱなしにしてしまう。お店のお惣菜をうまく選ぶことができず、口に合わないことがある。
・右半身の痛みが直らないのが悩み（８回も転倒）
・年を重ね片付けが苦手。
・高齢夫婦のため突然の買いものの時、足がなく困る
・終活について

表２－９８．日頃の暮らしことで相談する相手の有無（手段別）

	１．いる	２．いない	無回答
全体（1237名）	1023名（82.7%）	161名（13.0%）	55名（4.4%）
手話使用者（1144名）	944名（82.5%）	153名（13.8%）	49名（4.3%）
手話未使用者（80名）	67名（83.8%）	7名（8.8%）	6名（7.5%）
盲ろう者（13名）	12名（92.3%）	1名（7.7%）	0名（0.0%）

表２－９９．日頃の暮らしことで相談する相手（手段別）　※複数回答

	全体（1237名）	手話使用者（1144名）	手話未使用者（80名）	盲ろう者（13名）
１．配偶者	455名（36.8%）	417名（36.5%）	34名（42.5%）	4名（30.8%）
２．親	348名（28.1%）	328名（28.7%）	16名（20.0%）	4名（30.8%）
３．兄弟姉妹	352名（28.5%）	328名（28.7%）	20名（25.0%）	4名（30.8%）
４．子ども	338名（27.3%）	301名（26.3%）	32名（40.0%）	5名（38.5%）
５．おじ、おば、いとこなどの親類	78名（6.3%）	74名（ 6.5%）	3名（3.8%）	1名（ 7.7%）
６．近所の知人	129名（10.4%）	114名（10.0%）	14名（17.5%）	1名（ 7.7%）
７．友達	477名（38.6%）	458名（40.0%）	**17名（21.3%）**	**2名（15.4%）**
８．職場の上司	102名（8.2%）	97名（ 8.5%）	5名（6.3%）	0名（ 0.0%）
９．職場の同僚	126名（10.2%）	121名（10.6%）	5名（6.3%）	0名（ 0.0%）
１０．自治会の役員・区長	22名（1.8%）	21名（ 1.8%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
１１．民生委員・児童委員	30名（2.4%）	29名（ 2.5%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）
１２．加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の会員や役員	140名（11.3%）	130名（11.4%）	6名（7.5%）	4名（30.8%）
１３．手話や要約筆記サークルのメンバー	238名（19.2%）	229名（20.0%）	7名（8.8%）	2名（15.4%）
１４．福祉事務所の職員	56名（4.5%）	54名（ 4.7%）	2名（2.5%）	0名（ 0.0%）
１５．市役所・区役所の職員	111名（9.0%）	103名（ 9.0%）	5名（7.5%）	3名（23.1%）
１６．障害者相談事業所の職員	39名（3.2%）	36名（ 3.1%）	3名（3.8%）	0名（ 0.0%）
１７．かかりつけの医者	51名（4.1%）	46名（ 4.0%）	5名（6.3%）	1名（ 7.7%）
１８．看護師	19名（1.5%）	19名（ 1.7%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
１９．保健師	6名（0.5%）	6名（ 0.5%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２０．幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士	3名（0.2%）	3名（ 0.3%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２１．小学校・中学校・高校の先生	9名（0.7%）	9名（ 0.8%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２２．ろう学校の先生	29名（2.3%）	29名（ 2.5%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２３．手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者	211名（17.1%）	202名（17.7%）	**4名（5.0%）**	**5名（38.5%）**
２４．愛知県聴覚障害者協会の職員（事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる、笑おう舎）	123名（9.9%）	119名（10.4%）	**1名（1.3%）**	**3名（23.1%）**
２５．知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員	11名（0.9%）	11名（ 1.0%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２６．NPO つくし職員	15名（1.2%）	15名（ 1.3%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２７．福祉事業所・作業所の職員	19名（1.5%）	19名（ 1.7%）	0名（0.0%）	0名（ 0.0%）
２８．その他	25名（2.0%）	20名（ 1.7%）	2名（2.5%）	5名（38.5%）
２９．災害の時に頼りにする人はいない	5名（0.4%）	3名（ 0.3%）	1名（1.3%）	0名（ 0.0%）

〈その他〉　２５名

・交際相手　　・家族・親戚　　・施設の職員（グループホーム・デイサービス）
・前職場の元上司　　・盲ろう介護者、盲ろう通訳者　　・盲学校時代の担任の先生
・盲ろう者友の会の会員、JRPS の会員　　・名古屋シーモスベルセンター　　・地元協会役員
・手話通訳士　　・ケアマネージャー　　・教会の牧師　　・自営業の人　　・聾学校の先輩
・難聴の子どもが生まれた時に相談する場所がなかった。子どもは普通学校だったので、周りは聴こえる人ばかりで会話に付いていけなかった。

表２－１００．手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障された施設や、サービスを利用したことの経験
（手段別）　※複数回答

	全体 （1237 名）	手話使用者 （1144 名）	手話未使用者 （80 名）	盲ろう者 （13 名）
１．手話通訳派遣	669 名（54.1%）	**655 名（57.3%）**	10 名（12.5%）	4 名（30.8%）
２．要約筆記者（奉仕）派遣	117 名（9.5%）	94 名（ 8.2%）	**22 名（27.5%）**	1 名（ 7.7%）
３．盲ろう者通訳・介助員派遣	18 名（1.5%）	7 名（ 0.6%）	1 名（1.3%）	**10 名（76.9%）**
４.聴覚障害者支援事業所　ほっとくる	81 名（6.5%）	75 名（ 6.6%）	2 名（2.5%）	4 名（30.8%）
５.聴覚障害者支援事業所　笑おう舎	44 名（3.6%）	43 名（ 3.8%）	0 名（0.0%）	1 名（ 7.7%）
６．NPO つくし	25 名（2.0%）	23 名（ 2.0%）	1 名（1.3%）	1 名（ 7.7%）
７．聾学校	133 名（10.8%）	130 名（11.4%）	2 名（2.5%）	1 名（ 7.7%）
８．その他	20 名（1.6%）	16 名（ 1.4%）	4 名（5.0%）	0 名（ 0.0%）
９．ない	246 名（19.9%）	217 名（19.0%）	29 名（36.3%）	0 名（ 0.0%）

＜その他＞　２０件

・手話サークル
・あいち聴覚障害者センター
・障害者相談事業所、福祉型児童発達支援センター
・名身連聴覚言語障害者情報文化センター
・社協の中途失聴者協会
・身障施設、生活支援相談員、福祉村：たまも荘
・リレー電話サービス
・要約筆記の勉強会
・市役所
・会社内で気づかないうちに面談などで利用している。
・講演
・子ども
・店員との筆談
・大学の講義で手話通訳者さんやノートテイクのサービス利用受けたことある。

表２－１０１．手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障施設や、サービスを利用して感じたこと、気づいたこと（手段別）　※複数回答

	全体 （1237名）	手話使用者 （1144名）	手話未使用者 （80名）	盲ろう者 （13名）
１．人として尊重されると感じるようになった	289名（23.4%）	271名（23.7%）	13名（16.3%）	5名（38.5%）
２．聴覚障害者同士のつながりができた・深まった	425名（34.4%）	401名（35.1%）	19名（23.8%）	5名（38.5%）
３．聴こえる人とのつながりができた・深まった	290名（23.4%）	276名（24.1%）	9名（11.3%）	5名（38.5%）
４．気兼ねなく話しができるようになった	293名（23.7%）	281名（24.6%）	9名（11.3%）	3名（23.1%）
５．これまで学べなかった様々なことを知り・学ぶことができた	374名（30.2%）	353名（30.9%）	16名（20.0%）	5名（38.5%）
６．自分自身のことを自ら選択し、様々なことを決めることができるようになった	213名（17.2%）	202名（17.7%）	5名（6.3%）	6名（46.2%）
７．利用できる制度やサービスを知るようになった	234名（18.9%）	217名（19.0%）	11名（13.8%）	6名（46.2%）
８．ひとりぼっちではなく、仲間がいることが確かめられた	289名（23.4%）	272名（23.8%）	13名（16.3%）	4名（30.8%）
９．情報がたくさん入るようになった	358名（28.9%）	340名（29.7%）	11名（13.8%）	7名（53.8%）
１０．聞こえる人やボランティアとの交流ができるようになった	245名（19.8%）	224名（19.6%）	14名（17.5%）	7名（53.8%）
１１．これからの暮らしや生き方に希望や展望が持てるようになった	120名（9.7%）	113名（9.9%）	4名（5.0%）	3名（23.1%）
１２．年金や社会福祉のサービスを理解し利用することができるようになった	148名（12.0%）	139名（12.2%）	6名（7.5%）	3名（23.1%）
１３．他の聞こえない仲間とともに福祉やくらしの発展を目指そうと思うようになった	172名（13.9%）	159名（13.9%）	8名（10.0%）	5名（38.5%）
１４．その他	41名（3.3%）	31名（ 2.7%）	5名（6.3%）	5名（38.5%）

＜その他＞　41件

・スムーズにコミュニケーションが取れて相手も不安なく接してくれるし通訳があるのとないのとでは情報量が天と地の差だ。
・共に助け合って活動しているのですべてにおいて共に歩むことができ、とても感謝している。
・研修に気兼ねなく参加できるようになった。
・派遣を利用することで知識を向上させることができる。また、行動範囲が広がり、忙しくできることが嬉しい。
・ボランティアで難聴者に楽しい場をみんなで出来るような場を立ち上げたい。
・病院のことが楽になった。
・同時に福祉による差別の再生産も感じるようになった。

・いろいろ知ることができて楽しい。
・地域のデイサービスに通うようになり、筆談ですが、おしゃべりできて楽しいようです。
・入院した時に盲ろう介助員の方が来てくれて助かった。
・手話通訳の人との間がもたない。
・市役所の設置通訳者の方とうまくコミュニケーションが取れなかった。
・難しい言葉がわかりにくい。通訳が全てを通訳してくれないため、情報が減る。声を入れると文字に変える方法を知りたい。プライバシーに不安有。同じ通訳者が良い。
・保健所主催の講演会に、主催者に説明した上で、介助員付きで出掛けたが、周囲からうるさいと言われた。特別な配慮を受けることができず、講演会の内容が全くわからなかった。
・日本手話でないと意思疎通ができないため、手話通訳者によっては、コミュニケーションが困難なことがある。日本語が十分でないので、日本語対応手話だと難しい。
・まだ、気兼ねなく手話通訳を依頼できる状況に至っていないと感じる。学校行事や保護者会など本当に重要なものしか依頼できない。又、通訳者のレベルに差が大きく、重要なことを伝えたくても、充分に相手に伝わらないことが度々ある。
・人材が足らないと思う。
・TV、DVD などすべてに字幕を付けることを義務化してほしい。
・拡大文字の情報がほしい。
・物足りない。満足がない。まだまだ分からない情報があるのでは？
・不安、コミュニケーションのズレ
・ありがたいとは思えない状況。
・何となく。
・わからない。
・別に何も感じない。
・主人が手話ができるので利用しない。
・要約筆記のサービス等を利用していない。
・認知症の為、自覚はない。

表２－１０２．今後、必要と思われるサービスや施設（手段別）　※複数回答

	全体 （1237名）	手話使用者 （1144名）	手話未使用者 （80名）	盲ろう者 （13名）
１．手話（触手話）や要約筆記などのコミュニケーションが保障された、聴覚障害者が利用しやすい施設を身近なところに作ってほしい、増やしほしい	754名（61.0%）	718名（62.8%）	**28名（35.0%）**	8名（61.5%）
２．聴覚障害に配慮した高齢者に関わるデイサービスがほしい	623名（50.4%）	588名（51.4%）	**29名（36.3%）**	6名（46.2%）
３．聴覚障害に配慮した長期間生活できる入所施設（例：特別養護老人ホーム等）がほしい	526名（42.5%）	500名（43.7%）	**22名（27.5%）**	6名（46.2%）
４．聴覚障害に配慮したショートステイ（短期入所サービス）がほしい	396名（32.0%）	373名（32.6%）	19名（23.8%）	4名（30.8%）
５．聴覚障害に配慮され、様々な場面でサポートするヘルパー派遣制度を充実させてほしい	445名（36.0%）	417名（36.5%）	23名（28.8%）	5名（38.5%）
６．子育て世代が利用できるよう、一時保育機能を備えた施設がほしい	174名（14.1%）	167名（14.6%）	**4名（5.0%）**	3名（23.1%）
７．手話（触手話）などコミュニケーションを自由に使える放課後デイサービスや、長期休業中に子どもが集まれる機会がほしい	234名（18.9%）	227名（19.8%）	**4名（5.0%）**	3名（23.1%）
８．誰もが気軽におしゃべりできる、集まって交流できる場所や部屋がほしい	547名（44.2%）	513名（44.8%）	**23名（28.8%）**	**11名（84.6%）**
９．自分に合ったペースや内容で仕事ができる作業場がほしい	243名（19.6%）	230名（20.1%）	10名（12.5%）	3名（23.1%）
１０．災害時にも、聴覚障害の配慮があり、一時的でも安心して避難生活ができる制度を整えてほしい	680名（55.0%）	640名（55.9%）	34名（42.5%）	6名（46.2%）
１１．様々な災害時の対応や知識が体験的に学べる制度を整備してほしい	433名（35.0%）	407名（35.6%）	22名（27.5%）	4名（30.8%）
１２．誰もが利用できる喫茶やレストランがほしい	396名（32.0%）	380名（33.2%）	**12名（15.0%）**	4名（30.8%）
１３．その他	44名（3.6%）	36名（ 3.1%）	3名（3.8%）	5名（38.5%）

＜その他＞　44件

・まだまだ一部の病院では筆談等コミュニケーションがとれないところがある。検査等説明がよくわからないまま痛い怖い思いをすることがあった（大学病院）。
・どこでも手話通訳を受けられる環境（急用で役所に行っても通訳を受けられるようにする）。
・手話通訳設置者が１日中、毎日ほしい。（免許の更新時に手話通訳が必要）。
・自宅に手話のできるヘルパーが来てほしい。
・盲ろう者が安心して暮らせるグループホームがほしい。お世話され過ぎず、自分でもできることは尊重され、自分の力で生活し、自分でできないところだけを支援してもらえるようなグループホームがほしい。
・ろう者だけの老人ホームなら入りたい（笑おう舎がたいがいがまかなっている）。
・老後が不安なので、聴覚障害者に対応できる施設が欲しい。
・手話で話せる地域の趣味娯楽の集まる場所が欲しい。

・生活上必要な情報が全て入手できる施設が欲しい。ここに行けば、子育て、教育、病院、手当各手続き方法など数々な知りたいことを教えてくれるという場所。
・困ったとき、相談するところを設けて欲しい。
・聴覚に限らずすべての障害者に配慮を。
・音声認識システムを増やしてほしい。
・テレビ・日本の映画（邦画）に字幕をつけてほしい。
・スーパーなどの店員が手話できるといい。
・絵や写真を見てわかるメニューを置く店が増えてほしい。
・ICT 等のコミュニケーション手段が普及していけば、集会や講演会などは、盲ろう者だけ、視覚障害者だけ、ろう者だけ等　特化したなくてもいいと思う。それぞれの立場での横のつながりも必要だと思う。高齢の難聴者が増えているので、地域に集まれる場所があるといい。
・老人ホームでも聞こえる人と一緒に聴覚障害をもった人の枠を作って一緒に暮らす方法も良いと思う。
・パトライト以外で、一人でいるときに来客がわかる方法。
・今あるサービスや施設が、障害があっても利用できる環境になり、それが当たり前になること。
・気持ちよく旅行ができるようにしてほしい。
・盲ろう者にとって、たくさんの情報が得られる場所がほしい。触手話ができる職員がほしい。
・盲ろう者が気軽に集まることができる場所がほしい。
・自分が元気で働いているので、考えられない。
・分からない。
・特にない。
・近い場所がほしい。
・利用したいけど、うわさなどをひろめることがきらい。

（4）アンケート調査や、行政に要望してほしいこと、愛知県聴覚障害者協会などに対する要望や期待すること（自由記述）

※個人を特定した文章以外は基本的に原文のまま掲載しました。

＜施設設立への意見＞

○高齢者施設・情報情報提供施設の建設への要望　４５件

・ろう専門の特別養護老人ホームを設けてほしい。
・ショートステイだけでもできる場所も必要です。
・現在、聴覚障害やろう重複障害者の作業所やヘルパー派遣事業所がある。利用者は若い人ばかりでなく、50～80 歳代の利用者もいる。今は、親と一緒に暮らしていたり、グループホームに入ったりしているが、親亡き後はどうするのかといった問題がでてくる。一般（健聴者）のグループホームにでも入るのか、またコミュニケーションが通じないなどがあると思うので、高齢者までのグループホームの建設を早くしてほしい。
・老人ホーム不安で作ってほしい（耳が聞こえない障害者対象）。
・聞こえない人の老人ホームを建ててほしい。
・ろう者のみの介護施設、老人ホームを愛知県にたくさん増やしてほしい。
・聴覚障害者専用の老人ホームを作ってほしい。
・愛知県には聴覚障害者への補助が少ない。老人ホームもない。視覚障害のホームはあるのだから早く作ってほしい。この先が心配。
・聴覚＋要援護者の住まいの場（施設系）を増やしてほしい。また、このアンケートになかったが、触法者も一定数いる。地域の一資源としてもっと活用できたらと思う。
・高齢化が進んでいる中、ろうの高齢者に対応した老人ホームなどの施設を聾学校の近くに建てられたら、幅広い世代交流や聾学校の教員、聾学校の親にとっての貴重な体験の場になると思う。
・親がいなくなった後の自立支援や生活支援のための施設、ホームを望む。
・ろう専門の施設が欲しい(自分の将来も関わる)。
・扶養者の兄(健常者)が他界したら入居できる施設を天白区に作ってほしい。
・一般老人ホームとか高齢施設にかかわる職員を対象として聴覚障害に関する理解と手話講座(学習会)を開くようにしたい。一般ホームヘルパー対象も同様。
・一日も早く聴覚障害者、盲ろう者の施設ができるように。
・ろう高齢者だけの施設を絶対建ててほしい。
・もっと高齢者が気軽に集まれる場所が欲しい。交通に便利で近くに欲しい。
・地域でも聴覚障害専用施設を作ってほしい。
・ほっとくる、笑おう舎などの施設が西尾市に欲しい。
・重複障害者が通える施設・ホームがもっとたくさんあると良い。
・高齢聴障者が多くなるため、問 20 にある入所・デイサービスのコミュニケーション保障の施設を要望する。
・聾者だけの老人ホームが欲しい。
・西三河にサービスや施設が欲しい。
・ろう老人ホームを早く作ってほしい。
・岡崎にデイサービスを作ってほしい。（ほっとくるや笑おう舎みたいな場所）
・施設の建設はいつ頃の予定ですか？きちんと計画して本当に施設を建ててくれるのですか？障碍者が安心して暮らせるようにしてほしい。
・笑おう舎をもっと大きくしてほしい。笑おう舎の２階も使えるようになるといい。
・ろう老人ホームなら入所したい（３年前、近くの老人ホーム入所をすすめられたが断ったことがある）

・老人ホーム早期建設を望む。
・近くにろう関係の福祉施設が欲しい。同じ世代の人(高齢)が集まるには交通手段がであって欲しい。
・東三河にろう専用の施設を設けてほしい。
・各市、各地域に施設があると安心できる！
・聴覚障害者が気楽に利用できる老人ホーム等の必要性を感じる。
・早く西尾張に施設を立ててほしい！
・高齢なので早く施設をたててほしい。
・皆の話をきくと、生活できる施設を早く作ってほしい。
・「ろう者が安心安定できるような施設がほしい。」そのために、自分が資格を得て知識、理解、説得力を高めていくところ。
・ろう高齢者の施設/ろう児の施設
・京都府のいこいの村のような施設があるといいと思う。
・早く老人ホームをたててほしい。
・高齢者のための施設が欲しい。
・聴覚障害者が安心できる施設を西尾張の拠点に重点的に取り組んでいただきたい。
・老人ホームでなく各地域にグループホームがほしい。
・聾者専用老人ホームを立ててほしい。
・西尾張ろう介護センターを設けてほしい。
・身近な地域に施設（拠点）が早くできることを望む。
・特別養護老人ホームを増やしてほしい。
・老人ホームに入れるか心配。建ててほしい。
・聴覚障害者が利用しやすい施設とろう老人ホームが絶対に欲しい
・知多半島に、地元に、ほっとくるのような施設ができるといい。（阿久比は電車×。常滑駅近くや市民交流センターだと近くていい。）
・聴覚障害者のためのサービスや施設をつくってほしい。
・聴覚障害に配慮した長期間生活できる入所施設が多くでき、選んで入所できるようになるとよい。
・聴覚障害者のためにちゃんと施設を設立してください。
・障害者施設の経営支援について。本来国や県・市が実施してもよいと思われる障害者に対する自立に向けた様々な取り組みを民間の NPO 他の事業者が行っている実態をより直視し、財政的にも大きな負担が強いられている現状を少しでも改善できるよう支援強化を早急に実施してほしいと強く切望する。
・障害者施設の実態把握について。行政の方々にはより一層現状把握いただきたく、施設の現場を見ていただきたいと思う。施設の職員の皆さんが厳しい環境の中どれだけ多くの努力をされているか再認識してほしい。

○難聴者への情報提供・施設の要望　２件
・世間の情報が入りにくく困っている。難聴の人は「ひびき」という雑誌から情報を得ている。
・難聴協会でセンターの会議室を利用するとき、ヒアリンググループ、拡声器スクリーンを出して使用している。センターが使えない時、他の会館にはついていなくて、大変で負担になる。

＜情報保障＞

○情報補償機器・文字情報の依頼　２２件
・鉄道等の事故などで止った時マイクでの放送があっても話の内容が解らず他の乗客が下車一度は下りて改札口に行き電光掲示を見て理解難聴者は置きざりになっている。
・情報保障（名古屋の友人と情報交換している。）が足りない。
・大手カー用品店にて、オイル交換を依頼。終了後の放送での呼び出しを聞こえにくいため、直接声をかけてもらいよう依頼した。しかし、店員はそれを忘れずっと放送で呼び出しをしていたらしい。改善策として、

フードコートで受け取る呼び出し用バイブをボタンとセットで聴覚障害者に至急すれば活用できるのではないかと思います。わたしは実現したら活用します。
・バス停にバスが来ることが見てわかるサインが欲しい。
・電車が事故で止まった時、電車内アナウンスなど、声の情報ではわからないので、電車内の電光掲示板又はモニターがついて表示してほしい。
・映画で邦画をみる時、字幕がないことが多い。また、DVD を購入してもつかない。
・愛知県社協にある情報保障機器について管理をしっかり行ってほしい。
・OHC を名古屋の社協のように入れてほしい。その他の機器も、名古屋市社協のように 2，3 台あると助かる。愛聴協も会場費、情報保障の機械（磁気ループ、OHC、PC 要約セット、プロジェクター、スクリーンなど）の借用を無料でできると助かる。名古屋市にある名身連聴言センターは、会場費以外の情報保障機材は無料で借用させて頂いている。
・スマホの利用で音声→文字を示す。このやり方に慣れたら、便利になると思う。グーグルの音声→文字のサービスを利用する。
・電車の遅れや運休があったら、僕たち聴こえないひとのために情報がほしい。（例：駅員に筆談対応、行先表示器に運休と遅れの理由を文字で表示してほしい。）
・議会や地域の行事、講演会等に手話通訳や要約筆記を全てつけてほしい。
・情報保障のできる機器の貸出制度を充実してほしい。
・健常者と不公平なく、政治活動や選挙活動において手話通訳等の情報保障をきちんと整えて欲しい。将来、ろう者が活躍する時代がやってくると思われるので。
・文字表示の制度を早く進めてほしい。
・聴覚障害者が働いている環境を整えるべきなのではないかと思う。（例:放送等がわからないので、放送内容が分かる様に字幕が出てくる機会があるとより良い環境になるのではないか。）
・朝、会社通勤で、緊急(人身事故とか)な電車の時遅れの理由が放送で出ているけどわからなくて何番行けばよいか困った。
・テレビのニュース等には手話を付けてほしい。
・突然電車が止まったが、すぐ耳が聞こえないため筆談してもらった。電車が止まっている理由を職員から教えてほしい。表示が要望したい。
・聞こえないという障害は、人と人を切るコミュニケーション障害であることを行政にもっと理解してほしい。人と人を繋ぐ情報補償が充実するだけで自力で生きていけるようになる聴覚障害者がとても多い。
・見てわかる文字放送のような安心して生きれる環境をつくってほしい。
・講演会ではループアンテナを利用すると聞き取れてうれしい。今度、大きな講演会にループアンテナを設置してほしい。
・私は難聴なので手話を読み取ることが難しい。OHC があると行事に参加できる。

〇手話通訳者の派遣の要望　１７件
・手話通訳を増やしてほしい。いろいろな場所に手話通訳者がいてほしい。派遣にメールが使えると良い。
・困ったときにすぐ手話通訳者を利用できるように 24 時間体制の窓口がほしい。
・設置が二人いるとよい。（手話通訳士？）
・火事も自転車事故もすぐに通訳者に来てほしい。
・通訳派遣依頼方法を改善してほしい。Fax だけでなく、メールとか TEL リレーとか、すぐ対応できる方法。
・手話通訳者を養成するためのろう者用の手話指導法について話し合う場が欲しい。
・困ったこと、問題などが発生した時と交通事故などにあった時にすぐ来てもらえる通訳者があればいいと思う。
・手話通訳派遣を依頼しても、認められないケースがある。定められた基準はあると思うが、聴覚障がい者が通訳を必要としているのならば、いかなる理由があっても、派遣してもらえる制度にしてほしい。
・病気になった時、通訳者が一緒にいないと困る。
・日本手話ができる手話通訳者の養成（技術の向上）
・24 時間、手話通訳が可能なサポート体制。遠隔でも構わないので、突然の依頼にも対応できるようにして欲しい。
・手話通訳者の社会的地位向上。給与アップ。通訳者としての自覚なども含む。

・愛知県聴覚障害者協会に対する要望。平日は行事でなかなか行けないので、時々、土日に開けて欲しい。出版の本を買いたい時、行事の申し込みをしたい時、土日に対応してくれると助かる。
・手話通訳者派遣の範囲を広げて欲しい。スポーツ大会やヘルパー講習会、近所の葬式、通訳派遣を断られた。手話通訳者が来てくれたのに、私の手話が読み取れず、困った。もっと勉強してほしい。地域の役員をとばされる。前もって確認してほしかった。
・24 時間、手話通訳が可能なサポート体制。当日の突然の依頼でも派遣が可能にして欲しい。（現在は 1 週間前の申請となっており、急な病気の時には対応不可）遠隔通訳サポートを取り入れて欲しい。
・手話通訳派遣者が大いに増えてほしいですが、厳しい指導よりやさしくしてほしい。手話通訳者に費用がかからず、無料でやっていただけたら嬉しい。
・質の良い手話通訳者増員のためにも社会的地位の向上を望む。聴者の話を手話表現することは可能でも、ろう者の話（手話）を日本語（話し言葉）にする際、言いたいことが伝わっていないと度々感じる。

〇要約筆記者の派遣の要望　９件
・行政に要望として、職場内への要約筆記派遣を認めてほしい。
・現社会では、難聴対応＝手話というのがまだ主流。中途失聴者及び高齢による難聴者には手話はとても難しい。要約筆記者をもっと育成し、世に増やしてほしい。また、筆談であればだれでもできることなので、難聴当事者が進んで自分の不都合をアピールし、協力をあおぐことが必要だと思う。
・中途失聴者（高齢者）にとって手話は難しい。要約筆記者を増やしてほしい。
・中途失聴者。現在は補聴器を使用すればコミュニケーションは可能。いつかは聞こえなくなると思う。失聴しても社会参加できるように手話を習得したい。近くの手話サークルは健聴者対応であるため、難聴者には要約筆記が必要。市町村に一か所、手話を学べる場を設定してほしい。足腰が元気で前を向いているうちにお願いします。
・親から見て、両親が年をとって一人になったときに誰が面倒をみるのか不安。頼れるのは相談事業所の人のみだが、本人が日頃連絡をとっているわけではない。考えると途方に暮れる毎日。手話サークルに行ったとしても打ち明けられる仲間がいるのか。友人ができるといいが。
・要約筆記者の派遣に関し、派遣要綱に「モデル派遣要綱」がある。実際派遣範囲には制約がありすぎるのではないか。「モデル派遣要綱」にある範囲まで可能にすべきと考える。
・愛知県東部における要約筆記者不足が懸念されています。行政の養成事業、派遣制度の理解のなさも問題で、奉仕員・ボランティアを登録することで間に合わせている現状が将来的に不可能になることを全く想定していないのでは？高齢化している田舎こそ確実な情報保障と専門職としての技術を持つ有資格者が必要。地域格差があってはダメ。
・旅行やその他の楽しい遊びにも要約筆記者が派遣されると難聴者にも楽しみが増す。小さなグループにも要約者がつくようになるといい。
・車の免許証講習の時、健聴者と一緒で、聴こえないことが多く不安だった。聴力障害者でも安心して講習が受けられるように要約筆記者をお願いしたい。

＜情報伝達システム＞

〇電話リレーサービス・テレビ電話への要望　８件
・テレビ電話をどこでも 1 か所おいてほしい。パソコン故障の時電話対応が多い。ろう者のためのテレビ電話を設けてほしい。事故、夜中、病気が発症して救急車を呼んでほしい時、手話通訳者が 24 時間対応してほしい。
・全てのろう者が幸せになるためのユートピアが何なのかわからない。想像がつかない。
・電話リレーサービスを使いたいが、申し込みの定員がいっぱいで申し込めない。みんなが平等に電話リレーサービスが利用できて、安心して生活ができる制度にしてほしい。
・日本財団電話リレーサービスのようなものを作ってほしい。
・電話リレーサービス２４時間にしてくれたら助かる。
・日本財団電話リレーサービスのようなシステム。しかし、これも 24 時間対応でない。

・日本財団が作っている電話リレーサービスを大いに利用できるようにしてほしい。24H 体制で実現してほしい。
・電話リレーサービスの使用料金を福祉手当てとして補助してもらいたい。市役所への問い合わせ方法の幅を広げてほしい。メールだけでなく、チャットも 1 つの問い合わせ方法として！地域の協会と行政の結び付きをもっと深められる様、愛聴協からのフォローがあるとなおさら心強く感じる。

〇FAX・メールの対応の要望　６件
・公共施設、娯楽施設は電話だけでなく FAX やメールでも対応してほしい。
・ドライブスルーを聞こえない人たちにも使えるようにしてほしい。保育園や幼稚園等の連絡方法を FAX や電話でなく、メールが使えるようにしてほしい。（ほとんどが FAX 対応。ずっと家にいるのもきつい。外出していても、メールできるようにしてくれると助かる。）
・タクシーを使いたい時に呼べないで不便だった。頼むときはファックスを使えるか知らないし電話も使えない。人々が近くないときにメールがタクシーに頼めたらどんなに利用しやすいかと思う。
クレジットカードなど、解約する時、電話が必要と言われることが多い。困らないように改善してほしい。
・民間企業(特に銀行など)の連絡先を TEL のみとしないようにして欲しい。(東京都は義務化され始めている)
・電話ができないので Fax にて申し込みができたらよい。
・問い合わせには必ずメールをつける。電話だけのお店には厳罰処理する（京都のお店の予約が電話のみだった）。Fax や手話の使用ができないひともいるので、幅広く対応できるようにする。障害者法の改正をお願いします。ペッパー君や変なホテルなどのただの音声案内ロボットや高速のインター出口は役に立ちません。同時に字幕案内をしてもらわないと困る。

〇警察（110 番）と消防署（119 番）への連絡　４件
・110 番、119 番が必要な時、ワンタッチで呼ぶことが出来るシステム。メールで文章を打つのが難しいので、ボタンを押すだけで出動いただけるとありがたい。
・110 番、119 番への発信が容易にできるシステム。メール 119 番はあるがボタン一つで出動いただけるとありがたい。通常でもメールを打つのに多少時間がかかるし、いざという時、本当に落ち着いてメールできるか、不安。
・家や車でもし意識がないまま倒れた問いはどうなる？ブザーがあれば警察署や消防署に伝えたい。
・110&119 番は不可など充分ではない。又、高齢者などスマホや PC の操作に慣れていない方にとっては利用が困難。もっと容易に利用できる（テレビ電話など）ものが必要。

＜公的機関－行政・法律・医療＞

〇公的機関における手話通訳への要望　２６件
・聴覚障害者が安心して暮らすようにどの施設や病院など広まってほしい。手話できる健聴者を増やしてほしい。（病院や行政、店など）
・介護士、ヘルパーに手話を覚えてもらいたい。そのための研究を行ってほしい。
・区役所にタブレットではなく設置通訳者を置いてほしい。
・手話のできるヘルパーを増やしてほしい。
・病院で手話のできる職員を増やしてほしい。
・手話のできる AI ロボットを配布してほしい。夢の中の夢の話ですが実現できたらどんなに楽しいかなと期待しています。
・病院、区役所、銀行などで手話ができる人が増えてほしい。
・突然病気になって病院に行かなければならなくなった時手話通訳を頼んでいない。短い時間で通訳者にお願いできるような方法をお願いしたい。
・病院、区役所内に通訳者が欲しい。
・総合病院に手話ができる人を置いてほしい。

・駅などの案内所に手話ができる人がいるとありがたい。
・病院、区役所の説明がわからない。
・区役所に手話通訳者がいてほしい。
・デパート、駅などの受付の人に手話ができる人がほしい。
・講習会に通訳者がいてほしい。
・戦争中、敗戦中では不利なことばかり、あるべき教育も受けられず、親であっても教育を受けられないろう者がたくさんいる。そのろう者たちはいまどんどん高齢になり、体力も落ちてしまい、考える力も衰え、人生って何だろう！ということもわからないまま世を去る高齢者たち！「聞こえる人は上で聞こえない私たちは下」我慢しているより仕方がなかった時代。今こんなに便利になり、代わり映えのない社会。聞こえる人と同じくらいに自由にどこへでも行ける社会に当たり前のいつでもどこでも手話通訳を設置してほしい。
・手話ができる警察官が必要です。
・市役所、病院にて何かしらの説明を受ける時、前もって手話通訳者の派遣依頼をしないといけない。依頼をしなくてもすぐに手話通訳ができる人が常にいる状態にしてほしい。
・高齢福祉の担当者に手話ができる人が欲しい。
・手話ができるヘルパーが欲しい。
・市役所の人に通訳をしてもらいたいと思う。
・日頃の暮らしで、手話などで会話できるようにしてほしい。
・手話で話ができる作業所がほしい。
・施設でコミュニケーションがとれるようにしてほしい。
・土地の相談・納骨の相談の手話通訳者の派遣を認めてほしい。
・緊急の派遣をやってほしい。（病気関連で手話通訳者がきてほしい。）

〇行政への要望　２５件

・行政が発信するメール（アプリ？）というような情報はあるか知りたい。なければ作ることを期待したい。
・ろう相談員が欲しい。
・名古屋市の場合、障害者に冷たい。もっと公的な施設に啓蒙を望む。
・役所への手続きが面倒。年に一度でよいので、通院などについて役所から連絡してほしい。
・くるりんバスの案内の音声が小さく聞こえないときがある。見えにくさもあるので、不安になる。
・聴覚障害者の理解を広めて。安心できるようにしたい。役場の福祉課で手話を少しでもいいから覚えてほしい。
・手話通訳者が聴障のプライバシーを他人に話したという話を度々きいています。あくまで仕事なので、秘密を必ず守れるよう何らかの制度を設けてほしい。
・南知多役場に設置手話通訳者をつけてほしい。
・手話に詳しくない聴覚障害者にも分かるように行政の窓口の係りの方に周知してほしい。毎年人が変わるたびに説明しなくてはならず、手続する時につらい。行政の書類に文面の中に分からないことがあり、確認しようとしても、コミュニケーションが取れてるはずなのに理解が（こちらの常識の？）及ばず、“こんなことが分からないのか？”という態度をされるので、いたたまれない。
・行政は、市民のための働きであり、耳が聞こえない方にもちゃんと理解してもらいたい。声を聞き、受け止めてない。
・福祉サービス。相手や兄弟と同居しても＊＊お知らせラップを使えるように認めてほしい。昔は禁止だったけれど、現在は認めてるか知りたい。相手や兄弟は健常者なら、不在の時、不便があるため、使えるようにするべき。
・県に対して、もっと聞こえない人のこと、手話という言語があることを伝えてほしい。そして、理解してほしい。
・行政と聴覚障害者団体（ろう団体、難聴団体、盲ろう団体）とが定期的に話せる場作りや、支援団体へのヒアリングの実施などを希望する。
・行政の方も手話を覚えてほしい。見えない壁まだまだあるので、みんなが安心して暮らせる街になることを夢見ています。
・日本の福祉はまだまだ外国と比べると低い。どうしたら同じになれるでしょうか？

・福祉課に聴覚障害に対応できる課、専任を！
・行政職員に障害者差別解消法の合理的配慮に関する研修を実施してほしい。
・連絡手段が電話しかないところも中にはあるところがある。電話が難しい聴覚障害者が安心して生活できるように、行政の中に気軽に生活相談ができる窓口があるといいと思う。
・他県と比べて愛知県の対応が遅い。早急に実行するべき。
・行政への依頼。身寄りのない一人暮らしの方も、後見人制度を知ってもらうため、出前講座とか高齢者も見てわかりやすいリーフレット(イラスト付き)を活用してほしい。
・行政にもっと困っていることを見せていくことが大事だと思う。自分もそうだが、福祉の制度を知らない聴覚障害者もいる。また、両親が健聴で、子どもが聴覚障害者であると現状的に人工内耳がすすめられ、「手帳をとりたくない」という考え方もあり、どうしても視野が狭くなってしまう。そうではなく、福祉は恥ずかしいことではないということをもっと世に広めていってほしい。
・行政について。福祉のパワーだけではなく、多角的な見方で、長期的な戦略を練ってほしい。
・行政は何年かかっても本当に困っている人を見てくれない。聴覚の障害は見えない障害なため、表は元気にしているが、いろんなことで壁がたくさんある。地元の行政へ何度も要望を出してきたが、なかなか取り計らってもらえない。
・病院と市役所間の無料バス、時刻(運行)を増やして欲しい。時間によって１時間にない運行もあり２時間歩いて帰ったこともあった。
・市役所からの郵便物の文章の意味が分からない。今は息子に記入してもらったり設置通訳者がいる時に市役所へ行き、説明を受けながら記入している。

〇補聴器・人工内耳の助成　４件
・補聴器を使っている人で、障害年金がもらえない人に対して、補聴器の助成金を増やしてほしい。
・補聴器の補助が市区町村によって違う。名古屋市は特別な事情がないと耳穴式の補助が出ない。耐用年数が 6～10 年の補聴器は度々買い替えなければいけない。大きな出費となる。住んでいるところによって補助が出る、出ないはおかしいと思う。一律して補助してほしい。
・補聴器の購入時の補助をぜひお願いしたい。あまりの高価のゆえに。今現在手帳を持っている方のみ補助がある。不公平ではないでしょうか。
・人工内耳に対する補助がなく、充電池等必要な部品すら 100%負担するのはかなりの負担である。収入が普通の人より少ないのだから、何らかの形で行政が取り組むべきである。特に名古屋市は、装用者が多いからと、消極的であるが、福祉に対してもっと力を入れてほしい。河村市長の考えもあるだろうが、あんな名古屋城にお金をかけてその一部でも回せないのかとあきれる。

〇障害者差別解消法、手話言語条例への意見　４件
・各市、手話言語条例制定してほしい。
・手話言語法　県聴覚障害者協会の役員の見直し(忙しい、できなかったの言い訳が目立つ etc)　地域の理解度拡大(手話言語)　。
障害者差別解消法や愛知県手話言語条例がまだ県内でも知られていない。行政にも働きかけて、知ってもらうことや理解してもらう活動が必要だと感じている。
・障害者差別解消法、手話言語条例の普及がうまくいくよう頑張りましょう。
・愛知県の手話言語・障害者コミュニケーション条例を知らない行政職員が多くいるため、積極的に啓発してほしい。

＜聴覚障害者の理解啓発＞

〇聴覚障害者理解への啓発活動　１５件
・聾者の理解を深められるような啓発活動が必要である。

・聴覚障害といえば聞こえの問題だと思われがちだが、言語獲得の手段が視覚のみということは、聞く力だけでなく、書く、読む、の力に大きく関わってくること。筆談のできるできないに差があることを市民に広く知らしめること（PR）ができる場が欲しい。聞こえない→筆談すればいい、だけではなく、聞こえないことから来る、生じる支障や困難を知らせたい。ろうに関しては、医療、教育、生活の一括代と問題の連携が必要と思う。
・他の人から見て“自分が聾者(聞こえない人)”であることが分かるような工夫があるといい。
・「聴覚障害者の生活上で困ることは何か」ということがわかるパンフレット等を作って。より聴者に知ってもらいたい。
・安心して暮らすために健聴者にも手話を学んでほしい。わかる目で配慮をしてほしい。
・ろう者、難聴者である姿を見ていても、普通と同じ見方をされる。難しいと思うけど、できれば、手話よりジェスチャーができたら聞こえない人たちは喜んでくれる。
・もっとマスメディアを使って聴覚障害者に対する理解を深めてほしい。障害者差別解消法ができても、なかなか障害者の理解が広まらない。
・住んでいるところにろう者の理解があってほしい。
・夫婦２人とも高齢で情報が遮断されがち。体調の不安などあり、安心して暮らせるような状況ではなく不安な・地元で手話ができる人を増やしてほしい。
・私が突難で不自由になった 40 年近く前の社会を思うと、現在は理解度が深まっている。しかし、外に出ると不自由なことがたくさんある。多くの人が困っているように感じる。１つ１つ挙げられないが、次の世代の障がい者が心豊かに（ハンディキャップを感じないで）生活できることを願う。
・家族の中に聴覚障害の人がいるとコミュニケーションの方法がスムーズ。だが、一般社会の中では、何か起こったときに筆談を頼むと断られる時がほとんど。見た目で分からない障害の私たちはどうすれば良いですか？
・手話ができる人を増やすために、ろう者がきこえる人に手話を教える方法など、学ぶ場所が欲しい。
・手話ができる人がもっと増えるといいなと思う。
・踊り講習の説明を手話に変えて教えてもらいたい。
・仏壇関係の買い物でコミュニケーションとして手話で話をしたい。

〇難聴者・中途失聴者の理解・啓発への要望　９件
・障害者をひとくくりにされると困る。障害は一人ひとり違うのでみな同じではと思われることは本当に困る。中途難聴で手話の勉強を始めたばかりなのに手話ができると思われたりするのは困る。話を聞いてよく理解してほしい。
・中途失聴者は手話も十分でなく筆談でお願いしたい。健聴者の方は筆談拒否されますので困る事が多い。病院・入院時は不安です多忙で筆談はムリと聞く。
・難聴者に対するアンケートが初めてでした。このような制度があること知らなくて、ほとんど利用していない。
・アンケート内容が難聴者を重視していない。
・家族で暮らしている若い人にも難聴を抱えている人が数少ないかもしれませんがいることをもっと理解していただきたいです。２級以上の一人暮らしの人しかサポートがないのではなく一人で昼間過ごしていることが多い主婦には聞こえないことがものすごく不安で不自由さを日々感じる。もう少し難聴の方に寄り添う福祉政策をしていただけるとありがたい。
・よく資料で〝きこえない〟という言葉が見られるが、難聴者の中には〝きこえにくい〟という人もいるので、きこえないといわれると、抵抗感がある。
・「手話は必要で手話がないとダメ」と言う人がいるけど、手話ばかり使うのはちょっと…と思う。文をちゃんと使いたいし、声も必要なので、口話も大事ということを分かってもらいたい。
・聴覚障害者でも手話のできない人たちはたくさんいる。口話も分かりやすく相手に伝えることも進んでいないのが現状。筆談しますというプレートをどこでも設置してほしい。
・補聴器について、知識のある医師やナースの養成が必要。

＜聴覚障害者の交流＞

〇聴覚障害者の交流の場　１２件

・一人でも行ける、入れるようなサロンなど設けていたら、行きたい。色々相談したり、愚痴とか話したりする場が欲しい。
・聞こえない子どもや高齢者が一緒に集まって交流できる場所が欲しい。
・誰もが自由におしゃべりできる、集まって交流できる場所や部屋が欲しい。
・自由にだれでも気軽におしゃべりできる集まって交流できる場所や部屋が欲しい。
・愛知県に聴覚障害者が、自由に集まれる場所を救ってほしい。なかよくコミュニケーションを取れるようにしてほしい。聴こえない人同士仲良くしてほしい。
・父母（育児をしているろう者）の集まりや、学生と社会人との交流（将来仕事するための質問したりする）をする場が必要では？
・ろう者のたまり場はどこなのか知りたい。
・国際結婚されているろうあ者との交流会やイベント参加の呼びかけの協力を要望する。
・聴者にあって当たり前の社会。ろう者は聴者の割にごく少ない人数である。コミュニケーションの違いから残されてしまう。交流、簡単な対話でもできると聴者は見てしまう。でも限りがある。空間、程度などに苦難を覚えてしまう。手話限りなし話し合い交流できる場所を設けてほしい。
・手話、身振り、コミュニケーションができるろう高齢者のたまり場をたくさん作ってほしい。実施も。
・いろいろな行事に参加したいが参加しにくい。気楽な集まりの場がほしい。
・友達の聴覚障害者にも会い、みんなで話をしてコミュニケーションしたいと思う。

〇難聴者の学習・交流の場　２件

・ろう者の施設や団体だけでなく、難聴者が集まって話したり、相談できる施設があるといいなとずっと思っていた。愛知県内、できれば日進市に希望。
・読話講座に参加させていただきました。名古屋まで家が遠く、近くには学ぶ場所や集まる場所がありませんので、近くにもあるといいなと思います。（当方知多地域）

＜愛知県聴覚障害者協会・あいち聴覚障害者センター＞

〇愛知県聴覚障害者協会　１５件

・愛聴協は、もう少し一般の声をよく聞くべき。
・弱い立場の人になって運動をすすめてもらいたい。
・あいち聴覚障害者センターは古く、エレベーターがなく、トイレが狭いので、新しい施設になるといい。
・安心して暮らしていける聴覚障害者の生活を考えて、活動していってほしい。
・愛知県聴覚障害者協会と愛知県難聴協会は、もう少し手を差しのべ合ってほしい。具体例として、筆談マークと耳マークの問題。両方必要だと思うが、設置方法の問題かな。対立したら、結局聴覚障害者と難聴者とのいがみ合いになってしまうおそれがあるから。でも、一昔前よりもずいぶん仲良くなったと思う。センターの方も気さくに話してくださり感謝している。
・愛聴連のHP内容が乏しい、あまり更新されていない。県内に手話ができる店員、スタッフがいるところのマップがほしい。
・一緒に歩んでいきましょう。
・一緒に歩み合って協力していきましょう。
・愛知県聴覚障害者協会のセンターを建ててほしい。
・仕事は人がする。地域で頑張っている人たちの気持ちを汲み取り、ネットワークを大事にし、ともに活動することができるよう、人を大切にし、育てる活動をしてくださることを望む。
・会員に声掛けして上下関係をよくしてほしい。
・助け合いたいため、地域の会長として、自分が住む地域にろう者がどこに住んでいるのか、情報がほしい。

・愛聴協について。会員減少が続いているが、何か対策をしているのか？がんばってほしい。
・愛協聴独特の会員制度を全ろうとは別に設けられ、県内の誰もが気軽に行事参加できるように整えてほしい。
・愛聴協のある建物にエレベーターをつけてほしい。愛聴協の会費の支払い方法が不便になった。元に戻してほしい。
・協会の行事等参加したいのだけど、家から遠いので往復の時間がかかりすぎる(金銭的にも大変)。地理音痴なので場所がいろいろ変わると覚えられない。地域での付き合い、家の仕事等でなかなか時間が取れず参加が難しい。

〇余暇活動の充実に向けた活動への要望　３件
・今、マルシェがブーム。その手作り雑貨に、体験したい施設があるといい。
・ろうあ連盟でマージャン部を作ってほしい。ただ堅いだけの聴覚障害者協会の運動には関心がわきません。上昇指向の高い（福祉的でない）聴覚障害者協会の取り組みを希望します
・あいち聴覚障碍者センターが狭く、交流の場がない。事務的な施設だけにせず、交流、講座（趣味など）も利用できる部屋が入ると良いと思う。

〇あいち聴覚障害者センターへの意見　３件
・情報提供センター、期待していたのですが、どうしてできないのですか？
・ろう協会、あいち情報センターだけの施設を建ててほしい。
・聴覚障害センターを新しく建てる話を 20 数年まえからありましたが、まだですか？建てる希望としてヒアリンググループ設置とスクリーンをつけるよう要望する。

＜災害対策＞

〇災害対策や災害時のサポート　１７件
・聴覚障害の人、もしも地震が起こったらスカーフ着用したい。
・自然災害が多いこの頃不安な気持ちが大きくなっていく。何かと壁が多いが苦しみを行政に充分に理解して頂きながら少しずつ解決できれば良いと思う。
・災害時、コミュニケーションが取れないため心配。
・災害時に、ろう者が利用できるルートを分かりやすくしてほしい。例えば、使用できる避難場所への行き方。その際、スムーズに話せると良い。また、避難場所での連絡もスムーズに分かりやすく、通訳も設けてほしい。
・地震があったとき近所の人から協力してくれないか心配。
・災害で安全な所へ避難したら避難生活をすることが大変で不満なことが多いかもしれないから、障害者に役立つ付き人とボランティアの人々を前もって多くしたい。
・災害訓練に参加したけど分からない。通訳者が一人でもいてほしい。
・災害時、ろう者がここへ行けば仲間や通訳者がいると安心できる場所を設けられたらいいと思う。
・災害時にいろいろ伝わるかが不安。聴覚障害者がみな手話ができるわけではない。伝える手段を教えてほしい。
・災害が起きた時に果たして避難生活ができるのか。私は人工内耳をしていますが、補聴器も人工内耳も電池がいる。すぐに手に入れるように、家がくずれてしまったり、したら、取りに行けないし、後、ごはんとかもすぐ来てくれるのか、北海道地震の状態を見て、すごく、不安になった。三河地方はまだ大きな災害はないが、いつか起こるので、いろんな情報がいつでも入るように、私は家族がいるので今はいいですが今後対応してほしい。
・自宅の周り避難場所に緊急の時手話通訳者のいるところがわからない。
・災害時の聴覚障害者への対応方法。
・災害時、情報を早く知らせてほしい。
・災害のときに自分の居場所がわかるようなものが欲しい。

・災害が起きた時に何をすればよいのか。避難情報が出た時に、聴覚障害者にわかりやすく伝える方法はあるのか。避難場所に手話・要約のボランティアはいるのか。そのことがわかるように情報提供してもらえるのか。地域の対応を知りたい。
・不安が大きいのは災害。あちこちで地震や大雨（水害）が起きている。ろう者のいる地域に何かの対策はしてるか知りたい。
・公共施設に、目で見て判断して避難できるように、回転灯や文字表示装置を設置してほしい。

＜盲ろう者・ろう重複障害者＞

〇盲ろう者施設の建設の要望・盲ろう者へのサポート　６件
・飲食店やスーパーなどの近くに盲ろう者の施設があると便利である。
・県や市に盲ろう者専用の老人ホームがほしい。
・盲ろう者への詐欺を防いでほしい。一人で自由に出掛けることができないことが一番苦しい。ろう者の障害をもっと広めてほしい。町の中でももっと理解してほしい。
・盲ろう者に対する差別がまだあるので、差別がなくなる社会にしてほしい。
・手話サークルが夜にあるけれども、全く見えないので出掛けられない。ほっとくるへ行く時に介助員を探すことが大変である。買い物へ行く時、名古屋はいい場所が多いので行きたいけれども、なかなか叶わない。盲ろう通訳者や介助員の都合が付かないことが多い。生活で困った時はほっとくるのスタッフに頼みむことが多い。ほっとくるには、１か月に５～９日間くらい利用したい。
・階段や段差があるところは、黄色のテープを貼ってほしい。夜でも見えるテープでお願いしたい。エレベーターの設置をお願いしたい。エレベーターの階数のボタンは数字の部分を大きくして見やすくしてほしい。
・仕事ができる作業所のある施設がほしい。盲ろうの状態であるが、仕事がしたい。

〇ろう重複者が抱える問題　４件
・わたしは、先天性心臓病があります。重複障害者です。一歳半のときに聞こえなくなり、小３から補聴器使用。聞こえないことに気づかなかった。重複障害で内部と難聴のハンディの人は私一人ですか？こういう人たちの福祉に関する情報は全くない。辛い。交流もない。難聴だけの人と違ってついていけないところもたくさんある。病気の人に合わせてもらえないので会合に参加しにくい。
・聴導犬が必要です。育成するセンターを作ってほしい。そういうセンターで働くのが私の夢。
・今回は、聴覚障害者が対象ということだが、中には、私の様に聴覚障害＋下肢障害という重複障害者もいるので、重複に関係ある内容も増えてしまっている（問 10, 問 11 のように）。聴覚障害のみか、または重複障害かのような対象についての項目も必要だと思う。
・公共交通機関を利用する際、1 人で利用する時でも手帳を提示すれば無料で乗れるようにして欲しい。（施設に通うための交通費もかなりかかる。年金だけでは無理。）
・聴覚障害関係の施設職員は、聴覚の障害にたずさわるだけでなく、重複している障害についても理解と学ぶ機会を願う。他の機関に学びに行ってほしい。手話でさえできればよいのではなく個々の居場所になる覚悟なくしてどうしてこの仕事をしているのか。安心して通える場所は無いか？と落胆してしまうことがある。

＜その他＞

〇今回のアンケート調査への期待と意見　９件
・このアンケートの結果を踏まえて、施設設立を果たせるのか。
・実態調査の結果が反映できる聴覚障害者の社会資源整備を期待したい。
・このアンケートは難しい。

・もう少し、アンケート回答しやすいシステムにしてほしかった。（今回は機会に恵まれ、回答することができた。）
・問六について。仕事はしていないですが、困ったことがいっぱいある。初めて職場に障害者をうけ入れる時に、理解があるかないか、いろいろなことがたいへんだった。
・文章が苦手なので文を読んでも理解することが出来なく困っている。手話で使っている言葉を分かりやすいように説明又は文よりも手話を使ってアンケートが出来たらいいと思う。
・次回からは、年齢に配慮した方法で記入できるようにしたらいいと思う。
・番号の流れをわかりやすく説明してほしい。長い項目を次にまたがる時は「次のページへ」と明記してほしい。
・このアンケートを通して、聴覚障がい者・児が困っていることを知ってもらい、それに対して、改善できるよう努力してもらえると嬉しい。聴覚障がいでも難聴とろうではニーズが異なることも分かってほしい。また、ろう文化ががあることも健聴者に理解を深めてもらいたいと思う。

〇心理的な不安　５件
・息子とのコミュニケーションがうまくいかない。
・不安が多い。
・親が亡くなったとき葬式の手続きを息子が中心に進める。自分に情報をくれない。困る。悲しい日々である。１日でも早く聴覚障害高齢者が安心して暮らしていける施設を望んでいる。
・近所付き合いがないと１人では不安。
・聴覚障害者が安心して暮らせることを望む。

〇手話サークル　３件
・ろう者に理解のない手話サークルがあると聞きます。そこは、たいていろう者がいないか、数が少ないところが多いように見えます。愛聴協として、何か対策はとられているのでしょうか？
・私は地域の昼の手話サークルに行っていましたが、ろう者に理解のないサークル員がいて、サークルをやめたいです。ろう者は私を含めて二人。もう一人もやめたいそうです。新しいサークルを設立しようかな…。
・若いろう者たちは手話サークルに入ってほしい。

〇聴覚障害者へのカウンセリング・心理支援　２件
・家で引きこもっているろうあ者がいる。車を持ってないろうあ者だ。送迎車があればいいと思う。
・企業の中で情報から孤立し、うつ病になる人が多い。うつになったことと、聞こえないこととを関連づけてカウンセリングできる場、人が必要である。企業に対し、県から聞こえない人への情報保障を促進する働きかけが必要。聞こえない人の職場での立ち位置が弱く、聞こえない人本人の努力では到底及ばない。

〇年金・金銭面の問題　３件
・金銭的な問題で情報を得るためのメディア利用ができない。
・一戸建ての持ち家を持っているが、聴障者にとって年収が少ない為、土地固定資産税の負担が大きいのでゼロもしくは減免してもらえると助かる。一度検討してほしい。
・障害年金の件ですが、制限を免除してほしい。

〇教育への提言　２件
・学校での手話教育が必要だと思う。今から 10 年、15 年先を見て考える。教育委員会にお願いして、学校レベルでの手話授業を行うべき。
・聴覚障害児教育の内容について少し改善してほしい。（ろう学校、通級指導など）

〇手話単語を増やす活動　２件
・全日本ろうあ連盟で、これからももっと新しい手話を作り、増やしていってほしい。
・愛知県聴覚障害者協会で、愛知県の地名や地方特有のことばの手話を作り、増やしていってほしい。手話の編纂活動を進めてほしい。

〇その他

・木造復元される名古屋城にエレベーターを設置してほしい。
・言い合いではなく、話し合いを豊かにしてほしい。
・選挙の情報が無いためだれに投票すれば良いか分からない。
・教会の勧誘が多くて困っている。
・スポーツ向上に期待している。
・障害者手あてなどがもっとわかりやすくなって欲しい。
・ろう協会というと、「何かの運動に参加しなければいけない、何かの役員をやらなけらばいけない」という雰囲気があって加入しづらい。また、若い世代の集まりが無く、いつも老人や中年の人たちが集まっているイメージがある。
・センターが駅から遠いのが困る。センターにエレベーターが欲しい。
・市人口に配慮した施設に駐車場を多く作ってほしい。
・車を手離した後の交通方法。
・障害者が一人で出かける時の交通費を考えてほしい。
・高齢者に敬老パスの発行(愛知県全部)。
・県民に手話を広めて、自由な会話ができる社会になってほしい。
・バスの段差をなくす。
・愛知県内、レストラン喫茶店などの注文呼び出しボタンがなくて困っている。また、文にふりがなをつけてほしい。
・タクシー24 枚足りないのでふやしてほしい。
・役所で言われた事。障害は耳だけでない。と聞こえない事は見ためにわからないし見える歩けるから軽く見られる。
・国(省など)が、障害者雇用の水増しが発覚したのでそれをなくすためにしっかり対策してほしい。
・UD トークの仕方、勉強会、講習会の参加希望。
・足が悪くなってきたので制度の範囲で用具(車イス等)を利用したい。
・正確な情報を早く知ることができると良い。
・たくさんの意見を集めて要望をださないと難しいのでは？たくさんの人が必要。
・産まれてくる子供が聞こえないと分かった時点で、手話という言語の獲得をする場を作ってほしい。
・東海市、東浦町周辺からきて助けてほしい。
・ネットワークもすばやく早く入れたほうがいい。
・今はスマホがあるが、時代は変わるので、その都度対応できる物があると良い。
・図書館に手話に関する本が少なすぎると思う。
・県会費を口座引き落としにしてほしい。忙しいのにお金を私に行く時間がないだけに、期限を言ってくる役員が不快。

その他の自由記述

〇高齢者の施設や福祉　１６件

・高齢者施設ホーム設置したい。
・老後が心配。近所からフォローがもらえるのか心配。妻が認知症で夜に家を出てしまう。
・もし一人になってしまったら…不安が大きい。その時は同じ聞こえない人の手話でサポートが欲しい。
・ろう者のための手話のある老人ホームを作ってほしい。
・老人ホームを作ってほしい。
・ろう者のための老人ホームを建ててほしい。
・今は夫と二人暮らしで助けてもらえるし特別困ることはないが、一人暮らしになれば色々出てくると思う。もっと進んで、独居が難しくなった時に聴覚障害があっても入れるホームが数多くできるといい。テレビで、札幌に介護士全員が手話ができる高・サ・住があると知り、今後ますます高齢者が増えるので、私の身近にそういう施設ができたら安心する。入りたい。
・老人ホーム、ショートステイを利用したいが、いくらっかあるのかわからず不安である。説明会があると参加してみたい。体が動けるうちに行きたい。
・これからむかえる超高齢化時代に向かって、やはり聞こえない人が、施設やホームで孤立しないよう、手話のできる介護士や、ノートテイクできる人も必要になっていくことでしょう。行政に今以上に手話通訳・要約筆記の必要性を訴えたい。
・ろう高齢者の集まれる場所が欲しい。
・一人暮らしになった時の長期入院、介護施設利用に不安を覚えます。
・ほっとくるに時々通っているが、自分が住んでいる地域の近くにも同じような施設ができるとうれしい。
・介護施設を増やしてほしい。健聴者ばかりの施設では、ろう者が独りぼっちになってしまう。ろう者が集まって手話でコミュニケーションできる施設を増やしてほしい。
・ほっとくるのような手話で話せる楽しい場所が家の近くにほしい。時々行くが、送迎がないため、タクシーを使っている・・・。
・40 年ほど前から手話通訳、要約筆記ボランティアの活動を数年前までしてきた。しかし電話は 20 歳代からとても苦手なものでした。30 歳代になって難聴者の人から「あんた、聞こえてないんじゃない？」と言われて初めて聴力の弱いことに気づいた。軽い難聴は自分ではなかなか気づかない。1 年前まで勤めていたが電話は絶対に取らなかった。聞き返しが多く、相手が何と言っているのかよくわからなかった。打ち合わせ、会議ではほとんど内容が把握できないことも多く困っていた。手帳を持てないごく軽い難聴でもこんな様子です。高齢者の難聴者は実は困ることが多い。デシベルダウンの運動と高齢難聴者の理解と今後についての啓もうは広く必要なことと考えます。
・ほっとくるや笑おう舎の存在を知らなかった。高齢になったときに笑おう舎のようなところが近くにあると良い。

〇愛知県聴覚障害者協会・あいち聴覚障害者センターへの意見・要望　８件

・聴覚障害者には、ろう者、難聴者、中途失聴者、老人性難聴者が含まれるが、愛知県聴覚障害者協会の役員、会員はほとんどがろう者だと思う。愛知県難聴・中途失聴者協会が別団体としてあるから、「愛知県ろうあ協会」」に改名して方がよいのではないかと思う。全国ろう者団体は全日本ろうあ連盟になっているので。私の地域はろう者と難聴者の仲が悪いので団体を別にしている。
・悩みなど、困ったこと。以前に相談しても何もしてくれない。信用できない。相談ができない団体なのか？また、プライバシーを厳守しないといけないのに、他人に話されて（うわさ）ショックを受けたことある。
・通訳者のリストを配ってほしい。
・福祉実践教室の予定（1 年間）がわかるようにしてほしい。
・愛聴協 5 ヵ年計画の実現を願っている。
・あいち聴覚障害者センターには日ごろから大変お世話になっております。ありがとうございます。電子媒体を利用した情報発信に期待しています。

・協会の皆様のお力でいろいろな恩恵に預かれますことを感謝しております。ありがとうございます。
・名古屋市に加えて、愛知県内の一部の市（豊橋、岡崎市など）で、人工内耳のスピーチプロセッサを買い替えの時（5年？）補聴器のように補助を出して貰う運動をしている。愛聴協でも後押しをしてほしい。

〇災害時のサポート　8件
・近所とあいさつのみの関係。災害が起きた時にサポートをもらえるのか不安である。
・隣の家が火事になっても気づきにくい。
・地震が起きたことを知らせるランプが欲しい。
・災害起きた時、安否メール会員向け設けてほしい。
聴覚障害への不安、災害とか交通マヒなど。情報によせた…。交通機関に提供してほしい。(例)(字まく)つけるとか。駅員さんに対応など…。
・火災、地震、台風など町内放送(スピーカー)が流れるようですが、聞こえないので何を言っているか分かりません。情報が入ってこないのでとても不安です。
・一番不安なのは災害時。情報が入るかどうか、避難所での生活が不安。
・電話お願い手帳じゃなくて、聞こえなくてもできるアプリをつけてほしい。例えば、山道とか田舎風の道とか災害が起こった時、健聴者がいない場合。緊急時助けを呼ぶ仕組み。
・エレベーターの非常通報ボタンを使用する時は、どうやって使えばいいのか分からない。不安です。

〇手話通訳者派遣への要望　7件
・手話通訳派遣する条件の範囲を広げてほしい。例えば、趣味、資格など。
・耳が聞こえない子どもが通訳申請できるようにしてほしい。ろう児が普通校へ通うとき、通訳者を付けてほしい（希望があれば）
・市の企画があった時、通訳派遣を認めてほしい。
・通訳者を増やしてほしいので、若い人にも興味を持ってくれるようなことを積極的に仕切る。
・親戚の人とのコミュニケーションに困ることがある。手話通訳者に来てもらい、話をしたい。緊急の連絡方法がわからない。買い物するときになんて言っているかわからない。通訳者が内容を多少省いて通訳してないか心配。個人情報をもらさないでほしい。（漏れた人いた。）昔はよかったが今はダメ。
・手話通訳は「福祉」の枠組みに入っていることに疑問を持つ。健聴者と同じ情報を得るのは福祉で考えることなのか？
・夜に活動できる通訳者が少ない。特に男性の通訳者が少ない、通訳者育成にも力を入れてほしい。公的な場所（病院など）に通訳者を配置してほしい。ろうの赤ちゃんが生まれた時には、医者や先生など健聴者ばかりではなく、ろう者の相談員もいてほしい。

〇近所付き合い　5件
・近所の人は私が聞こえないことを知っているが誰も話しかけてくれない。多分どのようにコミュニケーションをとればよいのか分からないのだと思う。
・近所の人が力になってくれようとしても、具体的に何をどのように助けてほしいのか、うまく伝わらない場合が多い。
・隣人が無許可で作ったよう壁(高さ3Mくらい)が当方側と反対側の土地にはみ出してきている。市役所に確認申請して許可を受けていないものが強度的に弱いからコンクリートの壁にクラックが入り中に入れた土砂の圧力により広がってしまっている。一番危険性高いのは向かいの宅で奥さんは危険感をもったころから別居状態のようです。市役所からは隣人によるよう壁撤去指導が出ているが無視続けている。こういった一筋縄ではいかない人物に対して当方聴覚障害者に代わって対応してくれる法律制度が欲しい。
・自分は耳が聞こえないことを、周りの人たち（近所のママ友、行政、スーパーあらゆる場所で）は知っている。しかし、コミュニケーションになると、消極的になる。なぜそうなるのか私にはわからない。聞こえる（手話を知らない）人の気持ちを知りたい。手話を覚える義務みたいなのがあればうれしいかなと思う。文章力はそんなにうまくない。手話を知らない人はほとんど誤解されやすい。時間かかってようやくわかることがよくある。やっぱり手話で話したい。

・無線放送(町内で流れる放送)の存在を知らず、初めて市役所に聞いたらこんな事を放送していると知り、何だか疎外感を覚えた。子どもは聞こえるため、「ママ、何て言ってるの？」と聞かれ何も答えられない。とても無力感だった。情報の意味では差別なのかな？と思った。

〇手話による情報保障　５件

・観光施設（名古屋城、徳川園）、博物館など手話ガイドでの案内が欲しい。
・文字による説明、解説ではなく、手話で話してほしい。
・旅行ツアーでの、ガイドに手話ができる職員を増やしてほしい。
・教会に通っているが、手話をもっと学習したい人がいるようだ。健聴者と共通のコミュニケーションの場を作りたい。また、手話言語の語彙が足りない。また、手話の表現が「NHK」「ろうあ学校（京都）」「技能研」それぞれ違うようで少し混乱させられる。「日本語対応手話」と言うが、不足している単語の手話表現を統一して辞書を作ってほしい。

〇今回のアンケートに関する意見　５件

・なぜ今になってアンケートをするのか。もっと早く動かなかったのか？疑問に感じる。他の身障者団体が積極的に動いているのに、聴覚団体はあまり目立たない。国に対しての要望が薄いといわれてもしかたがないのではないか？
・答えやすいアンケートで大変良いと思います。よろしくお願いいたします。
・聴覚障害があることで不便に感じたり「こうしてほしい」「こうなると良いのに」と思うことがあることは、当然だと思うし、それを訴える場、相手も必要だと思います。そういう観点から、このアンケートは実際により良い暮らしを実現することを目指すためにも必要だと思います。ぜひこのアンケートの集計結果、今後の具体的な取り組みも公表されると良いと思います。
・アンケートに回答するのはなかなか難しい。役員の方々集計ご苦労様です。
・アンケート調査があれば地域を把握できる。今後とも続けたい。

〇手話への意見　５件

・耳の日の手話スピーチ、なぜ声を出して手話を同時にやるのか分からない。今までに見て分かりにくい。手話は言語というなら、基本的に声を出すのではなく、文法のある手話(自然言語)を表すべき。
・手話を学ぶ人が、日本手話・日本語対応手話、どっちが正しいの？と声が多く、きちんと基本的(日本手話)を広めるべき。
・どこに行っても手話ができる場を作りたい。
・手話の勉強をしているが、奥が深いと思う。なかなか追いつけないが、焦らずマイペースで覚えていこうと思う。
・コミュニケーションとしてスピードが速いのは手話だが、細かなニュアンスのやり取りでは、手話が不十分な場合もあり、マニュアルに沿っていても手話通訳のみでは情報が不足すると感じることがある。
・聴覚障害者がいるから手話がある。国民、議員は勘違いしている。

〇職場の理解、勤務先での対応　４件

・やりたい仕事の募集があっても聞こえないということがネックになってしまう。聴覚は、言っていることがわかれば仕事ができる人が多いと思う。ある会社では音声読み上げソフトを導入し障害者も会議に参加しているという。ちょっとした工夫で可能になるのだから聴覚障害者を試してほしい。
・聴覚障害者の集まりの建物（おんせんなど）。会社内、聞こえないと受けない資格がある。差別感がある。リーダーになりたくても、周りの人にコミュニケーションがとれないから、リーダーの仕事をくれないとか。
・人間関係について。仕事場でコミュニケーション取れない。聞き違いが多い。
・現在働いている施設で月一回でもいいから手話教室を開いてほしい。慣れてきたら少しずつ手話を教える数を増やしていきたいと思う。

〇情報提供施設設置への要望　４件

・１日でも早く情報支援施設を設置してほしい。
・名古屋だけでなく、日進市に難聴者が集える場所がほしい。

・愛知県にろう者の施設がほしい。
・手話で話せる場が家の近くに欲しい。一人になるのが不安。ろう者同士でいつでも話ができる場所がほしい。

〇子育て環境　４件
・普段から仕事、子育てに忙しく余裕がない。
・親の立場になって不便なことが多い。例えば、子どもが夜中体調が悪くなったら小児救急電話相談#8000等電話でしか対応できないことが多い。インターネットでも見れるが、リアルなやりとりで安心感が欲しい(LINE やテレビ電話などで対応してほしい)そういう意味では青年期以降の聴覚障がい者に対する支援が手厚くないように感じる。
・子供の学校(保育園)に必要な情報(参観日、面談、行事など)を付けてほしい。(例えばわざわざ自分で申し込む(手話通訳者派遣))
・子供と一緒に遊べる場所を増やしたい。

〇情報保障の依頼手続き　３件
・仕事の研修でも、手話通訳を付けてほしいとお願いしてたいていはつくが、職場の人に勝手に情報保障の手段(主に手話通訳・職員によるボランティアで要約筆記の２つ)を決められる。そのことが少し不満でならない。なぜ相談もなしで勝手に進めてしまうのか。まだまだ情報保障や法律の内容(合理的配慮)などを知らない人が多いと感じた。
・地域の集まりにがんばって参加するが、食事会の時は通訳派遣ができないので、一人ぼっちになったことがあった。
・最近、妻が亡くなり、ほとんど頼っていたため、今、いろいろな生活面で困ることが多い。それから、通訳派遣を急に頼みたい時に、前もって予約が必要だから、面倒だ。

〇テレビ電話・字幕への要望　３件
・三河八橋駅と若林駅の切符を買う為、テレビ電話か、字幕をつけて欲しいです。
・若林駅、三河八橋駅、豊田市駅にテレビ電話を設置してほしい。
・民生委員と近所の知人は、手話が増えて欲しい。

〇日常の困りごと　３件
・突然病院に行っても手話通訳がいない。筆談では通じない。
・電車が止まった時情報が欲しい。
・スーパーで倒れた時に周りの人とのコミュニケーションに困った。

〇健康について　２件
・病気が心配(自分も主人も)
・持病があるため、毎日服薬が必要であるが、飲み忘れが多くみられる。そのことに本人は気づいていない。通院は通訳者が連携を取り合い、支援をしているために保たれている状況。

〇ろう重複聴覚障害者について　３件
・［重複障害者本人とその家族へのサポートについて］・聴覚障害＋知的障害(自閉症など)　・重複障害者へのサポートは単なる聴覚障害者へのサポートと比べてその難易度はかなり高いと思う。その為に、①重複障害者に対応するスタッフの育成強化　②重複障害者を抱える家族に対する支援の強化　a)障害を持つ子供とどのように向き合うか深い悩みにひとり悩む親が多くいる。親の悩みをきき的確なアドバイスをする仕組みが必要ではないか。現状は親同士が時々集まって意見交換をやっているが公的機関の支援も求められる。　b)障害を持つ子供の日常の介護で相当疲弊している親・兄弟も多い。年に数日でもよいから親・兄弟をその負担から解放してあげるような仕組み(レスパイト)について公的機関の支援もぜひ検討してほしい。現在お世話になっている施設は本当によくやっていただいているため、頭の下がる思だが、組織体制・人員から見るとなかなかこれ以上お願いしづらいのが現実。こうした現実は他の施設でも多かれ少なかれ

共通している事柄ではないかと思う。協会におかれてましては多くの声をとりまとめていただき、行政へつなげていただき現状の改善に少しでも向かっていけるようご尽力いただきたく願う次第です。
・（親より）今は作業所で働いている。本人に合った働き口があるといいがなかなかない。今は重度知的障害の人が多い作業所なため、なかなか成長できず。コミュニケーションがうまくとれない人と働いているため不安。

○難聴者へのサポート　３件
・ほとんどの中途障害者は思っていると思うが、難聴であることを伝えられない。なぜか、何度も聞き返すと嫌な顔をされたり溜息をつかれる。そして「もういいわ」と言われる。こういわれるのが怖くて難聴を隠したり聞こえたふりをしてしまう。難聴と伝えたからと言ってうまくコミュニケーションが取れるとは思わない。実際に難聴を伝えても全く配慮なしに話す人がいるから、いやな顔をされると難聴であることが悪い事のように思える。
・公共施設で聴覚障害のためのループとかいろいろ工夫してくれるが、補聴器によって使える、使えないがある。すべての聴覚障害の人に使えるものを置いてほしい。
・医者や福祉事務所の職員が、軽度・中度の難聴の存在を知らない。

○手話への理解・関心への希望　３件
・テレビなどで手話を使う場面を見ない。もっと手話を覚える人がいたら良いと思う。
・愛知県すべての小学校に「手話体験教室」を必須としてほしい。愛知県全ての人がきこえないことについて理解できると大きく良い方向に変わると思う。ほっとくるは遠い。春日井に施設をつくってほしい。瀬戸や小牧からも集まりやすい（東尾張ブロックの中心は春日井だと考えている。）。近くにあるのは高齢者のデイサービスなので気軽に利用できない。
・誰でも気軽に集まれる場が必要（可能であれば５箇所に限らずたくさんつくってほしい。

○盲ろう者への理解啓発・施設建設　３件
・盲ろう者の啓発をもっとしてほしい。色々な文化講座（AT 講座や料理講座など）が開かれているが、全盲ろう者対象の講座ではないので、参加できない。身近なことを簡単に盲ろう者も学べるような講座をもっと開催してほしい。テレビに字幕デコーダーがあるように、点訳装置があるといいと思う。自立を尊重してもらえるような支援サービスを充実させてほしい。
・子供がろう重複ですので、休日（土、日、祝日）でもろう者用施設（あずけることが出来る）等を地元に立ち上がって欲しいです。
・犬山に盲ろう者が通える施設があったら行きたい。犬山は身体障害者の施設があるが、盲ろう者がいないので通っていない。

○ＮＰＯつくしへの期待　２件
・「NPO つくし」が益々発展することを祈念する。
・NPO 法人つくしの活動に感謝している。今後のことでは課題多く、親は疲弊しており自力では立ちゆかないと思えることがあるから。

○家族との関係　２件
・弟の会話もないがずっと我慢している。あまり関わらないようにしている。弟を怒らせないように気を使っている。手話で話せる友達がもっと欲しい。コーヒーに行ったり買い物したりゆっくり話せる友達が欲しい。手話で相談できる人が近くに欲しい。
・母とのコミュニケーションが取れない。

○緊急時のサポート　２件
・夫が倒れた時にどうしていいか分からない。情報が欲しい。
・字幕入りの AED を全国的に普及させてほしい。

○電話リレーサービス　２件
・電話リレーサービスをもっと規模の大きいものにし、即時対応出来る様な環境が欲しい。

・「電話リレー」という代理電話があるのですが、新システムに代わってから。0120 から始まる電話など指定された番号にかけられないことがあります。番号に関わらず、使えるようになってほしいなあと思います。

〇行政の対応、障害者手帳の交付手続き　２件

・行政の人達は、身近に障害者がいないから障害者の立場やその家族のことなど何もわからない。どんどん厳しい世の中になっている。
・障害者手帳の取得が難しかった。

〇社会福祉制度　２件

・社会のあらゆる制度。死ぬまでの生計など。病気もちで大変不安
・病気持ちの配偶者の介護。今後を考えるだけでも不安。家のことすべて私任せでいろいろ考えてしまう。知らないこともいっぱいある。社会の制度や税金問題など…。持っているマンションを死後どのように娘に譲るのか？色々。

〇健聴者との手話コミュニケーション　２件

・聴こえる人とも手話でコミュニケーションをとりたい。
・難聴者、ろうでも話せれば聞こえてる（そこまで重くない）と思われる健聴者が多く、そうでないことに理解してもらうことが難しい。そのため、筆談をお願いしてもしてくれなかったり、相手の求めていることに対応しようと歩み寄ってくれないので、あいまいなままで終わることもある。お互いが気持ちよくコミができる社会であってほしい。

〇難聴者・中途失聴者の交流の場　２件

・難聴者用の手話教室が市にないので作ってほしい。
・中途失聴者のコミュニティが少なすぎる。
手話サークルの高齢化が進みすぎて、難聴同士でも情報共有に乏しい。・難聴以外の障害や病気を伴う場合、説明や理解がさらに困難になる。

〇重複聴覚障害児の子育て　２件

・母親より：本人（娘）は知的も入っています。療育Ｃ（程度）。現在、病院、役所手続きはほとんど付き添い兼通訳、解説をしています。自分の病歴、学歴、状況などを自分から順序立てて相手に通じるように説明することはできません。「ことば」は分かっても、その背景、意味することは分かりません。例えば、問７住まい～の民間・県営などの意味。重複の場合は、一般の手話通訳者ではなく、それ以上のサポートが必要だと思います。
・家族に介護を要する祖父母がいるため、遠方の施設に聴覚障害と自閉症の息子を送迎しているが、日程の都合で一週間に２日しか通わせれない。以前、行動援護で近隣のスポーツジムや図書館へ出かけていたがコミュニケーションがうまくとれず支援者にケガをさせてしまい断られた。家事援助でも離れた場所から見守るのみのため家族が息子のそばに居てコミュニケーションをとっていた。地元の福祉事務所からは事業所の一覧表の提供はあるが、聴覚障害に対応できる事業所を把握できるものではない。親も高齢となってきており、いつまで遠方の事業所まで息子を通わせることができるか気がかりだ。近くに施設ができ、人材が確保できるよう切に望む次第です。

〇病院について　２件

・病院まで徒歩で行かなくてはいけない。少し遠い。
・病院に手話ができるひとが一人ぐらいはいてほしい。

＜その他＞

・現在の手話サークルに通っている健聴者の手話が私たちろう者並み上達し、語り合えたらと思うが、なかなか進んでいないのが現状。
・本人様の話の中で、死後の連絡・お寺等不安を抱えているという内容が出ました。他にもたくさんあるようだが、どう話したらいいのかわからないようだ。(頭の中でわかっていても、口でどう話せばよいのか…)
・ほとんどドラマは字幕が出るようになったが、ニュースはかなり遅れて字幕が出る。また、CM は字幕が出ないので、同時に字幕が出ればもっと楽しめる。
・様々な場面で手話や筆談などをしてくださっていることがとてもありがたい。嬉しい。
・人工内耳に対する情報が少なすぎる。しかも、補聴器と違い、部品がかなりの高額だし、本体が高いのだから、いろいろな情報がほしい。
・ほかの障害の方も同じだが、好きでこんな風になったわけじゃない。何も障害のない人だって、いつ事故や病気になって不自由な体になるかもしれない、そういうことを思って障害者にもっと寄り添ってほしいなと思う。
・普通学校出身だが、聴覚障害者や同じ年代とのかかわり等が全くなかったため、かかわりができる場所を作ってほしい。そういった情報を行政広報誌に積極的に掲載してもらうように働きかけてほしい。また、幼年少のときから聴覚障害児者とかかわる機会を作ったり、手話に触れる環境を整えてほしい。
・愛知県内には、いろんな協会や団体があるので、これを機会に互いの情報交換などで連携をとって障害者全体をよくしてほしい(よくなってほしい)。障害者に対する配慮がよくなれば、高齢者の方にも優しい街・市になれるのではと思う。
・職業訓練の場を作ってほしい。
・聞こえない人と聞こえる人との「共生」の工夫にも力を入れてほしいと思います。「聞こえない人が何に困っているのか」がわからないことが多い。「聞こえる人の理解が足りない」と一方的に思い込んだり、決めつける前に、「なぜそう感じるのか」「どうしたら理解してもらえるのか」を深く考え、その解決方法を見つけることも大切だと思います。
・私は、小〜現在(大学4年)まで、聴者と同じように暮らしてきた。通っていた学校には、難聴学級がなかったため、同じ障害を持った人がいなかった。ひとりぼっちだった。また、普通学級だと声だけで授業を進めるので、理解するまでに時間がかかることがあった。要望としては、むずかしいことかもしれないが、難聴学級を増やしてほしい。もしくは、一般学校に通う難聴者ろう者に対する情報保障を付けていくべきだと思う。デフリンピックを広める活動をしたい。
・白内障は手術で次第に見えるようになってきた。人工内耳も同じように聞き取れる迄進歩させてほしい。
・ろう者のバスツアーがあるといい。
・将棋などの大会ができるようなろう者の集まりが身近にあるといい。
・歩行困難の為送迎付きのリハビリに通っていますが重度難聴者は20人中1人だけですから話の輪に入れない。肢体障害者には手取り足取りで助かっている様子を見るにつけ声のバリアフリーはまだまだ遠い。
・幼少期、家族(健聴者)と話が通じない、わからないため、なぜ11歳まで学校へ入っていなかったのか?理由もわからない。
・若い人とも交流を深められる機会が欲しい。
・聴覚障がい者だが、手話は全くわからない。相手が筆談で示した内容に対し、音声で話すという方法で会話をする。自分は脳梗塞の後遺症で右手に少しマヒがあるため、筆談できない。本当に対話が困難である。
・人生に疲れた。差別が大きすぎます。
・公共の様々なスーパー、量販店、喫茶店、コンビニなど聴覚障害者が利用しやすいお店で耳が聞こえないことを示すサインをはじめに伝えることが一番大切な事です。買い物や注文の会計の時にありがとうの手話など健聴の従業員がそれだけの手話を使ってくれる人が増えてほしい。聾者にとってうれしいし、意思疎通としてとても伝わりやすい。
・ホームヘルパー2級1級認定を受けた聴覚障害者がいることを世間に報せて、仕事を与えたほうが私達にも情報が入ると思います。今のところ、2級1級認定のみになってしまっているのでなかなか情報が入らないので・・・

・仕事面に関して医療現場などで特殊なところと一般的な仕事とは困難さが違う。(どちらも経験あり)特に医療現場においては働きやすい環境に整っていない長く働いていれば少しずつ改善していくと思われるが、それまでの道のりがとても大変である。(かなりのストレスとの戦いになる)
・最初に私の両耳が突然聞えなくなった現状を書きます。平成23年9月17日突発性難聴9月20日近くの総合病院に点滴を受けるため入院15日間少しも良くならない。それ以後、２つの大学病院、その他個人医10 個所位診察を受けました。これは治らない理由は分らない。こんな医者では困るのです。眼科の場合白内障は手術で良く見えるようになったのはどうして耳はできないかと耳科の医者にきいたら、私が耳がきこえないのに声で言っている、不信感大。補聴器に時間と銭をかけているがデイサービス等でコミュニケーションがとれない。テレビの音をとなり近辺のめいわくにならない位に大きくしても、ことば、歌、ドラマはさっぱり人間が声を出している音より分らない。電話の話声はさっぱり意味が分からず私は今までに100回位どなりつけてやりました。もう今では、市役所の午後2時すぎの安否確認でハイ、ハイと返事(水曜日のみ)するだけです。まだ色々と有りますが、私は表現が下手ですので、また次の機会にお願い致します。
・以前（母と一緒に小学校の頃）熱田に補聴器の修理等で行ったことはあるが、今は行っていない。消防署の職員（サークル40周年の講演者）と息子が友人なので、情報もらうこともある。妻は運転しない。孫（中2、小 6）の行事に行かない。孫たちが何を話しているのかわからないから。いるかの家なくなる？活動ができなくなる。情報どうする？
・時代とともに、アナログからデジタルに変わりりつつ、物も値上がりし、助成金が変わらないままは不公平に思い、助成金を見直してほしいと思います。
・名古屋市在住の人は水道や公営交通料金の減免制度があるので不公平を感じる。
・TV字幕をもう少し小さくしてほしい。（画が見えないときがある。）
・近くの病院に手話通訳者を置いてほしい。4年まえに畑をやめた。弟がいるので助けてほしいところはお願いしている。緊急時は、近所の人が弟のところに電話をしてくれる。
・結婚は親に決められた相手と結婚した。
・両親は自分（子ども）が聞こえないことを近所の人に知られたくなかったため、来客があると押し入れに隠れていた。
・税金、不動産の関係でわかりやすい説明会を開いてほしい。銀行機関の時間延ばしてほしい。(閉店時間早すぎる)
・契約解除の手続き（インターネット）の営業時間を延ばしてほしい。
・大府市の小学校に難聴学級を作ってほしい。
・セントレアのところにカジノができてほしい。（毎日パチンコに行っていて好きだから）
・金がものをいう世の中という感じ。
・パソコンは買うまではていねいで親切。いったん買ったら知らんワイ式・日常生活の用具を申請して設置するまではていねい親切。いったん購入したら不具合が生じても知らんワイ式。・ケータイ会社も買いかえまでは親切ていねい。一たん買ったらええ加減。アフターサービスに欠ける。金もうけしか頭にないのか。・補聴器屋もメガネ屋もそうだ。正直者はバカばっか見るように出来ている。ろう協に入っていてもあまりメリットがないように思うことがある。信頼関係が大切だと思う。
・I Love you
・銀行や郵便などATMの操作でトラブルが起きた時、音声での説明しかなく営業時間以外の時は困る。
・ドライブスルーを利用する時は、マイクでしかやり取りをしない内容が分からない。手話で対応してもらう為に画像を付けてほしい。
・タクシーを呼びたいとき、ネットで見つけても電話でしか対応できないので探すのが大変です。探しても見つからないときは仕方ないので歩いて帰る時もありました。
・銀行や病院など「耳の不自由な方は筆談しますのでお申し出下さい。」とマークを提示しているのに、なかなか筆談してくれない時もありました。
・なかなか昇格できない。長く働いていても、自分より短く働いている人が上になっていくことが多い。
・交通の便利な所がほしい。
・車の聴覚障害者マークが要るか疑問である。
・何が不安なのかよくわからない。今まで困ったことはない。

・プライベートで犬のしつけ教室、ヨガ etc、手話通訳者も同行ができたらいいなと思っているんですが、、、講師から、手話通訳者が受講代を払わず、聞き得でずるいと思われるのではないかと気になります。（一度ハワイアンキルト教室で手話通訳者を呼んだことがあります）
・聴覚障害者にとって、現在は、インターネットをはじめ、必要な情報が入手しやすい環境も増えてきています。自分が生きるために必要な知恵、情報の収集方法を学ぶ、練習する場も増やすことが有効だと思います。人的資源、コスト面、ハード面など、様々な課題は山積みかと思いますが、優先順位を的確に見定めて１つ１つ目的を達成、問題解決されていくことを願います。
・１か月に１回、地域の聴こえない人の集まるサロンは楽しみです。
・老若やら貧富やらで、聴覚障害者の中でも違いは大きかったりするわけだが、セーフティネット的に組織を考えると、ハイレベルグループでは属する意味がスポーツぐらいにしかない。聴覚障害２級、夫婦共、子３人にしたら年金だけで 300 万くらいになる。夫が一流企業で 700～850、860 万円の年収があるから世帯年収 1000～1500 は少なくはないと思う。その中で上昇指向を持つ聴覚障害者が望むコト、モノ、コネはどうすれば手に入るのだろうか。ハイレベル（セレブリティ）な聴覚障害者グループの発生は障害を持つ子の親にも希望にならないかなと考える。
・福祉教育がおざなりにされると、今の世の中の障害者を殺した方が良いという風潮が大きくなるのではと心配です。
・微力ながら耳マークバッチをつけるなどして、地道な活動で市民の方に少しでも浸透できると良いです。
・研修のお知らせに、ＴＥＬだけでなくＦＡＸを記入してほしい。
・今後、一般のレストランと喫茶（飲食の関係）に入りたいです。
・交通機関に電光掲示板をつけてほしい。（バス、電車等）
・この前、友人とご飯を食べる機会がありました。トラブルがあり、予約した時間に行けなくなり、どうしようとパニックでした。キャンセルとできれば時間がずらせたらと思いましたが、インターネットで予約したので、当日のキャンセルは電話対応しかできないだろうと困りました。その時、友人が「電話リレー」というサービスを使おうと話しました。第三者に伝えて欲しいことを伝えてもらうサービスだと初めて知りました。お店と連絡が取れた結果、時間変更が可能となりました。おかげで楽しいご飯の時間となりました。何が言いたいかというと、こういうサービスがあることをもっと広まってほしいなあ、と思いました。これからも障害者や妊婦、高齢者、難病者、子供など社会的に弱い立場の人が生きやすい社会になるといいなと思います。
・生活に必要な情報を身近な家族にのみ依存しがちで、負担が偏る。
・自宅に FAX がないが、まだまだＥメールで利用できる福祉サービスが少ない。
・旧優生保護法の件について。話は知っているが、自分はない。正しい情報はなかった。友達にも数人いた。結婚する時血液検査などをして断られたこともある（説明もなく検査した）
・現在、福祉が高めになり、幸せです。
・よく行っているスーパーで野菜を買うことをジェスチャーでお願いをした。快く職員が応じてくれた。そのお店はジェスチャーで通じるがほかのお店は冷たい対応なので帰った。ほかのスーパーに行くときは笑顔で対応をしてほしい。
・電車の事故あった時駅員は忙しそうにしてあまり事故のことを尋ねることできなくて困ったことありました。小学生の時 1 人で学校まで通っていた時に間違えて電車をのってしまって困って人に尋ねてやさしく教えてもらったこともありました。小学生の時に電話に使いたいのに人々との尋ねることできなくて困ったことありました。駅員に手話を使えますとか誰も利用しやすい。一人で学校を使う人も利用しやすいようにできたらと思います。小学生・ろう者の老人は字を読めない・目が見えにくいことあり、電車をどこに乗れるか、どこに移動すればいいのか報告されてない。なので一人二人で残されてる場合もあります。その時はわかりやすく報告してほしいです。私の時はどこに電車を乗ればいいのか困ったことはありましたが、聞こえる人々との真似して電車までついて行って乗れました。前の時電車事故→人身自殺？事故？で３時間閉じ込められたことがありました。その時は私たち 4 人は何があったのか全く分からなくて困ったことありました。2 人が聞こえる人々との話し、青いシートでかくれた膨らみ具合で人がはねられて事故したって知りました。その時はいつ電車を動くか知らないままでわからない情報知らせてない様子で困りました。電車が動いたその時で動くことを知りました。何かあった時に電車の中で報告欲しいです。紙をかいてドアに張ったり電子看板に流れたり欲しいです。

・病気のことについて、相談した聴覚障害者団体の人から「努力をしてもどうにもならない」と言われた。脊髄側弯症と腰椎変形症があるため、体操や運動をしてもよくなることはない。一番傷つくことを言われた。不快だった。身長が低いのは病気のせいなのに。高校まで普通学校に通い、聞こえなかったことで能力が劣っている。だから、今からでも学ぶ場を与えてほしい。昭和 51，52 年に普通学校で学んでいた難聴者と交流したい。昭和の頃は、学校の先生の難聴への理解が無かった。補聴器をつければ聞こえると思っていた。入学式も卒業式も何も聞こえなかった。6 級でも。要約筆記もなかった。成人式も何も聞こえなかった。補聴器もポケット型しかなかった。一年遅れているので、成人式にも本当は参加したくなかった。母に強引に勧められて成人式に参加した。楽しくも嬉しくもなかった。高校は本当はろう学校に行きたかった。それか NHK 学園通信制。仕事は銀行に一年九カ月。会社の助成金を使って新しい人を入社させるためにいじめられ、やめさせられた。言葉の暴力もあった。支店長に「小学校を本当に卒業したのか？」と言われた。酷すぎる。アルバイトは 30 歳までやったが、それからは仕事をしたくてもできなかった。本当は定年まで銀行で働きたかった。障害者職業相談センターで女性職員に「がんばって、がんばったんだから、もうがんばらなくていいよ。」と言われた。この言葉がすごくうれしかった。買い物のとき、スーパーなどで遠くから呼ばれていても聞こえない。かすかに声がしているなあ。ってくらいにしか聞こえない。マスクをしている人のところにはいかない。病院では、医者にも看護師にも聴覚障害者への対応を知ってほしい。どのようなときに困るのか。がんばって聞いて、考えているときに次の話をされたり、長い話をされたこともある。この時は、聞き取ることで精いっぱいなので、伝える余裕はない。あったら言っている。医者はわかろうとしてくれないから言いたくない。後ろから言われたり、遠くから言われたり。工事現場の人たちと話すときは、前歯の無い人の言うことは全くわからなかった。写真や絵でわかるようにしてほしい。耳が悪くてもわかるようにしてほしい。聞き取れないのが嫌で工事現場のないところに遠回りしたこともある。今まで、話したくても話せないままだったので、思いっきり書かせていただいた。本当は 60 年分の思いがまだまだたくさんある。ラジオ番組で福祉のことや自分が生きてきたことについて話してみたい。社会貢献がしたい。生きてきた使命かな。「コミューン」を使用できるようになって、聞こえることの幸せを感じている。FM 補聴器は、豊橋市のプラット劇場に行けば貸してくれるよ。バスや電車に乗るときには、ヘルプマークをもっていきたいとおもう。

・テレビの字幕が二重になって見えづらい。二重にならないようにしてほしい。

・補聴器が故障すると困る。手話を覚えろと言われても高齢なので難しい。合図してもらった方が早くわかる。

・子どものころ、おたふくかぜで右耳が聞こえなくなりました。左耳は正常ですが、静かな場所でなら聞こえるのですが、人が大勢いる場所や雑音の多い場所ではほとんど聞き取れません。全く聞こえないわけではないため、読話・手話等の知識もなく、聞こえない中、ストレスがすごいです。しかし、仕事や近所づきあい等、参加しなければならず、人の輪に入れず、孤独感を日々感じています。そのため、子供のころから精神的に不安定で今もうつ病の薬を飲んでいます。今一番の望みは、気持ちを共有できる仲間に出会えたらと思っています。

・将来のキャリアのための情報がほしい。

・目は両手でふさげば体験出来ます。足もケガをすれば歩けない事も分かります。耳は健聴者の方が両耳を両手でふさいでも音は多少聞えますから体験は難しいです。これは私が難聴になった時に友人に云われました。耳の不自由な人の苦労は健聴者には理解されません。ショッピングセンターでの騒がしい場所で聞き直した時店員さんにニヤニヤと笑われた事悔しい思いをして耳の障害者は一部なんです。笑い者なんですね。

・4 年ごとに開催するオリンピックと並んでパラリンピックに聴障者がいないことは差別ではありませんか？パラリンピックにデフリンピックと合併したらいいと思います。※東京パラリンピックに参加したい聴障者はいるのかもしれません。

・誰とでも気兼ねなく集まっておしゃべりしたい。

・（調査者より。）ろう協の会議やサークルに参加していない方だったが、これを機に誘うことができた。

・（調査者より。）配偶者やその親の反対により、手話サークルやろう協の行事に参加できていない様子（家族とのことは楽しそうに話している）。手話で話せる友人が近くにいないため、居場所がないということ。家族への理解を促す必要がある。数年前まで精神疾患で入院されていたことも話された。

２-４．聴覚障害者の暮らしに関する実態調査のまとめ

○聴覚障害者の高齢化とその福祉の対応

表２－５「回答者の年代」の結果について、年齢の平均は56.1歳であった。年代別としては、10歳代 0.8%、20歳代 6.5%、30歳代10.5%、40歳代17.1%、50歳代18.0%、60歳代17.1%、70歳代20.0%、80歳代6.7%、90歳代0.5%、100歳代0.0%、未記入2.7%と、40代から70代の回答者が72.4%を占めていた。

日本全体で人口の高齢化が進んでいるが、聴覚障害者も同様の傾向がある。聴覚障害者はコミュニケーションの困難があり、病院や介護を受ける際に、きこえの配慮や手話によるやり取りが可能な職員の対応が求められる。高齢の聴覚障害者が、市役所の障害福祉課に、病院に、介護施設に出掛けた時に、当事者が職員と対話して、しっかりと内容を理解した上で、様々なサービスを受けることができる施設が求められる。

○聴覚障害者が安心して、頑張って働くことができる職場への希求

愛知県内の各地域には中核都市があり、そこには大企業の工場や事務所があるため、聴覚障害者のある人々は職業に就き、収入を得て生活をすることができる。表２－２３「現在の主な仕事」から、全体としては、回答者の約５割が就業しており、福祉就労が約６%であった。60 歳以上の年齢の回答者が多いため、現在は働いていない方と働いたことがない方と合わせると、約４割であった。

表２－２５「表２－２３で『８．今は仕事をしていない』『９．働いたことがない』と回答した理由」の結果について、回答者の割合は低いが、育児・介護のために仕事ができない回答者がいることがわかった。また、回答者は僅かであるが、解雇、倒産、仕事が見つからない等で働いていない聴覚障害者もいることがわかった。

表２－２６「今、仕事で困っていること、不自由に感じていることや悩んでいること」の結果について、全体としては、聴覚障害や聞こえにくいことの理解が乏しく働きやすい環境が整っていない 20.8%、まわりの人たちと話が通じにくいために仕事や作業がうまくいかないことがある 15.8%、今の仕事を続けられるかどうか心配である 12.9%、障害者の雇用を相談する部署や人がいない 11.3%、職位が上がらない、昇任できない 9.9%、同じ能力でも聴こえる人が評価される 9.4%等が上位を占めた。

表２－５５「今、仕事で困っていること、不自由に感じていることや悩んでいること（年代別）」の結果について、全体の結果と比較して、働き盛りの30代は、聴覚障害や聞こえにくいことの理解が乏しく働きやすい環境が整っていない、今の仕事を続けられるかどうか心配である、職位が上がらない、昇任できない等の多くの悩みを抱えている割合が高かった。10代と20代については仕事や職場に不慣れな面もあるため、まわりの人たちと話が通じにくいために仕事や作業がうまくいかないことがあるという質問項目の回答の割合が高かった。

聴覚障害があるために、様々な制約を受けながら、仕事に従事している回答者が多いことがわかる。聴覚障害者が安心して働き、成果が認められる職場が増えていくことを望みたい。

○聴覚障害者のコミュニケーションの困難

（１）近隣住民との関わりの困難

表２－２８「日頃の近所の人たちとの関わり」の結果について、全体としては、つき合いはない 14.3%、あいさつする程度 77.4%、くらしや地域のことで話し合っている 14.0%、困りごとや悩みを相談し合う 4.8%、その他3.9%であった。つき合いはないとあいさつする程度の結果を合わせると 91.7%となり、居住地の近隣の人々との関わりが少ないことがわかった。愛知県内の人口が多い都市においても、聴覚障害者は地域住民との関わりは非常に薄い状況にあり、日常で会話する相手は家族以外にいない方が多く存在する。**名古屋ブロックと東三河ブロック**の回答者は、「くらしや地域のことで話し合っている」「困りごとや悩みを相談し合う」の回答の割合が **14%台と**低く、近隣の住民との関わりが少ないことが推察された。

（２）困った時に相談する相手の必要性

表２－３６「日頃の暮らしことで相談する相手の有無」の結果について、全体としては、相談相手がいる82.7%、相談相手がいない 13.0%であった。ブロック別の回答をみると、名古屋ブロックは、相談相手がいると回答した者が77.9%とやや低かった。

表２－３７「日頃の暮らしことで相談する相手（ブロック別）の結果について、30%以上の回答があった項目は、友達35.6%、配偶者36.8%であった。20%以上の回答があった項目は、兄弟姉妹28.5%、親28.1%、子ども27.3%であった。ブロック別の結果の差はなかった。

表２－３８「手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障された施設や、サービスを利用したことの経験」

の結果について、全体としては、手話通訳派遣 54.2%、聾学校 10.8%、要約筆記者（奉仕）派遣 9.5%であった。

表２－６７「災害など、いざという時に頼りにする人（年代別）」の結果について、30 代～60 代以上は配偶者・親・子ども、10 代と 20 代は親・兄弟姉妹・友達に頼りにするという回答の割合が高かった。20 代～40 代の回答者は、仕事の関係で、職場の上司や同僚を頼りにするという回答の割合が高かった。

表２－７１「日頃の暮らしことで相談する相手の有無（年代別）」の結果について、すべての世代で、８～９割で相談する相手がいる一方、１～２割で相談する相手がいないという回答があった。

表２－７２「日頃の暮らしことで相談する相手（年代別）」の結果について、30～60 代以上は配偶者と親、10～40 代は親・友達という回答の割合が高かった。60 代においては子ども、30 代においては職場の上司という回答の割合が高かった。

聴覚障害者で、家族や親族が近くにいない場合、相談したい相手、困った時に頼りたい相手がいない状況にある。ブロック別にみると、名古屋ブロックの回答者は聴覚障害者支援事業所ほっとくるの利用者が多く、東三河ブロックの回答者は聴覚障害者支援事業所笑おう舎の利用が多かった。地域に聴覚障害者が交流できるセンター的施設があれば、聴覚障害者が積極的に利用していくことができることが推察された。

（３）難聴者・ろう重複聴覚障害者の生活の困難

表２－８７「地域の活動・集まりへの参加（手段別）」の結果について、難聴者（手話未使用者）はろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体への参加が４割で他と比べると少なく、手話サークルや自治会への参加も２割程度であった。

表２－９５「日頃の暮らしについて必要な情報や役立つ情報・コミュニケーションの困難（手段別）」の結果について、自動車事故にあった時の保険会社の手続きが分からない、病院や医者にかかる時の会話、福祉制度やサービス・施策等を利用する時、銀行や郵便局などの公共施設を利用する時、商店・スーパー・食堂などでの買い物などの時、近所の方と話す時の質問項目で、難聴者（手話未使用者）は回答する割合が低く、反対に盲ろう者は回答する割合が高かった。他にも、盲ろう者は、多くの事柄の情報の獲得に困難を感じており、全体的に質問項目の回答割合が高かった。

手話を使わない難聴者は、日常生活の困りごとが少ないように受け取られてしまうことが多いが、要約筆記者の派遣が必要な時には支援者を求めることが多い。また、難聴者は、地域の人々の関わりが少なく、災害時等には近隣の人々の支援が受けられない可能性もある。

盲ろう者は、ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会等の聴覚障害者団体への参加が９割を超えており、聴覚障害者同士が集まるコミュニティに積極的に参加していることがわかった。盲ろう者の場合、盲ろうを理解する人々の存在が必要であり、触手話で会話のできるコミュニケーション環境が必要であるので、盲ろう者や聴覚障害者が集まる場を強く望んでいることが伺われた。

○聴覚障害者が必要な施設や福祉サービス

表２－４０「今後、必要と思われるサービスや施設」の結果について、手話（触手話）や要約筆記などのコミュニケーションが保障された、聴覚障害者が利用しやすい施設を身近なところに作ってほしい、増やしほしい 61.0%であった。次いで、災害時にも、聴覚障害への配慮があり、一時的でも安心して避難生活ができる制度を整えてほしい 55.0%、聴覚障害に配慮した高齢者に関わるデイサービスがほしい 50.4%の回答が多かった。

表２－１０１「今後、必要と思われるサービスや施設（手段別）」の結果について、手話未使用者は利用する割合が低いため、メリットを感じる回答の割合が低かった。反対に、盲ろう者は、誰もが気軽におしゃべりできる・集まって交流できる場所や部屋がほしいという回答が 84.6%と高く、人と繋がりを持ち気軽に会話する環境を希求していることがわかった。

難聴者・ろう者・盲ろう者などの聴覚障害者が利用しやすく他者との交流が図ることができる施設、高齢者の福祉的な対応ができる施設、災害時の情報提供および避難対応の施設のニーズが高いことがわかった。

この他、今回の調査では盲ろう者の回答は１３名と少数であったが、**盲ろう者が安心して過ごすことができる施設の建設**のニーズが高いことがわかった。

追記

結果の最後に、成人聴覚障害者の自由記述があるが、彼らの声を理解をして、できることから活動を広げ深めていきたい。

平成 30 年度　独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

3. きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実態調査

３．きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実態調査

３－１．問題と目的

（１）愛知県の聴覚障害児の暮らしの背景

現在、年間約 100 万人の子どもが生まれ、そのうち 0.1%の約 1000 名の重度の聴覚障害のある子どもが生まれています。地域によって差がみられますが、約３分の１の聴覚障害児が聾学校に、また約３分の２の聴覚障害児が地域の学校に在籍しています。新生児聴覚スクリーニング検査の早期発見が発端となり、早期からの聴能訓練やことばの学習、療育が充実してきています。地域の学校で学ぶ聴覚障害児が増えた背景としては、補聴器の性能が向上し、人工内耳を装用する子たちが増え、早期からの療育体制が整ったことが挙げられます。通常の学校で学ぶ聴覚障害児は、勉強や運動に熱心に取り組み、友達との関わりも広げる子どももいます。一方で、先生の話が聞こえないために授業についていけない他、聴こえる友達の話が聞こえないために集団から孤立してしまうことがあります。

聾学校での教育は、補聴機器を活用した聴覚活用と手話を併用しながら、他者との関わりを深める中で情緒や社会性を伸ばす指導が進められています。そして、乳幼児教育相談から幼稚部での生活の中で聴覚障害児は言葉と心を成長させ、日本語能力の基礎を固めます。小学部以降は、言葉の力を高めつつ、教科学習を進めていきます。しかしながら、聾学校に在籍する聴覚障害児は、発達障害を併せ有する子どもの他、知的障害や自閉症のある重複聴覚障害児が増えています。人工内耳・補聴器の活用の他、手話の活用、障害認識を深めるための自立活動、就労に向けた指導等、課題が山積しています。2002 年に文部科学省の指示の下で学校週５日制が始まり、子どもの学校授業時間外の余暇の過ごし方が多様化し、保護者のニーズも多様化してきています。障害児の余暇活動については、地域の活動には参加しにくいものとなっていることや、特別支援学校に通学する子どもは居住地域の学校に通学する子どもとの人間関係が希薄になる傾向にあることが指摘されています。障害児の放課後等デイサービスは、2012 年４月に厚生労働省が制度を創設して以降、利用者、費用、事業所の数が大幅に増加しています。放課後等デイサービスは、６歳～18 歳までの障害のある子どもの他、発達の遅れや様々な特性のある子どもが、放課後や長期休暇に利用できる福祉サービスで、個別療育や集団活動を通して、家と学校以外の居場所で友達を作ることができるため、「障害児の学童」とも言われています。このような中で、聴覚障害児向けのデイサービスを行う施設が徐々に増加し、2017 年度の全国聴覚・ろう重複児施設協議会加盟団体は７都府・11 団体となっていますが、その数は少ない現状にあります。2015 年に開所したあいち聴覚障害者センターでは相談員（社会福祉士）を配置し、成人の難聴者や子どもをもつ保護者の相談にも対応しています。相談事例は少数ですが、①きこえに障害のある子どもたちが自分の障害について説明する力が得られていない、②友達や先生、親とのコミュニケーション方法を確固たるものにできない、③どこに相談していいのかわからないという『３重の無防備な状態』におかれています。また、ろう学校と小中学校の難聴学級のそれぞれで学ぶ聴覚障害児が分断され、双方の聴覚障害児同士および保護者同士が交流し情報交換を行う場がない現状があります。

（２）「きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実情調査」の目的

私たちは、障害者権利条約に掲げられているインクルーシブ教育の実現を願っています。そこで、私たちは、特別支援学校や地域の学校等に在籍している子どもや親たちは、学校や家庭、地域でどのような不安や悩みを抱えているかについて実態調査を行い、地域のニーズや課題を把握し、問題解決の為にはどのような社会資源が必要なのか整理し、県や市町村が定める福祉計画に向けた提言を行いたいと考えました。そして、必要とされる子育て支援の方策や子どもと保護者の配慮等について提言を行いたいと考えました。

３－２．基礎資料の結果

調査対象者の情報

本質問紙調査「**きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実態調査**」の調査については、286 名の回答を受けることができた。そのうち、記入漏れ、未回答項目が多い等の結果の処理が困難な回答７名は無効とした。そのため、今回の結果は 279 名の結果を集計することとした。

ろう学校在籍児が 187 名、通常の学校在籍児が 81 名、未記入が１名であった。

（注）「ろう学校在籍」と「通常の学校在籍」

調査結果において、「ろう学校在籍」とは、ある時期にろう学校に一貫して在籍した場合、ろう学校から通常の学校に転籍した場合、通常の学校からろう学校に転籍した場合を含むこととする。「通常の学校在籍」とは、一貫して通常の学校で学んだ場合とする。

ろう学校に在籍した場合、聴覚障害児同士の友人関係を築くことができ、また保護者の繋がりもできて子育ての情報を得やすい環境にあるため、ある時期（幼稚部・幼稚園時代、小学部・小学校時代等）に一度でもろう学校に在籍した場合は、ろう学校在籍のグループにいれることとした。

表３－１「回答者の年代」の結果について、年齢の平均は 9.9 歳であった。

年代別としては、０～３歳 0.0%、４～６歳 20.4%、７～１２歳 44.1%、１３～１５歳 17.6%、１６～１８歳 15.8%であった。

表３－２「回答者の性別」の結果について、男子 52.3%、女子 47.3%であった。

表３－３「回答者の所属ブロック」の結果について、名古屋 22.6%、西尾張 17.9%、東尾張①6.1%、東尾張② 5.0%、西三河 28.7%、東三河 16.8%で、最も回答者が多かったブロックが西三河で、次いで、名古屋、西尾張、東三河、東尾張①、東尾張②と続いた。

表３－４～表３－８には、各ブロックの回答者の居住地ごとの人数と、ろう学校在籍または通常の学校在籍の人数を示す。

表３－９「身体障害者手帳の有無」の結果について、手帳あり 79.6%、手帳なし 15.1%、未記入 5.4%となった。回答者の８割近くが身体障害者手帳を取得していることがわかった。

また、表３－１０「身体障害者手帳の級」の結果について、１級 5.0%、２級 38.4%、３級 17.6%、４級 7.2%、６級 11.5%であり、回答者の 43.4%が１級または２級の身体障害者手帳を取得しており、最重度の聴覚障害がある子どもはろう学校に在籍する割合が高いことがわかった。

表３－１１「家族構成」の結果について、３世代以上 13.3%、夫婦と子ども 77.1%、その他 5.7%であった。夫婦と子どもの家族が８割弱で最も多く、次いで、３世代以上、その他が続いた。

表３－１２「聴覚障害のある家族構成の有無」の結果について、聴覚障害の家族がいる子どもは全体で 34.4%であった。その内訳は、祖父 9.0%、祖母 9.3%、父親 20.1%、母親 25.4%、きょうだい 22.2%であった。ろう学校在籍児と通常の学校の在籍児を比較すると、ろう学校在籍児の方が聴覚障害のある家族がいる割合が高かった。

表３－１．子どもの年代　(279名)

年代	人数 (%)
０～３歳	０名 (0.0%)
４～６歳	57名 (20.4%)
７～１２歳	123名 (44.1%)
１３～１５歳	49名 (17.6%)
１６～１８歳	44名 (15.8%)
未記入・不明	6名(2.2%)

表３－２．子どもの性別　(279名)

性別	人数 (%)
男子	146名 (52.3%)
女子	132名 (47.3%)
未記入・不明	1名(0.4%)

表３－３．子どもの所属ブロック

ブロック名	総数 (279名)	ろう学校在籍 (193名)	通常の学校在籍 (82名)
名古屋	63名 (22.6%)	40名 (30.7%)	23名 (28.0%)
西尾張	50名 (17.9%)	37名 (19.2%)	13名 (15.9%)
東尾張①	17名 (6.1%)	7名 (3.6%)	9名 (11.0%)
東尾張②	14名 (5.0%)	6名 (3.1%)	6名 (7.3%)
西三河	80名 (28.7%)	63名 (32.6%)	17名 (20.7%)
東三河	47名 (16.8%)	34名 (17.6%)	13名 (15.9%)

(注) ブロック未記入８名(うちろう学校在籍６名、通常学校在籍１名、在籍校不明１名)
(注) 通学している学校が未記入のため不明４名（うち東尾張①1名、東尾張②2名、ブロック不明１名)

表３－４．西尾張ブロックの子どもの居住地 (50名)

市町村名	総数 (50名)	ろう学校在籍 (37名)	通常の学校在籍 (13名)
一宮市	19名 (38.0%)	14名 (37.8%)	５名 (38.5%)
犬山市	７名 (14.0%)	５名 (13.5%)	２名 (15.4%)
弥富市	５名 (10.0%)	４名 (10.8%)	１名 (7.7%)
稲沢市	５名 (10.0%)	４名 (10.8%)	１名 (7.7%)
北名古屋市	４名 (8.0%)	１名 (2.7%)	３名 (23.1%)
あま市	３名 (6.0%)	２名 (5.4%)	１名 (7.7%)
清須市	２名 (4.0%)	２名 (5.4%)	０名 (0.0%)
津島市	２名 (4.0%)	２名 (5.4%)	０名 (0.0%)
愛西市	１名 (2.0%)	１名 (2.7%)	０名 (0.0%)
江南市	１名 (2.0%)	１名 (2.7%)	０名 (0.0%)
扶桑町	１名 (2.0%)	１名 (2.7%)	０名 (0.0%)

表３－５．東尾張①ブロックの子どもの居住地（17名）

市町村名	総数（17名）	ろう学校在籍（7名）	通常の学校在籍（9名）
春日井市	7名（41.2%）	4名（57.1%）	3名（33.3%）
瀬戸市	4名（23.5%）	0名（0.0%）	4名（44.4%）
尾張旭市	2名（11.8%）	1名（14.3%）	0名（0.0%）
日進市	2名（11.8%）	1名（14.3%）	1名（11.1%）
小牧市	1名（5.9%）	0名（0.0%）	1名（11.1%）
東郷町	1名（5.9%）	1名（14.3%）	0名（0.0%）

（注）在籍校不明１名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

表３－６．東尾張②ブロックの子どもの居住地（14名）

市町村名	総数（14名）	ろう学校在籍（6名）	通常の学校在籍（6名）
東海市	7名（50.0%）	3名（50.0%）	2名（33.3%）
大府市	4名（28.6%）	2名（33.3%）	2名（33.3%）
常滑市	1名（7.1%）	1名（16.7%）	0名（0.0%）
武豊町	1名（7.1%）	0名（0.0%）	1名（16.7%）
半田市	1名（7.1%）	0名（0.0%）	1名（16.7%）

（注）在籍校不明２名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

表３－７．西三河ブロックの子どもの居住地（80名）

市町村名	総数（80名）	ろう学校在籍（63名）	通常の学校在籍（17名）
岡崎市	35名（43.8%）	32名（50.8%）	3名（17.6%）
豊田市	18名（22.5%）	12名（19.0%）	6名（35.3%）
西尾市	10名（12.5%）	8名（12.7%）	2名（11.8%）
安城市	4名（5.0%）	2名（3.2%）	2名（11.8%）
幸田町	3名（3.8%）	2名（3.2%）	1名（5.9%）
知立市	3名（3.8%）	3名（4.8%）	0名（0.0%）
高浜市	3名（3.8%）	2名（3.2%）	1名（5.9%）
刈谷市	2名（2.5%）	0名（0.0%）	2名（11.8%）
みよし市	1名（1.3%）	1名（1.6%）	0名（0.0%）
碧南市	1名（1.3%）	1名（1.6%）	0名（0.0%）

表３－８．東三河ブロックの子どもの居住地（47名）

市町村名	総数（47名）	ろう学校在籍（34名）	通常の学校在籍（13名）
豊橋市	27名（57.4%）	22名（64.7%）	5名（38.5%）
豊川市	11名（23.4%）	6名（17.6%）	5名（38.5%）
蒲郡市	7名（14.9%）	5名（14.7%）	2名（15.4%）
田原市	2名（4.3%）	1名（2.9%）	1名（7.7%）

表３－９．子どもの身体障害者手帳の有無（279名）

手帳の有無	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
手帳あり	222名（79.6%）	171名（88.6%）	49名（59.8%）
手帳なし	42名（15.1%）	17名（8.8%）	25名（30.5%）
未記入	15名（5.4%）	５名（2.6%）	８名（9.8%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

表３－１０．子どもの身体障害者手帳の級（279名）

級	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
手帳がある	222名（79.6%）	171名（88.6%）	49名（59.8%）
１級	14名（5.0%）	11名（5.7%）	２名（2.4%）
２級	107名（38.4%）	83名（43.0%）	24名（29.3%）
３級	49名（17.6%）	36名（18.7%）	13名（15.9%）
４級	20名（7.2%）	17名（8.8%）	２名（2.4%）
６級	32名（11.5%）	24名（12.4%）	８名（9.8%）
手帳なし・回答なし・未記入	57名（20.4%）	―――	―――

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

表３－１１．家族構成（279名）

家族構成	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
３世代以上	37名（13.3%）	28名（14.5%）	９名（11.0%）
夫婦と子ども	215名（77.1%）	151名（78.2%）	63名（76.8%）
一人親と子供	12名(4.3%)	６名(3.1%)	５名（6.1%）
その他	４名（1.4%）	１名（0.5%）	２名（2.4%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。
（注）未記入・不明11名(うちろう学校在籍７名、通常学校在籍３名、在籍学校不明１名)

表３－１２．聴覚障害のある家族構成の有無

聴覚障害のある家族構成	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
聴覚障害のある家族がいる	96名（34.4%）	78名（32.1%）	18名（22.0%）
（内訳）　祖父	25名（9.0%）	22名（11.4%）	３名（3.7%）
祖母	26名（9.3%）	22名（11.4%）	４名（4.9%）
父親	56名（20.1%）	49名（25.4%）	７名（8.5%）
母親	71名（25.4%）	59名（30.6%）	12名（14.6%）
きょうだい	62名（22.2%）	49名（25.4%）	13名（15.9%）
聴覚障害のある家族がいない	183名（65.6%）	―――	―――

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

３－３．本調査の結果

（1）．保護者への調査結果の分析

表３－１３「新生児聴覚検査スクリーニング検査の実施の有無」の結果について、検査したが 69.2%、検査していないが 29.0%であった。

表３－１４「要検査と言われたときの気持ち」の結果について、まさか、自分の子どもが・・と思うと大変ショックだったが最も回答が多く 38.0%、次いで、もし、聴こえていなかったらという不安で毎日をすごしたは 35.1%、ちゅうぶらりんの状態がとてもつらかったが 21.1%であった。

表３－１５「確定診断で障害がわかった時の子どもの年齢」は、平均 15.7 カ月であった。その内訳は、１か月 5.0%、２か月 1.8%、３か月 8.6%、４か月 2.2%、５か月 4.7%、６か月 12.9%、７～12 か月 12.2%、１歳１か月～１歳６か月 5.0%、１歳７か月～２歳０か月 8.6%、２歳１か月～２歳６か月 5.4%、２歳６か月～３歳０か月 3.2%、３歳１か月～３歳６か月 2.5%、その他 28.0%であった。生後から６か月までが 35.2%であったが、生後７か月以上が６割以上であった。現在の新生児聴覚スクリーニング検査の早期医療体制では、確定診断を３か月までに行い、生後６か月までに補聴器を装用することを目指しているが、過去には聴覚障害の発見がやや遅く、療育の開始までに時間がかかっていたことが推察される。

表３－１６「確定診断で障害がわかった時に医者から保護者に言われたことば」の結果について、「残念ですが、お子さんは聴覚に障害があり、きこえていません」が最も多く 58.8%、次いで、「ろう（聴覚特別支援）学校や関連施設が充実していますので紹介します。」が 24.0%、「人工内耳にすれば聞こえるようになります」が 10.4%であった。

表３－１７「確定診断で障害を告げられた時の保護者の気持ち」の結果について、「やはり聴こえていないのかと思った」が最も多く 54.8%、「将来はどうなるのだろう」が 45.2%、「今、できることを教えてもらいたい」が 41.9%、「不安でどうしたらよいかわからなかった」が 39.8%であった。

表３－１８「子どもの障害がわかってから障害を受け入れるのにかかった期間」の結果について、半年が 43.7%、１年が 10.8%、２～３年 10.4%という結果であった。しかし、現在もまだ受け入れられないという回答も 4.3%あった。

表３－１９～表３－２３に、各年代ごとに、主に受けた相談支援・療育に関する結果を示す。

０～３歳代の時期に、主に受けた相談支援・療育機関は、ろう学校・幼稚部が最も多く 68.5%であった。その後、ろう学校に在籍した子どもで、ろう学校の幼稚部や教育相談に通った子どもは 77.7%であった。しかし、通常の学校で学ぶ子どもで、ろう学校・幼稚部や教育相談に通った子どもは 47.6%であった。

表３－２４「子どものことで特に気になることや心配事」の結果について、以下に示す。

０～３歳代では、コミュニケーションが最も多く 46.2%で、次いで、発達の遅れ 42.3%、きこえの障害 34.1%であった。

４～６歳代では、コミュニケーションが最も多く 62.0%で、次いで、友達との人間関係 53.8%、発達の遅れ 38.4%であった。

７～１２歳代では、友達との人間関係が最も多く 48.7%で、次いで、コミュニケーション 46.2%、学習面の遅れ 43.0%であった。

１３～１５歳代では、コミュニケーションが最も多く 24.7%で、次いで、友達との人間関係が最も多く 23.3%、子どもの進路 23.3%であった。

１６～１８歳代では、子どもの進路が最も多く 17.9%で、次いで、子どもの将来 16.5%、友達との人間関係 14.0%であった。

表３－２５「保護者の子育ての悩み」の結果について、全体の結果としては、学校の選択や進路が子どもに合っているか不安が最も多く 44.8%、補聴器・人工内耳にかかる費用が重いが 32.3%、仕事の両立 29.0%であった。ろう学校在籍と通常の学校在籍で結果の差があった質問項目は、学校の選択や進路が子どもに合っているか不安と、補聴器・人工内耳にかかる費用が重いの質問項目であった。何れの学校を選択しても、子どもの学校選択は迷うところであるが、通常の学校在籍の保護者の方が悩む方が多いという結果となった。また、補聴機器の購入については助成金を得ることができるが、保護者としては最新の補聴器が発売されたら助成がもらえなくても個人負担で最新の補聴器に買い換える方も多い。特に、通常の学校在籍の場合、人工内耳装用児が多いため、費用面の悩みがあることが推察された。

表３－２６「福祉制度の利用」の結果について、特別児童扶養制度が最も多く 45.2%で、次いで、就学援助制度 34.4%、療育手帳 17.9%となった。

表３－２７「子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの」の結果について、全体の結果としては、話し合える聴こえる友だちが最も回答が多く 76.7%で、次いで、話し合える聴こえない友だち 65.9%、親以外に子どもが何でも話せる大人の存在 55.9%、子どもに理解できる方法で勉強を教えてもらえる塾 53.8%、放課後等デイサービス 44.4%、聴覚障害児を受け入れる学童保育所 41.6%であった。

話し合える聴こえる友だちのニーズについては通常の学校在籍児の保護者で回答が高く、話し合える聴こえない友だちについてはろう学校在籍児の保護者で回答が高かった。また、聴覚障害児にわかりやすく教えてくれる学習塾へのニーズが約半数の 53.8%、聴覚障害児が子どもたちと共に楽しく遊んで過ごす学童保育所や放課後等デイサービスへのニーズも約４割の保護者から回答があった。

表３－２８～表３－３３に、各ブロックごとの「子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの」の結果を示す。表３－２７の全体の結果と同様、ニーズの高い質問項目の順位は同じ点が多いが、愛知県内のＮＰＯ法人つくしが運営する聴覚障害児の放課後等デイサービスへの事業所がない東尾張②（知多半島地域）では学校外で子どもが学んだり遊んだりする場へのニーズが高かった。

表３－３４「学校側の具体的支援で嬉しかったこと、助かったこと」の結果について、担任の個別面談が最も多く 46.6%であり、担任の先生が保護者の悩みや心配ごとについて直接聞いてもらえる機会を作ることが、保護者の心の安心につながる。次いで、障害理解のための授業が 36.9%であったが、これはろう学校在籍児の回答の割合が高いことから通常の学校に交流授業に出かけた際に、事前に聴覚障害に関する学習やきこえにくさの疑似体験の機会を作るという教育活動と考える。座席の配慮の回答は 29.0%であるが、通常の学校在籍児の回答の割合が高いことから、通常の学級で先生の話が聞き取りやすく、他の子どもたちの発言をみることができる座席について検討してくれたことが保護者の印象に残っていると推察する。他の友だちのサポートは 26.9%であるが、通常の学校在籍児の回答の割合が高いことから、健聴児の友達のきこえのサポートがあることに保護者は感謝の気持ちを持つことが推察される。また、ＦＭ補聴器・ロジャーの活用は 19.7%であったが、これも通常の学校在籍児に回答の割合が高いことから、ＦＭ補聴器・ロジャーを難聴学級または通常の学級の先生がきちんと使い、聴覚障害児にとって聴覚活用が可能な教育環境を整備する努力を重ねていることが考えられる。

表３－３５「子どもの教育環境に関する情報を入手したところ」の結果について、ろう（特別支援）学校の先生が最も多く 63.4%であった。次いで、ろう（特別支援）学校の PTA や保護者 47.7%、インターネット 38.4%、病院（医師・言語聴覚士など）37.6%、同じ障害のある当事者から 29.7%、難聴児の保護者団体（難聴児を持つ親の会、人工内耳友の会等）12.2%と続いた。ろう学校在籍児の場合は、様々な機会に聴覚障害児の子育てや教育に関する情報を得ることができる。一方、通常の学校在籍児の場合は、インターネット、病院、難聴児の保護者団体から情報を得る割合が高いことがわかった。

表３－１３．新生児聴覚検査スクリーニング検査の実施の有無

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．検査した	193名（69.2%）	139名（72.0%）	52名（63.4%）
２．検査していない	81名（29.0%）	51名（26.4%）	29名（35.4%）
回答なし	5名（1.8%）	―――――	―――――

（注）学校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

表３－１４．要検査と言われたときの気持ち　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．もし、聴こえていなかったらという不安で毎日をすごした	98名（35.1%）	64名（33.2%）	34名（41.5%）
２．まさか、自分の子どもが・・と思うと大変ショックだった	106名（38.0%）	72名（37.3%）	32名（39.0%）
３．ちゅうぶらりんの状態がとてもつらかった	59名（21.1%）	39名（20.2%）	17名（20.7%）
４．その他	85名（30.5%）	63名（32.6%）	22名（26.8%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他の記述＞

○やっぱり　１６件
・自分が聴覚障害者なのでそうかと思った。
・自分も夫も聴こえないので、そんなに気にならなかった。
・自分が聾なのでやっぱりと思った。
・嬉しかった。デフファミリーとして気楽に手話でコミュニケーションできるから。
・デフファミリーなのでやっぱりか。
・やっぱりか。親もろうなので遺伝だなと。
・親も聴障者なのでまあやっぱりか、と前もって覚悟はしていたので、ショックはそれほどではなかった。
・（本人の）姉も障害があったのでやはり…。
・未熟児で入院中の様子からうたがいを持っていたため、やっぱりなという思いがありました。
・同じ聴覚障害なので気持ちはわかる。
・嬉しかった。
・そうか。
・私たちもそうなのですんなり受け止められた。
・デフなので気にしなかった。
・母親も生まれつき難聴なので遺伝なのかなっと思った。
・自分も聞こえないので何とも思わなかった。

○PASS　１５件
・PASSした。
・スクリーニングにパスしていた。
・要検査ではなくパスした（OKだった）。
・問題なしだった。
・新生児の時は異常なし。
・要検査といわれていない。

・新生児の時は聴覚障害ではなかった。
・4歳まで気がつかなかった。
・言われていない（正常だった。）
・異常なし。
・要検査といわれていない。
・ひっかからなかった。
・新スクはパス（異常なし）だった。
・産まれたときは聴こえていた。
・スクリーニングを受けてないので

〇疑い・ショック　１４件
・正直なところ、次の検査で大丈夫と言われると思っていた。
・不安もあったが、我が子は大丈夫、次の検査ではクリアすると思っていた。
・前説明を受けた人が、合格？でしたが「間違い」もあるので、様子を見てくださいと言われているのをきいて、うちの子も間違いと思っていた。
・検査に間違いがあり、本当は聞こえていることを願った。本当に聞こえていないなら、もっと早く気付いてあげたかった。
・どうして？と理由を探そうとした。自分に何か落ち度があったのでは？と考えた。
・本当に？嘘でしょと疑いの気持ち。
・嘘だと思いたかった。
・1ヶ月検診のときに突然言われ、この先生は何を言っているか分からず、この病院にはもう絶対に行かないと思いました。
・何かの間違いだったら良いのに、私のことをお母さんと呼ぶこともできないのかな。
・何かの間違いだ、と前向きに考えようとした。
・聞こえていないかもしれないといわれたので、希望をもってしまった。
病院で相談できる相手や詳しく説明や話を聞いてもらう人がいなかったので、とてもつらかった。
・出生後、別の病気で入院していてもしかして聞こえてないのでは？と心配していたが入院中に検査をしてもらえずとても不安だった。
・一か月検診でこちらから話して紹介状を書いてもらえたが、聴覚障害の対応を分かっておらず…。3か月のときに早い検査はできないといわれ、6か月のときに愛知小児へ。9か月のときに検査し、11か月から補聴器を装用した。まわりが傷つけないようにとオブラートに言い過ぎて、子どもが障害ありなのかなんなのかわからず、サクッとどう動いていけばいいかわからず困った。
・偽陽性とのことだったので、いつか判断してもらえるだろうと思いながら成長し、結果親（私）が、病院や市役所、学校に話していくまでなぜわかってくれていないの？と思い過ごしました。
病院側の説明が十分ではなく、混乱した。（検査はするが、Dr. の知識が不十分であり、値からの判断が甘かった。）

〇気にならない　７件
・別に気にしなかった。自分もろうなので、ろうの子でも気にならなかった。
・気にならなかった。
・きこえないかもしれないと思うだけで不安なし。
・ここまで考えません。
・羊水が耳に詰まっているだけでよくあることと助産師の助言もあってあまり深く考えなかった。
・あまり深く考えてなかった。
・「新スクの結果が要検査となる子はいるけど再検査で問題なしとなる子がほとんど」と言われたため、特に心配はしなかった。

〇前向き　６件
・聴こえると思っていたから聴こえないと聞いて聴こえないんだー…という気持ちになりましたが、大変ショックまではいかず大丈夫でした。

・いわれた時はショックだったがすぐに、聞こえていなくても補聴器をつければ大丈夫と思った。
・補聴器を付ければなんとかなると前向きな気持ち。
・難聴の場合、関係者からの助言を頂き最善を尽くしたい。
・ちゃんと調べて早く対処したいと思った。
・現状を正確に知りたい

〇受け入れた　４件
・特に何も思わず現実を受け入れた。
・聴こえると思っていた。でも聴こえないと聞いて、そっか！分かりました。という思いでした。大丈夫です。
・意外と平常心だった。
・まあなんとかあるかな

〇重複　４件
・腎臓の方もあったので、耳の方が軽く聞こえた。
・上の兄が自閉症なのでまた障害なのかと泣きました。
・新生児聴覚検査を受けたときは「正常」となっていましたが、2 才の時に検査をしたら聴覚障害だった。
・それ以外に早急に手術が必要な奇形があったため（産後すぐに大きな病院に搬送）その時はそれどころではなかった。

〇わからない　２件
・よくわからなかった。
・あまり理解できなかった。

表３－１５．確定診断で障害が分わかった時の子どもの年齢（279名）

	人数（%）
１か月	14名（5.0%）
２か月	５名（1.8%）
３か月	24名（8.6%）
４か月	６名（2.2%）
５か月	13名（4.7%）
６か月	36名（12.9%）
７～12か月	34名（12.2%）
１歳１か月～１歳６か月	14名（5.0%）
１歳７か月～２歳０か月	24名（8.6%）
２歳１か月～２歳６か月	15名（5.4%）
２歳６か月～３歳０か月	９名（3.2%）
３歳１か月～３歳６か月	７名（2.5%）
わからない・未記入等	78名（28.0%）

表３－１６．確定診断で障害が分わかった時に医者から保護者に言われたことば（279名）　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．「残念ですが、お子さんは聴覚に障害があり、きこえていません」	161名（57.7%）	121名（62.7%）	42名（51.2%）
２．「人工内耳にすれば聞こえるようになります」	29名（10.4%）	19名（9.8%）	10名（12.2%）
３．「手話等を覚えることで会話できます」	11名（3.9%）	９名（4.7%）	２名（2.4%）
４．「聴力障害の他に別の障害もあります」	14名（5.0%）	11名（5.7%）	３名（3.7%）
５．「ろう（聴覚特別支援）学校や関連施設が充実していますので紹介します。	67名（24.0%）	51名（26.4%）	16名（19.5%）
６．その他	72名（25.8%）	43名（22.3%）	28名（34.1%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他の記述＞

○淡々と事実を告げられた　４０件

・その時の医者に慣れている感じで淡々と告げられました。
・中程度難聴です。
・中度の難聴があります。
・片耳が中度の難聴です。
・聞こえが少し悪いようです。
・聞こえてないです。
・きこえていないかも。
・聴覚に障害があります。
・片耳がほぼ聞こえていません。もう片方も少し弱いです。
・全く聞こえていません。
・耳元で大きな声を出さないと聞こえない状態です。
・聞き取りにくい。
・お子さんは聴覚障害があります。

・耳が聞こえていません。
・聴覚障害あり。
・「聞こえていない音があります。」
・今はまだ聞こえていますが、どんどん聴力は低下していきます。いずれ聞こえなくなるかもしれません。
・きこえていません、だけ。
・感音性難聴なので、手術では治らない。
・滲出性中耳炎が治ったらきこえるようになるお子さんもいます。
・聴覚に障害がありますが、少しは聞こえているかもしれません。
・補聴器が必須。言語訓練を受ける必要があるので、言語習得は６歳までと言われた。
・片耳が全く聞こえていません。成長と共に何らかの弊害が出てくることが予想されやすい。
・右耳の方が聞こえていません。左耳で聞いています。今後聴力がなくなっていくこともあります。
・中軽度の難聴です。補聴器が必要になります。
・全く聞こえていないわけではありません。様子をみて補聴器をすすめます。
・補聴器を利用していきましょう。
・補聴器装用で少しは聴こえるかもしれません。手帳を作ります。作りますか。
・補聴器を付けたほうがいい。
・補聴器が必要です。
・補聴器が必要。
・補聴器をお勧めします。
・補聴器を作るために検査をしましょう。
・補聴器が必要なので両耳作ってください。（人工内耳は付けないレベルだったため）
・人工内耳の説明
・手術すれば、今より良く聞こえる可能性があります。
・手術すればきこえるかもしれない。
・人工内耳の適用性について説明。
・人工内耳の説明もあった。
・聾学校に行かないと、話せるようになりません。

〇専門の病院を紹介　１１件
・ここ（病院）では訓練などができないので耳鼻科を紹介します。
・大きい病院を紹介します。
・補聴器の装用する病院に紹介します。
・もう少し大きな病院で検査してもらいましょうと言われました。
・あいち小児保健医療総合センターを紹介されました。
・より専門の病院に受診して下さい。
・反応がないので市民病院で再検査して下さい。
・少し聞えがわるそうなので、あいち小児センターを紹介するね。
・ほかの病院を紹介された
・「専門の良い先生がいる病院を紹介します。」
・くわしく調べてもらえる病院へ行って下さい。

〇前向き・アドバイス　８件
・聴覚障害があり、聞こえにくいこと。周囲の働きかけで力は伸ばしていけるという内容だった。
・言語聴覚士から補聴器の活用のアドバイスをもらった。
・早期療育が肝心なので早くに気づけて良かったですね。
・補聴器を早くつけることで言語の獲得ができる可能性もあると伝えられました。
・補聴器を付けて上手に話せるように頑張りましょうね。
・補聴器をつけて言語訓練で会話できるようになります。
・「手帳申請、補聴器、ろう学校教育相談等、手続きを進め、子どもにとって良い環境を早く整えましょう。」という前向きな声掛けだった。

・この聴力なら普通の子と同じ様に育ちますよ。大丈夫ですよ。

〇覚えていない　4件
・何を話したかほとんど覚えていない。
・覚えていない。
・そのほかも様々なことがあり、覚えていない。
・あまり覚えていません。

〇冷淡　3件
・ついでに私の身なりを見て、「そんな帽子をかぶっていたら大きな病院の先生はみてくれませんよ。」といわれた。悲しかったのを覚えています。
・学校や関連施設は自分で探してと言われた。
・詳しい説明はなく「聾学校や関連施設に行ったほうがいいですよ。自分で調べて見学に行ってみてください。」補聴器が必要なので両耳作ってください。（人工内耳は付けないレベルだったため）

〇責められた・嫌なことを言われた　3件
・なぜもっと早く気付かなかったのか。
・6歳までで聞こえが完成する。今までなんで気づかなかったのか。劣悪な家庭環境を変えなくてはならない。共働きは無理。退職して子どもに良い言語環境を整えないと話せなくなる。今すぐ決断しなさい。
・人工内耳のことを知りたくて聞いたら邪険そうにされた。その他いやなことを言われた。障害があったことより、医師の対応に大変傷ついた。

〇その他
・こちらから補聴器の装着をお願いした。
・兄がいるので分かっているね？
・両親が耳が不自由なので全然考えていなかったです。
・赤ちゃんの段階では正確なことがわからないので、どれぐらい聞こえているか全く聞こえていないのか、大きくならないとわからない。
・確定診断の前に近くの耳鼻科の先生より、未熟学児の検査はない。心配なら小児科の先生に相談しなさいと言われ、小児科の先生の紹介を受けた。

表３－１７．確定診断で障害を告げられた時の保護者の気持ち　※複数回答

	総数 (279名)	ろう学校在籍 (193名)	通常の学校在籍 (82名)
１．不安でどうしたらよいか分わからなかった	111名（39.8%）	71名（36.8%）	39名（47.5%）
２．信じられなかった	79名（28.3%）	49名（25.4%）	26名（31.7%）
３．やはり聴こえていないのかと思おもった	153名（54.8%）	101名（52.3%）	50名（61.0%）
４．人工内耳の話を聞かされてほっとした	12名（4.3%）	6名（3.1%）	6名（7.3%）
５．将来はどうなるのだろう	126名（45.2%）	84名（43.5%）	41名（50.0%）
６．どこに相談したらいいのだろう	71名（25.4%）	45名（23.3%）	24名（29.3%）
７．今、できることを教えてもらいたい	117名（41.9%）	69名（35.8%）	45名（54.9%）
８．療育（訓練）を少しでも早く始めたい	61名（21.9%）	33名（17.1%）	27名（32.9%）
９．その他	38名（13.6%）	30名（15.5%）	8名（9.8%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他の記述＞

〇気にしない　７件
・親が障害者のため。
・別にいい。両親とも同じやから。
・なんで残念？
・自分もろうなので気にしなかった。
・兄も聴覚障害であるので兄と同じ学校なので相談できるため気にしなかった。
・家族もそうなので気にも留めなかった。

〇混乱　５件
・頭が真っ白で何も考えられなかった。
・人工内耳を知らなかったため、治らない病気を持ってきてしまったと思った。（→その後、これで治るのか！と思った時期もあった）
・何も考えられなかった。
・「構音障害である」と言語療法でも言われたので混乱していた。取り返しのつかない失敗に絶望的な気持ちになった。頭が真っ白になった。自分を責めて苦悩した。
・この子の人生を左右する選択なのに簡単に説明されてどうしていいのか全く分からなくなった。手術をするのか？しないのか？葛藤が続いた。

〇不安　４件
・まさか聞こえていないとは思っていなかった。
・他にも知的障害があるので言葉が覚えられるか心配だった。
・どうやって教えていったらいいのかわからなかった（勉強やしつけ）。
・人工内耳の話をされたが、何が何だかわけがわからなかった。手術の話を聞いていても不安しかなかった。
・あいち小児保健医療総合センターで診断を受けたがデメリットの話は無しで人工内耳を勧められた。冷静な判断ができない状況、精神状態のときに１歳までに手術をしなくては意味がないような説明で決断を迫られてとてつもない不安に襲われた。この子の人生を左右する選択なのに簡単に説明されてどうしていいのか全く分からなくなった。手術をするのか？しないのか？葛藤が続いた。

〇前向き　３件
・できることをやり、一人で生きていけるようにがんばろう！
・すぐ学校に相談しよう。

・信じられなかったけど、前向きにろう学校へ行きました。

〇不愉快だった　２件

・人工内耳の話をしてほしくなかった。親まですすめられた！
・人工内耳を強引に進められて不愉快だった。補聴器では聞こえに限界がある。人工内耳をしたほうがお子さんの為です、と云われた。補聴器のみで十分と伝えてもなかなか理解してもらえなかった。

〇その他

・親が聴覚障害を持っているので、そんなに大きなショックはなかったが、やはり残念な気持ちはあった。
・現実にきこえがわるい人がいるのだから、悲しむ自分が、差別する自分が、情けなく嫌だった。
・どうして障害を持っているのか、原因が何だったのか、知りたかった。
・申し訳ない。
・やっとわかってもらえるのか、という思い。でも理解されるのはむずかしいことだと知りました。
・もっと早く診断してほしかった。
・発達の遅れもあり、自閉症と思っていた 11 ヶ月から療育に通い、近所の耳鼻科でも聞こえているといわれて信じてしまい 3 歳になっても発語がなくあいち小児を紹介してもらった。半年以上予約に待ったのでその間も苦しかったです。
・毎日泣きました。
・3 人一緒の通学大変だろうなあ。
・意思疎通がうまくいかなかった理由が分かってほっとした。
・診断はまちがいではないのかと思った。
・何で？私が悪かったのか。
・NICU の中だったので①生きること②動けることへの心配が大きく、「聞こえない」ことについてピントこなかった。

表３－１８．子どもの障害がわかってから障害を受け入れるのにかかった期間

	総数 (279名)	ろう学校在籍 (193名)	通常の学校在籍 (82名)
１．半年	122名（43.7%）	86名（44.6%）	35名（42.7%）
２．１年	30名（10.8%）	18名（9.3%）	12名（14.6%）
３．２～３年	29名（10.4%）	18名（9.3%）	11名（13.4%）
４．３～５年	15名（5.4%）	12名（6.2%）	３名（3.7%）
５．５～１０年	４名（1.4%）	４名（2.1%）	０名（0.0%）
６．１０年以上	３名（1.1%）	２名（1.0%）	１名（1.2%）
７．現在もまだ受け入れられない	12名（4.3%）	６名（3.1%）	５名（6.1%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜障害を受け入れられるようになった動機・きっかけ（自由記述）＞

○同じ障害のある子どもをもつ母親同士の交流　２６件

・お母さま方と出会って。
・療育にて同じ障害をかかえる子どもを育てている母親がいること。その母親たちと少しずつ会話ができて、前向きになれたこと。
・仲間に出会って、自分だけが大変なわけじゃないと感じたことが、大きな変化につながったのかもしれない。
・ろう学校の教育相談へ通うようになり、同じ障害を持つ親と知り合い、少し楽になり、前を向けるようになった。
・聾学校に通うようになり、同じ子を持つお母さん方と相談したり先生方と話をしていくうちに受け入れられるようになった。
・ろう学校の教育相談に行き、先生や同じ障害を持つお母さんと話、私も頑張ろうと思えた。
・同じ親の存在　当事者間での交流
・療育センターに通い始めて、先生や周囲のお母さま方と話をするようになって。前を向いて生活できるようになった。
・聾学校に通い先生や友達、先輩ママに支援を受けられた。聞こえない＝不幸ではない。
・聾学校に見学に行き、先生やほかのお母さんとお話をさせていただいたり、聾の大人の方を見た時に、将来的な不安が少しずつなくなっていった。
・聾学校の幼稚部に通って、いろいろなお母さんたちと接してから気持ちは楽になった。
・聾学校のママとのかかわり。完全には受け入れてないのかも。
・聾学校の幼稚部に通い始めた時、成人の聾者（ママ友）と話すうちに障害があっても幸せになれると思ったことがきっかけです
・先輩ママとの交流。
・同じ難聴児をもつママ友
・訓練に初めて聾学校に行ったとき、たくさん同じ障害を持った親子を見て自分だけじゃないと思って勇気づけられた。（先生もよい先生だったので）。
そして生後半年前後の時に聾学校を紹介してもらい、同じ障害を持つママたちと悩みや相談など話をすることによって気持ちがとても軽くなり、通うのも楽しく完全に受け入れられるようになりました。
・聾学校で同じ障害を持つ子供の保護者の方と知り合えて励まし合えたこと。
・ろう学校に行き同じ障害を持った親御さんたちと話をしたりして徐々に。
・ろう学校に通学していることで同じ障害を持つ母親の話を聞いたり、ろう学校の先生の話を聞いているうちに、徐々に受け入れられるようになってきたと感じる。
・聾学校の教育相談へ行き、同じ思いをして乗り越えようとしているママ友がいたこと。
・ろう学校の未満児クラスに通って同じ障害のお母さん達と話を聞いてもらったりアドバイスをもらったりして受け入れられるようになりました。
・教育相談で学校に通うようになり、ほかの家の人と相談できるようになったころから受け入れができるようになった。

・聾学校の教育相談に通うようになり、同じように耳の不自由な子の保護者、先輩ママにあって話が出来たこと。
・先輩ママからのアドバイスなど。
・まわりの人からアドバイスをもらいながら、同じ境遇の人たちがいるのだから、とじぶんも受け入れた。
・ろう学校の教育相談で同じ障がいを持つ子のお母さんと知り合えた事がきっかけでした。

〇家族に障害のある人がいること　２６件
・自分自身も聴覚障がい持ちなので、聞こえない立場、気持ちは理解できると思っていたし、障がい持ちであることよりも生まれてきてくれてありがとう、の気持ちのほうが強かった。
・自分も親もろうなので、不安がないから。がんばればやれるので、直ぐ受け入れた。
・保護者も障害者、兄弟も軽度難聴だったため。
・夫婦ともに耳が聞こえないので娘と手話で会話出来る日が楽しみだった。
・両親ともろうあ者だからじゃありませんか？
・姉がろう学校に通学していたから。
・私の家族（父、妻）は同じ聴覚障害なので、子は遺伝だったと思う。障害をうけ入れるようになりました。
・両親共にろうなので特に考えてなかった。自然なことだと思った。
・自分も同じ立場のデフファミリーだから。
・自分も主人もどの両親も同じだったので別に何とも思わなかった。
・私たち（両親）は聴こえないから。
・自分も聴こえないから特にきっかけとかはありません。大丈夫です。
・私も親も耳が聞こえないので（その家庭に育ちました。）最初から受け入れてました。
・親、自分たちが聾なので生まれる前から受け入れている。
・親もろうなので同じ立場にいるのでできることから始めようと思いました。
・両親とも耳が不自由なので、すんなり障害を受け入れられた。
・自分が聴覚障害のため。
・自分が聴覚障害だったのでそこまで不安はなかった。
・（母）自分が聴覚障害だったからすぐ受け入れた。父は健聴者のためショックは受けたが母がそうであった為、時間はかけたが受け入れられた。
・兄に聴覚障害があるので、すぐに受け入れた
・姉も聴覚障害なので、またか…と思い受け入れた。
・身近に聴覚障害の方がおり、普通に生活していたから。
・身内に障害者手帳を持っている者がいたため特別な事だという感覚がないため
・兄の自閉症があったので特に何もなく受け入れました。
・身内に身体障害者がいるためか環境や支援を整えれば生活できると思って悲観的な気持ちはあまりない。
・自分の親が身体障害者（下半身まひ）のためか環境は違うが必要な支援をすれば生活できると思った。

〇子どもの成長　２１件
・幼稚部に入っていろいろなことが出来るようになったこと。
・ろう学校に通うようになって（教育相談０さい１さい２さい）、子供が「うん」「ちがう」と反応できるようになった時です。言葉は出ていませんし、何のことかわかっていなかったかもしれませんが「これ食べる？」と聞いて、「うん」とうなずいたり、「ちがう」と顔を横に振ったり反応できるようになった時です。
・人工内耳を装用して、その効果が出始めて言葉を話し始めて精神的にほホッとしたから。
・人工内耳の手術を受け、音を少しでも認識できるようになったため。
・人工内耳の子供たちと接した時に、人工内耳の子ども同士で会話をしたり遊んでいる様子を見て安心したから。
・人工内耳手術をして手話獲得できてきた。
・人工内耳手術をうけて子どもの表情がとても明るくなり前向きになれた。
・1歳になる前に補聴器を付けることになり、補聴器をあまり嫌がることなく、音にも反応するようになって単語も少しずつ出るようになってきた。しかし、4歳前になってもあまり伸びを感じることがなく、人工内耳の手術をして、今では会話ができるようになってきている。本人も人工内耳がないと聞こえないということがわかっ

ている。
・補聴器を装用したのが生後６ヶ月。生後９ヶ月には唇を使った音「ブーブー」「マンマン」を発するようになり１歳の頃には「パパ」「ママ」「ねんね」など発語も始まりました。この頃からでしょうか、この子には補聴器がやっぱり必要でつけている方が反応が良いと感じられるようになりました。他人から補聴器を見られているという感情から息子の耳、補聴器は息子の大事な耳!!と思うようになったことが障害を受け入れたときだったのかもしれません。
・子どもと過ごすことに慣れてくる。
・子どもが笑っていたから。
・子どもが少しずつ成長し、笑顔を見せてくれ、表情豊かになってきて、受け入れられるようになったと思います。
・確定するまではいろいろな音を出して反応を見ていた。反応が悪かったのでその不安は大きくなると同時に「やっぱり聞こえていないのか、、、」と思うのがつらい日々で常に頭から「難聴」というのが離れなかったが、成長していくにつれて笑ったりする姿を見て、「ちゃんと成長しているな」とかわいさも増していき、徐々に受け入れられるようになった。
・子どもは日々成長していて、私が泣いていても仕方がないと思った。子どもがニコニコしてくれるので私も頑張らないとと思った。
・子供の成長とともに少しずつ受け入れられるようになっていった。
・少しずつ成長が見られたから。
・子どもががんばっている姿を見たので。
・頑張って言葉を習得している姿を見て。
・「早期教育が鍵！」という資料が多く、難聴についての知識を深めようとすればするほど、遅すぎた発見に胸が締め付けられました。私の胸の内を理解し励ましの言葉を伸ばしてくださったのは、聾学校の幼稚部の先生でした。お手本となるかかわり方を学び、家庭でできることを模索し、少しずつ変容する姿にやる気と可能性を信じる力を頂きました。
・本人はとても頑張っているので、その姿を見ていると私がクヨクヨしていてもいけないと思います。
・本人が楽しそうであったから。

〇前を向かなければと思ったから　１９件
・受け入れ、少しでも将来のために今できることをしていくしかないと感じたとき。とにかく、これからどうしたらいいのか、何をしていけばいいのかと前に向かわなければいけないなと思ったら。
・障害を早く受け止め直ぐに動いたほうが子どものためになると夫婦で話し合いました。
・わかった時期が遅かったため、すぐに訓練しなくてはという気持ちが強かったこと。
障害はすぐに受け入れました。とにかく今何をしたらよいのかという気持ちだった。
・受け入れないと前に進まない!!くよくよしてたら子どもがかわいそう。障害があっての子ども！否定したらダメ!!
・見つかったのが３歳半と少し遅かったので、迷っていたり悩んでいる時間はないと、言われたことを子供のためにやろうと決めた。体も大きく耳以外に障害はないのだから「人よりちょっと耳が聞こえにくい」だけと考えた。「かわいそう」と言われる子にしたくないと前向きにとらえた。
・特にきっかけがあるわけではなかったが、この子には、自分たちしか頼れる人がいないのだからやっていくしかないと思った。
・このまま何もしないよりこの子にできることは何なのかと考えるようになってきた時
・どんなに悩んでも状況は変わらないので、腹をくくるしかないと何度も言い聞かせて、ある意味開き直るようにしたら、考えすぎないようになった。
・自分がくよくよしていても仕方がないので、私が、この子の前を行かなければいけないと思いました。（学生時代の親友の子も同じで、以前(10年前)に聞いた事がありました。）たくさん泣きましたが、泣いた所でどうしようもない事に気づきました。
・受け入れないと前に進めない。子どものために何かしないといけない。泣いていても障害はなくならない!!でもとにかく泣いてすっきりした部分もある。
・言語聴覚士の先生と話をして、今できることを考えたときに、受け入れて前に進もうと思った。妹が生まれる時期と重なり、いろいろと考えるよりも出来ることをやろうと思えた。聴覚年齢としては０歳で赤ちゃんと同じ

だから、2人一緒に同じように話しかけようと思った。
・正直言えば、「受け入れられた」とは少し違うような気がする。とにかく今できること、やらなくではいけないことばかりずっと考えて行動してきた。
・娘が成長していくうえで自分たち親が、いつ何時手助けをしてあげられなくなるかもしれない・・と考えたとき、何かがあっても娘が一人でも生活していけるチカラを付けてあげなければ…と思ったときに前へ進む決意ができたのだと思います。
・やるしかない。うけいれるしかない。私がやらなければ誰がやる！？と思った。
・とりあえず我が子が苦労しないように、社会で生きるための力をつけるために、一緒に地道に歩んでいくうちに、障害をうけ入れるのではなく、一人の人間として生きる力をつけなければならないと思い、とりあえず一生懸命でした。
・子供がかわいかったから。一人でも生きていけるように育てることは健聴者でも障害者でも何も変わらないから子どもが出来て育てるという思いがあったから子どもをもうけたので何も変わらなかったから。ただ障害は誰のせいでもないと言われるし、わかっているけど、ふとしたきっかけで私がそんな風に生んでしまったからと思うことはある。
・色々な考えや思いが一周して最終的には産まれてきてくれた日の喜びや感謝の気持ちに行きつきどんな障害だとしても「この子はこの子に変わりない」という思いになり、それならば何をすれば良いのか、どんなことが必要かという前向きな気持ちになっていった。
・耳は聞こえないけど、身体は自由に動くし、目も見えるから落ち込んでいる場合ではない、やれることをやろうと思ったから。
・変えられない現実が目の前にある。私の人生も子供の人生も1度きりなら、受け入れた方が楽しい人生が送れると思えるようになったから。

〇障害があっても自分の子どもに変わりはないから　１７件
・障害があると分かった時に今までの子どもと何かが変わるわけではないと思っていたので割とすぐに受け入れられた。
・障害があっても自分の子どもには変わりないので、ありのままを受け入れようと思った。
・特にありません。障害があろうが無かろうが子どもは子ども。
・私の子供には違いないので、障害の有無は、子供をかわいいと思う気持ちに影響はなかった。不安や絶望感より、子供の存在が愛おしい気持ちの方が優っていた。
・具体的にはありません。子供に変わりはないので毎日一生懸命過ごしました。
・耳が悪いことはそれ以上でもそれ以下でもなく、それも含めて娘であることにかわりはないから。
・自分の子供はどんな障害があろうがかわいい。できるだけのことをしてあげたいと思った。
・受け入れられない親が逆にわかんなかった。我が子にかわりない。受け入れないor私（親）が泣けば、治るなら、そうするけども…生きているのだから、障害があろうがなかろうが、未来は誰にもわからないので。
・特に何かきっかけがあったわけではないと思う。とにかく毎日を回していくことに追われ、気が付けば、その生活が当たり前になっていただけ。もしかすると、今でもどこかで受け入れ切れていないところもあるのかもしれないけど、いろいろなことが毎日の繰り返しの中で当たり前になっていて普段あまり障害だからとか考えることがなくなっているように思う。でもそれは悪いことではないと思うし、きっと多くの人たちがそんな風に毎日を過ごしているのだと思う。生まれてきてくれたことがうれしいから、いろいろあるけど一緒にゆっくりやっていこうね、と今は割り切った気持ちでいられる。
・かわいいわが子のことは、そのまま受け入れるしかない。治らないのだから。
現状から、より良い生活の仕方を考えていくだけだと思った。
知った時が本当に小さな赤ちゃんで、ただただかわいさで受け入れた。
・自分の子供なので、受け入れるのは当たり前。
・受け入れる受け入れないではなく、それが私の娘なのです。
・なにもふつうです。自分も同じだし、みんななにかしらある。この子たちは耳だっただけ。
・現実を知った時から、きこえない事よりも、どうやって育てていけばいいのか、自分が何をしていけばよいのかとばかり考えていたので、障がいをうけ入れる・受け入れられないどころではなかった気がします。この子はこの子なので、障がいも含めてわが子でした。今も同じ障害の人の話をたくさん聞く。
・自分の子どもという気持ち

・大切な子供に変わりはなく、むしろ聴覚に障害をもって生まれてきたことを家族が理解しようとせず、受け入れられない。そのこと自体が本人に申し訳なさすぎるので、ただ、ありのままの本人を大切に家族にできることを一生懸命、一緒にやりたいと思っている。
・障害があったとしても何も変わらないと思っていたから、先に死産を経験し、又、仮死出産の経験もあることから、生きることの大切さを知っているから。

○割り切る気持ちから　１５件
・それしかないから。
・あきらめ
・しかたがない。ひらきなおり。なおらないのだからうけいれるしかない。
・目の前の我が子の障害はもうどうにもならないので、理由探しもやめた。
・悩んでも聞こえるようにはなるわけではない。
・悩んでもしかたない。
・仕方がない。受け入れるしかない。教育で何とかできるのか。
・はっきり言ってしまうと、あきらめ、つかれた、なのかもしれません。ただ、幼少より続けているスポーツを継続してやっていて、そのスポーツで上を目指したいという思いが強くなりました。今でも宿った時に飲んだ薬が悪かったのか…と自分を責めている部分はあります。
・受け入れるというより、認めるしかない。
・考えてもしかたがない。
・初めての子で、私も主人もろう者ではなかったので何故？どうして？という気持ちでしたが、「これは現実だ！仕方ない！」と自分自身に言い聞かせてからは「これから何をすれば良いのか」など自分なりに調べたり、市の方に聞いたりしてからは自分も少し楽になった。
・耳のこと以外には何もなかったので、個性としてわりきった。難聴について何もわかっていなかったので、これからどうしたらいいのか？とは考えたりはしていたけど、障害として考えたりはしなかった。
・個性と考えたため。
・受け入れているのかいないのか、正直分かりません。子供の個性として、ただ不自由な個性のため、ほかの子よりも心配に感じることが多いです。
・障害をもって生まれてきたのだから、その子と一緒に自分も頑張ろうと思った。
・障害がわかってショックを受けたし、これからどうしたらよいのか大きな不安があったが、昨日までと何も変わらない我が子の顔を見ていたら、「障害がわかってこの子にとってはよかったな」と思えるようになった。

○同じ障害を持つ子どもとの出会い　１４件
・同じ聴覚障害を持った子供たちに出会って。
・すぎのこ学園に通うようになって同じ聴覚障害の子たちと接することで徐々に。
・聾学校に娘と一緒に通い、娘以外にも耳の障害がある子を知った。
・ろう学校へ行き、他のろう学校の友人などと触れ合っていくうちに。
・他のお子さんを見て。
・息子（難聴）と同じ障害レベルの子供や成人のブログを見たこと。
・ろう者（大人）との出会い。
・ろう学校へ入学してろうの方々と接することでろうの方々が楽しそうに生活する姿を見て不安が消えました。まだまだ悩んだりはするけれどきちんと受け入れられました。それまでは気分が上がったり下がったり自分を責めてみたりすることがありました。今はありません。
・同じように聞こえない人(大人、自分の子より年上)に出会って色々な話をした時。
・同じ障害を持つ子や、そのご家族との出会い。
・聾学校の幼児教育を受けに行き、いろいろな障害を持った子どもたちと触れ合うことによって少しずつ受け入れられたと思う。
・診断を受けた施設で、人工内耳を付けた子がお母さんと楽しそうにおしゃべりをしている姿を見て、娘もこんな風になれるのかな？と希望がもてた。
・元気に過ごしている聾者がいる。ハイテクが進んでいる。人工内耳で過ごす人がいる。
・病院で小学生くらいの聴覚障害児がその子の母親らしき人と普通に会話をしているのを見て早く療育を始めれ

ば普通に会話ができるようになるかもしれないと思ったから。

〇家族の協力　１０件

・家族の前向きな言動と励まし。
・受け入れない事には何も始まらないと思ったから。家族みんなで支えあう話し合いができたから。
・両親や声をかけてくれた人に無反応の我が子を見ると申し訳ないのと悲しいので心がざわついたが、まわりの人が本当にかわいがってくれて「みんなで育てていこうね」と言ってくれ手心からこの子を産んでよかった、私は幸せ者だと思えるまで声をかけ、いちばん支えてくれた母の言葉によって、しっかり育てようと思えた。
・ほかの家族（主人、兄弟(子ども)）、友人等の支えがあったから。
・周囲のサポート体制と家族・親族の理解と援助を受けて相談できる環境にいたため。今まで障害を持った人が周りにいなかったので、障がいの世界を身近に感じて新しい人生が始まりました。
・祖母が全面的に力になってそばにいてくれた。
・何より一番大切なのは夫婦で協力していけたからだと思う。そして、両方の両親も理解があったこと。
・上に３人子どもがいた為、いろいろ迷惑をかけてしまうと思い、上の３人に申し訳なく思い、心が痛かった。でも、そんな心配ではなくなったのが、上３人とも、とてもかわいがってくれて、たくさんめんどうも見てくれているので、子供達のお陰で不安はうすれた。その為、どうどうと育てるようになった。
・義父母が、前向きに受け止め、将来この子が困らないように不幸と思われないようにサポートを全力ですると言ってくれたこと(実の親の方が受け入れが遅く、マイナス面ばかりに目を向けていた)。
・実母から子供の個性として受け入れようといわれた。診断を受けた時に言われた。

〇障害に対する知識の増加　１０件

・人工内耳で聞こえるようになると知ったから。
・聴覚障害に関する本を読み漁り、将来への不安が薄れた。
・知人を通して知った手話サークルに参加することで、いろいろな情報を知った。
・友達に話をしていて、市の養成講座（手話スタート編）で手話を初めて知り、声以外でコミュニケーションをとれることを知った。自分の子以外で同じ病気の人がいて、いろいろお話を聞きました。
・耳が不自由でも普通に生活していることが分かったことが一番大きいです。
・聾学校の先生や病院のSTにいろいろ教えてもらったこと。
・人工内耳の手術をすれば、かなり聞こえていることが分かったこと。
・聞こえることがわかった。
・インターネットで先(将来のこと)を調べ、不幸ではないと分かったこと。
・聴覚障害というと全く聴こえなくて話も出来ないと言う大人の人としか対面した事が無かったので話せる人もいるとか、きこえのレベルも様々だとか言うことを知ってからは希望が持てるようになったと思います。

〇意思疎通が取れるようになったから　８件

・人工内耳をして少しずつ子どもと意思疎通ができるようになったこと。
・会話ができるようになったとき。
・はじめは左側は聞こえていなくても右側は少しきこえていたため、人工内耳の適用外だったけど、3才すぎて聴力低下し、人工内耳適用に。人工内耳を装用してからの経過が思ったより順調で、口話でのやりとりがうまくできるようになったので、何とかなると思えたから。
・聴覚の他の障害（呼吸器）もあり、コミュニケーションが取れるのであれば手話でも何でもよかったし、本人が（娘が）すぐに手話の話しかけに反応したので安心した。
・聴覚だけでなく、目が合いにくくコミュニケーションが取りづらかったのがろう学校で絵カードや手話や字、発声の練習を教えてもらい、母とのコミュニケーション（ろう学校で「けいどろ楽しかった。」）と手話で表現できるようになり、成長が見られること。
・声をかけても反応をしてくれないという不安が大きかったので、どうやったらこのこと意思疎通が取れるのかを療育センターの方が教えてくれたので、受け入れるまでに時間はかからなかった。
・手話（指文字）を取り入れたことでほとんど知らなかった言葉も一気に増えて、意思疎通が図れるようになった時、暗かった性格も明るく変化してきたのを感じて、手話でのコミュニケーションが子供にあっているのだとわかった時。

・聾学校では手話を使って授業をしていたが、母親である私はなかなか手話を使う気になれなかった。ある時、私も手話を子どもたちに使ってみたら通じた。この時やはり口話だけでは通じにくいと感じ、それからは積極的に手話を覚え、私も使うようになった。この頃、やっと障害を受け入れられるようになったのだと思う。聞こえないお母さま方ともコミュニケーションをとるようになり、聴覚障害に関する本もたくさん読むようになりました。

○相談できる場があったから　8件

・病院やろう学校へ早期から関わってきました。疑問や不安を聞いて頂きました。
・相談できる場があったことで。
・療育（相談）施設の存在→専門家への相談
・生後３か月より難聴児療育施設に通い、先生方にとてもよくしていただき、不安など聞いていただいたうえで、できることを教えてもらい徐々に受け入れていった。
・ろう学校の教育相談の存在を病院で聞き、相談に行ってから少しずつ心がおちついた。
・聾学校の相談員さんとの会話で少しずつ他の子と同じに合わせなくてよいことなどその子に合った進め方がある事など気持ちが落ちついた。
・自分で調べれることは調べ、相談（教育相談・医療相談等）出来る方も話を聞いて下さったので気持ちは常に前向きだった。あまり悲観的な気持ちになったことはない。
・ろう学校の乳幼児相談や耳鼻科のSTで先生方と話をしていくうちに少しずつ受け入れられたように思っている。

○周りのサポートがあったから　7件

・周りに(仕事の関係で)難聴に詳しい人が沢山いた。支えてくれた。
・たくさんの方に相談、助言をいただき常に前向き。
・きっと周りで頑張っているほかのお友達やお母さんたちがいて、お互い悩みとか話せるから。ひとりぼっちだったらきっと沈んだ気持ちのままだったと思う。
・一番は周りの人たちの支えが大きかった!!これが一番です。
・退職を上司に申し出、準備している際にかかわった人々から「御子さんの幸せが一番なので、一緒に幸せな道を歩んでください。全力で尽くしてあげてくださいね。」と声をかけられました。混乱と、言語療法や診察時のダメだしに心が折れましたが、「ここからがスタート」という気持ちになれたのも、かかわってくれた人からの温かい言葉がけでした。
・祖父、祖母、家族が普段から協力してくれたから。
・悩みごとを理解しようとしてくれる人がいることを知ったから。

○専門家からの言葉　7件

・診断をしてくださった先生から「人工内耳をしたら話せるようになりますよ。」「大丈夫ですよ。」と言っていただいて心が軽くなった。
・里帰り出産だったため、あいち小児センターで確定診断を受けたが、その後当時の自宅があった静岡県浜松市の病院へ転院し、浜松ろう学校の教育相談へ通いだしました。浜松での環境が気持ちを変えてくれたんだと思います。病院の言語聴覚士さんと耳鼻科の医師とろう学校の先生との連携がしっかり取れていて安心感がありました。愛知県の病院では〝人工内耳〟を早期に…と言われたことを相談したときに浜松の三人の先生方は「手術をしなくても補聴器で十分、この聴力なら大丈夫!!」「早く補聴器をつけて音を聞かせて丁寧にやっていけば話せるようになりますよ」人工内耳のデメリットなども詳しく説明してくださって自分たちは浜松の先生方を信じてやっていく決断をしました!!先生方にアドバイスを頂き励まされて行く中で少しずつですが不安が取り除かれていったように思います。
・教育相談に行ったときに話をきいて。
・医師からの確定診断の結果の説明がわかりやすかった。
・健聴児で生活し、おたふく風邪によるムンプスが原因で両耳が難聴になりました。当初はショックで不安で将来はどうなってしまうのだろうと悲観的になっていました。人工内耳の話を病院の先生に伺い、もしかしたらまた聞こえるようになるかもしれないと知ったときに少し希望が見えました。ムンプス難聴は治療で治すことはできないのか？とか人工内耳を手術した場合のメリットやデメリット、今後の子供の将来を考え、その当時思いつ

くあらゆる疑問や質問について病院の先生が１つ１つ丁寧に回答をしてくれて親である私たちが納得できたことで、障害を受け入れることができたと思います。
・病院の先生が補聴器の必要性や言語訓練の必要性についてきちんと説明してくれたこと。
・病院で検査を何度もして、現在の聴力だと補聴器を装着しなくてはいけないと医師から言われたとき。

○以前から気づいていたから　７件
・言葉を話す年齢になっても、年齢相応の言葉が出ず、同年齢(聞こえる子)とは違うと分かった時。
・超低体重出生児だったため障害は最初から覚悟していた。
・子どもの様子から、聞こえにくいという障害がとても納得いったこと。・前からうすうす気づいていた。
・聴覚障害と言われる前から、保育園の園長先生などと話をしていて、「もしかして…」というのはあったため、「聴覚障害」と言っていただけて納得した。
・耳の障害に関しては確定診断前から何となく聞こえていない気もしたし、手話などでコミュニケーション取れればよいと思ったので、受け入れはすんなりできた。
・言葉の発達が遅いのでは？と思っていたこと→耳を疑っていた。
・２歳５ヶ月まで普通の子だと思って育ててきたから、耳がきこえないと言われてもその子に対する愛情や育て方は変わらないとすぐに思えたから。生後１ヶ月頃から難聴かもしれないと思う自分と聞こえてるようだ大丈夫と思う自分がいた。生後３ヶ月の定期検診のときに「聞こえてない気がする」と相談し、病院で検査を依頼。OAE 検査（検査名は後日２歳４ヶ月のときに知る）のみで（産科で新生児聴覚スクリーニングをやってなかったため。）「聞こえてます。大丈夫です。」と言われ、安心して帰宅した。（今思えば「ABR という検査がまだあります。疑わしいときはまた来てください。」と言ってほしかった。その後も疑わしく思う自分と大丈夫と思う自分がいた。１歳６ヶ月検診のとき言葉の遅れでひっかかったが誰も耳の聞こえを疑う人は周りにいなかった。１歳９ヶ月のときろう学校の教育相談に行った。言葉の遅れと耳の聞こえで相談に行ったが「人の声に反応してるよ」という先生たちの見解とさらにその場で行った聴検でも 50dB はあるという判断で耳の聞こえの悪さは疑われなかった。また、会話の中で OAE 検査のことを ABR と先生が判断されやり残している検査があることも知らされなかった。その後、すっきりしないまま普通に生活を送る。２歳１ヶ月のときに弟が生まれ授乳中に簡単な指示（ドア閉めて、○○取って）を口だけでしたところ動けない我が子を見てそこで初めて「聞こえてない！」と確信を持った目で見ることができ、ちょうど弟の聴覚スクリーニングをしに病院に行ったときに上の子（本人）の「耳がきこえていないと思う。ここで１度検査しているが…」と相談したところ「OAE だけでは判断できない。ABR をやりましょう。連れてきて下さい。」と言われた２歳４ヶ月の頃再度病院を受診。ABR を２歳５ヶ月の頃やり「聞こえてません」と診断された。診断されたときは「難聴」であることが揺るがないからショックではあったがずっともやもやしていたからすっきりしたところもあった。何より「聞こえてません。」と言われてもいつも通り笑顔で過ごす息子と変わらず話しかける主人に２歳５ヶ月までずっと聞こえてるものと思って育ててきた気持ちがあったから聞こえていないだけとすぐに受け止めることができた。

○聞こえないことがわかってすぐ　６件
・耳が不自由なだけでイコール不幸とは思わなかったので、自分の子は聴覚障害児ということは比較的簡単に受け入れられた。
・障害が悪いこととは思ってなかったので受け入れることはできました。しかし、自分たちと障害のある人との違いは日々感じていきます。こんなことさえ自分は分かっていなかったんだと日々痛感します。
・受け入れることにあまり抵抗はありませんでした。
・すぐ。保育園でうしろから鈴を鳴らしても振り向かなかったのがうちの子だけだった。先生が実際に園でやってくれた
・話を聞いてすぐに受け入れられた。動機・きっかけなどはないです。
・ミルクが上手く飲めない間は生きることへの心配があり、離乳食を食べるようになって生きていくことへの不安がなくなり、立ったり歩いたりできるかどうかへの心配に移行。２年９か月で歩けるようになり、聞こえないことへの心配に移行。しかし、その間、どんな大きな音にも反応がなかったので、発達に心配のある子供の聞こえの障害は受け入れた上、どんなことをしたらよいかを考え行動を起こす必要があった。１才頃には手話を導入した。

○人工内耳や補聴器装用を決めたから　6件

・補聴器をつけてから。

・2 才すぎまで現実を理解しなきゃいけないと思っているけど、気持ちがついて行けませんでした。補聴器を使用しても効果が出ず、人工内耳を手術をしようと決めたときから、受け入れる気持ちがでてきました。前向きになれました。

・ろう学校の教育相談・リハビリの先生が子供に笑顔で接してくれ、悩み（私の）も聞いてもらえたから。

・聾学校の先生や聾学校の先輩お母さんたちからいろいろ聞いて、親として自信が付きました。相談できる人とかアドバイスがもらえるところがあると安心です。

・人工内耳の話しを聞く事になってから

・人工内耳の手術をして必ず話せるようになるのかはわからないし、頭に埋め込むことにも不安があったが、今は人工内耳をしてよかったと思える。

○他の障害がなかったから　6件

・普通に動けるし、健康だし、自分ではたいしたことではないと思った。

・大きな病院に行っていろいろな病をかかえている子達を見て、耳が聞こえない事だけで悩むのが恥ずかしくなった。

・全く聞こえていないわけではなかったし、他に何も障害がなく生活ができること。

・最初はショックであったが、世の中にはもっといろいろな人がいるし障害もある。体が動かせて笑えて、それだけでも幸せだと思った。

・耳が聞こえないだけで後は普通に生活できる。そんなに気にするほどでもない。不便があるけど不幸だと思ってない。

・聴覚障害より、もっと重い障害はあるので子供や自分を憐れむ事をしない様にした。

○診断がおりたから　4件

・もともと言葉が遅く、不安があったので、"難聴"という原因がはっきりしてすっきりした。

・15 歳まで中度難聴で手帳もなく、でも補聴器が両耳ないと生活は不便で、自費で高い補聴器も買い、なんで？という気持ちが強かったです。ちゅうぶらりんの状態でものすごくつらかったです。なんで、健聴者として生活していかなきゃいけないの？という気持ちでした。現在 2 種 6 級の手帳を取得し、障害者を受け入れられたので私（母）、本人も安心してます。

・診断

・年少児の頃から、聞こえてないのではないか？と疑いはありましたが、通っていた病院では「きこえている」という判断でした。今まで「ちゃんと聞きなさい！」と厳しくいったことも多く、聞こえていないという診断で、子供に対して接し方も変わり、必要以上に怒らなくなった点では、診断してもらい良かったと感じています。

○聾学校に通うようになったから　4件

・聾学校の早期教育相談に通うようになったこと。

・聾学校という場所に通って安心した自分がどこかにいた。ここで社会に出てける人に育ってほしいという気持ちで前向きになれた。

・ろう学校での参観を通してどうやって接するか早期教育の手法や考えさせる教育法を学び、子どもも母自身も今やるべきことがあり教育が大事なのだと先生方から日々教えてもらいろう学校に通う他のお母さん方の笑顔に少しずつ元気をもらっています。

・聾学校入学より、本人の活き活きした姿が、10 年ぶりに見られたことで、将来がやっとだいじょうぶ（生きていける）と思いました。

○見通しがもてたから　4件

・原因がわかったことで、これからこの子の為にしてやれることが明確になり、もやもやとした状態から抜け出せると思った。

・なんとなく先を見通せるようになったから。

・最初は左 20dB 右 90dB、左が聞こえていたので反応があり聴覚障害としての働きかけはなかったが前庭水管拡

症という病気があり２歳ごろ頭を打ったはずみで突発性難聴のように突然反応がなくなった。この病気は子どもには珍しいとの事で、突然反応がなくなったと言い色々な病院に行ったが診断してもらえず、確かに今まで左は聴こえていたのに…突然こんな風になってしまいどうしてよいのか分からず、この時が一番辛かった。次に行った病院でやっと診断してもらい左耳は結局聴力が下がってしまったが補聴器をはめれば聴こえること、聾学校を紹介してもらい同じ境遇の仲間と出会えたことで先の見通しが立ち受け入れるようになりました。
・とにかく先が見えないので先の事がわかると受け入れて前に進めると思います。

○障害児との関わる経験があったから　４件
・主人が学生の時に教育実習でろう学校に行っていたことがあり、そこで「人工内耳をした子ども達が普通に話していた」と話していたので、妊娠中に思い描いていた子育てができるのかな？と思えた。
・両親ともに障害児にかかわる仕事をしている為、いろいろな障害に対して知識を持っていたから。
・生まれてすぐダウン症に気づき、その後聴覚に問題があると言われた。ダウン症の子には慣れていた。自分が保育園に通っていた頃、クラスにダウンの子がいて、私が時々めんどうを見ていたから。
・夫婦共、福祉関係で働いていたこと。

○障害の困難さに気付いたから　４件
・補聴器の効果が得られないほどの難聴なら早く次の手段を講じなければと思ったため。
・時間がたち、補聴器生活で聴こえに不便を感じるようになっていったこと
・幼稚部年長の時、人工内耳のみでの言語習得に限界を感じ、できることは全部やりつくしたと思って手話を取り入れる決断をした時。
・携帯、イヤフォンを右耳のほうで聞かせたら「こっちは聞こえない」と言われた。

○他の障害があったから　３件
・今できることがあるとわかったとき、耳以外のことのほうが当時は大変でしたので、耳のことは後回しでした。
・嚥下障害で胃ろうがあったり、視力が弱いことや体の運動機能面でも遅れがある状態だったので、耳のことも受け入れざるを得なかったから。
・片耳は聴こえていることや他に体のまひもあったのに加え妹も聴力障害が分かったので悩む暇はなかった。

○その他
・大府の小児センターでもいろいろと刺激を受けた。
・すぐに医療機関・福祉施設を紹介してもらえたのもきっかけの一つです。
・ちょうど年少になる前で対処しやすかったこと。
・病院へ治療に行くたびに、終わらず、次回次回と治療を続ける中でだんだん受け入れていったと思う。
・手話通訳士との出会い。
・覚えていない。
・聴覚に違和感を感じて一歳半ぐらいから様々な耳鼻科を受診し、検査をお願いしましたが、なかなか実施していただけず、子供の言葉が日増しに減っていくことに焦りばかり感じていました。ですので、確定診断で障害がわかったときは、スタートラインにようやく立てたという気持ちで、遅れてしまった療育をどうやって取り戻し、健聴児の成長に追いついていこうかと、様々な情報収集に取り組んだ気がします。我が家は特にきっかけがあって…ということはなかったかと思います。
・始めて聞こえないといわれ、何が原因か知りたいと思っても、ドクターは原因を調べても仕方ないと、何か病気の時の薬かもと思ったため、かかった病院に聞いて回ったときに言われた。どの親も、なぜ？どうして？遺伝子？（遺伝子検査はお金がかかるし時間もかかるといわれて断念）と思いますよね。調べても無駄といわれることが１番つらかった。小児病院での扱いが、人工内耳をしつこく言われてやらないと言ってから粗雑になり、かなりショックを受けた。人工内耳が１番大切なのか？？？と怒りがわいた。ＳＴも、この子は「あり」の絵を見せても、「あり」といえないから発音は無理、手話で行くしかない。だから訓練はやれないといわれたが、耳鼻科の先生が小学校に上がるまでは通った方がいいといわれたので頑張って通った。小児病院での扱いが今でも心の傷として深く残っています。
・やはり聞こえていれば友達ともっと楽しいことができるのに…と子どもをかわいそうに思ってしまう自分もい

ます。どこまでが受け入れかわかりませんが、医療が発達し、難聴が治ったり、社会全体が難聴児についての理解があるといいなと思います。
・おおむね受け入れていますが、進路を決める時期は迷います。そして悩みます。受け入れたり、受け入れられなかったり、波があり、簡単に、いつ、受け入れられましたかという質問は、むずかしいです。障害のある子供の事は、産まれて、2年ほどで障害のことを受け入れていますし、産まれた瞬間から、かわいいと思っていますが、まわりの合理的配慮のなさや、進路の時の情報の少なさなど受け入れていても、環境的なもので、苦しくなります。障害のある子供でも、この社会でやっていけるという確信が持てていたら、もっと早く受け入れられ、悩まないと思います。
・母自身も生きづらさがあり子どもとのかかわりに不器用で言葉も上手に選べなかったり、予定の優先順位がわからなかったりがある。
・難聴になった原因を調べるためにいろいろ検査をして治療ができないか考えた。結果、治療法はなく脳が細菌に侵されたために聴力低下という形に影響が出たとのこと。では、今ある聴力を低下させないように、とクラブ活動も大きな音がする部活を避けたりした。原因が分かって徐々に受け入れられるようになったと思う。
・道行く方にかわいそうだねと言われたがうちの子はかわいそうな子でなんかないと思った時。
・手話サークル

表３－１９．主に受けた相談支援・療育－０～３歳代－　※複数回答

	総数 (279名)	ろう学校在籍 (193名)	通常の学校在籍 (82名)
1．ろう（聴覚特別支援）学校　早期相談部（乳幼児教育相談）	191名（68.5%）	150名（77.7%）	39名（47.6%）
2．福祉型児童発達支援センター	53名（19.0%）	32名（16.6%）	21名（25.6%）
3．病院（言語聴覚士、相談員等）	126名（45.2%）	82名（42.5%）	42名（51.2%）
4．その他	15名（5.4%）	12名（6.2%）	3名（3.7%）
5．受けていない	19名（6.8%）	6名（3.1%）	12名（14.6%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他の記述＞　８件

・保育園　・障害のある子用の保育園　・母子通園施設　・１歳～3歳まで地域の障害児教室
・ひかりっこ　・市の役員
・三重に住んでいたため、紹介された児童相談所、聴覚特別支援室のようなところ。
・ろう学校の情報がなかった病院ではおしえてくれなかった。

＜受けていない理由＞　１９件

・病院では様子を見てと放置。保健所の健診でも様子をみましょうとのこと。
・聞こえていた。（保育園から指摘があるまで）　・異常がなかったから。　・診断されていない。
・乳幼児健診でも問題とされなかった。　・まだ判明していなかった。
・聾とわかったのが遅かった。　・聴覚障害がわからなかったから。　・難聴に気づいていなかった。
・聴こえてないとは思っていなかった。　・両親とも仕事を持つため。
・言葉が遅いのは発達障害という理由で言語療法は受けていた。

表３－２０．主に受けた相談支援・療育－４～６歳代－　※複数回答

	総数 (279名)	ろう学校在籍 (193名)	通常の学校在籍 (82名)
1．ろう（聴覚特別支援）学校　幼稚部	199名（71.3%）	159名（82.4%）	38名（46.3%）
2．福祉型児童発達支援センター（難聴幼児通園施設）	28名（10.0%）	11名（5.7%）	17名（20.7%）
3．保育園	55名（19.7%）	33名（17.1%）	22名（26.8%）
4．幼稚園	26名（9.3%）	10名（5.2%）	16名（19.5%）
5．その他	40名（14.3%）	24名（12.4%）	15名（18.3%）
6．受けていない	5名（1.8%）	1名（0.5%）	4名（4.9%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他の記述＞　９件

・地域療育センター　・福祉型児童発達センター　・病院（言語訓練）　・きこえとことばの教室
・ろう学校教育相談　・ろう学校通級　・託児所　・母子通園施設　・肢体不自由児通園施設

＜受けていない理由＞（自由記述）５件

・聞こえていたからです。　・必要ないと言われた　・一般の子と同じ生活をしていた。

表３－２１．主に受けた相談支援・療育－７～１２歳代－　※複数回答

	総数 (279名)	ろう学校在籍 (193名)	通常の学校在籍 (82名)
１．ろう（聴覚特別支援）学校　幼稚部	138名（49.5%）	131名（67.9%）	６名（7.3%）
２．特別支援（難聴）学級	39名（14.0%）	８名（4.1%）	30名（36.6%）
３．通級指導教室（きこえとことばの教室）	39名（14.0%）	13名（6.7%）	26名（31.7%）
４．通常の学級（普通クラス）	43名（15.4%）	19名（9,8%）	24名（29.3%）
５．特別支援学校（知的障害・肢体不自由等）	３名（1.1%）	１名（0.5%）	２名（2.4%）
６．その他	９名（3.2%）	４名（2.1%）	５名（6.1%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他の記述＞　２件

・病院（言語訓練）　　・言語聴覚士のいる教育機関

表３－２２．主に受けた相談支援・療育－１３～１５歳代－　※複数回答

	総数 (279名)	ろう学校在籍 (193名)	通常の学校在籍 (82名)
１．ろう（聴覚特別支援）学校　幼稚部	61名（21.9%）	57名（29.5%）	４名（4.9%）
２．特別支援（難聴）学級	16名（5.7%）	１名（0.5%）	15名（18.3%）
３．通級指導教室（きこえとことばの教室）	９名（3.2%）	３名（1.6%）	６名（7.3%）
４．通常の学級（普通クラス）	19名（6.8%）	６名（3.1%）	13名（15.9%）
５．特別支援学校（知的障害・肢体不自由等）	１名（0.4%）	１名（0.5%）	０名（0.0%）
６．その他	３名（1.1%）	１名（0.5%）	２名（2.4%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他の記述＞　１件

・病院（言語訓練）

表３－２３．主に受けた相談支援・療育－１６～１８歳代－　※複数回答

	総数 (279名)	ろう学校在籍 (193名)	通常の学校在籍 (82名)
１．ろう（聴覚特別支援）学校　幼稚部	36名（12.9%）	36名（18.7%）	０名（0.0%）
２．特別支援（難聴）学級	２名（0.7%）	１名（0.5%）	１名（1.2%）
３．通常の学級（普通クラス）	７名（2.5%）	１名（0.5%）	６名（7.3%）
４．特別支援学校（知的障害・肢体不自由等）	０名（0.0%）	０名（0.0%）	０名（0.0%）
５．その他	３名（1.1%）	１名（0.5%）	２名（2.4%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他の記述＞　１件

・言語聴覚士のいる教育機関

表３－２４．子どもの各年代で、特に気になったことや心配事だったこと（279名）　※複数回答

心配ごと	0～3歳代 乳幼児教育相談 人数（%）	4～6歳代 保育園・幼稚園 人数（%）	7～12歳 小学校 人数（%）	13～15歳 中学校 人数（%）	16～18歳 高校 人数（%）
1．友達との人間関係	53名（19.0%）	**150名（53.8%）**	**136名（48.7%）**	**65名（23.3%）**	**39名（14.0%）**
2．コミュニケーション	**129名（46.2%）**	**173名（62.0%）**	**129名（46.2%）**	**69名（24.7%）**	33名（11.8%）
3．学習面の遅れ	29名（10.4%）	74名（26.5%）	**120名（43.0%）**	17名（6.1%）	30名（10.8%）
4．発達の遅れ	**118名（42.3%）**	**107名（38.4%）**	57名（20.4%）	16名（5.7%）	7名（2.5%）
5．生活リズム	34名（12.2%）	32名（11.5%）	25名（9.0%）	26名（9.3%）	10名（3.6%）
6．態度（イライラ、すぐキレる、暴力等）	12名（4.3%）	22名（7.9%）	33名（11.8%）	32名（11.5%）	9名（3.2%）
7．不登校	1名（0.4%）	2名（0.7%）	2名（0.7%）	8名（2.9%）	3名（1.1%）
8．ひきこもり	1名（0.4%）	1名（0.4%）	2名（0.7%）	5名（1.8%）	2名（0.7%）
9．子育て費用の不足	10名（3.6%）	11名（3.9%）	12名（4.3%）	12名（4.3%）	5名（1.8%）
10．子どもの病気	40名（14.3%）	31名（11.1%）	15名（5.4%）	10名（3.6%）	4名（1.4%）
11．きこえの障害	**95名（34.1%）**	82名（29.4%）	66名（23.7%）	29名（10.4%）	17名（6.1%）
12．重複する障害	31名（11.1%）	40名（14.3%）	36名（12.9%）	14名（5.0%）	6名（2.2%）
13．子どもの進路	39名（14.0%）	81名（29.0%）	101名（36.2%）	**65名（23.3%）**	**50名（17.9%）**
14．子どもの将来	65名（23.3%）	71名（25.4%）	96名（34.4%）	56名（20.1%）	**46名（16.5%）**
15．周囲の無理解	38名（13.6%）	41名（14.7%）	35名（12.5%）	15名（5.4%）	12名（4.3%）
16．その他	5名（1.8%）	3名（1.1%）	2名（0.7%）	1名（0.4%）	1名（0.4%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞０～３歳代　乳幼児教育相談　５件

・偏食　　・補聴器の使い慣らし　　・平衡感覚（ふらつき）　　・病院の選択、判断について

＜その他＞４～６歳代　保育園・幼稚園　３件

・周囲の理解　　・生活言語を繰り返し覚えさせる　　・平衡感覚（ふらつき）

＜その他＞７～１２歳　小学校　２件

・小学校は毎年担任が変わるので担任の理解が無いと本人も親も一年間とても辛い思いをします。（担任でクラスの雰囲気が決まるので）普通級の先生とは言え教師なら偏見の目で見ることだけは無いように学校側で指導して欲しかった。

＜その他＞１３～１５歳　中学校　１件

・中学校は人数が多いので今から悩んでいます。４つの小学校が集まるので、いろいろ考えてしまいます。

＜その他＞１６～１８歳　高校　１件

・きこえの配慮・支援

＜その他＞　就労　１件

・手帳がないため就職に非常に不利である。

＜その他＞　その他　２件

・子どもの老後の生活、子供の結婚

・手帳を持っていないことで、聾学校以外で情報を得るのが難しくサービスがあったとしても利用できない。

表３－２５．保護者の子育ての悩み　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．仕事の両立	81名（29.0%）	57名（29.5%）	22名（26.8%）
２．障害のある子に手がとられて兄弟に関われない	68名（24.4%）	46名（23.8%）	21名（25.6%）
３．他の兄弟の理解、関係	64名（22.9%）	48名（24.9%）	15名（18.3%）
４．学校の選択や進路が子どもに合っているか不安	125名（44.8%）	79名（40.9%）	44名（53.7%）
５．育てる自信がない	15名（5.4%）	７名（3.6%）	６名（7.3%）
６．子どもを愛せない、かわいいと思えない	６名（2.2%）	４名（2.1%）	１名（1.2%）
７．病気（伝染病・アレルギー）等の知識がない	７名（2.5%）	６名（3.1%）	１名（1.2%）
８．夫とまたは妻にもっと協力して欲しい	59名（21.1%）	42名（21.8%）	17名（20.7%）
９．子どものして欲しいことが分からない	39名（14.0%）	31名（16.1%）	７名（8.5%）
１０．子どもに言いたいことが伝えられない	43名（15.4%）	32名（16.6%）	９名（11.0%）
１１．家の外で相談する人がいない	12名（4.3%）	５名（2.6%）	７名（8.5%）
１２．家の中で相談する人がいない	19名（6.8%）	13名（6.7%）	５名（6.1%）
１３．保育園や学校の先生と信頼関係がもてない	８名（2.9%）	４名（2.1%）	４名（4.9%）
１４．子どもをたたいてしまうことが多なった	20名（7.2%）	16名（8.3%）	４名（4.9%）
１５．夫婦の関係が悪くなった	16名（5.7%）	11名（5.7%）	４名（4.9%）
１６．親戚とぎくしゃくした関係になった	４名（1.4%）	２名（1.0%）	１名（1.2%）
１７．祖父母に受け入れてもらえなくなった	７名（2.5%）	６名（3.1%）	１名（1.2%）
１８．離婚（したい、した）	15名（5.4%）	９名（4.7%）	５名（6.1%）
１９．補聴器、人工内耳にかかる費用（自己負担）が重い	90名（32.3%）	54名（28.0%）	35名（42.7%）
２０．その他	45名（16.1%）	34名（17.6%）	10名（12.2%）
２１．特にない	20名（7.2%）	13名（6.7%）	６名（7.3%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　４５名の回答のうち２０件の記述

・いろいろな経験をするために習い事をさせてあげたいが、自分（母）の左手に障害があり、車の運転ができず、送迎できないため、やらせてあげられない。
・叱ることが増えた。
・子どもの将来への不安。
・同じ難聴児であっても、障害があっても障がい者手帳がないための将来への不安や心配、また支援が受けられないこと。
・必ず遅れが生じる為、先手を打って教えて行ったりサポートしたいが、なかなかうまくいかない。
・授業が心配。
・聴こえ方が理解できていないので、どう対処（ケア）するのが一番良いのか分かってあげられないこと。
・通学が遠く年子の双子もいるので、体力の心配がある。自分が元気でないと子どもは学校すらいけない。
・学校が遠く病気の関係で送迎しているのでしんどい。
・聴覚障害者用の児童デイがなく、仕事をするにあたって学校の送り迎えがかなり負担となっている。
・働けない。仕事をあきらめなくてはいけない(ろう学校は母子通園なので、育児休暇が長く取れないので仕事をやめるしか、選択肢がないのが現状)。
・聾学校まで遠く送迎に時間をとられてしまう。（片道１時間弱）
・長い目で見て寄り添い、言語の習得についての専門的な知識がある人が欲しかった。
・市役所福祉課で、人工内耳は装用具ではない！と言われた。
・子どもをたたくことはないが、態度で強く当たってしまうことがある。
・ろう学校の保護者同士の人間関係。密すぎる。

表３－２６．福祉制度の利用（279名）　※複数回答

福祉制度	利用している	利用していない	利用希望	申請中	非該当	知らない
１．特別児童扶養制度	126名（45.2%）	56名（20.1%）	４名（1.4%）	０名（0.0%）	36名（12.9%）	23名（8.2%）
２．就学援助制度	96名（34.4%）	81名（29.0%）	３名（1.1%）	４名（1.4%）	19名（6.8%）	39名（14.0%）
３．療育手帳	50名（17.9%）	117名（41.9%）	４名（1.4%）	１名（0.4%）	47名（16.8%）	10名（3.6%）
４．生活保護制度	３名（1.1%）	143名（51.3%）	３名（1.1%）	０名（0.0%）	62名（22.2%）	12名（4.3%）

表３－２７．子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．話し合える聴こえる友だち	**214名（76.7%）**	**141名（73.1%）**	**70名（85.4%）**
２．話し合える聴こえない友だち	**184名（65.9%）**	**139名（72.0%）**	**42名（51.2%）**
３．親以外に子どもが何でも話せる大人の存在	**156名（55.9%）**	**99名（51.3%）**	**45名（54.9%）**
４．スポーツクラブ	75名（26.9%）	55名（28.5%）	19名（23.2%）
５．聴覚障害児を受け入れる学童保育所	**116名（41.6%）**	**85名（44.0%）**	**29名（35.4%）**
６．子どもに理解できる方法で勉強を教えてもらえる塾	**150名（53.8%）**	**95名（49.2%）**	**52名（63.4%）**
７．図書館等の施設	37名（13.3%）	26名（13.5%）	10名（12.2%）
８．放課後等デイサービス	**124名（44.4%）**	**98名（50.8%）**	**24名（29.3%）**
９．人工内耳施術のコミュニケーション等の支援	59名（21.1%）	36名（18.7%）	23名（28.0%）
１０．その他	８名（2.9%）	４名（2.1%）	４名（4.9%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　８件

・たくさん新しい経験ができるとよいと思う。障害があるからという考えではなく、子どもには経験が必要だと考えている。
・補聴器装用児のコミュニケーション等の支援施設。
・特に晩ご飯を食べさせてくれる食堂のような場所。
・聾学校へ通う場合地域の子どもたちと遊べる場やコミュニケーションがとれる場。
・自分だけの空間、時間。空間、邪魔されない場所（ママはこっちにこないでと言われたりするので。
・人工内耳装用者で様々な体験をしている先輩。ロールモデルとなる方。

表３－２８.【名古屋】子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの　※複数回答

	総数（63名）	ろう学校在籍（40名）	通常の学校在籍（23名）
１．話し合える聴こえる友だち	**48名（76.2%）**	**27名（67.5%）**	**21名（91.3%）**
２．話し合える聴こえない友だち	**37名（58.7%）**	**23名（57.5%）**	**14名（60.9%）**
３．親以外に子どもが何でも話せる大人の存在	**37名（58.7%）**	**21名（52.5%）**	**16名（69.6%）**
４．スポーツクラブ	16名（25.4%）	11名（27.5%）	５名（21.7%）
５．聴覚障害児を受け入れる学童保育所	18名（28.6%）	14名（35.0%）	４名（17.4%）
６．子どもに理解できる方法で勉強を教えてもらえる塾	**32名（50.8%）**	**21名（52.5%）**	**11名（47.8%）**
７．図書館等の施設	８名（12.7%）	５名（12.5%）	３名（13.0%）
８．放課後等デイサービス	23名（36.5%）	20名（50.0%）	３名（13.0%）
９．人工内耳施術のコミュニケーション等の支援	11名（17.5%）	６名（15.0%）	５名（21.7%）
１０．その他	４名（6.3%）	２名（5.0%）	２名（8.7%）

＜その他＞　３件

・自分だけの空間、時間。空間、邪魔されない場所（ママはこっちにこないでと言われたりするので。）

・人工内耳装用者で様々な体験をしている先輩。ロールモデルとなる方。

・コミュニケーションツール（きこえる、きこえない）は関係ないと思う。言い合える友達。

表３－２９.【西尾張】子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの　※複数回答

	総数（50名）	ろう学校在籍（37名）	通常の学校在籍（13名）
１．話し合える聴こえる友だち	**40名（80.0%）**	**23名（62.2%）**	**12名（92.3%）**
２．話し合える聴こえない友だち	**34名（68.0%）**	**23名（62.2%）**	**６名（46.2%）**
３．親以外に子どもが何でも話せる大人の存在	**24名（48.0%）**	**16名（43.2%）**	**５名（38.5%）**
４．スポーツクラブ	15名（30.0%）	10名（27.0%）	５名（38.5%）
５．聴覚障害児を受け入れる学童保育所	**28名（56.0%）**	**19名（51.4%）**	**７名（53.8%）**
６．子どもに理解できる方法で勉強を教えてもらえる塾	**31名（62.0%）**	**17名（45.9%）**	**10名（76.9%）**
７．図書館等の施設	２名（4.0%）	２名（5.4%）	０名（0.0%）
８．放課後等デイサービス	**20名（40.0%）**	**16名（43.2%）**	**３名（23.1%）**
９．人工内耳施術のコミュニケーション等の支援	12名（24.0%）	８名（21.6%）	４名（30.8%）
１０．その他	０名（0.0%）	０名（0.0%）	０名（0.0%）

表３－３０.【東尾張①】子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの　※複数回答

	総数（17名）	ろう学校在籍（７名）	通常の学校在籍（９名）
１．話し合える聴こえる友だち	**13名（76.5%）**	**５名（71.4%）**	**７名（77.8%）**
２．話し合える聴こえない友だち	**10名（58.8%）**	**４名（57.1%）**	**５名（55.6%）**
３．親以外に子どもが何でも話せる大人の存在	**７名（41.2%）**	**３名（42.9%）**	**４名（44.4%）**
４．スポーツクラブ	３名（17.6%）	０名（0.0%）	３名（33.3%）
５．聴覚障害児を受け入れる学童保育所	６名（35.3%）	３名（42.9%）	２名（33.3%）
６．子どもに理解できる方法で勉強を教えてもらえる塾	**13名（76.5%）**	**３名（42.9%）**	**９名（100.0%）**
７．図書館等の施設	３名（17.6%）	１名（14.3%）	２名（22.2%）
８．放課後等デイサービス	４名（23.5%）	１名（14.3%）	３名（33.3%）
９．人工内耳施術のコミュニケーション等の支援	６名（35.3%）	１名（14.3%）	５名（55.6%）
１０．その他	１名（5.9%）	１名（14.3%）	０名（0.0%）

（注）在籍校不明１名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　１件

・聾学校へ通う場合地域の子どもたちと遊べる場やコミュニケーションがとれる場

表３－３０．【東尾張②】子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの　※複数回答

	総数（14名）	ろう学校在籍（6名）	通常の学校在籍（6名）
１．話し合える聴こえる友だち	13名（92.9%）	6名（100.0%）	5名（83.3%）
２．話し合える聴こえない友だち	12名（85.7%）	6名（100.0%）	4名（66.7%）
３．親以外に子どもが何でも話せる大人の存在	8名（57.1%）	4名（66.7%）	3名（50.0%）
４．スポーツクラブ	５名（35.7%）	３名（50.0%）	１名（16.7%）
５．聴覚障害児を受け入れる学童保育所	10名（71.4%）	4名（66.7%）	4名（66.7%）
６．子どもに理解できる方法で勉強を教えてもらえる塾	11名（78.6%）	4名（66.7%）	5名（83.3%）
７．図書館等の施設	３名（21.4%）	２名（33.3%）	０名（0.0%）
８．放課後等デイサービス	10名（71.4%）	5名（83.3%）	3名（50.0%）
９．人工内耳施術のコミュニケーション等の支援	２名（14.3%）	２名（33.3%）	０名（0.0%）
１０．その他	１名（7.1%）	０名（0.0%）	１名（16.7%）

（注）在籍校不明２名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　２件

・通学が遠く年子の双子もいるので、体力の心配がある。自分が元気でないと子どもは学校すらいけない。

・子どもに対してどのように対応するのがベストなのかわからないときがある。

表３－３２．【西三河】子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの　※複数回答

	総数（80名）	ろう学校在籍（63名）	通常の学校在籍（17名）
１．話し合える聴こえる友だち	57名（71.3%）	43名（68.3%）	14名（82.4%）
２．話し合える聴こえない友だち	55名（68.8%）	48名（76.2%）	7名（41.2%）
３．親以外に子どもが何でも話せる大人の存在	34名（42.5%）	27名（42.9%）	7名（41.2%）
４．スポーツクラブ	21名（26.3%）	18名（28.6%）	３名（17.6%）
５．聴覚障害児を受け入れる学童保育所	26名（32.5%）	22名（34.9%）	４名（23.5%）
６．子どもに理解できる方法で勉強を教えてもらえる塾	34名（42.5%）	24名（38.1%）	10名（58.8%）
７．図書館等の施設	12名（15.0%）	９名（14.3%）	３名（17.6%）
８．放課後等デイサービス	39名（48.8%）	34名（54.0%）	5名（29.4%）
９．人工内耳施術のコミュニケーション等の支援	12名（15.0%）	７名（11.1%）	５名（29.4%）
１０．その他	２名（2.5%）	１名（1.6%）	１名（5.9%）

＜その他＞　２件

・たくさん新しい経験ができるとよいと思う。障害があるからという考えではなく、子どもには経験が必要だと考えている。

・補聴器装用児のコミュニケーション等の支援施設

表３－３３．【東三河】子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの　※複数回答

	総数（47名）	ろう学校在籍（34名）	通常の学校在籍（13名）
１．話し合える聴こえる友だち	37名（78.7%）	27名（79.4%）	10名（76.9%）
２．話し合える聴こえない友だち	32名（68.1%）	26名（76.5%）	6名（46.2%）
３．親以外に子どもが何でも話せる大人の存在	31名（66.0%）	22名（64.7%）	9名（69.2%）
４．スポーツクラブ	11名（23.4%）	７名（20.6%）	４名（30.8%）
５．聴覚障害児を受け入れる学童保育所	25名（53.2%）	18名（52.9%）	7名（53.8%）
６．子どもに理解できる方法で勉強を教えてもらえる塾	25名（53.2%）	18名（52.9%）	7名（53.8%）
７．図書館等の施設	９名（19.1%）	７名（20.6%）	２名（15.4%）
８．放課後等デイサービス	25名（53.2%）	18名（52.9%）	7名（53.8%）
９．人工内耳施術のコミュニケーション等の支援	14名（29.8%）	10名（29.4%）	４名（30.8%）
１０．その他	０名（0.0%）	０名（0.0%）	０名（0.0%）

表３－３４．学校側の具体的支援で嬉しかったこと、助かったこと　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．ＦＭ補聴器・ロジャーの購入	30名（10.8%）	13名（6.7%）	16名（19.5%）
２．ＦＭ補聴器・ロジャーの貸出	14名（5.0%）	５名（2.6%）	９名（11.0%）
３．ＦＭ補聴器・ロジャーの活用	**55名（19.7%）**	**20名（10.4%）**	**34名（41.5%）**
４．障害理解のための授業	**103名（36.9%）**	**80名（41.5%）**	**23名（28.0%）**
５．担任の個別面談	**130名（46.6%）**	**86名（44.6%）**	**42名（51.2%）**
６．座席の配慮	**81名（29.0%）**	**40名（20.7%）**	**39名（47.6%）**
７．板書の工夫	50名（17.9%）	33名（17.1%）	16名（19.5%）
８．総合的な学習の時間（福祉領域）で聴覚障害者の支援についてとりあげてもらった	23名（8.2%）	**10名（5.2%）**	**23名（28.0%）**
９．集会や学校行事等の子ども全体で集まる時の情報保障	57名（20.4%）	**18名（9.3%）**	**39名（47.6%）**
１０．手話通訳者の派遣	16名（5.7%）	15名（7.8%）	１名（1.2%）
１１．要約筆記者の派遣	１名（0.4%）	１名（0.5%）	０名（0.0%）
１２．パソコンテイク担当者の派遣	０名（0.0%）	０名（0.0%）	０名（0.0%）
１３．補助（介助）教員の配置	52名（18.6%）	36名（18.7%）	15名（18.3%）
１４．学級での難聴理解の授業	37名（13.3%）	21名（10.9%）	16名（19.5%）
１５．他の友だちのサポート	**75名（26.9%）**	**39名（20.2%）**	**36名（43.9%）**
１６．その他	26名（9.3%）	15名（7.8%）	11名（13.4%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他の自由記述＞　２６名・２９件の記述

○通常の学校　１６件

・机、イスにテニスボールの設置
・校外学習時（科学館）、補聴援助システム利用の提案を学校側からしていただけたので、お願いしやすかったです。
・ミニマイクロフォンの活用。大事さを話してくれました。
・担任の先生がいろいろと子どもに配慮してくれたので、お友達と遊べるようになりました。
・よく電話をくれてどうしようか相談してくれたこと。

・先生との毎日の連絡ノート（小学校にて）その日のできごとや困ったことなどなんでも書くことができたり学校の様子を知ることができてとても救われました。
・小学校の担任の先生が理解しようと勉強してくれたこと。
・聾学校からの転学に喜んでくれ積極的に受け入れてくれたこと。
・聾学校との連携を密にしていてくれること
・担任だけではなく、学年、教頭、校長、校務主任まで、細やかな情報交換ができていること。
・幼稚園の時、担任の先生が病院での訓練の様子を見に来てくださった。
・運動会や学芸会などで使う曲をコピーさせてもらったこと。
・学習の理解状況に応じて母学級の授業から取り出し不足を補ってもらっていた。（難聴学級）
・友人がクラス替え時の配慮をしてくれた。
・ろう学校出の先生に見てもらえること。
・座席の配慮や板書の工夫は先生にお願いして実行したが理解されず先生が良かれと思い、本人の近くで他児に向け大きな声で授業をしたことなどがあった。補助教員の配置、学級での難聴理解の授業をお願いして実行されたが理解は進まなかった。

○ろう学校　１３件
・就学前からの定期的な面談（週２）
・病院外で補聴器を調べたり、検査ができるところ。
・痰の吸引や胃ろうからの給食・水分の注入が必要なため看護師を配置してくれたこと。一人親で仕事をしているので、自分が付き添いをできず、看護師の配置により仕事でき助かっています。
・ろう学校なので重複を理解して普通級に在籍できていること。
・ろう学校の先生が通級、生徒・教員への勉強会に参加していること。
・細やかな聞き取り。
・子供と相談しながら、対応してくれる。
・中学はろう学校に通っているので充実しています。
・ろう学校に通っているが思いあたることがない。
・ろう学校に通っているので、全体的に恵まれている。
・机やいすを引きずっても大きな音が鳴らないように保護シートのようなものを足の裏に貼ってもらった。
・手話の授業「私の主張」への学び聾学校に転入し、初めて本人の気持ちを意見として聞いてもらうことが出来た
・障害のための授業はまだまだ足りない。

表３－３５．子どもの教育環境に関する情報を入手したところ（複数回答）　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．ない	21名（7.5%）	11名（5.7%）	８名（9.8%）
２．インターネット	**107名（38.4%）**	**61名（31.6%）**	**45名（54.9%）**
３．教育委員会や教育センターなどの教育相談	18名（6.5%）	15名（7.8%）	３名（3.7%）
４．同じ障害のある当事者から	**83名（29.7%）**	**61名（31.6%）**	**22名（26.8%）**
５．手話サークル	16名（5.7%）	11名（5.7%）	５名（6.1%）
６．ろう（特別支援）学校の先生	**177名（63.4%）**	**152名（78.8%）**	**25名（30.5%）**
７．ろう（特別支援）学校のPTAや保護者	**133名（47.7%）**	**118名（61.1%）**	15名（18.3%）
８．病院（医師・言語聴覚士など）	**105名（37.6%）**	**67名（34.7%）**	**37名（45.1%）**
９．聴覚障害関連施設	８名（2.9%）	５名（2.6%）	３名（3.7%）
１０．役所（児童福祉課、障害福祉課等）	41名（14.7%）	29名（15.0%）	11名（13.4%）
１１．補聴器や人工内耳の関連会社の方	35名（12.5%）	22名（11.4%）	13名（15.9%）
１２．難聴児の保護者団体（難聴児を持つ親の会、人工内耳友の会等）	34名（12.2%）	14名（7.3%）	**20名（24.4%）**
１３．その他	11名（3.9%）	７名（3.6%）	３名（3.7%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　１０件

・病気ではないにもかかわらず、相談できるところは、学校と病院しかありません。
・病院、学校それぞれの場所で物切の情報ではなくて、長い目で見た切れ目ない支援、寄り添いが欲しいです。
・上の兄２人も耳が聞こえない。特になし。
・難聴学級の先生
・勤務先
・友だち・フリースクール
・聾学校のママとのつながり
・ひかりのかけ橋
・経験から
・両親とも元聾学校やから、知ってる。

保護者として、行政に要望してほしいこと、愛知県聴覚障害者協会等に対する要望や期待すること（自由記述）

※個人を特定した文章以外は基本的に原文のまま掲載しました。

〇助成金対象の拡大について　全４７件

＜人工内耳について＞　１８件

・人工内耳を１０年以上使っていますが、その機種はもう廃盤になるとのこと。新しい機種を買えません。(高額)
・名古屋市でも人工内耳の助成を検討してください。
・人工内耳の購入助成（名古屋市）をおねがいしたいです。学校で活発に活動すると、ケーブルは負荷がかかり毎年買い替えが必要となります。
・汗によるサビや機械本体の故障等で本体の買い替えをしなければならない場合、少しでも援助していただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。
・人工内耳の買い替え助成の要望を行政にしてほしいです。
・人工内耳の体外装置の買い替えの助成が名古屋市はないこと‼
・人工内耳の買い替え助成金。
・人工内耳の買い替え時に補助金があれば助かります。
・人工内耳の買い替え時に名古屋では補助がないため、家庭での負担が大きい。
・人工内耳の買い替え助成をしてほしい。
・人工内耳、故障した際の補助のお金を出してほしい。
・人工内耳買い替え時の助成について。現在は個人個人で働きかけているので（行政に対して）補聴器のように買い替え助成が当たり前のようになってほしい。
・人工内耳の買い替えの費用の助成をお願いしたい。
・人工内耳も補装具と同じ扱いをしてほしい。
・人工内耳は高価なものです。特に壊れたときや買い替えをしたいときの負担は大きいです。市町村によって助成に差があります。みんなが助成対象になるとよいと思います。
・人工内耳も補聴器と同じように修理をしたり、買い替えることがあります。
・補聴器では聴き取りが出来ないため、人工内耳を使用して学習しているので、同じように認めてもらいたいです。
・装具も何ごと一回など規定に基づいて補助があるのなら、内耳の買い替えも補助してほしい。

＜電池・充電池について＞　６件

・充電池の補助を助成して頂きたいです。
・人工内耳の電池等の補助。
・内耳の電池も消耗品だから上限はあってもフォローしてほしい。
・電池の補助も他県ではあると聞いています。
・普通学級では様々な周囲の音により電池のヘリも早く、充電をして持たせても一日のうちに一回は最低でも交換しなければなりません。充電池は 365 回充電使用できるように作られてはいますが、使っているうちにだんだんと使用できる時間が短くなっていくため、こちらも毎年買い替えています。
・人工内耳の充電池代を助成して頂きたいです。1 万 7 千円ほどして、1 年もつかもたないかです。両耳だと 3 万 4 千円ほどして、3 人兄弟の人は年間 10 万以上かかると言っていました。

＜ロジャーについて＞　５件

・ロジャーの全額負担。
・FM 補聴器はすでに販売終了となり、ロジャーが主流となっている現状にもかかわらず、こちらが申請をしても許可していただけないのは、なぜなのでしょうか？
・ロジャーを購入したいと思っていましたが、市が厳しいといわれつづけ、ほかの同市の友達は課長さんに頼んでお願いしても許可されなかったという話を聞き、少し頑張ったつもりでいましたが、去年、補聴器を購入するときはあきらめました。聞こえない子にとってはロジャーは嗜好品ではなく、聞こえに対して切実な願いであり

ます。
すんなり申請が通る市町村もあればそうでない市町村があるのがおかしいと思います。それがくやしいです。
・ロジャーを活用できる学校がありながら、申請がおりず、自力で購入ということしかできないのは、どうかと思います。
・我が子がロジャーを活用して聞こえをカバーできたか？はわかりませんが、なんでも試してやってあげたかったです。その点を協会の方で市町村に理解を求めてほしいと思います。

＜イヤモールドについて＞　４件

・人工内耳のイヤーモールドの補助お願いします。親が健聴の場合、親は特に補助金はなく学校が市外の場合、送り迎えや参観などもおおく時間も取られ働けず…まわりの家庭との格差を感じる。
人工内耳のモールドの補助を出して頂きたいです。（鳥取県などでは補助が出ています。）子供の耳には人工内耳は大きすぎて重く、すぐに落としてしまって、壊してしまいます。修理費用もとても高く、家計への負担になっています。
・人工内耳の子のイヤーモールドの補助。
・人工内耳でもイヤモールドは必要です。子どもは耳の大きさもすぐ変わってしまうので、イヤモールドの助成をしていただきたい。
・人工内耳用イヤーモールドを福祉用具に入れてほしい。

＜補聴器について＞　３件

・補聴器の補助をもっと手厚くしてほしい。機能の高い補聴器を購入したいのに高額な差額を支払わなければならなく厳しいので。
・補聴器その他、高すぎ。ばかじゃないの？すぐこわれるし。
・補聴器の補助も５年に１度。聴力が落ちて重度用を購入したいのに５年たっていないからダメと役場から言われ1年待ってから購入になった。必要なものなのに5年という縛り、、、。言葉を学習している大切な時期なのに、、、。難聴の子供にとってこの１年が大切であったか、、、。もっと理解してほしいです。

＜その他＞　１２件

・軽～中度の補助金制度を充実させてほしい。重度に近い中度だと大変な負担になる。レベルの境を、もっと外国のように緩和してほしい。
・手帳対象外の軽中度難聴児のための補聴器購入費等の助成を実施してほしいです!!
・軽度・中等度の子どもの補聴器購入などの支援が自治体によって違うので愛知県すべてで実施してほしい。
・手帳を持っていなくても、聞こえの状態はさまざまなので、補聴器の支援をお願いしたい。
・手帳は該当しないが、補聴器が必要な子への助成。
・役所の方も助成要望に対して何も変わらないですが、もっと維持が大変になることを行政でも取り上げてほしいです。
・聴覚障害児の身体障碍の該当枠がもっと広がると、補聴器などの負担が軽減されると思うので、大人と同一の枠にしないでほしい。
補助を充実させてください。
・他の自治体では補助のあるところもあるので、名古屋でも補助金を出してもらえると助かる。
・聴覚障害は早期から補聴器をして教育すれば、社会に貢献できる人材に育つと思うので、聞こえに必要な補助具（人工内耳など）の負担をしてほしい。
・自助具に対する補助ももう少しフォローしてほしい。
・各市で動き始めているところもあるようですが、愛知県として、人工内耳の体外装置も補装具として認可してもらいたいと思います。

○聾学校について　１６件

・家と学校の移動支援制度があるといいな
・聾学校もバス送迎とかしてほしい。今のご時世、一人で電車に乗せて遠い聾学校に行かせるのは、犯罪とかに巻き込まれないか心配で仕方ない。（小学校４年生というまだ子供の段階で、自主通学は正直怖い）近くに聾学校があればいいが、、、。
・ろう学校の送迎。兄弟がいると通いたくても通えない人がでてくるのでは？
・兄弟にも家に帰っても親がいないなど我慢させることが多い。働いている場合には子どもにも分かってもらえるが、なぜ自分だけが親と一緒にいられないのか…と寂しがる。

・学校までが遠すぎる。自力通学させたいけどバスとか電車とか不便すぎる。もう少しバスが来てくれるようにしてもらいたい。
・聾学校が遠い（エリアが広すぎる）。
・聾学校をもう少し増やしてほしい。遠いと、生活環境によって通いたくても通えなくなってしまう。
・遠くからろう学校に通うと近所の子供との関わりが持てない。親もPTAなどが地域と別になり、親も地域と疎遠になる。1日でも早く、改善してほしい。
人工内耳の子供が増えて、手話を会話の主体としている子が自由時間にポツンとしていたりする姿を見ます。昔と違ってきていてろう学校のあり方も昔と同じやり方で大丈夫なのかなと疑問に思います。
・幼稚部の給食が細かすぎるのが気になります。嚥下や咀嚼の弱い子は仕方ないかなとは思うのですが噛む力がつかないと発育も伸びないのかなと思います。年少が無理なら年中、年長などは具材を大きくして噛む力をつけてあげたいと思う。
・ろう学校でのあずかり時間が短すぎる。運動量が少なく体力がつかないと思う。子供同士の関わりも少なく、親や先生などが間に入るので、言葉の為には必要な事だとは思うが、考える力や主体性、生きる力などはつかず指示待ちになるのではないかと心配です。
・ろう学校と病院の連携もなく他県の整った環境との差が大き過ぎると感じた。
・インテしてろう学校を出てしまえば聾学校との関係は分断されてしまい情報を得るところが無くなってしまう現状をどうにか改善してほしい。
・インテをよく思わないろう学校の先生が多く感じた。
・読み取りができない先生が増えてる。子どもは語彙力が低いので読解力が要る。先生が。
聾学校なのに、手話ができない先生が担任につき通訳もつかない環境が当たり前にある。手話が必要で、ろう学校を選択したのに、この環境は改善してほしい。
・耳の日の行事があることをろう学校にも流してほしい。

〇通常の学校について　１０件
・普通の小中学校に手話がわかる先生がほしい。
・地域の学校の教員に、言語以外のコミュニケーション方法(手話等)を勉強する機会を作る。
・地域の小学校に2年間在籍しました。特別支援学校の教員ほどの専門知識は望んでいませんが、最低限の知識や配慮は、教師として身に付けておいていただきたかったです。ロジャーの使用を親子でお願いするも、「大きい声で話せば聞こえる」と使っていてだけなかったり、一生懸命聞いている状態を「普通に聞こえる」と捉えられ、本人が別のことに集中して無意識でいる聴こえない状況を理解してもらえなかったりと大変な思いをしました。
・学校に1人でいいので先生置いてほしい。相談しやすくしてほしい。
・今後、人工内耳の普及が増え通常学級へ行く子が増えていく事かと思われます。学校の先生の授業の仕方を通常の子だけでなく、インテグレーションした子にも分かりやすい授業にしていってほしいです。
・18歳以下の聴覚に障害がある子どもにはロジャーの使用を認めてほしい。現状は重度の子どものみでその他の子どもは医師の意見書を書くなど自治体によってさまざまである。
・地域や学校によって支援の体制が違っていると感じています。難聴に詳しい先生がいて下さることを望みます。
・地域の小中学校の先生方への情報共有。まだ理解されてない部分が大きい。
・福祉体験学習で、子ども達に聞こえない世界について体験をする機会を設ける(車イスや視覚だけではなく)。
・地域の学校にも安心して通えるような環境・資源が欲しい(難聴学校があったとしても専門の先生がいるわけではない)。

〇字幕について　９件
・日本のアニメやDVDや映画の字幕がもっと普及してほしいです。
・NHKの教育番組はすべてに字幕を付けてほしい。
・NHK　for schoolの映像すべてに字幕を付けてほしい（ふりがなつき)。
・とにかく手話に触れる機会を増やしてほしい。
・一般（健聴）の方々が少しでも手話が使えれば、また、理解すれば、聴覚障害は障害でなくなると思います。
・映像の横に全文が表示されているだけなので、どの説明なのかわからないし、画面の横では視線の動きが難しいので、テレビのように下に付けてほしい。
・CMにも字幕や、邦楽にも字幕をつけることで、聞こえる子とおなじ情報を届けてほしい。

・教育番組は特に、ことばを覚えていく段階でいかに言葉に触れる機会を増やせるか、とても大事な時期なので、字幕の早期実現をお願いします。
・日本の映画でも字幕付きの回があってほしい。

〇行政について　7件

・行政に相談すらできない状況をどうしたらよいのでしょうか？
・娘は人工内耳を装用していますが、市役所の福祉課の人から、「人工内耳は装用具ではない！」と言われました。しかしながらその人工内耳を装用することは、健聴者と会話をしたりする上ではとても大切なものなのです。それを理解していただき、装用具ではないとは言ってほしくはありません。
・保健センターの職員さんには毎回あった健診のたびに、娘の障害の話をしなくてはいけませんでした…申し送りなどはないのでしょうか？
・もっと行政、県の方たちは耳のことを理解すべきである。聞こえにくいことがどれだけ大変でどれだけ努力をしているかを。聾学校の見学をしてみてはいかがですか？　子供だけではなく親の大変さもわかっていただきたいです。
・保健師も知識のない人が多く、「新生児スクリーニングをパスしているなら問題ない」といわれていた。発達障害が注目されている中で、話せない→発達障害と思われることが多く、聴覚障害の発見が遅れた。
・市役所に行っても人工内耳の事を知らないで「これは何ですか」など何度も担当が変わるたびに説明をしなくてはいけなくて困る。きちんと知識のある人が窓口にいてくださると時間もかからず助かる。
・中・軽度難聴に対する制度の見直し。

〇障害者手帳について　7件

・中等度難聴児にも障害者手帳を与えてください‼
・義務教育の間だけでもいいので、障害者手帳で使える内容を級に関係なく利用できるようになると、親としてとても助かります。
・手帳の等級に関係なくサービスを受けたい。4級であっても（3級に近い）補聴器をつけないと聞こえないのに4級と3級のサービスが違いすぎる。絶対に健聴の人たちとは平等にはやっていけないのに、、、。せめてサービスくらいは平等に受けたい。このままでは将来自立して生きていくのが大変だと思われる。
・障がい者手帳の基準を見直してほしい。人工内耳ができて数十年たった。低年齢化もすすみ、聞いて話せる人も増えた。手帳申請時の診断書はいまだに裸耳での計測となっている。補聴器の効果なく、内耳の適用できない本当に聞こえない人と聞いて話せる内耳の人が同じ2級であるのは、社会生活における困難さを考えると疑問である。社会保障にかけられる財源も限られているので、そろそろ見直してもよいと思う。
・視覚障害においては補装具を着けて測るのに、聴覚障害の場合は、人工内耳 etc 外して裸耳で測るのも不公平。聞こえないとどうしても情報が減ります。
・中程度で補聴器が必要であれば手帳も交付すべきでは。
・障がい者手帳の件ですが私の子どもは重度で蝸牛も神経もないような状態で聞こえはほとんどありません。本来なら二級程度なのに小学生になるまでできないと、かたくなに病院に断られ、県の方針だと言い、取り合ってもらえませんでした。病院のドクターの一存でそれも決まるしまたその判定をしてもらえる病院も少なく涙をのみました。また、人工内耳の人は聞こえも話もできるのに神経を切っているのですぐに二級になり聞こえが全くなく理解がしずらく検査もうまく飲み込めないとできないから駄目だと言われたり、いったい何十年前の制度なのかと不満に思います。内耳装着の聴力も考慮して障害の等級も考えるべきだと思います。時代は変わりました。今一度見直しをお願いします。。。と思っていることをどこにぶつけたらいいのかわからない。

〇教育の場の選択について　6件

・入学する際、普通学級がいいのか通級か難聴クラスを立ち上げてもらうのかものすごく悩みました。全く聞こえていない訳ではないので耳鼻科の先生、幼稚園の先生からは普通でいいのでは…とアドバイス。専門の方や就学相談の方はやはり、言葉の遅れ、それに付随する色々なことがやはり遅れているので支援クラスが手厚い…。結局難聴クラスを立ち上げて頂いたものの決定してから冬の間子どもも3ヶ月、半年でかなり成長しお友達と離れるのはイヤだ！一緒がいい！と色々分かってきたようでかなり辛かったです。お友だちと遊ぶのが大好きで本音を言えば何故インクルーシブと言われていてもまだ、皆の中で共に学ぶことが出来ない。教育はもちろん勉強だけではないはずで、今後の人間関係、コミュニケーションを考えるとやはり1対1ではなく同じクラスで支援級のような先生について頂き過保護になることなくその子に必要な支援をして頂きたいと切に願います。よくネ

ットでは支援級→普通級にはなかなかなれない、とか、やはりついていけないから支援級に…というのは絶対出来ない等目にするときがあります。でも、やってみてやはり違ったかも…というのはあるはずで、やってみて初めてわかる…という事もあると思うのです。教育はもっと柔軟に色々な道が開けるようにして頂きたいと思います。私の子どもで言えば、補聴器をつければ（3 歳～つけ始める）殆ど聞こえるようです。だとすれば将来はきっと 90%くらいきこえる人達と接する人生が多いのだろうと推測するのです。だからこそ、今から、本当は色々な人と接し、挫折し、助けてもらい、ともに笑い共に泣く…という環境が必要だと、そう思いながらも難聴クラスを立ち上げてもらい支援級にいる…この矛盾に果たしてこの選択は合っていたのか未だ心が揺れている状態です。インクルーシブ教育が整備されて迷うことなく光がスーッと入ってくるのになと思う毎日です。
・高校進学にあたって、もっと情報が欲しい。
・子育てをするうえで、保育園→小学校→中学校→高校と進学をしております。保育園、小学校、中学校は地元の学校へ進学することができました。でも、中学校から高校へ進学するときに個別相談という形ご相談をさせていただいたときに何校かの学校に「今までそのようなお子様を受け入れたことがないので、、、」という理由で断られました。聞こえの状況や配慮も含めて多少ですが学校側に負担がかかることは理解できますが子供の状態を見て本当に受け入れが難しいのか判断をしてほしいと思います。聴覚障害というだけで、最初から見ようともしないで受け入れはできないと決めつけることはしてほしくないと感じました。子どもに無理は禁物ですが、子どもにあった学校へ進学できるシステムがあればいいなと思います。
・小学校、中学校は、ろう学校又は難聴学級又は一般の学校から選択ができるが、高校はろう学校か一般かの二択になるのですが、人工内耳装用のわが子は、ろう学校では手厚すぎ、一般では厳しいので、進路が不安。一般の高校でも、ある程度の配慮を義務付けてほしい。（ロジャーの使用など。）
・高校受験時の配慮や進学時の支援について柔軟に対応して頂きたいです。
・高校受験、大学受験などの時の聴覚障害者に対する配慮。特に英語のリスニングに関しては公立と私立で対応が異なったり、現在だと60dB以上で免除などの措置があるが中等度難聴では40～50dBの人でも不利となるため、考慮して欲しい。

〇療育の場について　6件
・ろう学校へ通わない、地域で暮らす、人工内耳装用児・者の早期からの支援ができるような体制を期待します。聴覚障がい児の発音練習ができる施設を作ってほしいです。
・日本語を教えてもらえる場が欲しい。
・手話で学習を教えてくれる塾が欲しい。
・あいち小児保健医療総合センターは人工内耳児童の言語訓練の受け入ればかりで補聴器装用児の言語訓練を受け入れてくれる施設が無くて途方に暮れた。
・早期訓練、学習、療育が大事と言われる中で愛知県へ引っ越してきてから行き場をなくした。言語訓練を受けたくても受けられなくなった。信頼できる所がない。
・中程度の子への支援・療育の充実。中程度の場合、重度の子に比べ訓練や対応が疎かにされがちと感じます。健聴とろうの間で、中程度ならではの問題や必要な支援があると思いますが、その受け皿や専門知識のある ST、施設がとにかく少ないというか全くない。

〇難聴学級について　5件
・東区の小学校→西区の中学校。このおかしなところを早急に改善してほしい。
・難聴学級が少ないため、遠くまで通うことになったり、難聴学級に通うことができないことがあるので、難聴学級を増やしてもらえたらと思う。
・ろう学校、全教室にエアコンをつけてください。
・特別支援学級（難聴級）に通っていますが、専門の先生が担任にならず、何の知識も経験もない人が担任になるので、困ります。難聴級があると、通級で、ろう学校の先生の指導が受けられません。近所の学校の特別支援級に通う子供も、ろう学校に通う子供も、難聴に詳しい専門の先生が担任について欲しいです。きちんと学習保障をして頂きたいです。
・難聴学級の普及

〇放課後等デイサービスについて　5件
・放課後デイサービスの充実、移動支援の充実

・放課後デイサービス、一宮も建ててほしい。
・医療ケア児を受け入れてくれる児童発達支援や放課後デイサービスがあるといいな。
・聴覚障害＋歩ける＋医療ケアというのはデイサービス（児童発達支援・放課後デイ）がほぼ入れない。医ケアがあると看護師常駐が必要。歩けると重症心身が取れないので看護師がいる重身デイには入れない。自主通学ができるまでは、保護者が学校までの送迎が必要。ほかの支援学校に通っている保護者の方より母親の就労は低い。上記の児が通えるサービスがあると助かります。
・岡山県には「KIDS FIRST 児童発達支援事業放課後等デイサービス」というすばらしい施設がある。ぜひとも同じような支援事業を愛知県のブロック各所で早期に立ち上げてほしいです。

〇教育委員会について　５件
・まだまだ弱者のよわい社会であり教育者全員の認識が乏しいことが、教育を受けるものに影響を与えていることを行政、教育委員会が知ってほしい。
・学校教育課の方に、地元小学校への見学など申し込みをしたにもかかわらず、連絡しますといわれたきり、連絡すらもらえないのはなぜでしょうか？
・教師の手話力を上げてほしい。同時に、力がつくまで待てないので、学校にも通訳を派遣してほしい。（要望がある場合）
・通級指導の聾学校が一年間だけ変わったことがあった。理由を聞くと県の方針ということだったので、（県は）こどものことを分かってもらえていないと感じた。
・通級だけでは必要な情報を得られず通級の先生方も地域の健聴者の学校との壁を大きく感じられていた。たがいに寄り添い理解ある学校にしてほしい。普通クラスで頑張っている子どもたちには現在私共の子（聾学校）たちが得られている情報が届いていないのではないか？と思うと何かできることを見つけたい。

〇手話の普及について　５件
・ろう学校に通う親に手話を教えて頂きたい。
・住んでいる市では、夏休みに子供（健常児）対象に手話教室が行われたり、大人向け手話講座があり、ありがたく思っています。学校でも少しずつクラスで取り入れてもらい、子供たちの身近に手話や難聴に対する理解が得られたらいいなと思います。
・幼いころから英才教育をするような感覚で、手話も一般校で得ていけたら、自然に身につくのではないでしょうか。
・ベビーサインがあるように、手話も大切です。「手話」という言語が多くの人に知れわたるよう、お願いします。
・親が手話を学べる場が欲しい。

〇社会の理解について　５件
・補聴器を付けたからと言って健聴者と同じようにきこえているわけではないので、もっとたくさんの人にそのことをわかっていただけたら嬉しいです。
・ただ、社会に出てれば、無理解な世界が待っているのだから、そこで生きていくために、理解を求めるだけでなく、障害者自身が発言、発信できる力も必要だと思う。そのためにどうすべきか・・・。親としては、「社会の厳しさ」を伝えていくことで、自分アピールスキルを身に着けるよう、ことあるごとに話すしかないのか、と悩んでいる。
・聴覚障害はなかなか現実社会ではまだまだ理解されていない障害の一つであると思います。手話もそうですが、どの障害も同じですが、もっと世の中の受け入れがあると助かりますね…。難しいのも理解できますが、我が子が聴覚障害になり、自分自身も気が付かされたことがたくさんありました。当事者にならないとわからないことはたくさんあると思いますが、たくさんの方にかかわっていける環境が整うと嬉しいですね。
・障害者差別解消法まだまだなので全国理解し、差別をなくしてほしいです。
・地域で福祉実施教室を行いますが、「聞こえない体験」ではなく、手話が中心となっています。「楽しかったね」という体験で終わってしまうのは大変残念です。困りごとに寄り添える教員、大人、環境の改革を切望します。

〇センターについて　４件
・尾張地区（学校があるから一宮かな？）にも分所があるとよいと思う。
・限られた資源（金）です。愛知聴覚障害者センターの「箱物」設置にお金をかけても利用できる人は近くの方

だけです。(施設から遠い人) 全体にメリットのあるシステム作りにお金をかけて下さい。部屋数が少ない、暗い等の理由で無駄にお金を使わないで下さい。手話を介してのやり取りでも ok です。通いやすい近くに相談できる窓口があれば、気軽に利用できます。一部の人しか利用できなければ施設にお金はかけないで下さい。
・あいち聴覚障害者センターの場所がとても行きづらい。こどもは目と耳に障がいがあり、駅から遠く利用できるようになるのか不安。また、中は段差が多く危険だなと感じました。栄の地下など直結がいい。
・他県のセンターと比べても愛知県が力を入れていないことが明白でとても残念。

〇情報提供について　3件
・年齢に応じて、知りたいことが異なる。親の会に入っていても、欲しい情報はない。又、障害も様々で、一括りで「こうです」といわれても有効な情報とはならない。
・難聴の親は一部を除いてろう者や協会とかけ離れており接点がない。
・(新スクについて)検査することだけに視点を置かず、その後のフォローや、情報提供にまで、幅広く支援をする(特に医療機関)。

〇保護者支援　2件
・聴覚障害に限らず、障害を持つ子の親（母）は負担が負い。障害のための特別支援や教育はすべて家庭以外のところでできて、家では普通に母親としてだけ接することのできる環境が望ましい。
・障害者差別解消法で障害者本人だけでなく、関わる親も助けてほしい。

〇本実態調査について　8件
・学校が回収する際のプライバシーへの配慮が足りないと思います。
・調査の手法としてどうかと思います。
・このアンケートは障害を差別だと思っているのでしょうか？意味がよくわからないです。子どもがたまたま耳が聞こえないだけで子育てには何も変わらないです。確かに色々手はかかるけどそれで兄弟に手をかける時間が減ることはないです。同じ子どもです。子どもは質問には答えません。必要性が分かりません。わが子はたぶん理解できないと思います。
・普通の学校の先生が障害について少しでも知識を持って聴覚障害児に接する事が出来るようになっていく様に冊子などがあると良いと思います。
・アンケートを取って終わりにしないで頂きたいです。
・調査後、集計結果をどのようにして知りますか。文面で学校に知らせておいてくださると助かります。
・とても良いアンケートでした。集計した調査結果はぜひ教えていただきたいです!!
・こういった集計等大変なご苦労をなさって作業をしてくださっていることをお察しします。いつもありがとうございます。みんなが共生しやすい社会になることを願っております。

〇その他
・最近子供が大会の帰りに新幹線自由席で帰りました。何分に名駅着とは知っていて、いつも間近になったらメールで確認します。乗ってすぐ疲れて眠たいとメールが来て、ちょっと心配になりましたがやはり乗り過ごしてしまいました。ＪＲに電話をして耳の聞こえない、服装荷物 etc を伝えて、探してほしいとお願いしましたが、車内放送しかできないといわれました。耳が聞こえないから聞こえません。探してほしいといいましたが席がわからないと無理、といわれました。京都駅近くでメールが来てよかったのですが。JR としては寝ている人を起こして探すのは無理といわれましたが、今後何か対策をお願いできないものかと思います。我が家も、自由席の何号車、何席を最初に聞くようにしました。本当に、九州まで行ってしまったら、どうしようか心配で仕方ありませんでした。(夜の電車だったので)
・手帳がなくても聾学校在籍の証明で高校卒業後就職（障害者枠で）できるようにしてほしい。
・ろう学校の最寄り駅が無人駅にもかかわらず、電光掲示板がないので聞こえない子どもたちには不便だと思うのでつけてほしい。
・災害が起きた時、(子供だけ助かったときなど)、安否確認や、いつからどんな支援をしてもらえるのか事前に明確に知っておきたい。
・聴覚障害者が気軽に相談できる窓口を狭い範囲で作れたらいいと思います。できれば介護のケアマネのような人が子供から大人まで節目節目で適切なアドバイスをしてくれるのが理想です。

・新生児スクリーニングや、4か月、9か月、1歳半健診などで確実に障害を見つけてほしい。
・人工内耳装用者に対する支援や人工内耳普及活動を積極的に行っていくことが、聴覚障害者協会の今後の発展、存続につながっていくのではないかと思っています。
・サークルを通し、聾者と話をしていく中で、手話ができる人はほかにも必要としていることは知らない。市の人はどうしたら学ぶ場所があるのか、学校はどうなっているのかを知らない。私たちはだれが理解してくれるのかだれが情報を持っているのかを知らない。知らないことを知らないことが問題で、少し知ることが出来つつある”私”が出来ることをしていきたいと思っています。
・人工内耳や補聴器をつけていてもみんなと同じ聴力はない。
・耳の日に講演会に先回初めて参加したが若い方が少なく、高齢者の方が多く見られた。小学部の子どもはもう参加したくないと言った。
・学べる場、相談できる場、同じ境遇の仲間と出会える場があると親も子も不安が軽減されます。安心が心にゆとりを持たせ、素敵な親子関係が築けます。今の現状では不安だらけの子育てです。ぜひ未来ある子どもたちのためにこの意見が届くことを願っております。
・障害児の親は仕事に就けない。育児休暇は3年で終わってしまうのに、3才からろう学校で付き添いがはじまります。障害がある子供を産んだら、働いてはいけないと言っているのと同じであると思う。差別だと感じる。
・人工内耳や補聴器で耳が活用できている子がどんどんろう学校を出ていく。仕方ないのかも。残るのは、デフファミリーや重複障害、人工内耳をしない方針の子、ぎりぎりできず厳しい子ぐらいになる。
・兄弟の行事(ろう学校と普通学校)と同じ日に体育大会や学芸会があるので、どちらか1人の行事しか見に行けないです。日程も配慮をして頂きたいです。
・他校とのろう児交流場を増やし、その情報がもっと欲しい。

（2）．子どもへの調査結果の分析

表３－３６「コミュニケーションの方法ー聞くとき」の結果から、子どもは、補聴器または人工内耳の補聴機器を活用し、口話と手話をベースにしながら、他者の話を理解している割合が高いことがわかった。

表３－３７「コミュニケーションの方法ー話すとき」の結果から、子どもは、音声を中心に話をしつつ、聴覚障害のある相手に対しては手話を併用する割合が高いことがわかった。

表３－３８「先生が話している内容の理解」の結果について、だいたいわかるが 53.0%、わかるが 28.0%で、ろう学校在籍児も、通常の学校在籍児もどちらも、約８割の子どもが先生の話の内容を理解していると認識している。

表３－３９「友達の有無」の結果について、いると回答した子どもは 84.2%、いないと回答した子どもは 3.2%で、ろう学校在籍児も通常の学校在籍児もどちらも、結果に差がなかった。しかしながら、通常の学校在籍児は、ろう学校在籍児と比較して、友達がいないと回答した子どもの割合がやや高く、きこえない・きこえにくいことにより、友達ができない環境で学校に通っていることが推察される。

表３－４０「友達との関わり」の結果について、一緒に遊ぶが最も多く 73.8%の回答があり、話を聞きいてくれる、わからない時に教えてくれる、困った時に助けてくれるという回答は半数程度あった。

表３－４１．友達がいない理由は、聞こえないことを理解してもらえなかったから、手話ができないから、相手が話しかけてこないから等、様々な理由があることがわかった。その他の理由として、（友達には）関心がない、地域の学校に３名ほど友達はいるが話していることがわからなかった、発達障害だから、自分から話すことがうまくできないという記述があった。

表３－４２「＜全体＞長期休暇や土日・放課後等で『楽しかったこと』や『いやだったこと』」については、夏休み、冬休み、春休み、土日、放課後（授業後）の５点について結果に示した。何れの休日でも、遊ぶことが最も楽しく、いやだったことは学校の宿題をやることが取り上げられていた。長期休暇においては、学校がなくて、友達と遊べないことが数多く回答されていた。

表３－４３「＜ろう学校在籍＞長期休暇や土日・放課後等で『楽しかったこと』や『いやだったこと』」、表３－４４「＜通常の学校在籍＞長期休暇や土日・放課後等で『楽しかったこと』や『いやだったこと』」では、ろう学校在籍児と通常の学校在籍児の結果を示した。

表３－４５「好きな場所やよく行くところ（複数回答）」の結果について、公園（49.1%）の回答が最も多く、次いで、祖父母の家（41.6%）の回答が続いた。また、本屋（34.4%）、コンビニ（34.1%）、デパート（30.1%）、お菓子屋さん（26.9%）等の買い物する場所が好きでよく行くところとして挙げられていた。
ろう学校在籍児は放課後等デイサービスの利用が多く、通常の学校在籍児は利用が少なかった。反対に、通常の学校在籍児は友達の家に出掛けることが多く、ろう学校在籍児はその機会が少ない。自宅の近くに友達がいる通常の学校在籍児と、自宅近くに友達がいないろう学校在籍児の違いが結果に表れていた。

表３－４６～表３－５１「好きな場所やよく行くところ（ブロック別）」の結果から、NPO つくしの放課後等デイサービスが運営している、名古屋地区（つくしっこ）、西三河（茜）、東三河（楓）があるブロックでは、聴覚障害児の利用が多い。反対に、放課後等デイサービスがないブロックでは、他の資源を利用している状況であるが、聴覚障害児の集団での遊び、きこえにくさに配慮した環境を考えると、西尾張、東尾張①、東尾張②のブロックにも同様の施設の設立が求められる。

表３－５２「大好きな人や、あこがれの人の有無」の結果について、いるという回答が 71.0%、いないという回答が 6.8%だった。
表３－５３「大好きな人や、あこがれの人の内訳（複数回答）」の結果について、友達（39.4%）という回答が

最も多く、次いで、親（39.1%）、芸能人（27.2%）、祖父母（26.2%）、きょうだい（25.1%）が続いた。家族や友達など、身近で日々関わっている人々が大好きであこがれている存在として考えていることがわかった。ろう学校在籍児は、通常の学校在籍児と比較して、家族や友達に対して大好きであこがれている存在として回答する割合が高かった。芸能人やスポーツ選手、歴史上の人物の回答も多く、子どもたちの興味・関心が多様で、あこがれの存在は子どもたちの目標となる人物となるのでとても貴重である。

表３－５４「自分の話をきいてくれる人」の結果について、いるという回答は73.8%、いないという回答は2.9%だった。通常の学校在籍児は、ろう学校在籍児と比較して、自分の話を聞いて親が聞き手であるという回答の割合が高かった。

表３－５５「自分の話をきいてくれる相手（複数回答）」の結果について、親（55.9%）という回答が最も多く、次いで、友達（34.8%）、きょうだい（15.8%）、先生（15.4%）が続いた。親やきょうだいの家族、友達、先生など、身近で日々関わっている人々が話の聞き手であることがわかった。通常の学校在籍児は、ろう学校在籍児と比較して、親が聞き手であるという回答の割合が高かった。

表３－５９「イライラしたり、むかついたりする時（複数回答）」の結果について、困っていることをうまく説明できない（29.4%）が最も多く、次いで、どうしていいかわからない（22.2%）、聞きなおしたら、めんどうくさいと言われた（17.2%）が続いた。聞きなおしたら、めんどうくさいと言われた、聞こえないから、周りに静かにしてほしいと言ってもわかってもらえない、耳元に近づいて大声で話されるという質問項目は、通常の学校在籍児の方が、ろう学校在籍児よりも回答する割合が高かった。通常の学校在籍児は、健聴の子どもたちと共に学校生活を送っており、周囲の人々がきこえにくい自分に対して配慮がない対応をされてしまい、気持ちが不安定になってしまうことがわかった。

表３－６０「今、一番困っていること（３つまで回答）」の結果について、グループで話し合いする時、話している内容がわからない（17.6%）の回答の割合が最も高かった。次いで、勉強の方法がわからない（15.4%）、進路のことで悩んでいる（14.3%）だった。その他の回答については、対人関係・コミュニケーションに関する記述が多かった。通常の学校在籍児は、ろう学校在籍児よりも、グループで話し合いする時、話している内容がわからない、勉強の方法がわからない、授業についていけない、自分だけ笑えない等について困っており、学校の先生の支援、周囲の健聴の子どもの理解が足りない状況が推察された。

表３－６１「得意なこと」の結果について、あるという回答が61.3%、ないという回答が5.4%であった。通常の学校在籍児は、ろう学校在籍児よりも得意なことがあるという回答の割合が高かった。

＜１．学校で＞の回答は272件あり、運動、勉強、芸術科目、友達との関わり等が挙げられた。

＜２．家庭内で＞の回答は193件あり、家事、運動、余暇活動等が挙げられた。

＜３．その他＞110件あり、スポーツ、芸術、余暇活動等が挙げられた。

表３－６２「将来、してみたい仕事や、こんな人になりたいという夢や希望」の結果について、あるという回答が64.2%、ないという回答が9.0%、あるけれども諦めているという回答が2.2%であった。通常の学校在籍児は、ろう学校在籍児よりも、ないという回答の割合が高かった。あきらめている理由は、学力が足りないから、聴覚障害の他身体障害を持っていてやることは難しいから、耳の聞こえない人がなるには難しいから、接客業だからと言われた等が述べられた。

表３－６３「将来、してみたい仕事やこんな人になりたいという夢や希望」の結果について、パン・ケーキ・お菓子屋（12.5%）の回答の割合が最も高かった。次いで、スポーツ選手（11.1%）、芸能・タレント（5.7%）、テレビ・アニメキャラクター（5.4%）、運転手（5.0%）、板前・コック・すし職人(4.7%)、保育士（3.9%）が続いた。

近年は、国家資格の欠格条項が見直され、聴覚障害があっても就くことができる仕事が増えている。聴覚障害があっても、医師、弁護士として働いている人もおり、コーヒーショップの店員、バスの運転手など、様々な業種で活躍する聴覚障害者のパイオニアがいる。聴覚障害のある子どもたちが、将来の夢を持ち、目標に向かって自分自身を成長していけるように、関係者が支援をしていかねばならない。

表３－３６．コミュニケーションの方法ー聞くとき（279名）　※複数回答

	１．手話	２．筆談	３．補聴器	４．人工内耳	５．口話	６．触手話	７．その他
学校で	153名（54.8%）	9名（3.2%）	128名（45.9%）	81名（29.0%）	133名（47.7%）	2名（0.7%）	11名（3.9%）
家庭で	121名（43.4%）	10名（3.6%）	111名（39.8%）	81名（29.0%）	135名（48.4%）	3名（1.1%）	10名（3.6%）
友達と	148名（53.0%）	3名（1.1%）	116名（41.6%）	79名（28.3%）	124名（44.4%）	2名（0.7%）	8名（2.9%）
その他	51名（18.3%）	25名（9.0%）	92名（33.0%）	53名（19.0%）	95名（34.1%）	1名（0.4%）	5名（1.8%）

表３－３７．コミュニケーションの方法ー話すとき（279名）　※複数回答

	１．音声	２．手話	３．筆談	４．その他
学校で	198名（71.0%）	150名（53.8%）	9名（3.2%）	9名（3.2%）
家庭で	201名（72.0%）	122名（43.7%）	6名（2.2%）	11名（3.9%）
友達と	188名（67.4%）	153名（54.8%）	6名（2.2%）	7名（2.5%）
その他	155名（55.6%）	65名（23.3%）	24名（8.6%）	4名（1.4%）

表３－３８．先生が話している内容の理解

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．わかる	78名（28.0%）	58名（30.1%）	20名（24.4%）
２．だいたいわかる	148名（53.0%）	95名（49.2%）	49名（59.8%）
３．ほとんどわからない	18名（6.5%）	11名（5.7%）	6名（7.3%）
４．まったくわからない	1名（0.4%）	0名（0.0%）	1名（1.2%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

表３－３９．友達の有無

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．いる	235名（84.2%）	162名（83.9%）	71名（86.6%）
２．いない	9名（3.2%）	3名（1.6%）	6名（7.4%）
回答なし	35名（12.5%）	―――	―――

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

表３－４０．友達との関わり　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．話を聞きいてくれる	143名（51.3%）	101名（52.3%）	41名（50.0%）
２．わからない時に教えてくれる	131名（47.0%）	88名（45.6%）	42名（51.2%）
３．困った時に助けてくれる	137名（49.1%）	93名（48.2%）	43名（52.4%）
４．一緒に遊ぶ	206名（73.8%）	142名（73.6%）	62名（75.6%）
５．その他	7名（2.5%）	4名（2.1%）	3名（3.7%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　６件

・話しかけてくれる。　・一緒に手話の勉強もしてくれる。　・手話ができる子がいる。
・周りもきこえない友達。　・主に聾の学生。　・一方的な手話だったりめちゃくちゃな指文字ではある。

表３－４１．友達がいない理由

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．聞こえないことを理解してもらえなかったから	２名（0.7%）	１名（0.5%）	１名（1.2%）
２．手話ができないから	１名（0.4%）	０名（0.0%）	１名（1.2%）
３．話しかけてこないから	２名（0.7%）	１名（0.5%）	１名（1.2%）
４．その他	３名（1.1%）	１名（0.5%）	２名（2.4%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

〈その他〉　４件

・関心がない。　・地域に三名ほど友達はいるが話していることがわからなかった。
・発達障害だから。　・自分から話す事がうまくできない。

表３－４２．＜全体＞長期休暇や土日・放課後等で「楽しかったこと」や「いやだったこと」　※複数回答

時期	楽しかったこと	いやだったこと
１．夏休み	○遊んだこと(185 件) ・旅行・おでかけ（53 件） 【家族（32 件)】 【友達など（21 件)】 ・プールに行ったこと（３９件） 【家族（８件)】 【友達など(３１件)】 ・遊園地(18 件) 【家族（4 件)】 【友達など(14 件)】 ・海・川・魚釣り（20 件） 【家族（2 件)】 【友達など(18 件)】 ・夏祭りや花火を見に行ったこと（15 件） 【家族(5 件)】 【友達など(10 件)】 ・キャンプ・虫取り（24 件） 【家族(9 件)】 【友達など(15 件)】 ・映画を見に行ったこと（5 件） ・バーベキュー（5 件） ・すいか割りをしたこと（1 件） ・誕生日（2 件） ・かき氷を食べたこと(1 件) ・ゲームができたこと（2 件） ○帰省（21 件） ・祖父母・親戚の家へ行ったこと（15 件） ・いとこと遊んだ（6 件） ○学校(10 件) ・学校に行かなくてよいこと（2 件） ・クラブチームの活動や合宿に参加したこと（4 件） ・部活動や大会に参加したこと（4 件） ○デイサービスの活動（18 件） ○その他（5 件） ・まだ一年生なので未経験（2 件） ・のんびりできる（2 件） ・出校日（1 件）	○学校(58 件) ・宿題/宿題が多いこと（49 件） ・学校の行事・追試験（1 件） ・サマースクールや部活動（3 件） ・進路の決定（1 件） ・大学オープンキャンパス（1 件） ・２～３時間の部活に、往復２時間かけて暑い中行かなければならなかったこと（1 件） ・休みが長いこと（1 件） ・学校がない(1 件) ○遊び(30 件) ・友達になかなか会えない/遊べない（18 件） ・暑い/暑くて外に遊びに行けない（7 件） ・ひまなこと（2 件） ・兄弟とプールに行けないこと（1 件） ・好きな遊びがないこと（1 件） ・深いプールに入ったこと（1 件） ○家庭(8 件) ・母親に怒られたこと（2 件） ・家庭学習（2 件） ・親の都合で旅行に行けなくなった（1 件） ・留守番が多いこと（1 件） ・家族の店が忙しくてもどこにも行けない(1 件) ・ごろごろしていると怒られること(1 件) ○人間関係(6 件) ・親戚の集まりで会話がわからない（3 件） ・プールで友達と会話ができないこと（1 件） ・部活動で人間関係がひどかった（1 件） ・友達が少なく、お母さんと一緒に遊ぶか、一人で遊ぶことが多かったこと（1 件） ○その他(6 件) ・病院での訓練（1 件） ・人工内耳手術（1 件） ・ふれあいキャンプが台風で中止になったこと（1 件） ・アレルギーの試験入院（1 件） ・わからない（1 件） ・いろいろ(1 件)

2．冬休み（お正月）	○遊んだこと(243 件) ①クリスマス（87 件) ・クリスマスプレゼントをもらったこと（66 件) ・クリスマス会（11 件) ・イルミネーション（2 件) ・クリスマス（8 件) ②お正月（104 件) ・お正月（5 件) ・初詣（３件) ・お年玉をもらったこと（70 件) ・祖父母の家に行ったこと（12 件) ・お正月番組を見たこと（6 件) ・おせち（1 件) ・もちなどを作ること・食べること（5 件) ・コマで遊んだこと（1 件) ・こたつに入って寝正月（1 件) ③雪遊びをしたこと（27 件) ・スキー/スノーボードに行ったこと（8 件) ・スケートに行ったこと（3 件) ・そりで遊んだこと（1 件) ・雪合戦(12 件) ・雪で遊んだこと（2 件) ・雪だるまづくり(1 件) ④旅行・おでかけ（19 件) 【家族（8 件)】 【友達など（8 件)】 ・遊園地(3 件) ⑤誕生日（4 件) ・誕生日（4 件) ⑥ゲームができること（2 件) ⑦動画を見たこと（1 件) ○帰省（22 件) ・家族や親戚に会えたこと（22 件) ○学校（2 件) ・ゆっくり寝られること（2 件) ○デイサービスの活動（5 件) ○その他(13 件)	○学校(31 件) ・宿題/宿題が多いこと（2５件) ・部活動（2 件) ・２～３時間の部活のために往復２時間かけて寒い中行かなければならなかったこと（1 件) ・書初め練習（1 件) ・ゆっくりする時間がない（1 件) ○遊び(25 件) ・寒い/寒いから外に出たくない（8 件) ・簡単に友達と遊べなかったり話せなかったりすること（8 件) ・雪が積もらず、お友達と雪合戦が出来なかったこと（2 件) ・ひまなこと（2 件) ・クリスマスプレゼントがなくなったこと（1 件) ・クリスマス会で怖いサンタが来たこと（1 件) ・サンタがいないことを知ったこと（1 件) ・ボーリングができなかったこと（1 件) ・好きな遊びがない（1 件) ○家庭(7 件) ・兄弟喧嘩をして母に怒られたこと（1 件) ・早起き（1 件) ・大掃除（1 件) ・お手伝いをしないとお小遣いが減ること（1 件) ・旅行がキャンセルになったこと（1 件) ・留守番が多い（1 件) ・お年玉が少なかったこと（1 件) ○人間関係(8 件) ・親戚の人たちとの会話が早すぎて聞き取れなかったり、会話に入れない（7 件) ・聞こえる子たちとの関わり（1 件) ○その他(5 件) ・体調不良が続いたこと（1 件) ・家庭学習（テスト勉強）（1 件) ・することがない（1 件) ・親が仕事まで忙しくてなかなか連れてってくれない。(1 件) ・インフルエンザにかかること（1 件)

	・まだ1年生なので未経験（2件） ・いっぱいお買い物に行ったこと（1件） ・お正月のビンゴ大会（1件） ・年賀状（1件） ・大みそかに神社へ行ったこと（1件） ・いっぱいご飯を食べた（1件） ・漫画とかも読む（1件） ・祖母から小遣いをもらうこと（1件） ・家族で年を越せたこと（1件） ・学校が休み（1件） ・新年会（1件） ・田舎でのんびり過ごすこと（1件）	
3．春休み	○遊んだこと（85件） ・旅行・お出かけ(28件) 【家族　（１１件)】 【友だちなど（１７件)】 ・お花見をしたこと（11件） ・映画を見に行ったこと（8件） ・公園に行ったこと（9件） 【家族（1件)】 【友だちなど（8件)】 ・遊園地（7件） 【家族（1件)】 【友だちなど（6件)】 ・動物園・水族館（５件） ・バーベキュー（2件） ・果物狩り（2件） ・好きなことがたくさんできること（2件） ・子供会の行事（1件） ・誕生日（1件） ・ゲームができること（3件） ・漫画を読むこと（1件） ・キャンプに行ったこと（1件） ・スキーに行ったこと（1件） ・温水プール(1件) ・サッカー(1件) ・お弁当を食べたこと(1件) ○帰省（8件） ・祖父母・親戚の家に行ったこと（6件） ・お年玉をもらえる（1件） ・お小遣いがもらえる（1件） ○学校（15件） ・宿題が少なかったこと（5件） ・のんびりできること（4件） ・進級すること（2件）	○学校（47件） ・新学期・新しい学校への不安（15件） ・宿題をすること（12件） ・休みが短い（5件） ・部活動があること（2件） ・新しいクラスになじめるかどうか、友達ができるかどうかへの不安（5件） ・担任が変わることへの不安（3件） ・学校の準備が忙しかったこと。(1件) ・2～3時間の部活のために往復2時間かけて行かなければならないこと。（1件） ・勉強(1件) ・新しいメンバーがだれか気になる(1件) ○遊び（3件） ・友達と遊べない（1件） ・好きな遊びがない（1件） ・旅行に行けない(1件) ○家庭（10件） ・兄弟ゲンカしたこと（2件） ・母に怒られたこと（1件） ・パパの休みが少ない（1件） ・親戚の集まり（1件） ・忙しくて旅行に行けないこと（1件） ・お手伝い頑張らないと減給（1件） ・お兄ちゃんとお姉ちゃんと一緒に行けなかったこと(1件) ・留守番が多い(1件) ・イッパツ起きがつらい(1件) ○人間関係（3件） ・手話がへたくそで人の話があまりよくわからなかったこと（1件） ・友だちとケンカしたこと（1件） ・友達が別の学校へ行ったこと（1件） ○その他（7件）

	・新学期で張り切れるので宿題ができたこと（1 件） ・ごろごろ昼寝できること（1 件） ・部活(1 件) ・新しい先生との出会い(1 件) ○放課後等デイサービスの活動（16 件） ○習い事（3 件） ・習い事（1 件） ・友だちとダンスの練習（1 件） ・児童館に卓球をしに通えたこと（1 件） ・ピアノの発表会（1 件） ○その他(4 件) ・まだ 1 年生なので未経験（2 件） ・入院（1 件） ・バスに乗った(1 件)	・病院の検査や注射（2 件） ・花粉症になったこと（1 件） ・やることがない（1 件） ・くしゃみがでる(1 件) ・分からない(1 件) ・怒られたこと(1 件)
4．土日・祝日	○遊んだこと　（118 件） ・旅行・お出かけ（31 件） 【家族　（10 件）】 【友だちなど（21 件）】 ・好きなことができること（11 件） ・運動/スポーツをすること（7 件） ・読書・漫画を読むこと（10 件） ・公園など外で遊んだこと（12 件） 【兄弟姉妹（1 件）】 【友達など（11 件）】 ・室内で遊んだこと（3 件） 【兄弟姉妹（2 件）】 【友達など（1 件）】 ・テレビ/動画を見ること（9 件） ・遊戯施設（3 件） （ボーリング・カラオケ・ゲームセンター） ・外食できること（1 件） ・映画を見ること（3 件） ・ゲームができる（27 件） ・祖父母の家に行く（1 件） ○習い事（4 件） ・習い事に行くこと（4 件） ○学校(30 件) ・部活動（2 件） ・両親がそばにいることや話ができること（2 件） ・勉強ができること（1 件） ・勉強をしなくていいこと（1 件）	○学校（15 件） ・宿題・勉強/宿題が多いこと（13 件） ・部活動（2 件） ○遊び（36 件） ・外出できないこと（6 件） ・何もすることがないこと（17 件） ・休日が早く終わるように感じてしまうこと（2 件） ・なかなか友だちと遊べない（5 件） ・遊ぶ友だちがいないこと（2 件） ・なかなかテレビを見れない（1 件） ・留守番が多い（2 件） ・休みが少ないこと（1 件） ○家庭（13 件） ・家族とのトラブル（4 件） ・家族が忙しい（2 件） ・お父さんに会うこと（1 件） ・お母さんに怒られること（1 件） ・家の手伝い（1 件） ・宿題をやりなさいと言われること（1 件） ・掃除をすること（1 件） ・祖母の家に行くこと（1 件） ・家ではすることがないこと（1 件） ○人間関係（1 件） ・コーダに仲間外れにされることが多い。バカにされる（1 件） ○習い事（4 件） ・習い事（2 件）

	・ゆっくり休めること/のんびり過ごせること（11 件） ・朝ゆっくり寝られること（13 件） ○デイサービスの活動（3 件） ・デイサービス（3 件） ○その他（8 件） ・お菓子作り（2 件） ・漫画や小説を作成すること（2 件） ・自転車（2 件） ・祭りに行くこと（2 件）	・習い事をしたいが受け入れてもらえない/怖い（2 件） ○デイサービスの活動（1 件） ・デイサービスでいろんなスタッフから沢山叱られたこと（1 件） ○その他（8 件） ・体調不良/怪我（2 件） ・子供会の行事（1 件） ・外出するとき、周りがうるさすぎて補聴器しても聞こえないこと（1 件） ・水があるところではあまりあそべないこともある（1 件） ・一発で起きるのがつらい（1 件） ・暑い（1 件） ・わからない（1 件）
5．放課後	○遊んだこと(111 件) ・旅行・お出かけ(4 件) 【友だちなど（4 件)】 ・友だちと話すこと（8 件) ・公園など外で遊ぶこと（13 件) 【兄弟姉妹(1 件)】 【友達など(12 件)】 ・お絵描きや工作をすること（3 件) ・社会教育施設で過ごすこと（3 件) ・おやつを食べること（3 件) ・料理をすること（2 件) 【家族と（1 件)】 【友だちなど（1 件)】 ・メールを送り合うこと（2 件) ・本・漫画を読むこと（6 件) ・ゲームをすること（42 件) ・テレビやDVD/動画を見ること（21 件) ・祖父母の家に行くこと(1 件) ○学校・部活動（32 件) ・部活動（16 件) ・のんびり過ごすこと（4 件) ・宿題/勉強（5 件) ・友だちと一緒に帰ること（5 件) ・寄宿舎の先輩と話すこと（1 件) ・体育館など中で遊ぶこと（2 件) 【兄弟姉妹（1 件)】 【友達など（1 件)】 ・人形遊び（1 件) ○デイサービスの活動(13 件)	○学校（51 件) ・帰り際に、途中で友達と別れること（1 件) ・周りがうるさくて補聴器しても聞こえない（1 件) ・雨の日は運動場で遊べないため、体を思いっきり動かせないこと（1 件) ・通学・帰宅に時間がかかること（10 件) ・下校の時間が遅い（1 件) ・友達との話が続かない（1 件) ・兄弟の帰宅時間の問題で学校で遊べない（1 件) ・帰りの 15 分がめんどくさい（1 件) ・バス通学（2 件) ・歩くのがつかれる（1 件) ・1 人で帰ること（1 件) ・リュックが重いこと（1 件) ・宿題・勉強/宿題が多いこと（21 件) ・苦手な宿題が出たとき（1 件) ・宿題が終わらないと遊べないこと（1 件) ・部活動があること（2 件) ・部活動ができなかったこと（1 件) ・学童に行くこと（1 件) ・疲れたこと（2 件) ○遊び（17 件) ・友だちと遊べないこと（11 件) ・買い物（2 件) ・テレビが見られないこと（1 件) ・何もすることがないこと（1 件) ・好きなことができない（1 件) ・ゆっくりできない（1 件)

	・デイサービス(13 件) ○習い事(14 件) ・習い事（12 件） ・療育センター（1 件） ・子ども教室（1 件） ○その他 ・音楽（2 件） ・睡眠をとること（1 件）	○家庭（3 件） ・父と一緒にいるのが嫌（1 件） ・ママが忙しく一緒に公園に行けないこと(1 件) ・一人で留守番が恐い時がある（1 件） ○人間関係（1 件） ・友だちの話が聞き取れないこと（1 件） ○習い事（4 件） ・習い事があること（3 件） ・習い事ができないこと（1 件） ○デイサービス(4 件) ・放課後デイサービスの時間が短くなること。(1 件) ・放課後デイサービスに行きたくないこと（2 件） ・放課後デイサービスに行けないこと（1 件） ○その他（1 件） ・弁当（1 件）

表３－４３．＜ろう学校在籍＞長期休暇や土日・放課後等で「楽しかったこと」や「いやだったこと」　※複数回答

時期	楽しかったこと	いやだったこと
1．夏休み	○遊んだこと(139 件) ・旅行・おでかけ(39 件) 【家族(24 件)】 【友だちなど(15 件)】 ・プールに行ったこと(34 件) 【家族(8 件)】 【友だちなど(26 件)】 ・遊園地(14 件) 【家族で(3 件)】 【友達など(11 件)】 ・海・川・魚釣り(13 件) ・夏祭り・花火(10 件) 【家族(4 件)】 【友達など(6 件)】 ・キャンプ・虫取り(18 件) 【家族(6 件)】 【友達など(12 件)】 ・映画を観に行ったこと(4 件) ・バーベキュー(4 件) ・誕生日(2 件) ・ゲームができたこと(1 件) ○帰省(17 件) ・祖父母・親戚の家へ行ったこと(12 件) ・いとこと遊んだ(5 件) ○学校(5 件) ・クラブチームの活動や合宿に参加したこと(2 件) ・部活動や大会に参加したこと(3 件) ○デイサービスの活動(9 件) ○その他 ・まだ一年生なので未経験(1 件)	○学校（35 件) ・宿題/宿題が多いこと（31 件) ・学校の行事・追試験(1 件) ・サマースクールや部活動(1 件) ・２～３時間の部活に、往復 2 時間かけて暑い中行かなければならなかったこと(1 件) ・学校がない(1 件) ○遊び(19 件) ・友達になかなか会えない、遊べない（１１件) ・暑い/暑くて外に遊びに行けない(3 件) ・ひまなこと(2 件) ・兄弟とプールに行けないこと(1 件) ・好きな遊びがない(1 件) ・深いプールに入ったこと(1 件) ○家庭(6 件) ・母親に怒られたこと(2 件) ・親の都合で旅行に行けなくなった(1 件) ・留守番が多いこと(1 件) ・家族の店が忙しくてどこにも行けない(1 件) ・ごろごろしてると怒られること。(1 件) ○人間関係(4 件) ・親戚の集まりで会話がわからない(3 件) ・友達が少なく、お母さんと一緒に遊ぶか 1 人で遊ぶことが多かった。(1 件) ○その他(5 件) ・病院での訓練(1 件) ・人工内耳手術（1 件) ・ふれあいキャンプが台風で中止になったこと。(1 件) ・アレルギーの試験入院(1 件) ・わからない(1 件)
2．冬休み（お正月）	○遊んだこと(171 件) ①クリスマス（64 件) ・クリスマスプレゼントをもらったこと(50 件) ・クリスマス会（7 件) ・イルミネーション（2 件) ・クリスマス(5 件) ②お正月(69 件) ・お正月（2 件) ・初詣（3 件)	○学校(20 件) ・宿題/宿題が多い(18 件) ・部活動(1 件) ・２～３時間の部活のために往復 2 時間かけて寒い中行かなければならなかったこと(1 件) ○遊び(20 件) ・寒い・寒いから外に出たくない(6 件) ・簡単に友達と遊べなかったり話せなかったりすること(6 件) ・雪が積もらなかったこと(1 件)

	・お年玉をもらったこと（41 件） ・祖父母の家に行ったこと（12 件） ・お正月番組を見たこと（5 件） ・おせち（1 件） ・もちなどを作ること・食べること（4 件） ・こたつに入って寝正月（1 件） ③雪遊びをしたこと（20 件） ・スキー/スノーボードに行ったこと（4 件） ・スケートに行ったこと（3 件） ・そりで遊んだこと(1 件) ・雪合戦(12 件) ④旅行・おでかけ（14 件） 【家族(6 件)】 【友だちなど（5 件)】 ・遊園地(3 件) ⑤誕生日（3 件） ・誕生日（3 件） ⑥ゲームができること（1 件） ○帰省（18 件） ・家族や親戚に会えたこと（18 件） ○学校（1 件） ・ゆっくり寝られること（1 件） ○デイサービスの活動（5 件） ○その他(9 件) ・まだ 1 年生なので未経験（1 件） ・いっぱいお買い物に行ったこと（1 件） ・お正月のビンゴ大会（1 件） ・年賀状（1 件） ・大みそかに神社へ行ったこと（1 件） ・いっぱいご飯を食べた（1 件） ・漫画とかも読む（1 件） ・祖母から小遣いをもらうこと（1 件） ・家族で年を越せたこと（1 件）	・ひまなこと(2 件) ・クリスマスプレゼントがなくなったこと(1 件) ・サンタさんがいないことを知ったこと(1 件) ・ボーリングができなかったこと(1 件) ・好きな遊びがない。(1 件) ・クリスマス会で怖いサンタが来たこと(1 件) ○家庭(6 件) ・兄弟ゲンカして母におこられる(1 件) ・早起き(1 件) ・お手伝いをしないとお小遣いが減ること(1 件) ・旅行がキャンセルになったこと(1 件) ・留守番が多い(1 件) ・お年玉が少ない(1 件) ○人間関係(6 件) ・聞こえる子たちとの関わり(1 件) ・親戚の人たちとの会話が速すぎて聞き取れなかったり、会話に入れない(5 件) ○その他（3 件） ・することがない（1 件） ・親が仕事まで忙しくてなかなか連れてってくれない。(1 件) ・インフルエンザにかかること（1 件）

3．春休み	○遊んだこと（59 件） ・旅行・お出かけ（16 件） 【家族　（6 件）】 【友だちなど（10 件）】 ・お花見をしたこと（10 件） ・映画を見に行ったこと（6 件） 【家族（3 件）】 【友だちなど（3 件）】 ・公園に行ったこと（6 件） 【家族（1 件）】 【友だちなど（5 件）】 ・遊園地に行ったこと（4 件） ・動物園・水族館（５件） ・バーベキュー（1 件） ・果物狩り（1 件） ・好きなことがたくさんできること（1 件） ・子供会の行事（1 件） ・誕生日（1 件） ・ゲームができること（3 件） ・漫画を読むこと（1 件） ・温水プール（1 件） ・サッカー（1 件） ・お弁当を食べたこと（1 件） ○帰省（7 件） ・祖父母・親戚の家に行ったこと（6 件） ・お小遣いをもらえること（1 件） ○学校（8 件） ・宿題が少なかったこと（3 件） ・のんびりできること（1 件） ・新学期で張り切れるので宿題ができたこと（1 件） ・ごろごろ昼寝できること（1 件） ・部活（1 件） ・新しい先生との出会い（1 件） ○放課後等デイサービスの活動（16 件） ○習い事（2 件） ・習い事（1 件） ・ピアノの発表会（1 件） ○その他（3 件） ・まだ 1 年生なので未経験（1 件） ・入院（1 件） ・バスに乗った（1 件）	○学校（29 件） ・新学期・新しい学校への不安（9 件） ・宿題をすること（6 件） ・勉強（1 件） ・休みが短い（5 件） ・部活動があること（1 件） ・新しいクラスになじめるかどうか、友達ができるかどうかへの不安（2 件） ・担任が変わることへの不安（1 件） ・新しい担任がだれか気になる（1 件） ・新しいメンバーがだれか気になる（1 件） ・学校の準備が忙しかったこと。（1 件） ・2～3 時間の部活のために往復 2 時間かけて行かなければならないこと。（1 件） ○遊び（3 件） ・友達と遊べない（1 件） ・好きな遊びがない（1 件） ・旅行に行けない（1 件） ○家庭（10 件） ・兄弟ゲンカしたこと（2 件） ・母に怒られたこと（1 件） ・パパの休みが少ない（1 件） ・親戚の集まり（1 件） ・忙しくて旅行に行けないこと（1 件） ・お手伝い頑張らないと減給（1 件） ・お兄ちゃんとお姉ちゃんと一緒に行けなかったこと（1 件） ・留守番が多い（1 件） ・イッパツ起きがつらい（1 件） ○人間関係（3 件） ・手話がへたくそで人の話があまりよくわからなかったこと（1 件） ・友だちとケンカしたこと（1 件） ・友達が別の学校へ行ったこと（1 件） ○その他（6 件） ・病院の検査や注射（2 件） ・花粉症になったこと（1 件） ・くしゃみがでる（1 件） ・やることがない（1 件） ・分からない（1 件）

4．土日・祝日	○遊んだこと(109 件) ・旅行・お出かけ（29 件） 【家族　（9 件)】 【友だちなど（20 件)】 ・祖父母の家に行く（1 件） ・ゲーム（25 件） ・好きなことができること（10 件） ・運動/スポーツをすること（5 件） ・読書・漫画を読むこと（9 件） ・公園など外で遊んだこと（12 件） 【兄弟姉妹（1 件)】 【友達など（11 件)】 ・室内で遊んだこと（3 件） 【兄弟姉妹（2 件)】 【友達など（1 件)】 ・テレビ/動画を見ること（9 件） ・遊戯施設（3 件） （ボーリング・カラオケ・ゲームセンター） ・映画を見ること（3 件） ○習い事(4 件) ・習い事に行くこと（4 件） ○学校(29 件) ・部活動（2 件） ・両親がそばにいることや話ができること（2 件） ・勉強ができること（1 件） ・勉強をしなくていいこと（1 件） ・ゆっくり休めること/のんびり過ごせること（11 件） ・朝ゆっくり寝られること（12 件） ○デイサービスの活動（3 件） ・デイサービス（3 件） ○その他（8 件） ・お菓子作り（2 件） ・漫画や小説を作成すること（2 件） ・自転車（2 件） ・祭りに行くこと（2 件）	○学校（15 件） ・宿題・勉強/宿題が多いこと（13 件） ・部活動（2 件） ○遊び（24 件） ・外出できないこと（4 件） ・何もすることがないこと（13 件） ・休日が早く終わるように感じてしまうこと(1 件) ・なかなか友だちと遊べない（3 件） ・遊ぶ友だちがいないこと（1 件） ・留守番が多い（1 件） ・休みが少ない（1 件） ○家庭（12 件） ・家族とのトラブル（3 件） ・家族が忙しい（2 件） ・お父さんに会うこと（1 件） ・お母さんに怒られること（1 件） ・家の手伝い（1 件） ・宿題をやりなさいと言われること（1 件） ・掃除をすること（1 件） ・祖母の家に行くこと（1 件） ・家ではすることがないこと（1 件） ○人間関係（1 件） ・コーダに仲間外れにされることが多い。バカにされる（1 件） ○習い事（2 件） ・習い事（1 件） ・習い事をしたいが受け入れてもらえない/怖い(1 件) ○デイサービスの活動（1 件） ・デイサービスでいろんなスタッフから沢山叱られたこと（1 件） ○その他（6 件） ・体調不良/怪我（2 件） ・子供会の行事（1 件） ・水があるところではあまりあそべないこともある（1 件） ・わからない（1 件） ・一発で起きるのがつらい（1 件）

5．放課後	○遊んだこと(86 件) ・旅行・お出かけ（4 件） 【家族　（0 件)】 【友だちなど（4 件)】 ・祖父母の家に行くこと(1 件) ・友だちと話すこと（7 件） ・公園など外で遊ぶこと（10 件） 【兄弟姉妹（1 件)】 【友達など（9 件)】 ・体育館など中で遊ぶこと（2 件） 【兄弟姉妹（1 件)】 【友達など（1 件)】 ・人形遊び（1 件） ・お絵描きや工作をすること（3 件） ・社会教育施設で過ごすこと（2 件） ・おやつを食べること（3 件） ・料理をすること（2 件） 【家族（1 件)】 【友だちなど（1 件)】 ・メールを送り合うこと（2 件） ・本・漫画を読むこと（5 件） ・ゲームをすること（28 件） ・テレビやDVD/動画を見ること（16 件） ○学校・部活動（24 件） ・部活動（16 件） ・のんびり過ごすこと（3 件） ・宿題/勉強（4 件） ・友だちと一緒に帰ること（1 件） ○デイサービスの活動(12 件) ・デイサービス（12 件） ○習い事（12 件） ・習い事（11 件） ・療育センター（1 件） ○その他　（2 件） ・音楽（2 件）	○学校（33 件） ・帰り際に、途中で友達と別れること（1 件） ・雨の日は運動場で遊べないため、体を思いっきり動かせないこと（1 件） ・通学・帰宅に時間がかかること（9 件） ・下校の時間が遅い(1 件) ・友達と話が続かない(1 件) ・兄弟の帰宅時間の問題で学校で遊べない（1 件） ・帰りの 15 分がめんどうくさい（1 件） ・バス通学（2 件） ・宿題・勉強/宿題が多いこと（11 件） ・苦手な宿題が出たとき(1 件) ・宿題が終わらないと遊べないこと（1 件） ・部活動があること（2 件） ・疲れたこと（1 件） ○遊び（12 件） ・友だちと遊べないこと（8 件） ・買い物（2 件） ・好きなことができない(1 件) ・ゆっくりできない(1 件) ○家庭（2 件） ・父と一緒にいるのが嫌（1 件） ・ママが忙しく一緒に公園に行けない(1 件) ○習い事（4 件） ・習い事があること（3 件） ・習い事ができないこと（1 件） ○デイサービス（4 件） ・放課後デイサービスの時間が短くなること。(1 件) ・放課後デイサービスに行きたくないこと（2 件） ・放課後デイサービスに行けないこと(1 件) ○その他（1 件） ・弁当（1 件）

表３－４４．＜通常の学校在籍＞長期休暇や土日・放課後等で「楽しかったこと」や「いやだったこと」　※複数回答

時期	楽しかったこと	いやだったこと
１．夏休み	○遊んだこと（46 件） ・旅行・おでかけ（１４件） 【家族（8 件）】 【友達など（6 件）】 ・プールに行ったこと（5 件） ・遊園地（4 件） 【家族（1 件）】 【友達など（3 件）】 ・海・川・魚釣り（7 件） 【家族（2 件）】 【友達など（5 件）】 ・夏祭りや花火を見に行ったこと（5 件） 【家族（1 件）】 【友達など（4 件）】 ・キャンプ・虫取り（6 件） 【家族（3 件）】 【友達など（3 件）】 ・映画を見に行ったこと（1 件） ・バーベキュー（1 件） ・すいか割りをしたこと（1 件） ・かき氷を食べたこと（1 件） ・ゲームができたこと（1 件） ○帰省（4 件） ・祖父母・親戚の家へ行ったこと（3 件） ・いとこと遊んだ（1 件） ○学校（5 件） ・学校に行かなくてよいこと（2 件） ・クラブチームの活動や合宿に参加したこと（2 件） ・部活動や大会に参加したこと（1 件） ○デイサービスの活動（9 件） ○その他(4 件) ・まだ一年生なので未経験（1 件） ・のんびりできる（2 件） ・出校日（1 件）	○学校（23 件） ・宿題/宿題が多いこと（18 件） ・サマースクールや部活動（2 件） ・進路の決定（1 件） ・大学オープンキャンパス（1 件） ・休みが長いこと（1 件） ○遊び（11 件） ・友達に会えない/遊べない（７件） ・暑い/暑くて外に遊びに行けない（4 件） ○家庭（2 件） ・家庭学習（2 件） ○人間関係（2 件） ・プールで友達と会話ができないこと（1 件） ・部活動で人間関係がひどかった（1 件） ○その他（1 件） ・いろいろ（1 件）

2．冬休み（お正月）	○遊んだこと(72 件) ①クリスマス（23 件） ・クリスマスプレゼントをもらったこと（16 件） ・クリスマス会（4 件） ・クリスマス（3 件） ②お正月（35 件） ・お正月（3 件） ・お年玉をもらったこと（29 件） ・お正月番組を見たこと（1 件） ・もちなどを作ること・食べること（1 件） ・コマで遊んだこと（1 件） ③雪遊びをしたこと（7 件） ・スキー/スノーボードに行ったこと（4 件） ・雪で遊んだこと（2 件） ・雪だるまづくり（1 件） ④旅行・おでかけ（5 件） 【家族（2 件）】 【友達など（3 件）】 ⑤誕生日（1 件） ・誕生日（1 件） ⑥ゲームができること（1 件） ・動画を見たこと（1 件） ○帰省（4 件） ・家族や親戚に会えたこと（4 件） ○学校（1 件） ・ゆっくり寝られること（1 件） ○その他（4 件） ・まだ 1 年生なので未経験（1 件） ・学校が休み（1 件） ・新年会（1 件） ・田舎でのんびり過ごすこと（1 件）	○学校（10 件） ・宿題/宿題が多いこと（7 件） ・部活動（1 件） ・書初め練習（1 件） ・ゆっくりする時間がない（1 件） ○遊び（5 件） ・寒い/寒いから外に出たくない（2 件） ・簡単に友達と遊べなかったり話せなかったりすること（2 件） ・雪が積もらず、お友達と雪合戦が出来なかったこと（1 件） ○家庭（1 件） ・大掃除（1 件） ○人間関係（2 件） ・親戚の人たちとの会話が早すぎて聞き取れなかったり、会話に入れない（2 件） ○その他（2 件） ・体調不良が続いたこと（1 件） ・家庭学習(テスト勉強)（1 件）

3．春休み	○遊んだこと（26 件） ・旅行・お出かけ(12 件) 【家族　(5 件)】 【友だちなど（7 件)】 ・お花見をしたこと（1 件） ・映画を観に行ったこと（2 件） ・公園に行ったこと（3 件） ・遊園地（3 件） 【家族（1 件)】 【友だちなど（2 件)】 ・バーベキュー（1 件） ・果物狩り（1 件） ・好きなことがたくさんできること（1 件） ・キャンプに行ったこと（1 件） ・スキーに行ったこと（1 件） ○帰省(1 件) ・お年玉をもらえる（2 件） ○学校（7 件） ・宿題が少なかったこと（2 件） ・のんびりできること（3 件） ・進級すること（2 件） ○習い事（2 件） ・友だちとダンスの練習（1 件） ・児童館に卓球をしに通えたこと（1 件）	○学校(18 件) ・新学期・新しい学校への不安（6 件） ・宿題をすること（6 件） ・部活動があること（1 件） ・新しいクラスになじめるかどうか、友達ができるかどうかへの不安（3 件） ・担任が変わることへの不安（2 件） ○遊び(1 件) ・友達と遊べない（1 件） ○その他(1 件) ・怒られたこと(1 件)
4．土日・祝日	○遊んだこと(9 件) ・旅行・お出かけ(2 件) 【家族　(1 件)】 【友だちなど（1 件)】 ・好きなことができること（1 件） ・運動/スポーツをすること（2 件） ・読書・漫画を読むこと（1 件） ・外食できること（1 件） ・ゲームができる（2 件） ○学校(1 件) ・朝ゆっくり寝られること（1 件）	○遊び（12 件） ・外出できないこと（2 件） ・何もすることがないこと（4 件） ・休日が早く終わるように感じてしまうこと(1 件) ・なかなか友だちと遊べない（2 件） ・遊ぶ友だちがいないこと（1 件） ・なかなかテレビを見れない（1 件） ・留守番が多い（1 件） ○家庭（1 件） ・家族とのトラブル（1 件） ○習い事（2 件） ・習い事(1 件) ・習い事をしたいが受け入れてもらえない/怖い（1 件） ○その他（2 件） ・外出するとき、周りがうるさすぎて補聴器して

		も聞こえないこと（1 件） ・暑い(1 件)
5．放課後	○遊んだこと(25 件) ・お出かけ(0 件) ・友だちと話すこと（1 件） ・公園など外で遊ぶこと（3 件） ・社会教育施設で過ごすこと（1 件） ・本・漫画を読むこと（1 件） ・ゲームをすること（14 件） ・テレビやDVD/動画を見ること（5 件） ○学校・部活動(7 件) ・のんびり過ごすこと（1 件） ・宿題/勉強（1 件） ・友だちと一緒に帰ること（4 件） ・寄宿舎の先輩と話すこと（1 件） ○デイサービスの活動(1 件) ・デイサービス(1 件) ○習い事(2 件) ・習い事(1 件) ・子ども教室(1 件) ○その他（1 件） ・睡眠をとること（1 件）	 ○学校（18 件） ・周りがうるさくて補聴器しても聞こえない（1 件） ・通学・帰宅に時間がかかること（1 件） ・歩くのがつかれる（1 件） ・1 人で帰ること（1 件） ・リュックが重いこと（1 件） ・宿題・勉強/宿題が多いこと（10 件） ・部活動ができなかったこと（1 件） ・学童に行くこと（1 件） ・疲れたこと（1 件） ○遊び（5 件） ・友だちと遊べないこと（3 件） ・テレビが見られないこと（1 件） ・何もすることがないこと（1 件） ○家庭（1 件） ・一人で留守番が恐い時がある（1 件） ○人間関係（1 件） ・友だちの話が聞き取れないこと（1 件）

表３－４５．好きな場所やよく行くところ（複数回答）　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．公園	137名（49.1%）	97名（50.3%）	37名（45.1%）
２．デパート	84名（30.1%）	68名（35.2%）	14名（17.1%）
３．放課後等デイサービス	73名（26.2%）	61名（31.6%）	11名（13.4%）
４．お菓子屋さん	75名（26.9%）	47名（24.4%）	17名（20.7%）
５．本屋	96名（34.4%）	67名（34.7%）	26名（31.7%）
６．図書館	60名（21.5%）	39名（20.2%）	20名（24.4%）
７．友達の家	66名（23.7%）	38名（19.7%）	28名（34.1%）
８．祖父母の家	116名（41.6%）	89名（46.1%）	27名（32.9%）
９．マンガ喫茶店	10名（3.6%）	6名（3.1%）	４名（4.9%）
１０．コンビニ	95名（34.1%）	65名（33.7%）	28名（34.1%）
１１．ファミレス	49名（17.6%）	40名（20.7%）	８名（9.8%）
１２．好きな場所や行くところはない	９名（3.2%）	５名（2.6%）	４名（4.9%）
１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる	12名（4.3%）	９名（4.7%）	２名（2.4%）
１４．その他	45名（16.1%）	31名（16.1%）	14名（17.1%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる理由＞　12件

金銭的理由　５件　・お金がかかる

時間的理由　２件　・時間がかかる

距離的理由　３件　・遠いから

その他　３件　・面倒くさいから　・一人で行けない　・目が悪くなる。

〈その他〉　57件

アミューズメント施設　18件　・映画館　（５件）　・ゲームセンター　（３件）
・レゴランド　（２件）　・カラオケ　（２件）　・ボーリング　（２件）

公共施設　５件　・児童館　（３件）　・プール　・体育館

店　13件　・イオン　（３件）　・おもちゃ屋　（２件）　・スタバ　（２件）

観光　11件　・寺、神社　（２件）　・川、山、海など自然の場所　（２件）

自宅　４件　・自分の部屋

習い事　５件　・塾

その他　１件　・一人で安心できる場所、静かなところ

表３－４６．【名古屋】好きな場所やよく行くところ（複数回答）　※複数回答

	総数（63名）	ろう学校在籍（40名）	通常の学校在籍（23名）
１．公園	28名（44.4%）	19名（47.5%）	９名（39.1%）
２．デパート	13名（20.6%）	10名（25.0%）	３名（13.0%）
３．放課後等デイサービス	16名（25.4%）	15名（37.5%）	１名（4.3%）
４．お菓子屋さん	11名（17.5%）	７名（17.5%）	４名（17.4%）
５．本屋	23名（36.5%）	17名（42.5%）	６名（26.1%）
６．図書館	14名（22.2%）	８名（20.0%）	６名（26.1%）
７．友達の家	19名（30.2%）	９名（22.5%）	10名（43.5%）
８．祖父母の家	25名（39.7%）	18名（45.0%）	７名（30.4%）
９．マンガ喫茶店	３名（4.8%）	３名（7.5%）	０名（0.0%）
１０．コンビニ	20名（31.7%）	13名（32.5%）	７名（30.4%）
１１．ファミレス	11名（17.5%）	７名（17.5%）	４名（17.4%）
１２．好きな場所や行くところはない	２名（31.7%）	１名（2.5%）	１名（4.3%）
１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる	３名（4.8%）	３名（7.5%）	０名（0.0%）
１４．その他	16名（25.4%）	13名（32.5%）	３名（13.0%）

＜１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる理由＞　８件

・ディズニーランド　（理由）お金がないから。
・ゲームセンター　（理由）お金がかかる。目が悪くなる。
・おもちゃ屋さん。（理由）時間がかかる
・（場所記載なし）　（理由）時間がないから。
・（場所記載なし）　（理由）お金が足りないから。
・（場所記載なし）　（理由）一人で行けない
・（場所記載なし）　（理由）遠方だから。
・（場所記載なし）　（理由）自転車で遠くに行きたいが危ない

＜その他＞　28件

アミューズメント施設　６件

・ゲームセンター　・カラオケ　・ボーリング　・映画館　・ラウンドワン　・レゴランド

習い事　２件　・スイミングスクール　・サッカー

店　12件　・イオン（３件）　・おもちゃ屋（２件）　・スタバ（２件）　・ツタヤ
・遠くのスーパー　・コストコ　・米津屋　・店

観光　５件　・お城巡り　・東京都　・三重県　・大阪府　・山登り

家　３件　・自宅。自分の部屋

表３－４７.【西尾張】好きな場所やよく行くところ（複数回答）　※複数回答

	総数（50名）	ろう学校在籍（37名）	通常の学校在籍（13名）
１．公園	25名（50.0%）	17名（45.9%）	６名（46.2%）
２．デパート	14名（28.0%）	10名（27.0%）	２名（15.4%）
３．放課後等デイサービス	９名（18.0%）	７名（18.9%）	２名（15.4%）
４．お菓子屋さん	17名（34.0%）	13名（35.1%）	４名（30.8%）
５．本屋	21名（42.0%）	16名（43.2%）	４名（30.8%）
６．図書館	14名（28.0%）	10名（27.0%）	４名（30.8%）
７．友達の家	13名（26.0%）	７名（18.9%）	６名（46.2%）
８．祖父母の家	25名（50.0%）	20名（54.1%）	４名（30.8%）
９．マンガ喫茶店	１名（2.0%）	０名（0.0%）	１名（7.7%）
１０．コンビニ	19名（38.0%）	11名（29.7%）	６名（46.2%）
１１．ファミレス	14名（28.0%）	11名（29.7%）	２名（15.4%）
１２．好きな場所や行くところはない	０名（0.0%）	０名（0.0%）	０名（0.0%）
１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる	３名（6.0%）	１名（2.7%）	１名（7.7%）
１４．その他	９名（18.0%）	３名（8.1%）	４名（30.8%）

＜１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる理由＞　１件

・（場所記載なし）　　（理由）遠方だから。

＜その他＞　11件

・映画館　（３件）　・自分の家　（２件）　・プール　・パン屋　・体育館　・児童館
・卓球教室　・ショッピングモール

表３－４８．【東尾張①】好きな場所やよく行くところ（複数回答）　※複数回答

	総数（17名）	ろう学校在籍（7名）	通常の学校在籍（9名）
１．公園	７名（41.2%）	３名（42.9%）	３名（33.3%）
２．デパート	４名（23.5%）	３名（42.9%）	１名（11.1%）
３．放課後等デイサービス	２名（11.8%）	０名（0.0%）	１名（11.1%）
４．お菓子屋さん	４名（23.5%）	２名（28.6%）	２名（22.2%）
５．本屋	５名（29.4%）	３名（42.9%）	１名（11.1%）
６．図書館	６名（35.3%）	２名（28.6%）	３名（33.3%）
７．友達の家	２名（11.8%）	１名（14.3%）	１名（11.1%）
８．祖父母の家	４名（23.5%）	３名（42.9%）	１名（11.1%）
９．マンガ喫茶店	２名（11.8%）	０名（0.0%）	２名（22.2%）
１０．コンビニ	４名（23.5%）	２名（28.6%）	２名（22.2%）
１１．ファミレス	１名（5.9%）	１名（14.3%）	０名（0.0%）
１２．好きな場所や行くところはない	１名（5.9%）	０名（0.0%）	１名（11.1%）
１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる	０名（0.0%）	０名（0.0%）	０名（0.0%）
１４．その他	４名（23.5%）	２名（28.6%）	２名（22.2%）

（注）在籍校不明１名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞ ４件

・ゲームセンター　・テーマパーク　・寺、神社　・温泉

表３－４９．【東尾張②】好きな場所やよく行くところ（複数回答）　※複数回答

	総数（14名）	ろう学校在籍（6名）	通常の学校在籍（6名）
１．公園	９名（64.3%）	４名（66.7%）	３名（50.0%）
２．デパート	３名（21.4%）	０名（0.0%）	２名（33.3%）
３．放課後等デイサービス	０名（0.0%）	０名（0.0%）	０名（0.0%）
４．お菓子屋さん	２名（14.3%）	１名（16.7%）	１名（16.7%）
５．本屋	７名（50.0%）	２名（33.3%）	４名（66.7%）
６．図書館	２名（14.3%）	２名（33.3%）	０名（0.0%）
７．友達の家	２名（14.3%）	２名（33.3%）	０名（0.0%）
８．祖父母の家	４名（28.6%）	４名（66.7%）	０名（0.0%）
９．マンガ喫茶店	０名（0.0%）	０名（0.0%）	０名（0.0%）
１０．コンビニ	６名（42.9%）	１名（16.7%）	４名（66.7%）
１１．ファミレス	２名（14.3%）	２名（33.3%）	０名（0.0%）
１２．好きな場所や行くところはない	２名（14.3%）	２名（33.3%）	０名（0.0%）
１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる	０名（0.0%）	０名（0.0%）	０名（0.0%）
１４．その他	２名（14.3%）	１名（16.7%）	１名（16.7%）

（注）在籍校不明２名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　２件
・児童館　　・神社

表３－５０．【西三河】好きな場所やよく行くところ（複数回答）　※複数回答

	総数（80名）	ろう学校在籍（63名）	通常の学校在籍（17名）
１．公園	42名（52.5%）	31名（49.2%）	11名（64.7%）
２．デパート	35名（43.8%）	32名（50.8%）	３名（17.6%）
３．放課後等デイサービス	26名（32.5%）	25名（39.7%）	１名（5.9%）
４．お菓子屋さん	15名（18.8%）	13名（20.6%）	２名（11.8%）
５．本屋	24名（30.0%）	18名（28.6%）	６名（35.3%）
６．図書館	17名（21.3%）	13名（20.6%）	４名（23.5%）
７．友達の家	21名（26.3%）	15名（23.8%）	６名（35.3%）
８．祖父母の家	35名（43.8%）	27名（42.9%）	８名（47.1%）
９．マンガ喫茶店	２名（2.5%）	２名（3.2%）	０名（0.0%）
１０．コンビニ	24名（30.0%）	20名（31.7%）	４名（23.5%）
１１．ファミレス	12名（15.0%）	12名（19.0%）	０名（0.0%）
１２．好きな場所や行くところはない	４名（5.0%）	２名（3.2%）	２名（11.8%）
１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる	４名（5.0%）	３名（4.8%）	１名（5.9%）
１４．その他	６名（7.5%）	４名（6.3%）	２名（11.8%）

＜１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる理由＞　３件

・（場所記載なし）　（理由）時間がないから。
・（場所記載なし）　（理由）お金が足りないから。
・（場所記載なし）　（理由）自転車で遠くに行きたいが危ない

＜その他＞　８件

・川、山、海など自然な場所。（2件）　・遊園地　・家　・一人で安心できる場所　・静かなところ
・レゴランド　・鞍ヶ池

表３－５１．【東三河】好きな場所やよく行くところ（複数回答）　※複数回答

	総数（47名）	ろう学校在籍（34名）	通常の学校在籍（13名）
１．公園	24名（51.1%）	19名（55.9%）	５名（38.5%）
２．デパート	12名（25.5%）	９名（26.5%）	３名（23.1%）
３．放課後等デイサービス	20名（42.6%）	14名（41.2%）	６名（46.2%）
４．お菓子屋さん	13名（27.7%）	９名（26.5%）	４名（30.8%）
５．本屋	13名（27.7%）	９名（26.5%）	４名（30.8%）
６．図書館	６名（12.8%）	３名（8.8%）	３名（23.1%）
７．友達の家	９名（19.1%）	４名（11.8%）	５名（38.5%）
８．祖父母の家	19名（40.4%）	13名（38.2%）	６名（46.2%）
９．マンガ喫茶店	１名（2.1%）	０名（0.0%）	１名（7.7%）
１０．コンビニ	19名（40.4%）	14名（41.2%）	５名（38.5%）
１１．ファミレス	７名（14.9%）	５名（14.7%）	２名（15.4%）
１２．好きな場所や行くところはない	２名（4.3%）	２名（5.9%）	０名（0.0%）
１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる	１名（2.1%）	１名（2.9%）	０名（0.0%）
１４．その他	８名（17.0%）	６名（17.6%）	２名（15.4%）

＜１３．好きな場所や行きたいところはあるが、行くのは「だめ」と言われる理由＞　１件

・（場所記載なし）　　（理由）一人で行けない

＜その他＞　１１件

・児童館　・ディズニーリゾート　・スタバ　・塾　・空手　・イオンモールなどのキッズスペース
・映画館　・ゲームセンター　・スーパー　・スポーツジム　・カラオケ

表３－５２．大好きな人や、あこがれの人の有無

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．いる	198名（71.0%）	138名（71.5%）	58名（70.7%）
２．いない	19名（6.8%）	９名（4.7%）	10名（12.2%）
回答なし	62名（22.2%）	―――	―――

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

表３－５３．大好きな人や、あこがれの人の内訳（複数回答）　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．身近な人　親	109名（39.1%）	79名（40.9%）	41名（50.0%）
先生	53名（19.0%）	41名（21.2%）	12名（14.6%）
きょうだい	70名（25.1%）	47名（24.4%）	22名（26.8%）
友達	110名（39.4%）	83名（43.0%）	27名（32.9%）
先輩	45名（16.1%）	38名（19.7%）	７名（8.5%）
祖父母	73名（26.2%）	52名（26.9%）	21名（25.6%）
その他	８名（2.9%）	６名（3.1%）	２名（2.4%）
２．芸能人	76名（27.2%）	53名（27.5%）	22名（26.8%）
３．スポーツ選手	55名（19.7%）	37名（19.2%）	18名（22.0%）
４．歴史上の人物	29名（10.4%）	19名（9.8%）	10名（12.2%）
５．その他	27名（9.7%）	18名（9.3%）	５名（6.1%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜１．その他＞　９件

・いとこ　（３件）　・おじ　（３件）　・犬　（２件）　・おば

＜２．芸能人＞　109件

お笑い　39件　・サンシャイン池崎　（５件）　・志村けん　（３件）　・渡辺直美　（３件）
・ひょっこりはん　（３件）　・アキラ100%　（３件）　・みやぞん　（３件）　・出川哲郎　（３件）
・お笑い芸人　（２件）　・ブルゾンちえみ　（２件）　・にゃんこすたー　（２件）
・ロッチの中岡さん（２件）　ほか

役者　22件　・広瀬すず　（２件）　・斎藤工　・北村一輝　ほか

歌手　17件　・アイドル　（２件）　・岩田剛典(三代目 JSB)　（２件）　・TWICE　（２件）
・BTS　（２件）　ほか

ジャニーズ　８件　・櫻井翔　（２件）　ほか

ユーチューバー　12件　・ヒカキン　（４件）　・セイキン　（２件）　・西野歩乃華　（２件）　ほか

モデル　５件　・藤田ニコル　（２件）　ほか

その他　６件　・いないいないばぁ！にでているお姉さん　・アイアンマン
・仮面ライダービルドの桐生戦兎　・ミラクルミラクル
・半分、青いのスズメちゃんとリツ君　・漫画家

＜３．スポーツ選手＞

水泳選手　７件　・池江選手（２件）　・水泳選手（２件）　ほか

野球選手　14 件　・大谷翔平（３件）　・野球選手（２件）　ほか

サッカー選手　22 件　・本田選手（４件）　・ネイマール（４件）　・メッシ（３件）
・C・ロナウド（３件）　・サッカー選手（２件）　ほか

フィギュア選手　11 件　・羽生結弦（７件）　・浅田真央（２件）　ほか

陸上選手　５件　・陸上選手（２件）　ほか

卓球選手　８件　・福原愛（３件）　ほか

その他　８件　・石川選手（２件）　・田臥勇太選手　・内村良一選手　・平野歩夢
・佐藤琢磨　・たくさんいる。　・ロスイング

＜４．歴史上の人物＞

先史　２件　・エレミヤ　・イザヤ

古代　３件　・聖徳太子（２件）　・聖武天皇

中世　２件　・親鸞上人　・源義経

近世　25 件　・織田信長（９件）　・徳川家康（７件）　・坂本龍馬（２件）　ほか

近代　８件　・西郷隆盛（２件）　ほか

現代　２件　・ダイアナ妃　・オバマ前米大統領

＜５．聞こえない人＞

身近な人　14 件　・友達（４件）　・先輩（２件）　・母の友人（２件）　・デイサービスのスタッフさん（２件）ほか

芸能人　３件　・ハンドサイン　・韓国のアイドル　・さんごさん（手話ダンサー）

歴史上の人物　２件　・ヘレン・ケラー（２件）

不明　８件　・織田君　・伊藤さん　・れみちゃん　・はる君　・ラゴユユ　・ミフェリシタス
・もえかちゃん　・ちはるちゃん

表３－５４．自分の話をきいてくれる人

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．いる	206名（73.8%）	135名（69.9%）	67名（81.7%）
２．いない	８名（2.9%）	７名（3.6%）	１名（1.2%）
回答なし	11名（3.9%）	―――	―――

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

表３－５５．自分の話をきいてくれる相手（複数回答）　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
親	156名（55.9%）	102名（52.8%）	51名（62.2%）
先生	43名（15.4%）	27名（14.0%）	16名（19.5%）
きょうだい	44名（15.8%）	26名（13.5%）	17名（20.7%）
友達	97名（34.8%）	65名（33.7%）	31名（37.8%）
先輩	７名（2.5%）	５名（2.6%）	２名（2.4%）
祖父母	24名（8.6%）	19名（9.8%）	４名（4.9%）
その他	９名（3.2%）	６名（3.1%）	３名（3.7%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

表３－５６．話し相手に伝える内容　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．悩みや不満、困っていること	107名（38.4%）	69名（35.8%）	37名（45.1%）
２．おもしろかった今日のできごと	150名（53.8%）	102名（52.8%）	46名（56.1%）
３．学校からの連絡事項	39名（14.0%）	22名（11.4%）	17名（20.7%）
４．その他	14名（5.0%）	11名（5.7%）	３名（3.7%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　３件

・わからないこと
・テレビニュースの情報
・世間話

表３－５７．親からしてほしいこと・親からしてほしくないこと（279名）　※複数回答

親からしてほしいこと	父	母	親からしてほしくないこと	父	母
1．抱きしめてほしい	50名（17.9%）	92名（33.0%）	1．他のきょうだいと比較する	28名（10.0%）	43名（15.4%）
2．ほしいものを買ってほしい	123名（44.1%）	129名（46.2%）	2．自分だけが会話に入れない	28名（10.0%）	30名（10.8%）
3．話をよく聞いてほしい	80名（28.7%）	107名（38.4%）	3．自分のことで家族がケンカする	30名（10.8%）	30名（10.8%）
4．わかるように説明してほしい	80名（28.7%）	80名（28.7%）	4．勉強がわかるまで頑張らせる	28名（10.0%）	39名（14.0%）
5．ほめてほしい	86名（30.8%）	103名（36.9%）	5．発音ができるまで頑張らせる	16名（5.7%）	32名（11.5%）
6．特にない。今のままで十分。	45名（16.1%）	52名（18.6%）	6．とくにない。	79名（28.3%）	76名（27.2%）
7．その他	1名（0.4%）	4名（1.4%）	7．その他	5名（1.8%）	8名（2.9%）

＜その他＞親からしてほしいこと　4件

父　1件

・あそんでほしい

母　3件

・あそんでほしい　　・笑ってほしい　　・趣味をほめてほしい

＜その他＞親からしてほしくないこと　11件

父　4件

・怒ってほしくない。　　・勉強中にうるさい。　　・きょうだいと親との話が理解できない。間に入れない。
・こちょこちょするのはうっとうしい。

母　7件

・怒りすぎること　　・勉強にうるさい。　　・兄弟と親との話が理解できない。間に入れない。
・怒ること　　・心配し過ぎる　　・すぐ怒る　　・細かい

表３－５８．自分がしたくないと思っていること　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．発声・発音訓練	31名（11.1%）	24名（12.4%）	７名（8.5%）
２．声を出して話すこと	９名（3.2%）	７名（3.6%）	１名（1.2%）
３．勉強	82名（29.4%）	48名（24.9%）	31名（37.8%）
４．習い事	28名（10.0%）	19名（9.8%）	９名（11.0%）
５．学校に行くこと	18名（6.5%）	11名（5.7%）	７名（8.5%）
６．病院でする検査（聴力検査等）	39名（14.0%）	24名（12.4%）	15名（18.3%）
７．学校でする検査（聴力検査等）	26名（9.3%）	13名（6.7%）	12名（14.6%）
８．補聴器（人工内耳）をつけること	19名（6.8%）	９名（4.7%）	９名（11.0%）
９．きこえる友達と遊ぶこと	16名（5.7%）	15名（7.8%）	１名（1.2%）
１０．きこえない友達と遊ぶこと	７名（2.5%）	５名（2.6%）	２名（2.4%）
１１．手話を覚えること	13名（4.7%）	３名（1.6%）	10名（12.2%）
１２．その他	12名（4.3%）	７名（3.6%）	５名（6.1%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　１２件

日常生活　８件

・お片付け（２件）
・話がきこえないまま、すすめること。
・怒ること。（なんか、怒るのめんどくさいな、というかんじになるときがある。）
・野菜をたべるのがイヤ。　・細かく詳しく話すこと　・皿を運ぶこと　・宿題をするのがいや

その他　４件

・理解できてないので、わからない。（２件）　・健聴が良い　・おばけやしきがこわい

表３－５９．イライラしたり、むかついたりする時　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．聞きなおしたら、めんどうくさいと言われた	**48名（17.2%）**	**28名（14.8%）**	**17名（20.7%）**
２．発音についてからかわれた	32名（11.5%）	19名（9.8%）	17名（8.8%）
３．聞こえないことをからかわれた	23名（8.2%）	17名（8.8%）	４名（4.9%）
４．どうしていいかわからない	**62名（22.2%）**	41名（21.2%）	19名（23.2%）
５．聞こえないから、周りに静かにしてほしいと言ってもわかってもらえない	30名（10.8%）	**18名（9.3%）**	**11名（13.4%）**
６．困っていることをうまく説明できない	**82名（29.4%）**	53名（27.5%）	26名（31.7%）
７．順番をとばされる	27名（9.7%）	20名（10.4%）	７名（8.5%）
８．早口で言われる	41名（14.7%）	26名（13.5%）	14名（17.1%）
９．かわいそうと同情され、してほしくないことを勝手にされてしまう	21名（7.5%）	15名（7.8%）	５名（6.1%）
１０．耳元に近づいて大声で話される	24名（7.5%）	**13名（6.7%）**	**10名（12.2%）**
１１．その他	21名（7.5%）	13名（6.7%）	７名（8.5%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　２８件

家族間で　６件

・兄弟げんか　（２件）　・父と母の会話が長く続き、うるさい‼
・お母さんに勉強しろと言われた　・母にゲームを制限されること　・父の言うことがうるさい

対人関係で　14件

・喧嘩したとき　（２件）　・お前が悪いと人のせいにされる。　・いじってくる　・からかってくる
・ナメられる。　・いやな言葉やジェスチャーをされたとき　・あほとか言われること
・聴こえる人とかかわりがない　・嫌なことを言われたとき　・上下関係
・手話で話してくれない(通じない)　・〃ちょっとした軽蔑　・無視

その他　８件

・疲れて眠い時　・きちんとしない。　・漢字の練習で上手に書けないとイライラする。キーっとなる。
・まだそこまで考えがない　・寝起きのとき　・よくわからないけどムカツク時がある
・問題が分からない。　・何かに失敗したとき。

表３－６０．今、一番困っていること（３つまで回答）

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．友達とうまく遊べない	22名（7.9%）	15名（7.8%）	６名（7.3%）
２．いじめや仲間はずれ	11名（3.9%）	９名（4.7%）	２名（2.4%）
３．勉強の方法がわからない	**43名（15.4%）**	**25名（13.0%）**	**17名（20.7%）**
４．授業についていけない	22名（7.9%）	**10名（5.2%）**	**10名（12.2%）**
５．グループで話し合いする時、話している内容がわからない	**49名（17.6%）**	**21名（10.9%）**	**28名（34.1%）**
６．部活をやりたいけど入れない	３名（1.1%）	３名（1.6%）	０名（0.0%）
７．進路のことで悩んでいる	**40名（14.3%）**	30名（15.5%）	９名（11.0%）
８．周りで起こっていることがわからない	36名（12.9%）	19名（9.8%）	16名（19.5%）
９．訳もわからずに怒られる	35名（12.5%）	22名（11.4%）	12名（14.6%）
１０．自分だけ笑えない	16名（5.7%）	**７名（3.6%）**	**９名（11.0%）**
１１．携帯にメール機能がない	14名（5.0%）	９名（4.7%）	５名（6.1%）
１２．携帯を持たせてもらえない	17名（6.1%）	12名（6.2%）	５名（6.1%）
１３．その他	69名（24.7%）	53名（27.5%）	16名（19.5%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　１８件

日常生活スキル　２件

・自分で服を脱いだり着たりが難しい。　　・覚えないといけないことが多い。

対人関係/コミュニケーション　11件

・母がいつもイライラして怒っている。
・なんでも連絡はラインの時代で、ガラケーの人は、時々壁を感じてしまうこと。大事な連絡が来ないこと。
・会話について行けないこと。　　・自分が言いたいことが相手に伝わらない
・空気が読めない　　・先生によりルールが違うこと　　・上下関係
・部活へ行きたいけど行きづらさがある。　　・友達が意地悪をしてくること
・みんなからいっせいに話されると困る。　　・お友達とうまく遊べないときも時々あるみたいです。

その他　４件

・まだ自分が「困る」ということが本人は理解できていないみたい。　（３件）
・なかなか近くに朱印をもらえる寺がない　　・ゲームに頼ってしまうことがある

表３－６１．得意なこと

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．ある	171名（61.3%）	113名（58.5%）	55名（67.1%）
２．ない	15名（5.4%）	9名（4.7%）	5名（6.1%）
回答なし	93名（33.3%）	―――	―――

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜１．学校で＞ ２７２件

運動 124件

・スポーツ/運動 （20件） ・走ること （14件） ・水泳が得意 （11件） ・サッカー （９件）
・かけっこ （９件） ・ドッジボール （７件） ・バスケ （７件） ・卓球 （６件）
・バレー （５件） ・ダンス （６件） ・テニス （４件） ・鉄棒 （３件） ・コマ回し （２件）
・マラソン （２件） ・ドッチビー （２件） ・リレー （２件） ・ボール競技 （２件）
・バドミントン （２件） ・マット運動 （２件） ほか

教科 62件

・算数/数学 （14件） ・体育 （10件） ・理科 （９件） ・国語 （９件） ・図工/美術 （８件）
・英語 （６件） ・音楽 （２件） ・社会 （２件） ほか

芸術 32件

・絵 （16件） ・工作 （６件） ・歌/音楽 （５件） ・リコーダー（３件） ・太鼓 （２件）

対人関係 11件

・部活で活躍すること （２件） ・みんなを盛り上げる （２件） ・友達に勉強を教えること （２件）
ほか

その他 43件

・勉強を頑張れること （８件） ・覚えること （３件） ・字を書くこと （２件）
・漢字が得意 （２件） ・観察 （２件） ・読書 （２件） ・手伝い （２件）
・パソコン （２件） ・掃除 （２件） ・創作 （２件） ・ブラブラ星人を踊る
・発表、運動会、劇 ・砂遊び ・泥遊び ・折り紙 ・作り笑い ・あやとり
・歴史 ・力仕事 ・ボール遊び ・遊ぶこと ・けん玉が得意 ・ブランコ ・そうじ
・ケガにたえる ・虫をさわれる

＜２．家庭内で＞ １９３件

家事 104件

・料理/お菓子作り （43件） ・整理整頓 （14件） ・掃除 （11件） ・洗濯する/干す/畳む （10件）
・お手伝い （８件） ・洗い物をする （５件） ・風呂掃除 （４件） ・布団を敷く（３件）
・きょうだいの面倒を見る（２件） ほか

運動 15件

・自転車 （３件） ・体を動かすこと （２件） ・ダンス （２件） ほか

余暇 57 件

・ゲームする （17 件）　・工作 （８件）　・読書 （６件）　・絵を描くこと （５件）
・レゴ作り （３件）　・折り紙 （３件）　・ピアノを弾くこと （３件）　・歌を歌う （２件）
・しりとり （２件）　・あやとり （２件）　ほか

その他 17 件

・ご飯を食べること （２件）　・挨拶　・勉強　・絵日記　・やりたいきもちがある
・自分のことは自分でやる　・長い時間起きていられること　・早寝早起き
・すぐ寝られること　・夜尿が少ない　・マッサージ　・肩をもむこと
・プールで目を開けて潜れる　・ハムスターの世話　・難しい技術をすぐ解決
・絵本をよんで単語を覚えるのが得意

＜３．その他＞　１１０件

スポーツ 55 件

・釣り （９件）　・水泳 （４件）　・サッカー （４件）　・スケートボード/キックボード （４件）
・走ること （３件）　・サイクリング （３件）　・ダンス （３件）　・キャンプ/山登り （３件）
・虫取り （２件）　・スノボー （２件）　・木登り （２件）　ほか

芸術 24 件

・絵を描く （12 件）　・ピアノ （３件）　・工作 （５件）　・歌を歌うこと （２件）
・バレエ　ほか

余暇 20 件

・ゲーム （４件）　・本や漫画を読む （３件）　・パズル （２件）　・変顔　・物まねなど
・かくれんぼ　・遊びに行くこと　・プラモデルを作ること　・ドライブ　・花の水やり　ほか

その他 11 件

火おこし （３件）　暗記 （２件）　字を書くこと （２件）　物を運ぶ　暗算　物を直すこと
挨拶

表３－６２．将来、してみたい仕事や、こんな人になりたいという夢や希望

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．ある	179名（64.2%）	120名（62.2%）	50名（61.0%）
２．あるけれども、諦めている	6名（2.2%）	5名（2.6%）	1名（1.2%）
３．なし	25名（9.0%）	**11名（5.7%）**	**14名（17.1%）**
回答なし	69名（24.7%）	―――	―――

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜２．あきらめている理由＞　６件

・耳の聞こえない人がなるには難しいから（２件）
・ラプンツェルになりたかった
・学力が足りないから。
・聴覚障害の他身体障害を持っていて、やることは難しいから。
・接客業だからと言われた。

表３－６３．将来、してみたい仕事やこんな人になりたいという夢や希望　※複数回答

	総数（279名）	ろう学校在籍（193名）	通常の学校在籍（82名）
１．スポーツ選手	**31名（11.1%）**	21名（10.9%）	10名（12.2%）
２．警察官	**16名（5.7%）**	14名（7.3%）	２名（2.4%）
３．運転手・運転士	**14名（5.0%）**	10名（5.2%）	３名（3.7%）
４．消防士	９名（3.2%）	７名（3.6%）	１名（1.2%）
５．板前・コック・すし職人	**13名（4.7%）**	11名（5.7%）	２名（2.4%）
６．パン・ケーキ・お菓子屋	**35名（12.5%）**	24名（12.4%）	11名（13.4%）
７．花屋	９名（3.2%）	６名（3.1%）	３名（3.7%）
８．芸能・タレント	**16名（5.7%）**	12名（6.2%）	４名（4.9%）
９．教員	10名（3.6%）	８名（4.1%）	２名（2.4%）
１０．看護師	７名（2.5%）	６名（3.1%）	１名（1.2%）
１１．保育士	**11名（3.9%）**	６名（3.1%）	５名（6.1%）
１２．医師	７名（2.5%）	５名（2.6%）	２名（2.4%）
１３．テレビ・アニメキャラクター	**15名（5.4%）**	13名（6.7%）	２名（2.4%）
１４．その他	70名（25.1%）	45名（23.3%）	23名（28.0%）

（注）在籍校不明４名のため、一部の統計に合計が合わない所がある。

＜その他＞　３２件

・ユーチューバー　（３件）　・美容師　（３件）　・ネイリスト　（３件）　・薬剤師　（２件）
・美容の関係　（２件）　・大工　（２件）　・漫画家　（２件）　・医療関係の仕事　（２件）
・画家　（２件）　・絵本作家　・体操選手　・動物園で働きたい。　・エンジニア
・お坊さん、神職　・山小屋の人　・スタバ　・犬の訓練士　・車の整備士　・IT 関係（パソコン）
・教えないよー

質問に答えてみて、他に言いたいこと。（自由記述）

※個人を特定した文章以外は基本的に原文のまま掲載しました。

〇社会の聴覚障害への理解について　１３件

・ろうあ協会の方は、人工内耳のことをよく思っていらっしゃらない方が多いと伺いました。同じ難聴者同士ですし、もっと協力出来るといいなと思うし、なぜそうなってしまうのか、とても悲しかったし、理解出来るような仕組みがあるといいなと思います。
・難聴者にとってもっと不便を便利な世の中に変えてほしい。
・人工内耳の認知度が低い
・聴覚障害者は目で見ても分かりにくい障害者なので補聴器をつけていることで聞こえると思われる。
・世間では「ろう者は耳が聞こえない」しかわかっていない。「筆談でお願いします」と言われても文章を書くのが苦手な聾者はたくさんいる。もっと聾者ということを世間の人にわかってもらわないと変わっていかないと思う。
・まだ補聴器や人工内耳を付けている子どもなどを見ると偏見的な目で見てくる方などが多くもう少し理解などをして欲しいと思う。だから私は知らない人に人工内耳の事を何か言われたら視力が悪い人はメガネをかけるのと一緒なんだよなどというように言ってあります。
・耳が聞こえないから、かわいそう、と言われて、確かに耳が聞こえないというのは不便だし、かわいそうと思われてもしょうがないけど、嫌なこととか、聞きたくないことは、聞こえない人は、補聴器外せば何も聞こえないし、嫌みとかいわれるときに、聞こえないというように役立つときもあるから、全然かわいそうじゃないと思う。
・聞こえる人が手話を覚えてほしい。私は、日本語を覚えたい。
・耳が聞こえないと補聴器を使えば聞こえると思っている人が多い。違うんだぞ！と思うことがある。
・特別支援学校に子供が通っていると、母親はなかなか仕事につくことができないし、できるようになったとしても時間にとても制限がある。長期休みも困る。子どもが落ち着いたらまた仕事ができるようになるといわれるが、そのころにはもう復帰できる場所がほとんどない。少しでもキャリアを継続できる環境が欲しい。子どもが障害児であっても、大きな生活の変化なく暮らしたい。障害児だから仕方ないと思わなければいけない環境なのが残念です。
・サッカースクールに見学に行ったら断られた（補聴器つけているため）。
・手話で話ができる場所がたくさんあるといい。電車やバスに乗るときに手話が通じると安心です。
・根本的な問題として、幼少期からろう学校の子はろう学校の子と過ごし健聴者と別々になっていて、お互いにお互いを理解する機会がない。そもそもろう学校だけにいると自分の困り感に気付けないし、気付いても相手に伝える技術を身につける時が少ない。健聴者側もろう難聴の人とふれ合う機会がなく相手の困り感がわからず誤解が生じる。

〇行政に対する要望　１２件

・ろう学校への送迎についてバスを出してほしい。
・保健所の人が気やすく〝聞こえているから大丈夫！〟と言わないでほしい。知識もないのに…。役場は基本、助けてくれない。
・自治体で対応が全く異なることに疑問を感じる。愛知県は優しいが三重県は話にならない。
・スクリーニング検査をしたら、あいち小児センター、名市大など、そこを紹介してほしい。たらいまわしにされて何か月も過ごしたため。
・声が行政に届くようになればもっと良いのに
・補聴器の補助は出るのに人工内耳の補助はどうしてでないのか
・私の子どもは障害者手帳を取得するのに 10 年かかりそれまでの間補聴器購入・修理がすべて自費だった為金銭的にすごく大変だったし苦労しました。手帳がないと補助金が出ないというのは私は変だと思いました。生後すぐに聴力が悪いのが分かり補聴器を付けるようになり、市・区役所に聞きに行った時に言われました。基準に達していないと手帳が取得が出来ないのは多少理解は出来るが手帳がなくっても何らかの

形で補助金が出るようになれば良いのかなって思います。私のように自費で金銭的に苦労している方はいると思います。補聴器購入・修理費はけして安いものではないので子どもも小学校、中学年くらいになるまで何度も修理や買い替えをしているので。
・ろう学校の存在を早く教えてあげてほしい。
・調査してアンケートを集めるだけでなく実際に行動に移してほしい。
・子供の１年、１日は大人の１年１日とは違ってとても成長が早いので、１日でも早く対応して頂きたいです。地域の保育園、小学校なども加配をつけても知識のある先生がつくわけではない。どの場所でも障害がある子どもが平等の教育が受けられるようにしてほしい。
・健常児は幼稚園なども自分で選べるが、障害のある子供は進路の選択が出来ない。障害があっても好きな場所で自分で選択できる社会にしてほしい。
・産後や体調をくずしても、近所の保育園の一時保育や夏休みの利用はだめだと言われる。ルールだと言われるが、こちらは体調をくずし、死ぬかと思った。

〇ろう学校・教員に対する要望　８件
・学校で生徒のいる前で生徒の悪口を言う先生がいます。
・寄宿舎の部屋を新しくしてください。
・聾学校の先生なのに手話が使えない先生が多い。聞き取れる子はいいけど本当に聞こえない子供は困ってしまう。「聾学校なのに、、、」と思ってしまう。
・ろう学校の先輩後輩の上下関係が強いのはよいことだと思うのですが、さすがに”やりすぎ”というときがあります。後輩の場合、立場が弱いです。相手は敵に回すと怖い人です。どうすればいいですか？　先生には伝えてありますが直りません。
・聾学校は一人一人のレベルに合わせるというよりも、みんなのレベルに合わせて進めている気がする。
・ろう学校の先生には、早急に手話をきちっと勉強して欲しい。（子どもが分かるぐらいのまちがいもある。言っていることと、表現が逆の時もある。）
・療育などでは、モニタリングを定期的に行っていて、できるようになったこと、出来なかったことに関しては、できるようにする為に何を行うか親も何を努力すべきかをしっかり書面で教えてくれるし、見通しが親も立つが、ろう学校は担任との懇談でも、何をすべきか具体的な指導もあまりなく、あいまいでわかりにくい。
・ろう学校の預かり時間が短すぎる。特別に支援が必要な子どもの集まりなのでもっと長い時間しっかり教育を行ってほしい。ろう学校での懇談会では説明が足りない。例えば「精神的に弱いので、近所の小学校には行けません」と言われても、教育相談からずっと近所の小学校でと言っていたので、具体的な改善方法を提示してほしい。「得意なことで、自信をつけさせましょう」と言われて、「とび箱が得意で運動ができるので」と言ってもとび箱の時間があるわけでもなく運動する機会も少ないので、得意なことを発表する場面が少ない。保育園などでは、鉄棒、折り紙、あやとりなどが得意で皆に教えてあげて自信をつけたりなど、様々な体験，経験を通して自分らしさに自信をつけていくが、とにかく経験量も少ないし、得意なことを友達に教えたり、年下の子に教えて自信をつけるなどの経験も乏しく先生の指示に動けるかにばかり重点をおいていて、主体性や、自信が育つとは思えない。幼児期の運動量にしては少ないと思う。

〇通常の学校・教員に対する要望　５件
・一般の学校の先生に、聴覚障害についてもっと理解があるように働きかけてほしいです。ろう学校の先生は、皆、手話やコミュニケーションにたけているので、そんな先生がより多く一般の学校でも育ってくれると、不安がなくなる気がします‼
・高校に入り、英語のリスニングテストが中学よりも長い文章となるため紙面で見せてもらっても時間がかかるようになってしまった。その結果リスニングテストの時間が他の生徒よりも長い分筆記テストの時間を減らされ、不公平だなと感じたよう。中等度難聴は高度難聴に比べてリスニングの配慮が少ないと思う。同じ平均 50 dBでも高音が聞こえない場合は英語を聞き取る力が落ちるので、そういう面の配慮が欲しい。ろう学校を離れて普通校に行くと、気軽に相談できる場所がなく、普通校でがんばっている難聴児の情報もあまり入ってこない。どういった配慮をしてもらっているか、どういう事が困ったりするのかを事前に分かると進学する時ありがたい。

・地域の小学校に保育園と同じクラスの子と一緒に通いたいけど、先生もみんなも手話がないからわからなくて通えない。手話がない、わからないのが理由で仲の良い友達と別々になったのがとても悲しい。（保育園では手話があったから。）
・学校での様子は担任の先生から話を伺ったり、本人から聞いたりしていますが、本人が本当に困っていることがしっかりとわかってあげられているか不安です。子どもが親や先生、友達に相談できる環境づくりが大切だとは思いますが、なかなか難しいです。
・学校にもどうしたらいいのか。モンスターペアレントにはなるつもりはないけど担任の先生は頑張っているのだろうけど合わない。一言一言が悩みにつながる。

〇保護者の悩みについて　５件
・最近重なっていろいろ思うこと。人に娘のことで注意され怒りすぎてしまう自分…。娘も言葉がうまくお友達、先生、ときに家族に伝わらずにもがいていたり、つらい思いをしているかもしれないと思いながら娘に何が今大切なのか（いっぱいあり過ぎて）順番的なものがわからなく。娘の得意が見てあげれてないように思います。図工、絵は好きなんですが…ではない何か。自分は分かっているようで娘のこともわかってないのかもしれません。娘を守る→守るとは？　何から？　どのような形？　何を？　守ることはよくない⁉厳しいほうがこの子のため⁉
・兄弟姉妹の行事と日程がかさなって悲しい思いをさせる。
・地区の行事に参加しても友達がいない。
・春休み、夏休みなど長期の休みに遊ぶ友達が近くにいない。ろう学校の人数が少なく２年に１回 PTA がまわってくるなど親の負担も大きい。他の障害を持ったお子さんも増えてきて、そこでの運動のバランスや体験のバランスがむずかしくなってきているのかなと感じる。
・進路相談は、ろう学校だけの視点ではなく、ST、心理の先生、療育機関の先生、進路先の先生、両親など、様々な視点から相談したい。ろう学校の先生は威圧的で相談しにくい。障害がある子供の親は働けない。（育児休暇の終了する３才からろう学校での母子通園がはじまるため。）仕事をやめるしかない。経済的にとても困る。小学部に上がっても家が遠いと正社員はあきらめざるをえない。なぜ母子で一緒なのかきちんと理由を説明して頂きたい。障害がある子供を産んだら働けないという差別だと感じる。

〇学校生活について　４件
・本人は今通っている学校では楽しく過ごしているみたいです。私も良く学校に行ってますので、子供の様子は見たりしてます。いつもニコニコして楽しそうにしてます。
・クラスで話せる友達がいない。ほかのクラスに仲の良い友達が行ってしまった。一人でいるのは気楽だけどさみしいです。ただ会話しようにも相手の言っていることがほとんどわからない。
・人工内耳の発達や少子化でクラスに１人などがある。
・18 年間ずっと１人クラスだと思うと心配だと感じる。遊びが広がらないなと思う。子供同士の関わりやいざこざの少なさも気になります。

〇進路・就労について　３件
・障害を持つ子の親御さんはみな同じだと思いますが、目先の進路ではなく、大人になった時どんな道があるのかを知りたいと思います。そして、その道はできるだけたくさん作ってあげたいと思っていると。その前に道が閉ざされてしまっている気がしてなりません。自分で調べはしますが、限界もあります。将来を見据えた進路、情報等を教えていただけると助かると思います。
・ニュースにもなっていますが、聴力に不安がある人の離職が増加しているとあります。大阪では、「大阪ろう就労支援センター」が設立されて半年、支援をしているが、離職転職が多く就労支援センターも全国にあるわけではない。
・トヨタやスズキの工場に行ったり、働いてる人に話を聞いても、結局ろうの人はろうの人の集団があり、別な感じがすると聞きました。別々の学校にいて、社会に出て急に対応出来るものではないのでしょうか？　就職後のケアも必要だと思う。

〇字幕について　３件
・テレビで字幕がないと困っています

・日本の映画でも字幕があってほしい。
・うちの場合、息子が聾者で将来作業所を考えている。でも作業所で手話を使える人がいない。安心して通わせられる作業所が家の近くに欲しい。

〇障害の受容について　２件
・どうして聞こえなくなったんだろう？
・ちゃんと聞こえるようになりたい。周りの状況について行けるようになりたい。

〇相談できる場について　２件
・まだ小１なので本人に聞いても問題として本人が困ってたりしているのがあいまいな点が多く、これから先たくさんの悩みとか出てくるのではと思います。そういう時に相談できる身近な人がいれば本人にとっても親にとっても頼もしいことだろうなと思うので、つながりを持っていきたいと思います。そういうつながりの場があるといいと思います。
・周りの人に相談できない・障害について相談できる場所が増えるといいです

〇重複聴覚障害児のコミュニケーション・子育て・進路について　２件
・重複障害児で、知的障害があり、言葉が出ていません。少しの手話と、少しの言葉の聞き取りができます。普段は指さし、表情を主で子どもとコミュニケーション・意思疎通をとっています
・難聴の重複障害（知的・四肢）はかなり少数みたいで、進路を考えるたび、難聴だから、知的があるから、四肢が不自由だから…と受け入れを暗に拒否されつらい思いをした経験もあります。

〇その他　１４件
・子どもが質問に答えられず、母が代筆しました。
・本人にいろいろ聞きましたが、なにぶんまだ４歳なので質問の意図をつかむのは難しく、正確な回答を導くのは無理でした。ところどころ回答しましたが、不十分なため、有効回答とするかどうかはお任せします。本アンケートがどのような形になるかわかりませんが、集計結果をいただけるようであればうれしく思います。我が子と同様、中程度の子どもがどのような回答をしているのか非常に気になります。
・細かい感情の動きはまだわからないので、アンケートも回答できない箇所、親の想像で回答したところもあります。
・まだまだ知らないことが沢山あります。今回のアンケートでもわからないことがあります。本人が理解できるところだけ答えました。
・低学年の子供、特に聴覚と別に障害を持っている子には質問内容が難しいと思いました。やっと会話のやり取りができてきて、という子の場合にはむずかしいかと。
・問１５以降は子供がまだ幼稚部４歳児クラスなので、難しくあまり応えられませんでした。すみません。
・障害者である私たちのために、アンケートまで取ってくださってありがとうございます！　そして、頑張ってください‼
・子どもとまだしっかりコミュニケーションが取れないため、聞きだして書くことはできません。
・本人への質問は予想で記入してあります。（ほぼ答えることができないため）
・聾学校に行っていない難聴児とその親の実態調査は行わないのか？
・発音のことについて、発音がうまくできなくて、笑われて、最初はむかついたけど、笑われることによって、悔しさがあり、少しずつできるようになると思う。
・手話サークルなどでいろんなことをおしえてもらえることもある。
・手話が出来るようになりたいけど覚えられるか不安だ。
・障害者協会あてに許諾を求めてください。

３－４．きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実態調査のまとめ

（1）保護者の調査

○聴覚障害児の子育て環境の充実への希求

表３－２５「保護者の子育ての悩み」の結果について、全体の結果としては、学校の選択や進路が子どもに合っているか不安が最も多く 44.8%、補聴器・人工内耳にかかる費用が重いが 32.3%、仕事の両立 29.0%であった。ろう学校在籍と通常の学校在籍で結果の差があった質問項目は、学校の選択や進路が子どもに合っているか不安と、補聴器・人工内耳にかかる費用が重いの質問項目であった。

表３－３５「子どもの教育環境に関する情報を入手したところ」の結果について、ろう（特別支援）学校の先生が最も多く 63.4%であった。次いで、ろう（特別支援）学校の PTA や保護者 47.7%、インターネット 38.4%、病院（医師・言語聴覚士など）37.6%、同じ障害のある当事者から 29.7%、難聴児の保護者団体（難聴児を持つ親の会、人工内耳友の会等）12.2%と続いた。ろう学校在籍児の場合は、様々な機会に聴覚障害児の子育てや教育に関する情報を得ることができる。一方、通常の学校在籍児の場合は、インターネット、病院、難聴児の保護者団体から情報を得る割合が高いことがわかった。

何れの学校を選択しても、子どもの学校選択は迷うところであるが、通常の学校在籍の保護者の方が悩む方が多いという結果となった。また、補聴機器の購入については助成金を得ることができるが、保護者としては最新の補聴器が発売されたら助成がもらえなくても個人負担で最新の補聴器に買い換える方も多い。特に、通常の学校在籍の場合、人工内耳装用児が多いため、費用面の悩みがあることが推察された。

○保護者の相談機関の充実の必要性

表３－１９～表３－２３「各年代ごとに、主に受けた相談支援・療育に関する結果」から、０～３歳代の時期に、主に受けた相談支援・療育機関は、ろう学校・幼稚部が最も多く 68.5%であった。その後、ろう学校に在籍した子どもで、ろう学校の幼稚部や教育相談に通った子どもは 77.7%であった。しかし、通常の学校で学ぶ子どもで、ろう学校・幼稚部や教育相談に通った子どもは 47.6%であった。

表３－２４「子どものことで特に気になることや心配事」の結果については、以下の通りであった。

・０～３歳代では、コミュニケーション 46.2%が最も多く、次いで、発達の遅れ 42.3%、きこえの障害 34.1%
・４～６歳代では、コミュニケーションが最も多く 62.0%で、次いで、友達との人間関係 53.8%、発達の遅れ 38.4%
・７～12 歳では、友達との人間関係が最も多く 48.7%で、次いで、コミュニケーション 46.2%、学習面の遅れ 43.0%
・13～15 歳では、コミュニケーションが最も多く 24.7%で、次いで、友達との人間関係 23.3%、子どもの進路 23.3%
・16～18 歳代では、子どもの進路が最も多く 17.9%で、次いで、子どもの将来 16.5%、友達との人間関係 14.0%

表３－２７「子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの」の結果について、話し合える聴こえる友だちが最も回答が多く 76.7%で、次いで、話し合える聴こえない友だち 65.9%、親以外に子どもが何でも話せる大人の存在 55.9%、子どもに理解できる方法で勉強を教えてもらえる塾 53.8%、放課後等デイサービス 44.4%、聴覚障害児を受け入れる学童保育所 41.6%であった。話し合える聴こえる友だちのニーズについては通常の学校在籍児の保護者で回答が高く、話し合える聴こえない友だちについてはろう学校在籍児の保護者で回答が高かった。また、聴覚障害児にわかりやすく教えてくれる学習塾へのニーズが約半数の 53.8%、聴覚障害児が子どもたちと共に楽しく遊んで過ごす学童保育所や放課後等デイサービスへのニーズも約４割の保護者から回答があった。

表３－２８～表３－３３に、各ブロックごとの「子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うもの」の結果を示す。表３－２７の全体の結果と同様、ニーズの高い質問項目の順位は同じ点が多いが、愛知県内のＮＰＯ法人つくしが運営する聴覚障害児の放課後等デイサービスへの事業所がない東尾張②（知多半島地域）では学校外で子どもが学んだり遊んだりする場へのニーズが高かった。

医療・教育への支援については、病院、ろう学校等で支援を受けている保護者が多いが、学校だけでなく、学校外での地域で他の子どもたちと遊んだり、きこえにくい友達やきこえる友達との関わりを深めていくためには、学童保育での難聴児の支援、聴覚障害児に特化した放課後等デイサービスの施設が必要とされる。

追記

結果の最後に、保護者の自由記述があるが、彼らの声を理解をして、できることから活動を広げ深めていきたい。

（2）子どもへの調査

○聴覚障害児の友達との関わりの課題

表３－３９「友達の有無」の結果について、いると回答した子どもは84.2%、いないと回答した子どもは3.2%で、ろう学校在籍児も通常の学校在籍児もどちらも、結果に差がなかった。しかしながら、通常の学校在籍児は、ろう学校在籍児と比較して、友達がいないと回答した子どもの割合がやや高く、きこえない・きこえにくいことにより、友達ができない環境で学校に通っていることが推察される。

表３－４０「友達との関わり」の結果について、一緒に遊ぶが最も多く73.8%の回答があり、話を聞きいてくれる、わからない時に教えてくれる、困った時に助けてくれるという回答は半数程度あった。

表３－４１．友達がいない理由は、聞こえないことを理解してもらえなかったから、手話ができないから、相手が話しかけてこないから等、様々な理由があることがわかった。その他の理由として、（友達には）関心がない、地域の学校に３名ほど友達はいるが話していることがわからなかった、発達障害だから、自分から話すことがうまくできないという記述があった。

聴覚障害児はろう学校在籍または通常の学校在籍に関わらず、学校や学校外で友達と様々な遊びを経験し、大勢の人々とたくさん会話し、互いの良さを認め合いながら、成長していける環境が必要である。

○聴覚障害児が休日や放課後に楽しく過ごす場所の必要性

表３－４２「＜全体＞長期休暇や土日・放課後等で『楽しかったこと』や『いやだったこと』」については、夏休み、冬休み、春休み、土日、放課後（授業後）の５点について結果に示した。何れの休日でも、遊ぶことが最も楽しく、いやだったことは学校の宿題をやることが取り上げられていた。

表３－４３「＜ろう学校在籍＞長期休暇や土日・放課後等で『楽しかったこと』や『いやだったこと』」、表３－４４「＜通常の学校在籍＞長期休暇や土日・放課後等で『楽しかったこと』や『いやだったこと』」では、ろう学校在籍児と通常の学校在籍児の結果を示した。

表３－４５「好きな場所やよく行くところ」の結果から、公園や買い物等が好きでよく行くところとして挙げられているが、ろう学校在籍児は放課後等デイサービスの利用が多く、通常の学校在籍児は利用が少ない。反対に、通常の学校在籍児は友達の家に出掛けることが多く、ろう学校在籍児はその機会が少ない。自宅の近くに友達がいる通常の学校在籍児と、自宅近くに友達がいないろう学校在籍児の違いが結果に表れている。

表３－４６～表３－５１「好きな場所やよく行くところ（ブロック別）」の結果から、NPO つくしの放課後等デイサービスが運営している、名古屋地区（つくしっこ）、西三河（茜）、東三河（楓）があるブロックでは、聴覚障害児の利用が多い。反対に、放課後等デイサービスがないブロックでは、他の資源を利用している状況であるが、聴覚障害児の集団での遊び、きこえにくさに配慮した環境を考えると、西尾張、東尾張①、東尾張②のブロックにも同様の施設の設立が求められるだろう。

○子どもの将来の夢の実現を支える聴覚障害児の教育

表３－６２「将来、してみたい仕事や、こんな人になりたいという夢や希望」の結果について、あるという回答が64.2%、ないという回答が9.0%、あるけれども諦めているという回答が2.2%であった。通常の学校在籍児は、ろう学校在籍児よりも、ないという回答の割合が高かった。

近年は、国家資格の欠格条項が見直され、聴覚障害があっても就くことができる仕事が増えている。聴覚障害があっても、医師、弁護士として働いている人もおり、コーヒーショップの店員、バスの運転手など、様々な業種で活躍する聴覚障害者のパイオニアがいる。聴覚障害のある子どもたちが、将来の夢を持ち、目標に向かって自分自身を成長していけるように、関係者が支援をしていかねばならない。

追記

結果の最後に、子ども自由記述があるが、彼らの声を理解をして、できることから活動を広げ深めていきたい。

４．今後への提言

４．今後への提言

2006（平成 18）年に国連で障害者権利条約が採択され、国内では 2011（平成 23）年に障害者基本法が改正されました。ここにおいて国内外ともに「手話は言語である」ことが認められました。2016（平成 28）年には障害者差別解消法・改正障害者雇用促進法が施行され、障害者を取り巻く社会の状況は確実に変化してきています。

現在、全国の自治体で手話言語条例制定の動きが進んでいます。愛知県においても 2016（平成 28）年の県条例の制定をはじめとして 2018（平成 30）年には常滑市、知立市、稲沢市の県内 3 市で制定されています。社会の中で「手話」は広まってきました。しかし、肝心の聴覚障害児・者の暮らしはどうでしょうか。今回の実態調査によりくらしの実相が見えてきました。４つの視点から愛知県に住む聴覚障害児・者の暮らしの課題を見て取ることができます。

① 暮らしの基盤

今回の調査の回答者では 40 代～70 代が 72.3%を占めており、全体の回答者に占める６０歳代以上の割合が約 44%と聴覚障害者の高齢化の割合も高い（表２−６）。暮らしを支える就労面で 40 歳代の非正規職員の割合は、20 歳代に比べて 4 倍近くに跳ね上がり、高齢になればなるほど身分や収入面での不安定が際立っていることが伺えた。また、就労中の人の回答ではほぼ全員仕事について悩みを抱えており、「聴覚障害や聞こえにくいことの理解が乏しい・働きやすい環境が整っていない」と感じる人が多い。特に働き盛りの年代である 30 歳代では、「（仕事で困っていることは）特にない」と回答する人はおらず、全員の聴覚障害者が仕事のことで悩んでいることがわかった（表２−５６）。仕事の悩みが多ければ多いほど、離職につながりやすく収入も不安定になり、暮らしの基盤が脅かされている状況が顕著に表れている（表２−２７）。

② 地域でのつながり

成人の調査の結果では、近隣住民との関わりで、「つき合いはない」「あいさつする程度」とあわせると 91.7%となり、圧倒的多数の聴覚障害者がいまだに近隣住民の人々との関わりが非常に薄い状態にある（表２−２９）。多くの聴覚障害者が暮らしの中で困りごとを抱えている（表２−４２）にも関わらず、相談の相手は家族がほとんどであり、公的なサービスの利用につながる人が少ない（表２−４４）。家族や親族が近くにいない場合は、相談したい相手や困った時に頼れる相手もいない状況で、災害時に頼れる人についても同様である（表２−３９）。

そのような現状の中、名古屋ブロックにおける「聴覚障害者支援事業所　ほっとくる」東三河ブロックの「東三河聴覚障害者支援事業所　笑おう舎」では日常の相談も受け止めており（表２−４）（表２−５）（表２−４５）。この面からも、「ほっとくる」「笑おう舎」が地域の聴覚障害者に対して果たしている役割は非常に大きいことが伺える。

③ 暮らしを支える福祉サービス

地域の活動に参加していない理由に、「案内の内容がわからない」「手話や要約筆記等の情報保障がない」「情報保障の依頼方法がわからない」との回答が多く、聴覚障害者の社会参加の実現を阻む社会的障壁がいまだに大きいことが見てとれる（表２−３７）。また、「必要な情報や役立つ情報の入手先について」半数以上がテレビで情報収集しているにも関わらず（表２−４０）、「手話や字幕が入っていないテレビの内容がわからない」「災害時の情報入手に不安を感じている」人が半数以上いる（表２−４１）。一方で、「手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障された施設やサービスを利用したことの経験」について「利用したことがない人」の割合が大きく（表２−４５）、多くの聴覚障害者が障害に配慮した施設や拠点が欲しい要望を持っている（表２−４７）。

④ 子育てを支える場づくり

保護者の調査からは、子どもの障害、子育てを支える福祉的支援、進路などに関する情報が身近な場では得にくいことわかる（表３−２５、表３−３５）。特に子どもが通常の学校に在籍している場合に、身近な場での情報が得にくいこと、補聴器や人工内耳への補助の不十分さに困っている。また（表３−２７）からは保護者が、わが子に相応の学力をつけたい、豊かな友人関係を保障したいという、親としての当たり前の願いの実現を願って

いることがわかる。
子どもたちは、友達と遊ぶことが楽しく宿題が嫌という、ある意味で「学齢期の児童・生徒」として当たり前の回答を寄せている（表3−４２）が、ろう学校在籍児では友達と遊ぶ場は放課後等デイサービスが多く、通常学校在籍児は友達の家となっている（表３−４５）。聴覚障害児がどの学校で学んでいても、友達を得たり将来見通しを得る場を広げていくこと、本人が選択しうる条件を豊かにすることが求められる。

本調査の結果からみても、困った時に頼れるのは「家族」との回答が多く、公的なサービスにつながらない状況が明らかになっています。聴覚障害は「聞こえない（聞こえにくい）」「話せない（伝わりにくい）」という機能障害だけではなく、周囲の人との十分なコミュニケーションがとれず、関係を深めることができない。日常生活や会話の中から得られる情報も制限され、社会参加する機会を奪われています。さらに、聴覚障害児・者を支える法律・制度・社会資源が圧倒的に不十分な状況が、聴覚障害児・者、またその家族を深刻な「社会的孤立」に追いやっています。

このような聴覚障害児・者の暮らしの実態からみても、公的な制度である「手話通訳、要約筆記、盲ろう通訳・介助員の養成、派遣の拡充」や「通訳技術の駆使・向上」だけでは、聴覚障害児・者の暮らしをよくすることは困難です。その暮らしを総合的に捉え、聴覚障害児・者に特化した生活支援・就労支援・相談支援など必要な社会資源を創り出していく必要があります。愛知県聴覚障害者協会が運営している既存の資源（あいち聴覚障害者センター、ほっとくる、笑おう舎）だけでは不十分です。必要な事業を創り出し、聴覚障害者が県内の居住地域を問わず、等しく充実した生活を営めるよう障害保健福祉圏域（愛知県に12圏域）単位での対策が必要であると考えます。

その為にも、聴覚障害関係団体のみでなく、行政をはじめ広範な機関、市民と共同して地域の課題としてとらえ聴覚障害児・者の「社会的孤立」をなくす取り組みを進めていかなければなりません。聴覚障害児・者やその家族の皆さんが、地域とつながり、心から安心して笑って暮らせる社会の実現に向け以下4点の提言をします。

（1）「あいち聴覚障害者センター」の移転・拡充

既存のあいち聴覚障害者センター（聴覚障害者情報提供施設）の手話通訳、要約筆記、盲ろう者・通訳介助員の「養成」、「派遣」などの事業だけでは、聴覚障害児・者の暮らしを十分に支えることは困難です。今回の調査結果を受けて、必要な人々に十分なサポートが行き渡るように、以下の様なセンター機能の拡充が求められています。

●企業の多い愛知県の地域性を考慮し、ジョブコーチ事業、就労移行・定着支援事業を含めた「就労サポートセンター」の設置。
●精神病院や触法聴覚障害者の地域復帰、盲ろう者・ろう重複障害者を含め、地域で自立した生活を過ごすことを目的とした「自立訓練（生活訓練・宿泊型）」の場。
●医療機関や言語聴覚士と連携しながら、難聴乳幼児期の子どもや親への支援を行う「難聴乳幼児サポートセンター」の設置。
●難聴・中途失聴者その家族を対象にした「きこえの相談室」の設置。
●ＩＣＴを活用することを目的として聴覚障害者・盲ろう者向けの講座や、視覚的な情報を編集・発信していく機能を含めた「ＩＣＴサポートセンター」の設置。
●「緊急時の24時間通訳派遣事業」。
●必要に応じて相談事業と連携を図れる「電話リレーサービス事業」。
●「災害時の聴覚障害救援対策本部」。

以上の機能の付加と、現行建物のハード面での課題をクリアーした「あいち聴覚障害者センター」の移転・事業拡充＝「聴覚障害者総合福祉センター」の実現が望まれる。

（2）障害保健福祉圏域をベースとした「地域聴覚障害支援センター」の設置

聴覚障害総合福祉センターは本体施設として文字通りセンター機能をもちつつ、県内の障害保健福祉圏域をベースに、生活支援をその目的とした「地域聴覚障害支援センター」の設置が望まれる。それぞれの地域課題に応じて、以下の事業等の実施、新設が必要と考える。

●「相談支援事業」

●「居宅介護支援事業」
●「訪問介護事業」
●「地域活動支援センター」
●「放課後等児童デイサービス」
●既存の「手話通訳・要約筆記派遣」「講師派遣」などの事業の、より地域の実情に即したきめ細かな実施。
●地域の聴覚障害者や住民が気楽に利用できるように、学習会の開催や交流が可能なスペースを確保。
●地域住民に対する「手話」や「聴覚障害への理解」等の啓発・普及の場としての機能整備。
●盲ろう者やろう重複障害者も働ける地域のＢ型就労支援事業所の設置や作業科目としての地域向けカフェ等の事業展開。

「地域聴覚障害支援センター」の整備は、利用施設としての役割にとどまらず、ここを拠点に、既存の聴覚障害者に係る地域内の社会資源、関係団体・者の連携や共同も強め、近隣との付き合いや災害時の対応等、暮らしの場である地域全体を変えていく大きな契機となりうると考える。

（3）聴覚障害児童の保護者への支援・放課後等デイサービスの整備

保護者と子どもの調査結果より提言すべきこととして大きく４点を提起する。

１．行政による保護者への適切な情報提供のためのリーフレットの作成と普及
●新生児聴覚検査や乳幼児健診を含めて聞こえに弱さがあると疑われた場合に受診する専門的な医療機関の情報をまとめ、県内の主な医療機関、保健所、保健センターに常設する。
●人工内耳、補聴器に関するていねいな説明と共に、受けられる福祉的支援及び聾学校幼稚部の教育相談について紹介する。

２．保護者が相互に知り合い情報共有できる拠点の整備
●各自治体に１か所の「児童発達支援センター」設置が「障害児福祉計画」で計画されているが、今後各自治体のセンターにおいて聴覚障害児および重複障害児への対応を目指す。センターへの言語聴覚士の配置を、まずは障害保健圏域ごとに計画化し、センターの言語聴覚士の保育所・幼稚園への派遣を進めることで、保育所・幼稚園での難聴児・ろう児の受け入れを促進するとともに、ろう学校よりの出前相談の拠点とする。
●保健所単位でろう児、難聴児の保護者会を組織し、進路相談、情報共有を進めることで保護者の不安を軽減する。

３．放課後等デイサービスの設置
●放課後等デイサービスのある地域では、特に長期休暇において「楽しい体験」を積んでいることがわかることから、経験を広げ仲間を作る場として放課後等デイサービスの設置を進める。通常の学校に通う子どもにも、同じような聴覚障害の仲間を得る場、聴覚障害の先輩と出会い将来見通しを持つ場として、放課後等デイサービスを保障する。

４、聴覚障害児教育の充実
●親子ともに教育へのニーズも高く、難聴児への機器支援とろう児及び保護者への手話教育ニーズに応えるためにも、教員養成課程のあり方はもとより、教員への研修の充実、通常教育における障害理解教育を教育委員会と共に考えていきたい。

（4）成人・高齢聴覚障害者の入所施設の整備

自由記述で一番多かった成人・高齢聴覚障害入所施設（特別養護老人ホーム、ショートスティ、グループホーム、認知症対応グループホーム）など、聴覚障害者が安心して24時間サポートを受けられるような施設も、将来的に整備することを目指す。

愛知県の障害保健福祉圏域

（出典元　第５期愛知県障害福祉計画　第２章 計画の基本的な考え方）

圏域名	圏域に属する市町村
名古屋・尾張中部	名古屋市、清須市、北名古屋市、豊山町
海部	津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村
尾張東部	瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町
尾張西部	一宮市、稲沢市
尾張北部	春日井市、犬山市、江南市、小牧市、岩倉市、大口町、扶桑町
知多半島	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町
西三河北部	豊田市、みよし市
西三河南部東	岡崎市、幸田町
西三河南部西	碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市
東三河北部	新城市、設楽町、東栄町、豊根村
東三河南部	豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市



結びに

今回の「聴覚障害児・者の暮らし 実態調査」を通して、聴覚障害児・者やその家族の「社会的孤立」をはじめ厳しい暮らしの実態の一端が明らかになりました。この問題解決の課題は、従来の聴覚障害関係者団体の枠にとどまることなく、多くの県民の共感と同意が得られなければ成し遂げられません。また、この提言内容についても愛知県聴覚障害者協会だけではなく、行政はもとより他の様々な社会資源とのつながりを築きながら、社会全体での取り組みとしていかなければなりません。報告書を基に、地域の仲間と共にすべての障害保健福祉圏域の行政や議会との話し合いも重ねていきましょう。

今回の調査の結果からは聴覚障害者だけに限定されず、障害のない人も含め今の社会に共通する、生き生きとした暮らしを阻む多くの課題を見て取ることができます。この点からも広範な人達と共同できる条件はあります。様々な人々の「社会への完全参加と平等」が実現される地域そして社会の実現を目指して、広く県民と共に行動していきましょう。

今回の調査事業を支えてくださった方々、調査事業実施にあたり助成を頂いた独立行政法人福祉医療機構に改めてお礼申し上げます。

平成 30 年度　独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

５．付録

５．付録

調査票「聴覚障害者の暮らしに関する実態調査」

聴覚障害者の暮らしに関する実態調査

はじめに

このアンケート用紙は「一般社団法人愛知県聴覚障害者協会」が中心になって作成しました。

アンケート調査に協力する、しないかは自由です。

また、答えたくない項目があれば回答しなくてもよいです。

聞こえない人の困っている現状を行政などに知ってもらう為に、

アンケートの協力をよろしくお願いします。

※アンケート回収後は厳正に管理し、個人情報はアンケートの目的以外には利用しません。

アンケート調査に関するお問い合わせ

愛知県聴覚障害者協会　FAX052-221-8154 / TEL052-221-8545

Mail：a18154@sage.ocn.ne.jp

調査場所　対象者の自宅　・　対象者の自宅以外（　　）

調査員氏名（　　）

調査日時　　月　　日　　時　　分　～　　月　　日　　時　　分

●地域名（　　）市町村

●年齢（　　歳）

●性別（男・女）

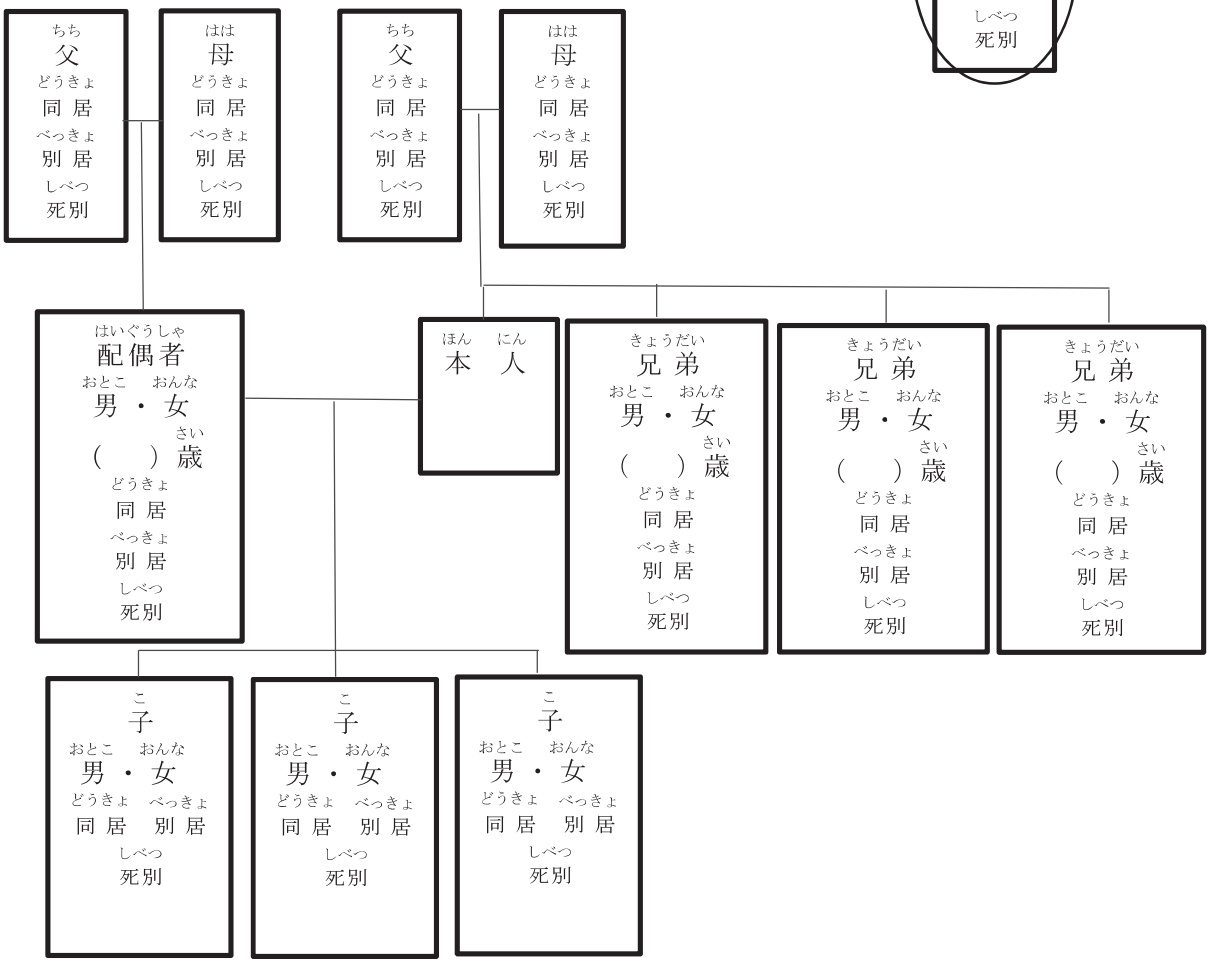
●身体障害者手帳（　　種　　級）　・手帳なし

●家族構成（聴覚障害の方の場合は□を○で囲んでください）

（同居・別居・死別のどれかにあてはまるものは○で囲んでください）

（例）





備　考

問1 あなたが今、話したりきいたりする時に使われる言語・コミュニケーション手段は何ですか。(あてはまる番号に全てに○印をつけてください)

1. 手話

・覚えたのはいつ？（ 乳幼児教育相談　幼稚部・幼児園・保育園　小学部・小学校
中学部・中学校　高等部・高校　大学　専門学校　社会人 ）
その他（ ）

・どこで（ 家庭　ろう学校　普通学校　手話サークル　その他（ ））

・だれに（ 親　祖父・祖母　兄弟　親戚　きこえない友達　きこえる友達
ろう学校の先生　普通学校の先生　手話サークルの仲間
その他（ ））

2. 音声
3. 身振り
4. 指さし
5. 表情
6. 実物
7. 筆談
8. 口話
9. 補聴器
10. 人工内耳
11. 触手話
12. 指点字
13. 点字
14. 指文字

15. 絵や写真

16. 分からない

17. その他（　　）

問２　あなたが通っていた施設や学校はどこですか。
（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. ろう（特別支援）学校幼児部
2. ろう（特別支援）学校小学部
3. ろう（特別支援）学校中学部
4. ろう（特別支援）学校高等部
5. ろう（特別支援）学校専攻科
6. 養護（特別支援）学校
7. 保育園
8. 健聴（普通）幼稚園
9. 福祉型児童発達支援センター（難聴幼児通園施設）
10. 健聴（普通）小学校
11. 健聴（普通）中学校
12. 難聴学級（小学・中学）
13. 知的障害学級（小学・中学）
14. 情緒障害学級・自閉症学級（小学・中学）
15. きこえとことばの教室（通級指導教室）
16. 健聴（普通）高校
17. 中学校専修・専門学校
18. 短期大学
19. 大学
20. 筑波技術大学（前・筑波技術短期大学）
21. 学校には行っていない
22. その他の学校（　　）

問３　現在、あなたの主な仕事は、何ですか。

1. 公務員
2. 会社員
3. 自営業
4. 内職
5. 福祉作業所（就労継続支援Ａ型・就労継続支援Ｂ型等）
6. 法人職員
7. その他（　　）
8. 今はしていない
9. 働いたことはない

①　～　⑦ を選んだ人は　問４へ ⑧・⑨ を選んだ人は　問５へ

問４　現在お仕事をしている方に伺います。仕事の身分は、何ですか。

1. 正規職員
2. 非正規職員（　嘱託　・　契約　・　派遣　・　パート　・　アルバイト　）
3. 分からない
4. その他（　　）

問６へ　すすんでください

問５　問３で「8. 今はしていない」「9. 働いたことはない」に○をつけた理由は、何ですか。
（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 主婦
2. 育児、介護のため
3. 定年のため
4. 老齢のため
5. 障害のため
6. 病気のため
7. 入退院をくりかえしたため
8. 親などの身内に反対されたため
9. 解雇されたため
10. 倒産などで失業
11. 仕事が見つからなかった

12. 学校に通うため（学生）
13. 働きたくない
14. 分からない
15. その他（　　）

問6　今、仕事で困っていること、不自由に感じていることや悩んでいることは何ですか。
（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 聴覚障害やきこえにくいことの理解が乏しく働きやすい環境が整っていない
2. いまの仕事を続けられるかどうか心配である
3. 職位が上がらない、昇任できない
4. 同じ能力でもきこえる人が評価される
5. 職場で評価されない
6. リストラや失業の不安がある
7. 仕事や作業でもらえる給料（工賃）が低い
8. 自分の希望するような仕事や職場、施設がない、見つからない
9. 自分の悩みを相談する部署や人がいない
10. まわりの人たちと話が通じにくいために仕事や作業がうまくいかないことがある
11. いつまでも非常勤や嘱託で、正規の社員として雇ってくれない
12. 労働時間や作業時間が長い、不規則である
13. 自分に合っていない内容の仕事や作業をさせられる
14. 職場や施設でいじめや差別がある
15. 特にない
16. その他（　　）

問7　現在の住まいは次のうちどれですか。
（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 一戸建ての持ち家
2. 分譲マンション、
3. 民間借家、民間アパート、賃貸マンション、
4. 県営、市営、公団の賃貸住宅
5. 社宅、寮
6. グループホームやケアホーム、福祉ホーム
7. 入所型の施設
8. その他（　　）

問8　日頃、となり近所と、どのような付き合いをしていますか。
（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. つきあいはない

2. あいさつをする程度
3. くらしや地域のことで話し合っている
4. 困りごとや悩みを相談し合う →（具体的には　　）
5. その他（　　）

問９　地域では、どんな活動や集まりに参加していますか。また、どのくらい参加していますか？
（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. ろう協会・難聴協会・盲ろう者友の会などの聴覚障害者団体
＜1. よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

2. 聴覚障害者団体以外の身体障害者団体・知的障害者団体・精神障害者団体
＜1. よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

3. 手話サークル
＜1. よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

4. 要約筆記サークル
＜1. よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

5. 自治会（町内会）の行事の活動に参加
＜1. よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

6. 子どもや孫の学校のPTA、保護者会
＜1. よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

7. 老人クラブ
＜1. よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

8. 地域のスポーツ活動
＜1. よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

9. 地域の趣味、娯楽の集まり
＜1. よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

10. 作業所や施設でのボランティア
＜1. よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

11. その他（　　）

＜1.　よく参加する　2. 月に1.2回程度　3. 年数回程度　4. その他（　　）＞

12. 参加していない

13. 参加したことがあるが今は参加していない

① ～ ⑪を選んだ人は　問11へ

⑫・⑬を選んだ人は　問10へ

問10　問９で「12. 参加していない」 あるいは「13. 参加したことはあるが今は参加していない」に○をつけた理由は何ですか。（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 案内や情報がない
2. 案内の内容が分からない（文字が読めない、文章が苦手）
3. 家族が反対する
4. 健康に不安がある
5. 参加費が出せない
6. 誘われない
7. 興味がない
8. 身近な地域に参加したいものがない
9. 場所が遠い
10. 時間がない
11. 手話や要約筆記などの情報保障の依頼方法が分からない
12. 手話や要約筆記などの情報保障の依頼が面倒である
13. 手話や要約筆記などの情報保障がされていない
14. その他（　　）

問11　現在、あなたの健康状態について気になっていることは、何ですか。（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. よく眠れない
2. 疲れやすい
3. 肩、首すじが、こる
4. 背中や腰が痛い、だるい
5. 腕や手や足が、だるい
6. 眼が疲れる
7. 物忘れをすることが多い
8. 歩いたり、身体を動かすことが少ない
9. イライラすることが多い
10. 落ち込むことがある
11. ささいなことが気になる
12. 1日に1回も笑わない日が増えた
13. 定期的に薬を飲んでいる

14. 医者に診てもらっている
15. なにも気になることはない
16. 分からない
17. その他（　　）

問12　災害など、いざという時に頼りにする方は誰ですか。
（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 配偶者
2. 親
3. 兄弟姉妹
4. 子ども
5. おじ、おば、いとこなどの親類
6. 近所の知人
7. 友達
8. 職場の上司
9. 職場の同僚
10. 自治会の役員・区長
11. 民生委員・児童委員
12. 加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の会員や役員
13. 手話や要約筆記サークルのメンバー
14. 福祉事務所の職員
15. 市役所・区役所の職員
16. 障害者相談事業所の職員
17. かかりつけの医者
18. 看護師
19. 保健師
20. 幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士
21. 小学校・中学校・高校の先生
22. ろう学校の先生
23. 手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者
24. 愛知県聴覚障害者協会の職員
（事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる・笑おう舎）
25. 知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員
26. NPOつくし職員
27. 福祉事業所・作業所の職員
28. その他（　　）
29. 災害の時に頼りにする人はいない

問13 日頃のくらしにとって必要な情報や役立っている情報は、どこから入手していますか。(あてはまる番号に全てに○印をつけてください)

1. 配偶者から
2. 親から
3. 兄弟姉妹から
4. 子どもから
5. おじ、おば、いとこなどの親類から
6. 近所の知人から
7. 友達から
8. 職場の上司から
9. 職場の同僚から
10. 自治会の役員・区長から
11. 民生委員・児童委員から
12. 加入している団体(難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他)の会員や役員から
13. 手話や要約筆記サークルのメンバーから
14. 福祉事務所の職員から
15. 市役所・区役所の職員から
16. 障害者相談事業所の職員から
17. かかりつけの医者から
18. 看護師から
19. 保健師から
20. 幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士から
21. 小学校・中学校・高校の先生から
22. ろう学校の先生から
23. 手話通訳者、要約筆記者(奉仕員)、盲ろう通訳介助者から
24. 愛知県聴覚障害者協会の職員から
(事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる・笑おう舎)
25. 知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員から
26. NPOつくし職員から
27. 福祉事業所・作業所の職員役所の広報から
28. 役所のホームページから
29. テレビから
30. 目で聴くテレビ(CS放送から)
31. 新聞から
32. インターネットから
33. 団体(難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他)の機関紙

34. 団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）のホームページから
35. 聴覚障害者情報提供施設の広報誌
36. 聴覚障害者情報提供施設のホームページから
37. その他（　　）
38. 日頃のくらしにとって必要な情報や役立っている情報を入手する人や場所はない

問14 日頃のくらしの中で、情報の入手やコミュニケーションについて、困っていること、不自由に感じる場面はありますか。（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 手話や字幕が入っていないテレビ番組が分からない、分かりにくい
2. 手話や字幕が入っているテレビ番組の内容が分からない、分かりにくい
3. 災害の時の情報の入手方法や避難方法が不安
4. 自動車事故にあった時の保険会社への手続きが分からない
5. 病院や医者にかかる時の会話（予約や医者の問診・診断内容、薬局の呼び出し）
6. 福祉制度やサービス・施策等を利用する時（わかりやすく説明してくれない）
7. 銀行や郵便局などの公共施設を利用する時
8. 商店・スーパー・食堂などでの買い物などの時
9. 近所の方と話す時
10. 学校などへ子どものことで懇談や相談をする時
11. 携帯電話（メール）やパソコンの使い方が分かりにくい
12. 文字や文章を書いてFAXや手紙で伝えることが難しい
13. 行政からの案内や広報、新聞などの文章を理解することが難しい
14. 役立つ情報や大切な情報が分からない
15. クレジットカードや携帯電話の契約を結ぶときや変更・解除する時
16. 119番（救急車・消防）への呼び出しの時
17. 110番（警察）との連絡ができない
18. 交通機関やレジャー・宿泊などの予約の時
19. 補聴器では充分にコミュニケーションがとれない
20. 結婚、産婦人科の診療、出産、離婚等のプライベートに関わる相談をする相手や相談機関がない
21. 特にない
22. その他（　　）

問15 日頃のくらしの中で、困っていること、不自由に感じることは何ですか。
（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 病気のこと（自分の健康や病気のことが気になる）
2. きこえのこと
3. くらしの世話をしてくれる家族が病気になったり倒れたりした時のこと
4. 家に一人でいるときに何があったら不安
5. 生活するには年金額が少ない
6. 年金がもらえない
7. 物価が高い
8. 医療費が高い
9. 安心して行ける医療機関が近くにない・わからない
10. 通院・通所することが困難
11. 貯金ができない
12. 税金が高い
13. 炊事・洗濯・掃除などの家事
14. 近所とうまくつきあえない
15. 身近な地域に気軽に集まることができる場所がない・少ない
16. 何でも話し合える友人がいない・話し相手がいない
17. 選挙で投票することがむずかしい
18. 家族の介護
19. 家の中でコミュニケーションがうまくいかない
20. 特にない
21. その他（　　）

問16 日頃、くらしのことで相談できる相手はいますか。
（あてはまる番号１つに○印をつけてください）

① を選んだ人は　問17へ
② を選んだ人は　問18へ

1. いる
2. 相談できる人はいない

問17　問16で「1. いる」に○をされた方におたずねします。日ごろ、くらしのことで相談する人は誰ですか。（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 配偶者
2. 親
3. 兄弟姉妹
4. 子ども
5. おじ、おば、いとこなどの親類
6. 近所の知人
7. 友達
8. 職場の上司
9. 職場の同僚
10. 自治会の役員・区長
11. 民生委員・児童委員
12. 加入している団体（難聴協会・ろうあ協会・盲ろう者友の会・その他）の会員や役員
13. 手話や要約筆記サークルのメンバー
14. 福祉事務所の職員
15. 市役所・区役所の職員
16. 障害者相談事業所の職員
17. かかりつけの医者
18. 看護師
19. 保健師
20. 幼稚園の先生、保育所・保育園の保育士
21. 小学校・中学校・高校の先生
22 ろう学校の先生
23. 手話通訳者、要約筆記者（奉仕員）、盲ろう通訳介助者
24. 愛知県聴覚障害者協会の職員
(事務所、あいち聴覚障害者センター、聴覚障害者支援事業所ほっとくる・笑おう舎)
25. 知多地区聴覚障害者支援センターいるかの家職員
26. NPOつくし職員
27. 福祉事業所・作業所の職員
28. その他（　　）
29. くらしのことを相談する人はいない

問18 これまで手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障された施設や、サービスを利用したことはありますか。（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 手話通訳派遣
2. 要約筆記者（奉仕）派遣
3. 盲ろう者通訳・介助員派遣
4. 聴覚障害者支援事業所　ほっとくる
5. 聴覚障害者支援事業所　笑おう舎
6. NPOつくし
7. 聾学校
8. その他（　　）
9. ない

①　～ ⑧を選んだ人は　問19へ ⑨を選んだ人は　問20へ

問19 これまで手話や要約筆記などのコミュニケーションが保障された施設や、サービスを利用して感じたこと、気づいたことはありますか。（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 人として尊重されると感じるようになった
2. 聴覚障害者同士のつながりができた・深まった
3. きこえる人とのつながりができた・深まった
4. 気兼ねなく話ができるようになった
5. これまで学べなかった様々なことを知り・学ぶことができた
6. 自分自身のことを自ら選択し、様々なことを決めることができるようになった
7. 利用できる制度やサービスを知るようになった
8. ひとりぼっちではなく、仲間がいることが確かめられた
9. 情報がたくさん入るようになった
10. きこえる人やボランティアとの交流ができるようになった
11. これからの暮らしや生き方に希望や展望が持てるようになった
12. 年金や社会福祉のサービスを理解し利用することができるようになった
13. 他の聞こえない仲間とともに福祉やくらしの発展を目指そうと思うようになった
14. その他（　　）

問20　今後、必要と思われるサービスや施設はありますか。
（あてはまる番号に全てに○印をつけてください）

1. 手話（触手話）や要約筆記などのコミュニケーションが保障された、聴覚障害者が利用しやすい施設を身近なところに作ってほしい、増やして欲しい。
2. 聴覚障害に配慮した高齢者に関わるデイサービスが欲しい
3. 聴覚障害に配慮した長期間生活できる入所施設（例：特別養護老人ホームなど）が欲しい
4. 聴覚障害に配慮したショートステイ（短期入所サービス）が欲しい
5. 聴覚障害に配慮され、様々な場面でサポートするヘルパー派遣制度を充実させて欲しい
6. 子育て世代が利用できるよう一時保育機能を備えた施設が欲しい
7. 手話（触手話）などコミュニケーションを自由に使える放課後デイサービスや、長期休業中に子どもが集まれる機会が欲しい
8. 誰もが気軽におしゃべりできる、集まって交流できる場所や部屋が欲しい
9. 自分に合ったペースや内容で仕事できる作業場が欲しい
10. 災害時にもきこえの配慮があり、一時的でも安心して避難生活ができる制度を整えて欲しい
11. 様々な災害時の対応や知識が体験的に学べる制度を整備して欲しい
12. 誰もが利用できる喫茶やレストランが欲しい
13. その他（　　）

問21　このアンケート調査や、行政に要望してほしいこと、愛知県聴覚障害者協会などに対する要望や期待することなどあれば、ご意見をお聞かせください。

問22　その他、自由にお書きください。

調査票「きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実態調査」

きこえに障害のある子どもと保護者の不安や悩み実態調査

対象：18歳以下の聴覚に障害のある子ども及び保護者

はじめに

このアンケートは、聞こえない子どもや保護者が必要としている社会資源を検討する際の参考とするために行います。つきましては、アンケートの目的をご理解の上、アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。

結果をまとめ、あらためて報告します。個人情報として公表されることはありません。また、アンケート回収後は厳正に管理し、個人情報はアンケートの目的以外には利用しません。

なにとぞ素直なご回答をお寄せください。なお、全項目にご回答をお願いしたいと思いますが、答えたくない質問がありましたら飛ばしてご回答ください。回答を続けたくない事情が生じた場合には、途中でやめていただいても構いません。

アンケート調査に関するお問い合わせ

愛知県聴覚障害者協会　FAX052-221-8154 / TEL052-221-8545

Mail：a18154@sage.ocn.ne.jp

保護者に質問です。

●お子様の年齢（　　歳　）

●性別（　男　・　女　）

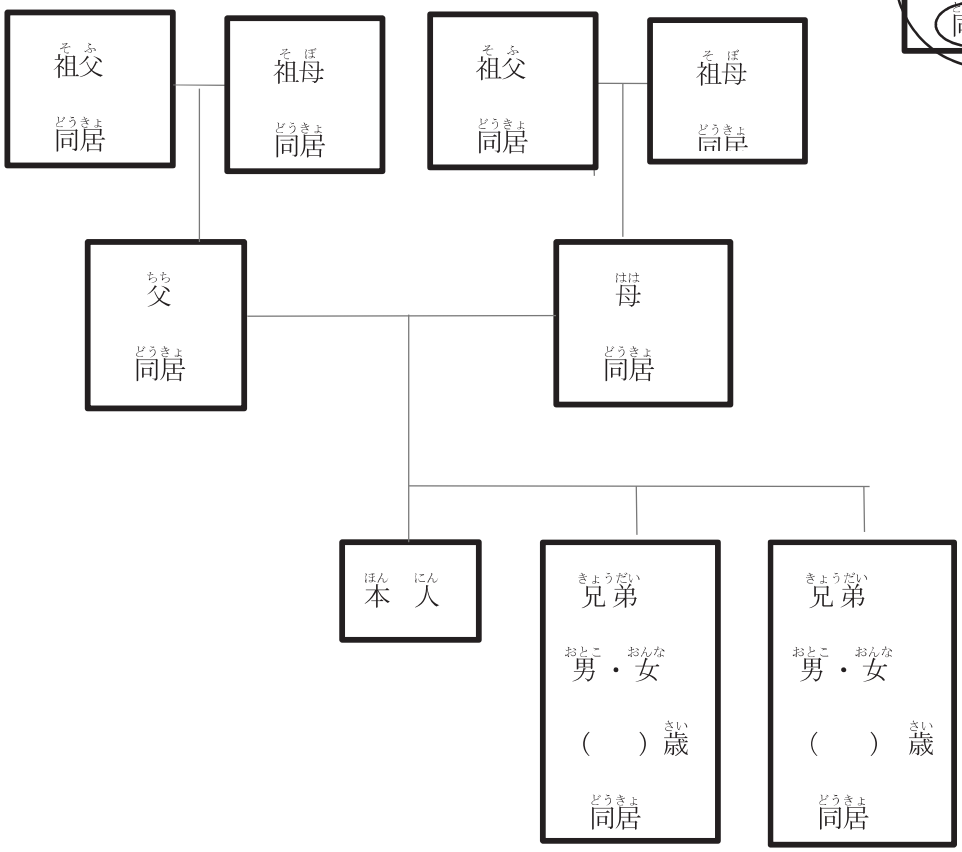
●地域名（　　市・町・村　）

●身体障害者手帳（　　種　　級）　・　手帳なし

●家族構成　（聴覚障害の方の場合は□を○で囲んでください）
（同居の方は○で囲んでください）

例





問１　新生児聴覚スクリーニング検査について。

１　受けた　２　受けていない

問２「要検査」と言われた時、どんな気持ちでしたか。

（あてはまるものすべて○をつけてください）

１　もし、きこえていなかったらという不安で毎日をすごした

２　まさか、自分の子が・・・と思うと大変ショックだった

３　ちゅうぶらりんの状態がとてもつらかった

４　その他（　　）

問３　確定診断で障害が分かったのは、いつでしたか？　→（　　歳　　ヵ月）

その時、医者から「どのように」言われましたか。

（あてはまるものすべてに○をつけてください）

１　「残念ですが、お子さんは聴覚に障害があり、きこえていません」

２　「人工内耳にすればきこえるようになります」

３　「手話などを覚えることで会話できます」

４　「聴力障害の他に別の障害もあります」

５　「ろう（聴覚特別支援）学校や関連施設が充実していますので紹介します」

６　その他（　　）

問４　確定診断で障害を告げられた時、どんな気持ちでしたか。

（あてはまるものすべて○をつけてください）

１　不安でどうしたらよいか分からなかった

２　信じられなかった

３　やはりきこえていないのかと思った

４　人工内耳の話をきかされてほっとした

５　将来はどうなるのだろう

６　どこに相談したらいいのだろう

７　今、出来ることを教えてもらいたい

８　療育（訓練）を少しでも早く始めたい

９　その他（　　）

問５　子どもの障害がわかってから障害を受け入れるのにどれぐらいかかりましたか。

１　半年

２　１年

３　２～３年

４　３～５年

５　５～１０年

６　１０年以上

７　現在もまだ受け入れられない

問６　障害を受け入れられるようになった動機・きっかけは何でしたか。
ご自由にお書き下さい。

問７　年齢ごとで、主にうけた相談支援・教育（療育）はどこでしたか。※転校状況も記入

年齢	場所	※備考
０～３歳 乳幼児教育相談	１　受けた　１　ろう（聴覚特別支援）学校早期相談部（乳幼児教育相談） ２　福祉型児童発達支援センター ３　病院（言語聴覚士、相談員等） ４　その他（　　） ２　受けていない（理由　　）	０～１歳 １～２歳 ２～３歳
３～６歳 保育園・幼稚園	１　受けた　１　ろう（聴覚特別支援学校）幼稚部 ２　福祉型児童発達支援センター（難聴幼児通園施設） ３　保育園　　４幼稚園 ５　その他 （　　） ２　受けていない （理由　　）	３～４歳 ４～５歳 ５～６歳
６～１２歳 小学校	１　ろう（聴覚特別支援）学校　２　特別支援（難聴）学級 ３　通級指導教室（きこえとことばの教室） ４　普通クラス　５　特別支援学校 ６　その他（　　）	低学年 高学年
１２～１５歳 中学校	１　ろう（聴覚特別支援）学校　２　特別支援（難聴）学級 ３　通級指導教室（きこえとことばの教室） ４　普通クラス　５　特別支援学校 ６　その他（　　）	
１５～１８歳 高校	１　ろう（聴覚特別支援）学校　２　特別支援（難聴）学級 ３　普通クラス　４　進学していない ５　その他 （　　）	

問８　子どものことで特に気になることや心配事について、年齢毎に当てはまる項目の番号を記入してください。(複数回答可)

年齢	選んだ項目番号	項　目
０～３歳　乳幼児教育相談		１友だちとの（人間）関係 ２コミュニケーション ３学習面の遅れ ４発達の遅れ ５生活リズム ６態度（イライラ、すぐキレる、暴力等） ７不登校 ８ひきこもり ９子育て費用の不測 １０子どもの病気 １１きこえの障害 １２重複する障害 １３子どもの進路 １４子どもの将来 １５周囲の無理解や偏見 １６その他・・（左の項目内に直接記入してください）
３～６歳　保育園・幼稚園		
６～１２歳　小学校		
１２～１５歳　中学校		
①高校		
②就労		
③その他		

問９　子育ての悩み（あてはまるものすべて○をつけてください）

１　仕事の両立
２　障害のある子に手がとられて兄弟に関われない
３　他の兄弟の理解、関係
４　学校の選択や進路が子どもにあっているか不安
５　育てる自信がない
６　子どもを愛せない、可愛いと思えない
７　病気（伝染病・アレルギー）などの知識がない
８　夫または妻にもっと協力して欲しい
９　子どものして欲しいことが分からない
１０　子どもに言いたいことが伝えられない
１１　家の外で相談する人がいない
１２　家の中で相談する人がいない
１３　保育園や学校の先生と信頼関係がもてない
１４　子どもをたたいてしまうことが多くなった
１５　夫婦の関係が悪くなった
１６　親戚とぎくしゃくした関係になった
１７　祖父母に受け入れてもらえなくなった
１８　離婚（したい・した）
１９　補聴器、人工内耳にかかる費用（自己負担）が重い
２０　特にない
２１　その他（　　）

問１０　福祉制度の利用状況（あてはまるものに○をつけてください）

利用状況 制度	利用している	利用していない	利用希望	申請中	非該当	知らない
１　特別児童扶養制度						
２　就学援助制度						
３　療育手帳						
４　生活保護制度						

問１１　子どもの成長や発達にとって豊かな放課後や休日を過ごすために必要と思うものはどれですか。（あてはまるものすべて○をつけてください）

１　話しあえるきこえる友だち
２　話しあえるきこえない友だち
３　親以外に子どもが何でも話せる大人の存在
４　スポーツクラブ
５　聴覚障害児を受け入れる学童保育所
６　子どもに理解できる方法で勉強を教えてもらえる塾
７　図書館などの施設
８　放課後等デイサービス
９　人工内耳施術後のコミュニケーション等の支援
１０　その他（　　）

問１２　学校側の具体的支援で嬉しかったこと、助かったことは何ですか。

（あてはまるものすべて○つけてください）

１　FM補聴器・ロジャーの購入
２　FM補聴器・ロジャーの貸出
３　FM補聴器・ロジャーの活用
４　障害理解のための授業
５　担任の個別面談
６　座席の配慮
７　板書の工夫
８　総合的な学習の時間（福祉領域）で聴覚障害者の支援についてとりあげてもらった
９　集会や学校行事などの子ども全体で集まる時の情報保障（要約筆記やパソコンテイクなど）
１０　手話通訳者の派遣
１１　要約筆記者の派遣
１２　パソコンテイク担当者の派遣
１３　補助（介助）教員の配置
１４　学級での難聴理解の授業
１５　他の友だちのサポート
１６　その他（　　）

問１３　子どもの教育環境に関する情報はどこで入手していますか。

（あてはまるものすべて○つけてください）

１　ない

２　インターネット

３　教育委員会や教育センターなどの教育相談

４　同じ障害のある当事者から

５　手話サークル

６　ろう（特別支援）学校の先生

７　ろう（特別支援）学校のPTAや保護者

８　病院（医師、言語聴覚士など）

９　聴覚障害関連施設

１０　役所（児童福祉課、障害福祉課など）

１１　補聴器や人工内耳の関連会社の方

１２　難聴児の保護者団体（難聴児を持つ親の会、人工内耳友の会など）

１３　その他（　　）

問１４　このアンケート調査や、行政に要望してほしいこと、愛知県聴覚障害者協会などに対する要望や期待することなどあれば、ご意見をお聞かせください。

子どもに質問です。（低学年のお子様 → 保護者が子どもと話し合いながら記入してください）

性別（　　）年齢（　　）学年（　　）

問１５　きく時と話す時、どんな方法で話していますか。

それぞれの場所ではどんな方法で会話していますか？〇をつけてください。

	場所	方法
聞くとき	学校で	1. 手話　2. 筆談　3. 補聴器　4. 人工内耳　5. 口話　6. 触手話　7. その他（　　）
	家庭で	1. 手話　2. 筆談　3. 補聴器　4. 人工内耳　5. 口話　6. 触手話　7. その他（　　）
	友達と	1. 手話　2. 筆談　3. 補聴器　4. 人工内耳　5. 口話　6. 触手話　7. その他（　　）
	その他	1. 手話　2. 筆談　3. 補聴器　4. 人工内耳　5. 口話　6. 触手話　7. その他（　　）
話すとき	学校で	1. 音声　2. 手話　3. 筆談　4. その他（　　）
	家庭で	1. 音声　2. 手話　3. 筆談　4. その他（　　）
	友達と	1. 音声　2. 手話　3. 筆談　4. その他（　　）
	その他	1. 音声　2. 手話　3. 筆談　4. その他（　　）

問１６　先生が話している内容はわかりますか。

1.　わかる　　2. だいたいわかる　　3. ほとんどわからない　　4. まったくわからない

問１７　友達について教えてください。

1. いる	1. 話をきいてくれる　2. わからない時に教えてくれる
	3. 困った時助けてくれる　4. 一緒に遊ぶ
	5. その他（　　）
2. いない	1. きこえないことを理解してもらえなかったから
	2. 手話ができないから　3. 話かけてこないから
	4. その他（　　）

問１８　長い休みや土日・放課後などで「楽しかったこと」や「いやだったこと」は何ですか。

時　期	楽しかったこと	いやだったこと
1.夏休み	（例）家族でキャンプに行ったこと	（例）学校が別で、地元の子どもと遊べない
2.冬休み （お正月）	（例）クリスマスプレゼント、お年玉など	（例）親戚の人たちとの会話
3.春休み	（例）友達と旅行など	（例）新学期への不安
4.土日、祝日	（例）好きなことができる（寝坊・本）	（例）習い事、することが何もない
5.放課後	（例）ゲーム、スポーツなど	（例）ひとりで遊ぶ　通学に時間がかかり部活ができなかった

問１９　あなたが好きな場所やよく行くところはどこですか。

（あてはまるものすべてに○、特にあてはまるものは◎をつけてください）

1. 公園
2. デパート
3. 放課後等デイサービス
4. お菓子屋さん
5. 本屋
6. 図書館
7. 友達の家
8. 祖父母の家
9. マンガ喫茶店
10. コンビニ
11. ファミレス
12. 好きな場所や行く所がない
13. 好きな場所や行きたい所はあるが、行くのは「だめ」といわれる

（理由：　　）

14. その他（　　）

問２０　大好きな人やあこがれの人はいますか。（あてはまるものすべて○をつけて下さい）

1　いる	1.身近な人（親、先生、きょうだい、友達、先輩、祖父母、その他（　　））
	2.芸能人（　　）
	3.スポーツ選手（　　）
	4.歴史上の人（　　）
	5.きこえない人（　　）
2　いない	

問２１　自分の 話 をきいてくれる人はいますか。

1. いる	（誰ですか：
内容→	1. 悩みや不満、困っていること　2. おもしろかった今日の出来事
	3. 学校からの連絡事項だけ　4. その他（
2. いない	

問２２　親から「してほしいこと」「してほしくないこと」は何ですか。

（あてはまるものすべて○をつけて下さい）

してほしいこと	父	母	してほしくないこと	父	母
1. 抱きしめてほしい			1. 他のきょうだいと比較する		
2. ほしいものを買ってほしい			2. 自分だけが会話に入れない		
3. 話をよくきいてほしい			3. 自分のことで家族がケンカする		
4. わかるように説明してほしい			4. 勉強がわかるまで頑張らせる		
5. ほめてほしい			5. 発音ができるまで頑張らせる		
6. とくにない 今のままで十分			6. とくにない		
7. その他（　　）			7. その他（　　）		

問２３　自分がしたくないと思っていることは何ですか。

（あてはまるものすべて〇をつけて下さい）

1. 発声・発音訓練
2. 声を出して話すこと
3. 勉強
4. 習い事
5. 学校に行くこと
6. 病院でする検査（聴　力）
7. 学校でする検査（聴　力）
8. 補聴器（人工内耳）をつけること
9. きこえる友だちと遊ぶこと
10. きこえない友だちと遊ぶこと
11. 手話を覚えること
12. その他（　　）
13. 自分がしたくないと思っていることはない

問２４　どんな時にイライラしたり、むかついたりすることがありますか。

（あてはまるものすべて○をつけて下さい。）

1. ききなおしたらめんどうくさいと言われた
2. 発音についてからかわれた
3. きこえないことをからかわれた
4. どうしていいかわからない
5. きこえにくいから、周りに静かにしてほしいと言ってもわかってもらえない
6. 困っていることをうまく言えない
7. 順番をとばされる
8. 早口で言われる
9. かわいそうと同情され、してほしくないことを勝手にされてしまう
10. 耳元に近づいて大声で話される
11. その他（　　）
12. イライラしたり、むかつくことはない

問２５ 今、困っていることは何ですか 。（特に困っていることを3つあげて〇をつけてください）

1. 友達とうまく遊べない
2. いじめや仲間はずれ
3. 勉強の方法がわからない
4. 授業についていけない
5. グループで話し合いする時、話している内容がわからない
6. 部活をやりたいけど入れない
7. 進路のことで悩んでいる
8. 周りに起こっていることがわからない
9. 訳もわからないままに怒られる
10. 自分だけ笑えない
11. 携帯を持たせてもらえない
12. その他（　　）
13. 今、困っていることはない

問２６　あなたの得意なことは何ですか 。それはどの分野（勉 強 ・スポーツ・特技・その他）ですか。具体的に教えてください。

1.　ある

1. 学校・保育所などで	2. 家庭で	3. その他
（例）かけっこがとくい	（例）料理をつくること	（例）テントをはること、釣り

2.　ない

問２７　将 来、してみたい仕事やこんな人になりたいという夢や希望を教えてください。

1. ある→	1. スポーツ選手　2. 警察官　3. 運転手・運転士　4. 消防士
	5. 板前・コック・すし職人　6. パン・ケーキ・お菓子屋
	7. 花屋　8. 芸能人・タレント　9. 教員　10. 看護師
	11. 保育士　12. 医師　13. テレビ・アニメキャラクター
	14. その他
2. 夢や希望があったが	（理由）
あきらめている→	
3.ない	

問２８　質問に答えてみて、他に言いたいことなど何でも自由にお書き下さい

調査員の手引き

●訪問する時間は、相手の迷惑にならない時間を選んでください。

●調査はお互いの信頼関係が大切です。冒頭にあいさつ、自己紹介、調査の目的や狙い、守秘義務について説明し、理解を得てからはじめてください。
●相手が語りやすい（相手の思いを引き出せる）ように、事前に何を聞きたいのかをしっかり把握してください。
●調査員は謙虚にじっくりとありのままに「暮らしぶり・暮らしにくさ・生きづらさ・不安、そして楽しみごと」などを伺い、暮らしの実態・貧困格差と自己責任社会の実際を学ぶという姿勢でのぞんでください。
●「聞いてあげる」などといった姿勢はくれぐれも避けてください。
●順番にしたがってむりやり聞き出す必要はありません。本人がしゃべりやすいよう、話の流れを遮らないように聞き取ってください。ただし、同じ話が延々と続くようならは、次の設問に切り替えてください。また、本人が言いたくないことを無理矢理聞き出す必要はありません。
●調査をしている時に様々な相談を受けることがあるかもしれません。その時は、再度相談の機会を作るようにし、まずは調査を終わらせてください。
●該当する内容に○をつけてください。複数回答して頂くものと、一つだけ選んでいただくものがあります。複数のものは（あてはまる番号があればすべてに○印をつけてください）と書いてあります。一つだけの場ないは（あてはまる番号１つに○印をつけてください）と書いてあります。
●語られた内容で大切なことがあれば「その他」の欄に記入してください。
●調査は時間がかかります。お聴きする方に事前にアンケート調査を見て頂いて回答しても構いません。ただし、記入は調査員が確認しながら進めて下さい。
●調査が終わりましたら、お礼をきちんと述べ、後日報告会があることを伝えてください。

調査員の皆さんへ

●調査中は調査員証を必ず携帯してください。
●調査を通して知り得た個人情報は絶対に漏らさないでください。
●調査時にかかった交通費（実費）は旅費請求書に記入してください。
できるかぎり公共交通機関の活用をお願いします。事情があり、やむを得ず車を利用する場合は（1㎞２５円）で計算してください。
また、駐車場代も記入してください。
（予算の都合もありますので、できるだけ負担の少ないようにお願いします）
●飲食代は支給できません。
●自宅での調査が難しい時は、近くの福祉センター等の公的な建物を利用して調査を行ってください。部屋代がかかることもありますので、担当者と相談しながら進めてください。
●調査を通して、気づいたことなどがあれば調査報告用紙に記入してください。（1組１枚にまとめてください。）
※今、全日本ろうあ連盟として聴覚障害者に対する強制不妊手術や中絶の実態調査を始めています。もし、調査の中でそうした話があった場合は調査報告用紙に記入してください。

調査員研修会 Q&A

●訪問調査について

・訪問はろう１人でもよいか？（聞こえる人は嫌な人もいる）
・非会員の皆を集めて調査を行ってもよいか？
・入院（入所）先への聞き取り調査はどうしたらよいか？
・非会員の盲ろう者への対応はどうしたらよいか？
・非会員でろうの子どもがいるが子どものアンケート調査はどうするのか？
・サロンのようにろう者がたくさん集まる場所があるがそこで調査して良いか？
・社会福祉施設に入所しているろう者にはどのようにアポとればよいか？
→相手の状況に合わせて柔軟に対応しますので、まずは担当者とご相談下さい。
・報告会に参加できない場合はどうなるか
→申し訳ありません。報告集の個別配布は考えておりません。
報告会の日時については、愛聴協や愛通研の機関紙などでお知らせします。
・施設に来て貰って聞き取りをする場合、来て貰う人にも交通費は支払うのか
→調査員の交通費のみになります。
・調査の際に車を利用して訪問はよいのか？
→原則、公共交通機関の利用をお願いしますが、やむを得ない事情があるのみ可とします。
・手話通訳や警察の呼び方もわからないような方への調査の際には、そのような情報を出してあげてよいのか？調査員が情報提供して良い範囲をみんなで共有する必要があると思うので検討してほしい。
→原則、行政機関（福祉課・相談支援センター・包括支援センターなど）に相談してもらうようにお願いします。（その方の存在を行政機関にも知って頂く為に、行政機関につなげることを意識して下さい。）
→何かあれば調査報告用紙に記入してください。
・身障者手帳以外に手帳を持っていたら
→アンケート回答は身体障害者手帳の有無についてのみ記入してください。
・手話できないろう者に対してどうするのか？
→身振りやイラストなどを活用してコミュニケーションとってください。
答えられる範囲で記入してください。
・設置手話通訳者がアンケート調査する時、受け手が混乱しないか？
→調査員チームで伺うようにお願いしています。事情がある場合は他の地域に派遣をお願いすることもあります。担当者に相談して下さい。
・対象者以外に、家族等が同席することは構わないか？
→相手が本音を話してくれる環境が大事なので、希望があれば同席してもらって構いません。本人が答えやすい環境づくりに柔軟に対応してください。
・家に訪問されるのが嫌な人の場合、喫茶店で質問した場合の飲み物代の負担できますか？
→原則飲食代はお支払できません。お金のかからない場所で聞き取りしてください。場所が必要な場合は担当者と相談してください。
・ろう者の答えが読み取れなかった場合のもう一度話してもらうお願いは聞こえない調査員がするのか読み取っている調査員がするのか？
→調査員はチームワーク作業です。お互いフォローし合いながら進めてください。
・アンケート項目で「判断に迷う場合」や「あてはまる答えがない場合」はどうしたらよいか？
→その他の項目に書いて下さい。
・アンケートは時間がかかりそう。対象者が疲れて他の日にしてほしいと言われたらどうするか？
→相手の気持ちを尊重して、休憩時間を作ったり、別日程にもう一度伺ったりなど相談してください。

●どの項目に○をつけていいかわからない、判断に迷う場合は「その他」の項目か空白に記入してください。

このアンケート調査は、社会の中で聞こえない人達が置かれている環境をよくしていく為の大きな一歩です。愛聴協５ヶ年計画プロジェクトチームでたくさん話し合ってきました。
まだまだ不十分な点もありますが、一緒に力を合わせながら成功させていきましょう。

本報告書は、平成30年度　独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業である
「聴覚障害児・者の実態と生活ニーズ調査に基づく拠点づくり」事業の成果をとりまとめたものです。

2019（平成31）年3月23日

愛知県聴覚障害児・者の暮らし　実態調査　報告書

発行：　一般社団法人愛知県聴覚障害者協会

〒460-0001　愛知県名古屋市中区三の丸一丁目７－２　桜華会館２階
FAX：０５２－２２１－８１５４　　TEL：０５２－２２１－８５４５
E-Mail：　a18154@sage.ocn.ne.jp
https://aichi-deaf.jimdo.com/

印刷・製本：株式会社　クイックス
〒456-0004　愛知県名古屋市熱田区桜田町19-20
FAX：０５２－８８９－１４１０　　TEL：０５２－８７１－９１９０

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写・複製（コピー）することは、著作者および発行者の権利の侵害になりますので、その場合はあらかじめ一般社団法人愛知県聴覚障害者協会あてに許諾を求めてください



WAM助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業